第Ⅱ部　調査結果

１　町民意識調査

１－１　回答者の属性

問１　　あなたのことについて、お尋ねします。

性別、年代別、居住地区別、居住年数別、世帯構成別、同居家族別、職業別及び通勤･通学地別の回答者の割合は以下のとおりです。

図表 1-1-1　性別

区分	回答数(人)	割合(%)
男性	673	41.9%
女性	911	56.8%
回答しない	15	0.9%
無回答	6	0.4%
計	1,605	100.0%

図表 1-1-2　年代

区分	回答数(人)	割合(%)
１０歳代	65	4.0%
２０歳代	104	6.5%
３０歳代	173	10.8%
４０歳代	218	13.6%
５０歳代	306	19.1%
６０歳代	226	14.1%
７０歳代	324	20.2%
８０歳以上	184	11.5%
無回答	5	0.3%
計	1,605	100.0%

図表 1-1-3　居住地区

区分	回答数(人)	割合(%)
北山区	187	11.7%
中山区	71	4.4%
下門区	78	4.9%
馬場区	208	13.0%
市場区	45	2.8%
上ケ区	102	6.4%
小迎区	49	3.1%
玉東区	108	6.7%
玉西１区	138	8.6%
玉西２区	89	5.5%

区分	回答数(人)	割合(%)
原田区	8	0.5%
緑区	55	3.4%
大足区	91	5.7%
富貴区	143	8.9%
富貴市場区	59	3.7%
東大高区	93	5.8%
市原区	13	0.8%
新田区	10	0.6%
無回答	58	3.6%
計	1,605	100.0%

図表 1-1-4　居住年数

区分	回答数(人)	割合(%)
２年未満	39	2.4%
２年以上５年未満	71	4.4%
５年以上 10 年未満	105	6.5%
10 年以上 20 年未満	224	14.0%
20 年以上 30 年未満	247	15.4%
30 年以上	912	56.8%
無回答	7	0.4%
計	1,605	100.0%

図表 1-1-5　世帯構成

区分	回答数(人)	割合(%)
単身世帯（一人暮らし）	137	8.5%
夫婦のみ世帯（事実婚等を含む）	436	27.2%
親と子からなる世帯（２世代家族）	879	54.8%
親・子・孫（３世代家族）	121	7.5%
親・子・孫・ひ孫（４世代家族）	6	0.4%
その他	15	0.9%
無回答	11	0.7%
計	1,605	100.0%

図表 1-1-6　同居家族　-複数回答（該当するものすべて）-

区分	回答数(人)	割合(%)
６歳未満の子	110	6.9%
６歳以上１８歳未満の子	297	18.5%
６５歳以上の方	589	36.7%
介護を要する方	134	8.3%
上記に該当する者はいない	547	34.1%
無回答	65	4.0%
計	1,605	100.0%

図表 1-1-7　職業

区分	回答数(人)	割合(%)
農業	13	0.8%
会社員・団体職員	472	29.4%
自営業	71	4.4%
公務員	62	3.9%
学生	74	4.6%
パート・アルバイト	271	16.9%
主婦・主夫	211	13.1%
求職中	9	0.6%
無職	400	24.9%
その他	10	0.6%
無回答	12	0.7%
計	1,605	100.0%

図表 1-1-8　通勤･通学先

区分	回答数(人)	割合(%)
武豊町内	328	20.4%
名古屋市	92	5.7%
半田市	233	14.5%
常滑市	88	5.5%
武豊町･半田市･常滑市以外の知多地域	150	9.3%
その他愛知県内	66	4.1%
愛知県外	10	0.6%
通勤・通学していない	514	32.0%
無回答	124	7.7%
計	1,605	100.0%

１－２　武豊町の暮らしやすさ

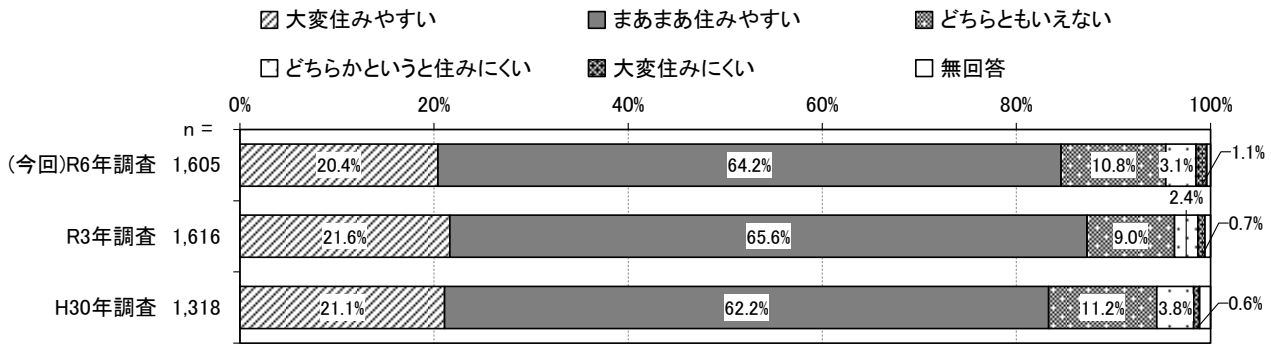
（１）住みごこち

問２　　武豊町の住みごこちはどう思いますか。（１つに○印）

「大変住みやすい」が 20.4%、「まあまあ住みやすい」が 64.2%であり、両者をあわせると 84.6%となります。８割以上の方が武豊町は『住みやすい』と評価しています。一方、「大変住みにくい」は 1.1%、「どちらかというと住みにくい」は 3.1%と少数でした。

令和３年調査では、「大変住みやすい（21.6%）」と「まあまあ住みやすい（65.6%）」をあわせた割合は 87.2%でした。また平成 30 年調査では 83.3%でした。『住みやすい』の割合は、令和３年調査と比較すると 2.6 ポイント下がっています。

図表 1-2-1　住みごこち（過去調査との比較）



以下、回答者の属性別に「大変住みやすい」と「まあまあ住みやすい」をあわせた割合で傾向をみていきます。

性別	○「大変住みやすい」と「まあまあ住みやすい」をあわせた割合は、男性が 83.8%、女性が 85.8%で、2.0 ポイント女性の方が高くなっています。
年代	○最も高いのは 40 歳代の 90.9%で唯一 90%を上回っています。一方、最も低いのは 10 歳代の 78.5%で、両者の差は 12.4 ポイントも開いています。 ○「大変住みやすい」については、最高が 80 歳以上の 29.9%、最低が 60 歳代の 15.0%で、両者の間に 14.9 ポイントの開きがあります。
居住地区	○最も高いのは武豊小学校区の 88.0%です。次いで高いのは緑丘小学校区で 85.1%です。 ○衣浦小学校区は 83.8%、富貴小学校区は 80.3%で、この２つの校区は、全体の 84.6%を下回っています。
居住年数	○居住年数 30 年以上が 85.7%と最も高く、次いで居住年数 20 年以上 30 年未満が 84.6%となっています。 ○一方、居住年数 10 年未満は 81.4%、居住年数 10 年以上 20 年未満は 83.9%で、若干低くなっています。
世帯構成	○３世代家族等が 88.2%と最も高く、次いで２世代家族の 85.9%が高くなっています。 ○単身世帯は 74.4%と、全体の 84.6%を 10.2 ポイントも下回っています。夫婦のみ世帯も 84.4%で全体の 84.6%とほぼ同数となっています。
同居家族	○６歳未満の子がいる世帯は 90.0%、６歳以上 18 歳未満の子がいる世帯は 89.3%で、他と比べ高い割合を示しています。
職業	○主婦・主夫の 88.1%、会社員・団体職員の 87.7%、公務員の 87.1%が比較的高い割合を示しています。
通勤 通学地	○名古屋市に通勤通学する者は 76.1%で低い割合を示しています。

※居住地区に関しては、18 の区を以下の通り小学校区に分けて示しています。

緑丘小学校区……北山区、中山区、玉西１区、緑区

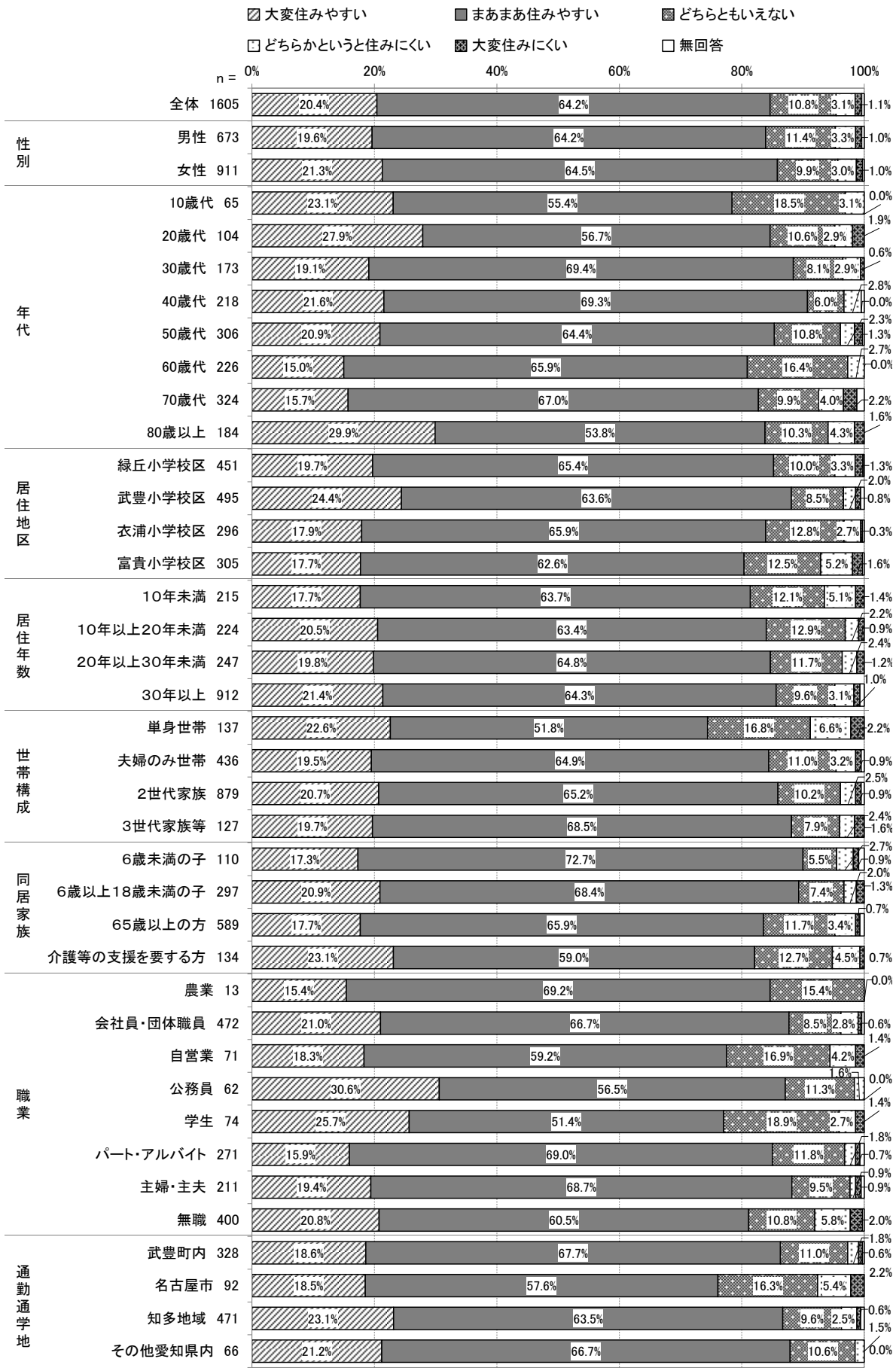
武豊小学校区……下門区、馬場区、市場区、上ケ区、小迎区

衣浦小学校区……玉東区、玉西２区、原田区、大足区

富貴小学校区……冨貴区、冨貴市場区、東大高区、市原区、新田区

※通勤通学地に関しては、「半田市」、「常滑市」、「武豊町・半田市・常滑市以外の知多地域」をまとめて「知多地域」としています。

図表 1-2-2　属性別、住みごこち



（２）今後の居住意向

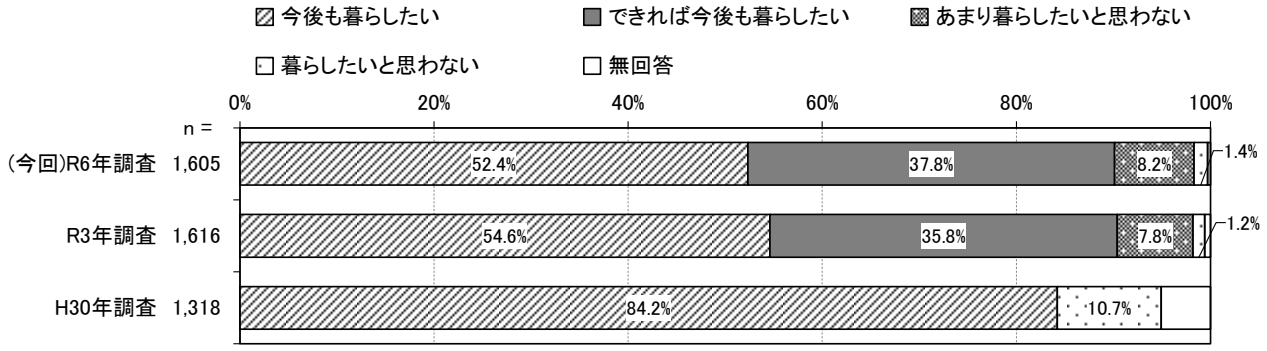
問３　　今後も武豊町で暮らしたいと思いますか。（１つに○印）

「今後も暮らしたい」は 52.4%、「できれば今後も暮らしたい」は 37.8%で、両者をあわせた割合は 90.2%となっています。令和３年調査では、「今後も暮らしたい（54.6%）」と「できれば今後も暮らしたい（35.8%）」をあわせた割合は 90.4%でした。両者の間にはほとんど差はみられません。

平成 30 年調査では、「今後も暮らしたい」と「暮らしたいとは思わない」の２つの選択肢で今後の居住意向をたずねていました。これによると「今後も暮らしたい」は 84.2%となっています。

なお、「暮らしたいと思わない」は 1.4%、「あまり暮らしたいと思わない」は 8.2%で、両者をあわせた割合は 9.6%でした。

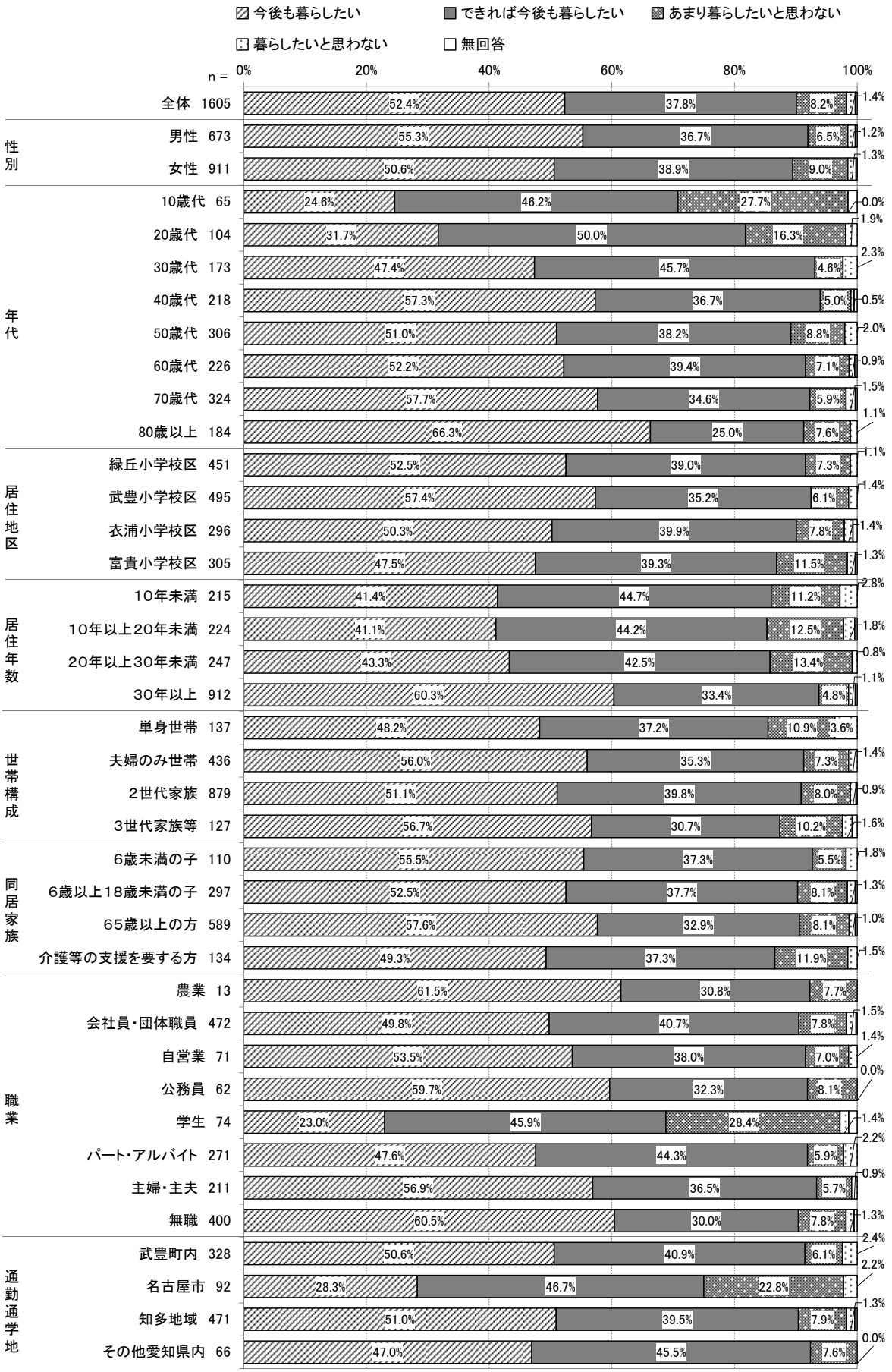
図表 1-2-3　今後の居住意向（過去調査との比較）



以下、回答者の属性別に「今後も暮らしたい」と「できれば今後も暮らしたい」をあわせた割合で傾向をみていきます。

性別	○男性が 92.0%、女性が 89.5%であり、男性の方が 2.5 ポイント高くなっています。 ○「今後も暮らしたい」は、男性 55.3%、女性 50.6%で、男性の方が 4.7 ポイント高くなっています。
年代	○10 歳代が 70.8%、20 歳代が 81.7%で、これら 10 歳代・20 歳代といった若い世代で低くなっています。この年代では「あまり暮らしたいと思わない」が、それぞれ 27.7%、16.3%で他の年代と比べてかなり高い割合を示しています。
居住地区	○武豊小学校区が 92.6%で最も高く、次いで緑丘小学校区が 91.5%、衣浦小学校区が 90.2%となっています。一方、富貴小学校区は 86.8%と低くなっています。
居住年数	○居住年数 30 年以上は 93.7%で最も高くなっています。 ○次いで居住年数 10 年未満が 86.1%、20 年以上 30 年未満が 85.8%、10 年以上 20 年未満が 85.3%となっており、これらはいずれも全体の 90.2%よりも低くなっています。
世帯構成	○夫婦のみ世帯が 91.3%、２世代家族が 90.9%で、この両者が他と比べやや高い割合を示しています。
同居家族	○６歳未満の子がいる世帯は 92.8%で、他と比べ高い割合を示しています。
職業	○主婦・主夫が 93.4%で最も高く、次いで農業の 92.3%、公務員の 92.0%が高くなっています。 ○唯一、全体の 90.2%を下回っているのは学生の 68.9%です。特に低い割合となっています。「あまり暮らしたいと思わない」が 28.4%あり、「暮らしたいと思わない」の 1.4%をあわせると 29.8%となり、約３割は『暮らしたいと思わない』と考えています。
通勤 通学地	○名古屋市に通勤通学する者が 75.0%となっており、低い割合となっています。

図表 1-2-4　属性別、今後の居住意向



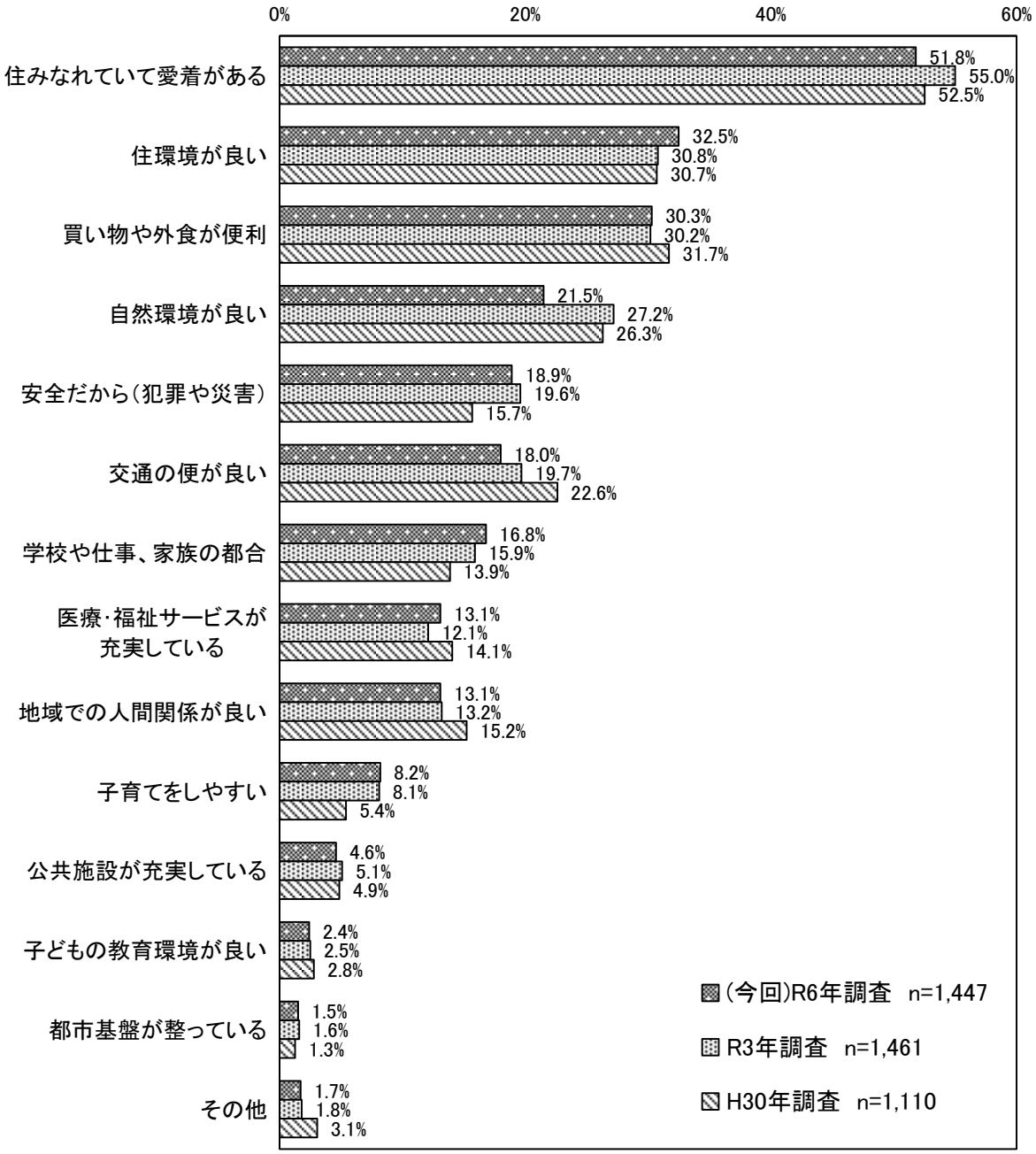
（3）武豊町で暮らしたい理由

問３－１　武豊町で暮らしたいと思う理由は何ですか。（３つまでに○印）

「今後も暮らしたい」または「できれば今後も暮らしたい」に回答した 1,447 人にその理由をたずねたところ、「住みなれていて愛着がある」が 51.8%と最も高く、次いで「住環境が良い」が 32.5%、「買い物や外食が便利」が 30.3%となっています。

過去調査との比較では、「住みなれていて愛着がある」は、平成 30 年調査で 52.5%、令和３年調査では 55.0%でした。今回の調査が最も割合は低くなっています。また、「住環境が良い」は令和３年調査の 30.8%から 1.7 ポイント高くなっています。なお、「自然環境が良い」は令和３年調査の 27.2%から 5.7 ポイント低下しています。

図表 1-2-5　武豊町で暮らしたい理由（過去調査との比較）　-複数回答（３つまで）-

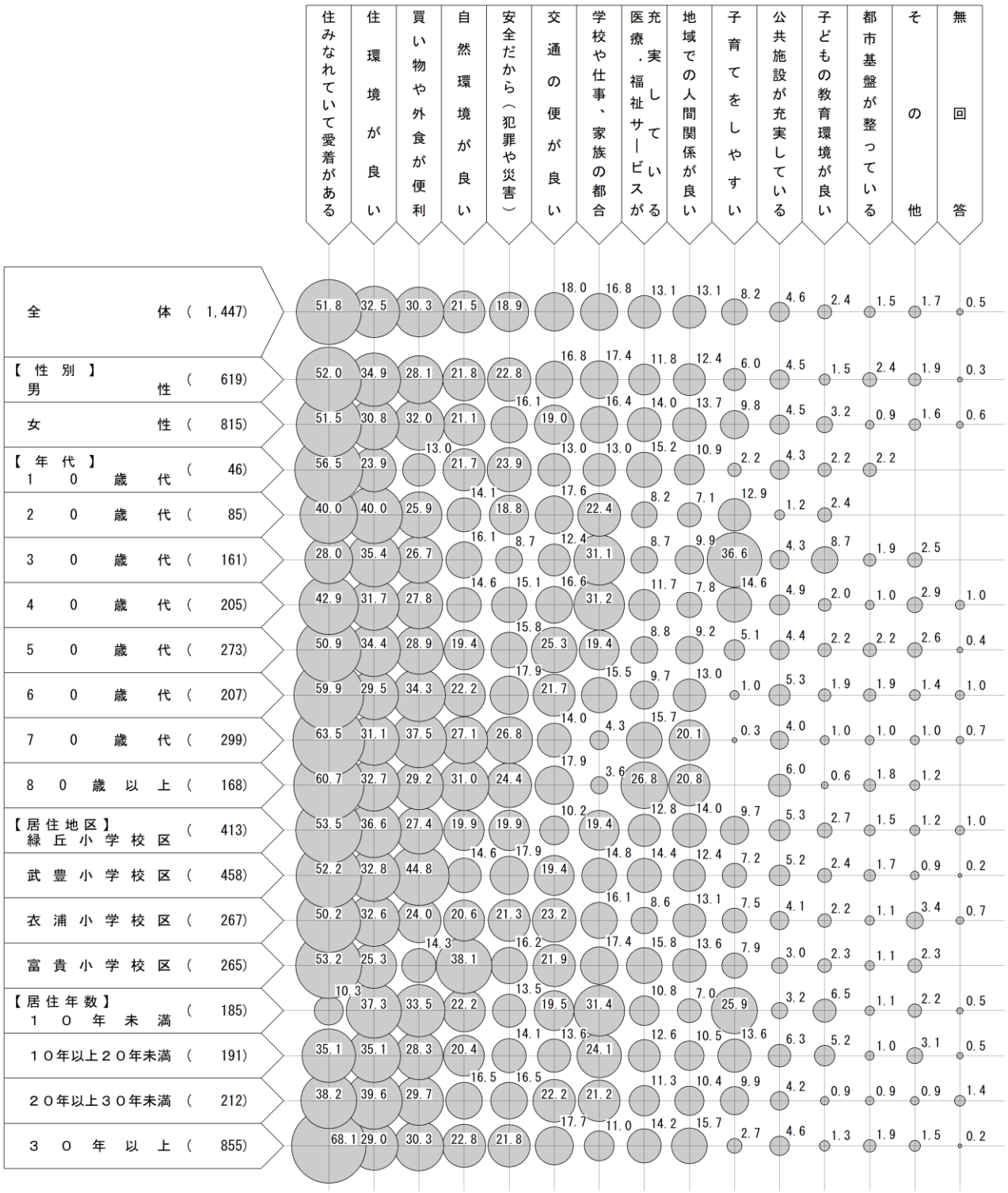


以下、回答者の属性別に「今後も暮らしたい」または「できれば今後も暮らしたい」理由の傾向をみていきます。

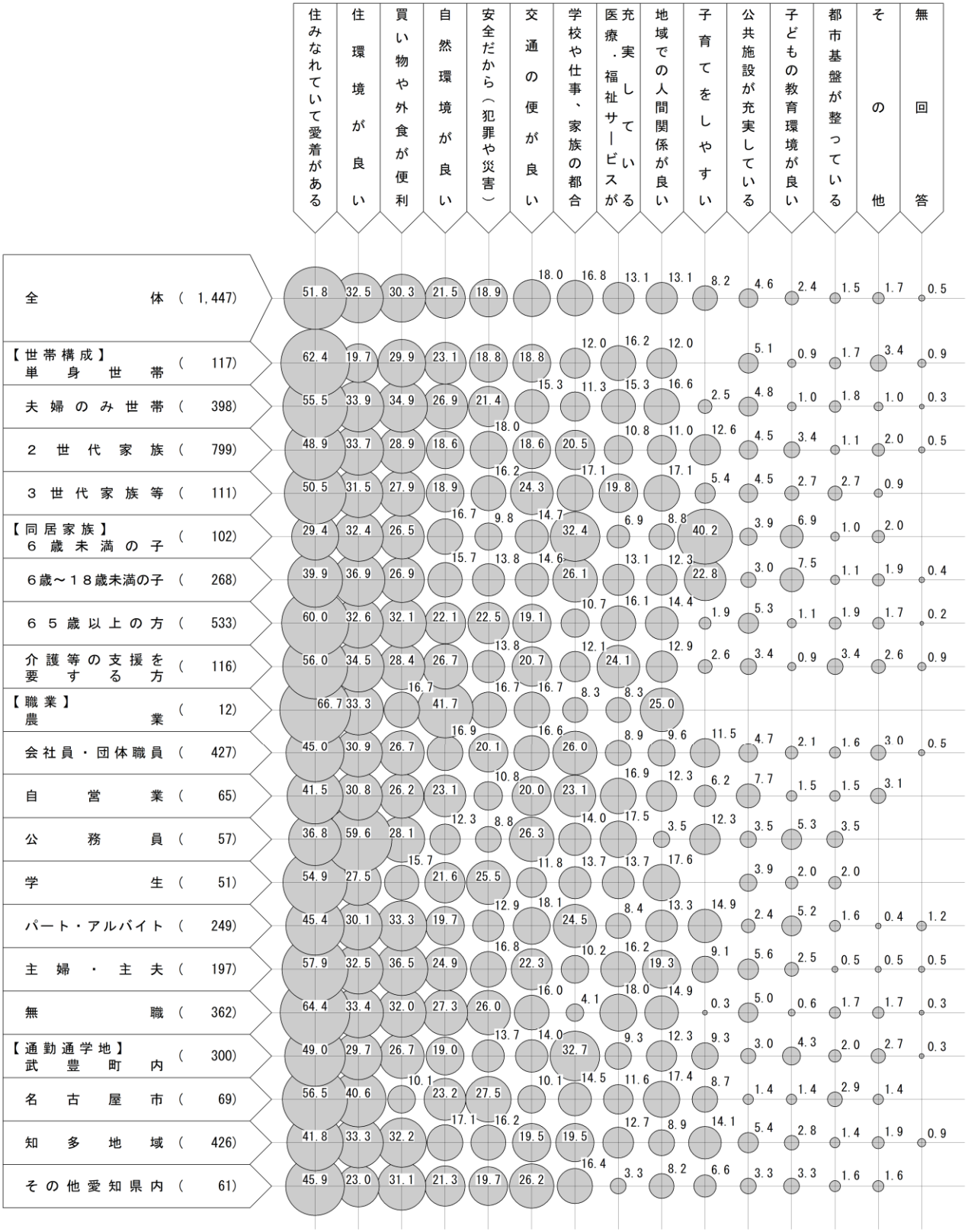
性別	○性別による顕著な差異はみられません。女性は「買い物や外食が便利」が 32.0%でやや高く、男性は「安全だから（犯罪や災害）」が 22.8%でやや高くなっています。
年代	○「住みなれていて愛着がある」は 20 歳代が 40.0%、30 歳代が 28.0%、40 歳代が 42.9%で低く、60 歳代が 59.9%、70 歳代が 63.5%、80 歳以上が 60.7%で、60 歳以上になると高い割合を示しています。 ○10 歳代では、「安全だから（犯罪や災害）」が 23.9%と高く、全体の 18.9%を 5.0 ポイント上回っています。 ○20 歳代では、「住環境が良い」が 40.0%で、年代別に見たときには最も高くなっています。また、「学校や仕事・家族の都合」が 22.4%でやや高くなっています。 ○30 歳代、40 歳代では、「学校や仕事・家族の都合」がいずれも 30%台を示しており、高くなっています。また、30 歳代では、「子育てをしやすい」が 36.6%で、全体の 8.2%を 28.4 ポイントも上回っています。 ○80 歳以上では、「医療・福祉サービスが充実している」が 26.8%となっており、これも全体の 13.1%を 13.7 ポイント上回っています。
居住地区	○緑丘小学校区では、「交通の便が良い」が 10.2%で、全体の 18.0%を 7.8 ポイント下回っています。 ○武豊小学校区では「買い物や外食が便利」が 44.8%で、他と比べ最も高くなっています。一方、「自然環境が良い」は 14.6%で低くなっています。 ○衣浦小学校区では、「交通の便が良い」が他と比べ最も高くなっています。一方、「買い物や外食が便利」は 24.0%でやや低くなっています。 ○富貴小学校区では、「自然環境が良い」が 38.1%で他と比べ最も高く、全体の 21.5%を 16.6 ポイント上回っています。一方、「買い物や外食が便利」は 14.3%で、他と比べ最も低くなっています。
居住年数	○「住みなれていて愛着がある」は居住年数が長くなるほど高くなる傾向が顕著で、30 年以上では 68.1%となっています。 ○「買い物や外食が便利」は、居住年数が短い 10 年未満が最も高くなっています。 ○10 年未満や 10 年以上 20 年未満では、「学校や仕事、家族の都合」がそれぞれ 31.4%、24.1%で、全体の 16.8%をいずれも大きく上回っています。
世帯構成	○単身世帯では、「住みなれていて愛着がある」が 62.4%と他と比べ最も高く、全体の 51. 8%を 10.6 ポイント上回っています。
同居家族	○６歳未満の子のいる世帯では、「子育てをしやすい」が 40.2%で最も高くなっており、２番目は「住環境が良い」と「学校や仕事・家庭の都合」の 32.4%です。 ○６歳以上 18 歳未満の子がいる世帯でも、「子育てをしやすい」は 22.8%、「学校や仕事・家庭の都合」は 26.1%で、いずれもやや高くなっています。 ○介護を要する方がいる世帯では、「医療・福祉サービスが充実している」が 24.1%で、全体より 11.0 ポイント高くなっています。

職業	○農業では、「住みなれていて愛着がある」が 66.7%で他と比べ最も高く、「自然環境が良い」も 41.7%と高くなっています。 ○公務員では、「住環境が良い」が 59.6%で、全体の 32.5%を 27.1 ポイントも上回っています。
通勤 通学地	○武豊町内に通勤通学する者は、「学校や仕事、家族の都合」が 32.7%となっており、他と比べ最も高くなっています。 ○名古屋市に通勤通学する者は、「買い物や外食が便利」は 10.1%で、他と比べて極端に低くなっています。一方、「安全だから（犯罪や災害）」は 27.5%で高い割合を示しています。 ○その他愛知県内に通勤通学する者は、「交通の便が良い」が 26.2%で高くなっています。

図表 1-2-6　属性別、武豊町で暮らしたい理由　（１／２）　-複数回答（３つまで）-



図表 1-2-6　属性別、武豊町で暮らしたい理由　（２／２）　-複数回答（３つまで）-



（4）武豊町で暮らしたいと思わない理由

問３－２　武豊町で暮らしたいとは思わない理由は何ですか。（３つまでに○印）

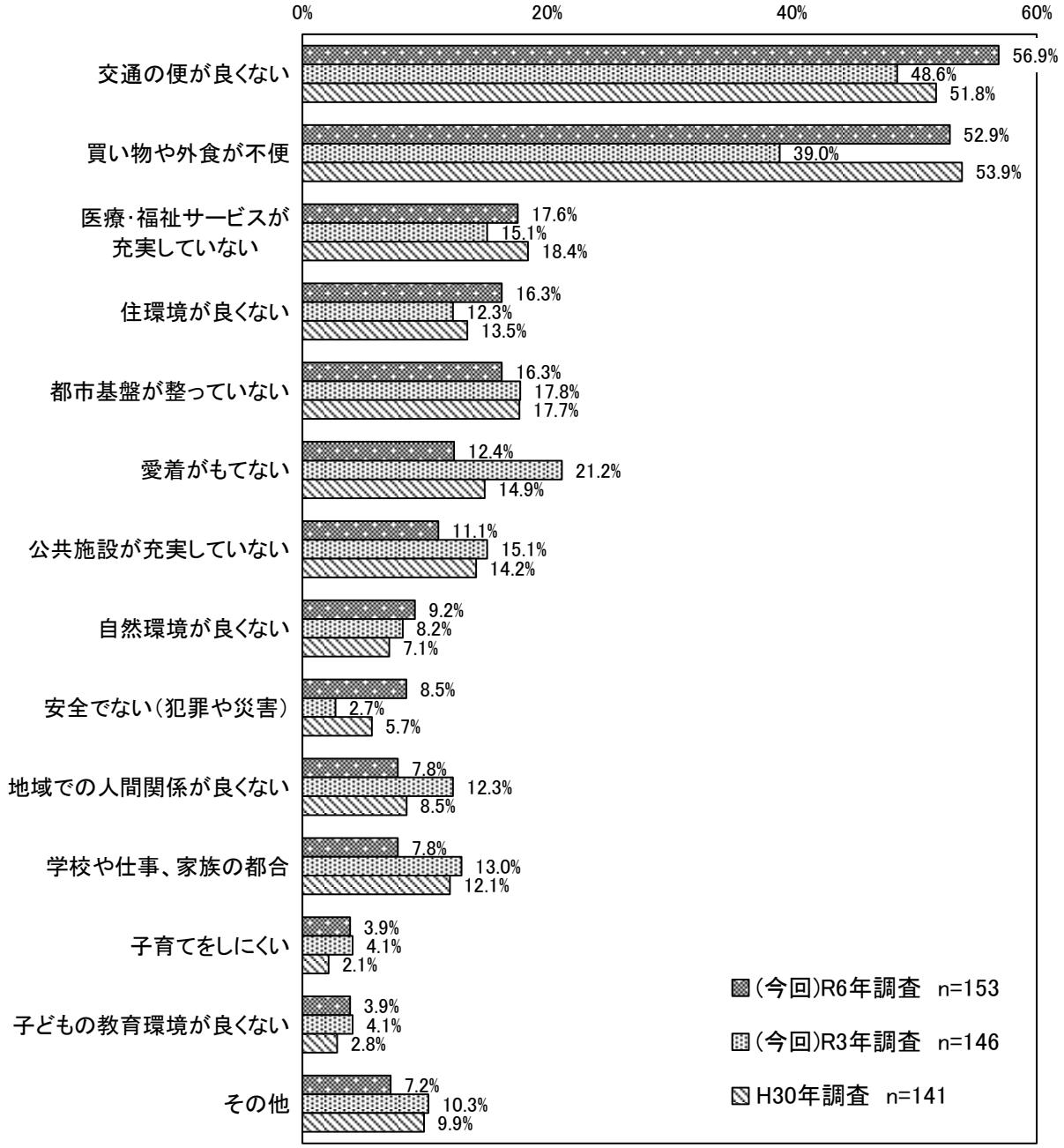
「暮らしたいと思わない」または「あまり暮らしたいと思わない」に回答した 153 人にその理由をたずねたところ、「交通の便が良くない」が最も高く 56.9%、次いで「買い物や外食が不便」の 52.9%でした。この両者が特に大きな理由となっています。

過去調査と比較すると、「交通の便が良くない」については、平成 30 年調査では 51.8%、令和３年調査では 48.6%でしたが、今回調査では 56.9%となり、これまでで最も高くなっています。

「買い物や外食が不便」については、平成 30 年調査では 53.9%であったものが、令和３年調査では 39.0%まで低下していました。今回調査では 52.9%となり、平成 30 年調査に近い割合に戻っています。

図表 1-2-7　武豊町で暮らしたいと思わない理由（過去調査との比較）

-複数回答（３つまで）-

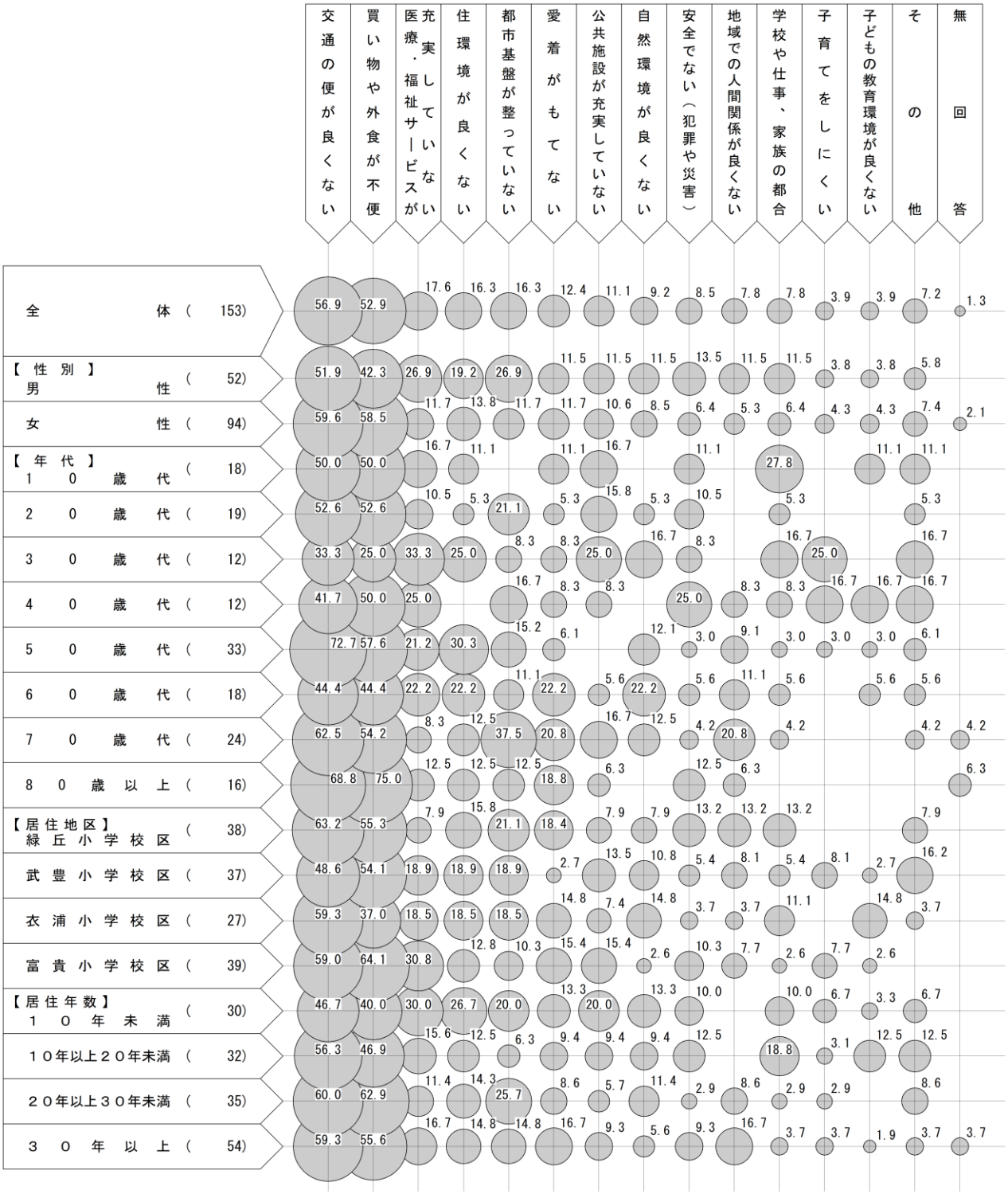


以下、回答者の属性別に「暮らしたいと思わない」または「あまり暮らしたいと思わない」の理由をみていきます。

性別	○女性では「交通の便が良くない」が 59.6%で、男性の 51.9%を 7.7 ポイント上回っています。同様に、女性では「買い物や外食が不便」が 58.5%で、男性の 42.3%を 16.2 ポイント上回っています。 ○「医療・福祉サービスが充実していない」、「住環境が良くない」、「都市基盤が整っていない」については、女性よりも男性の方が高い割合を示しています。
年代	○50 歳代では「交通の便が良くない」が 72.7%と他の世代と比べ最も高く、80 歳以上、70 歳以上もそれぞれ 68.8%、62.5%と高くなっています。 ○80 歳以上では「買い物や外食が不便」が 75.0%と他の世代と比べ最も高く、50 歳代、70 歳代もそれぞれ 57.6%、54.2%と高くなっています。 ○30 歳代では「医療・福祉サービスが充実していない」、50 歳代では「住環境が良くない」、70 歳代では「都市基盤が整っていない」が高く、いずれも 30%を上回る回答となっています。
居住地区	○緑丘小学校区では、「交通の便が良くない」が 63.2%で最も高く、全体の 56.9%を 6.3 ポイント上回っています。 ○富貴小学校区では、「買い物や外食が不便」が 64.1%で最も高く、全体の 52.9%を 11.2 ポイント上回っています。また、「医療・福祉サービスが充実していない」も 30.8%と高く、全体の 17.6%を 13.2 ポイントも上回っています。
居住年数	○居住年数 20 年以上 30 年未満ならびに 30 年以上では、「交通の便が良くない」「買い物や外食が不便」の割合が高くなっています。 ○居住年数 10 年未満では、「医療・福祉サービスが充実していない」が 30.0%、「住環境がよくない」が 26.7%で、いずれも全体を 10 ポイント以上上回っています。
世帯構成	○単身世帯では、「交通の便が良くない」「買い物や外食が不便」の割合が低い一方で、「住環境が良くない」が 30.0%、「愛着がもてない」が 25.0%、「自然環境が良くない」が 20.0%で、これらはいずれも全体を 10 ポイント以上上回っています。
同居家族	○６歳未満の子がいる世帯では、「交通の便が良くない」と「公共施設が充実していない」がともに 37.5%で最も高くなっています。 ○６歳以上 18 歳未満の子がいる世帯では、「医療・福祉サービスが充実していない」が 42.9%で、全体の 17.6%を 25.3 ポイントも上回っています。 ○介護等の支援を必要とする方がいる世帯では、「医療・福祉サービスが充実していない」と「愛着がもてない」がともに 27.8%で高くなっています。
職業	○主婦・主夫では、「交通の便が良くない」が 78.6%、「買い物や外食が不便」が 64.3%でともに高くなっています。
通勤 通学地	○知多地域に通勤通学する者は「買い物や外食が不便」が 60.5%で最も高くなっています。

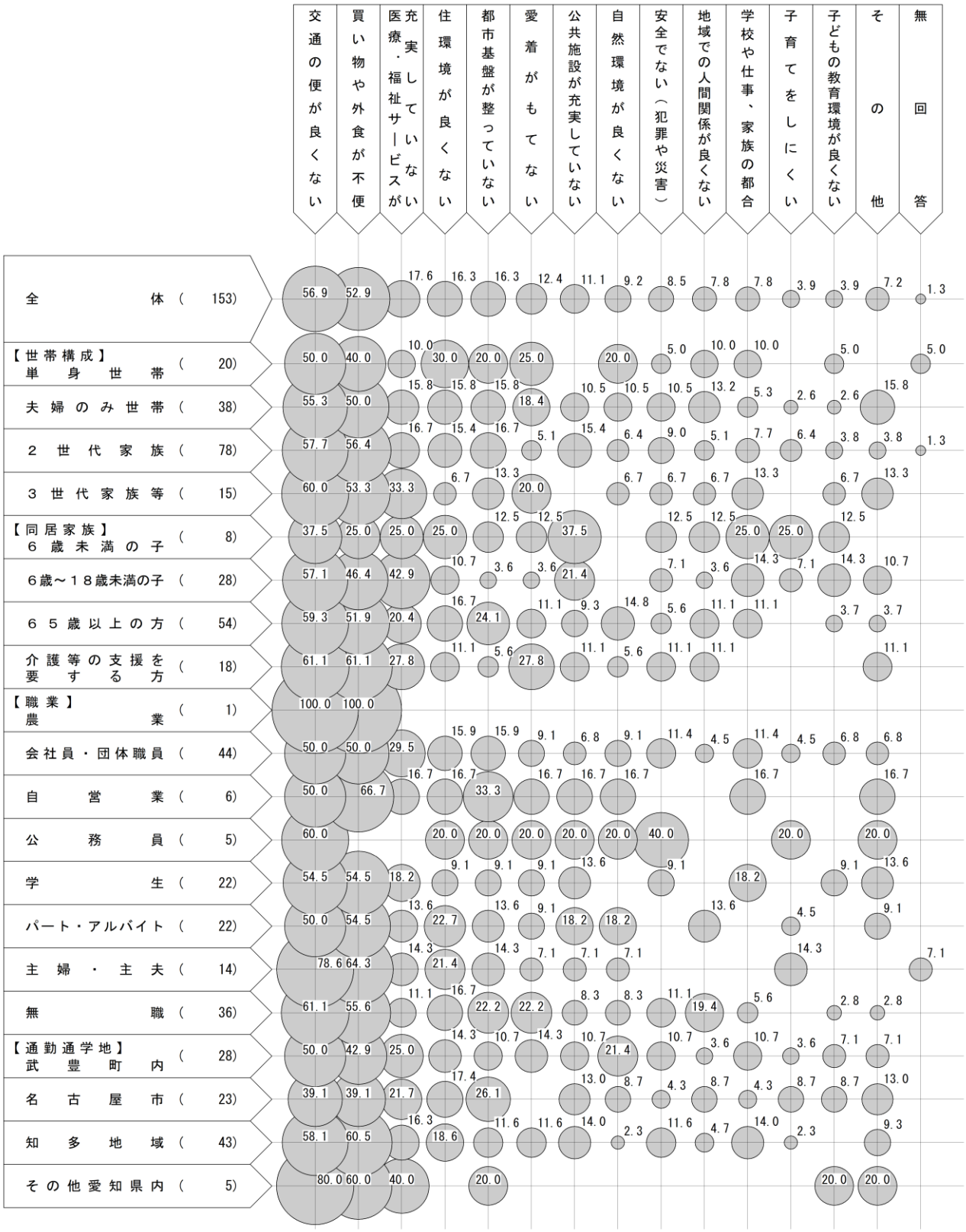
図表 1-2-8　属性別、武豊町で暮らしたいと思わない理由　（１／２）

-複数回答（３つまで）-



図表 1-2-8　属性別、武豊町で暮らしたいと思わない理由　（２／２）

-複数回答（３つまで）-



１－３　日常生活におけるあなたの行動・意識

（１）日常生活における行動・意識

問４　　第６次総合計画では、将来像「心つなぎ みんなでつくる スマイルタウン」の実現を目指して、９つのまちづくり目標に基づき取組を進めています。
　以下の項目について、あなたの日常生活における行動や意識として、『はい』の場合は１、『いいえ』の場合は２に、それぞれ○印をつけてください。

日常生活における意識について、第６次総合計画の９つのまちづくり目標に沿って、34 項目の「日常生活における行動や意識」について、『はい』、『いいえ』で回答を求めました。

日常生活における行動・意識について、『はい』と回答した割合が高いものを順にみていくと、「ごみの分別をきちんとしていますか」が 97.1%で最も高く、100%に近い回答を得ています。

次いで、「省エネルギーやリサイクルに心がけていますか」が 87.8%、「普段から健康に心がけていますか」が 81.2%、「武豊町に愛着がありますか」が 80.9%と高く、この３項目は８割を超えています。

さらに、「お住まいの周辺環境は美しく保たれていると感じますか」が 75.2%、「普段から防犯に心がけていますか」が 75.1%、「“広報たけとよ”を見ていますか」が 74.6%、「“味の蔵たけとよに行ったことがありますか」が 72.2%、「近くにかかりつけの医者はいますか」が 71.7%、、「日常生活のなかでインターネットを利用していますか」が 71.0%となっており、いずれも７割を超えています。

逆に、『はい』と回答した割合が低いものは、「最近１年間にボランティア活動（分野を問いません）に参加しましたか」の 17.4%で、唯一２割を下回っています。

続いて、「過去１年間に近所の子どもたちと関わる機会（行事等）はありましたか」が 22.6%、「他の世代の人や外国人と交流したり、ふれあうことはありますか」が 24.9%、「芸術や文化に触れていますか」が 29.5%で、これらはいずれも３割に達していません。

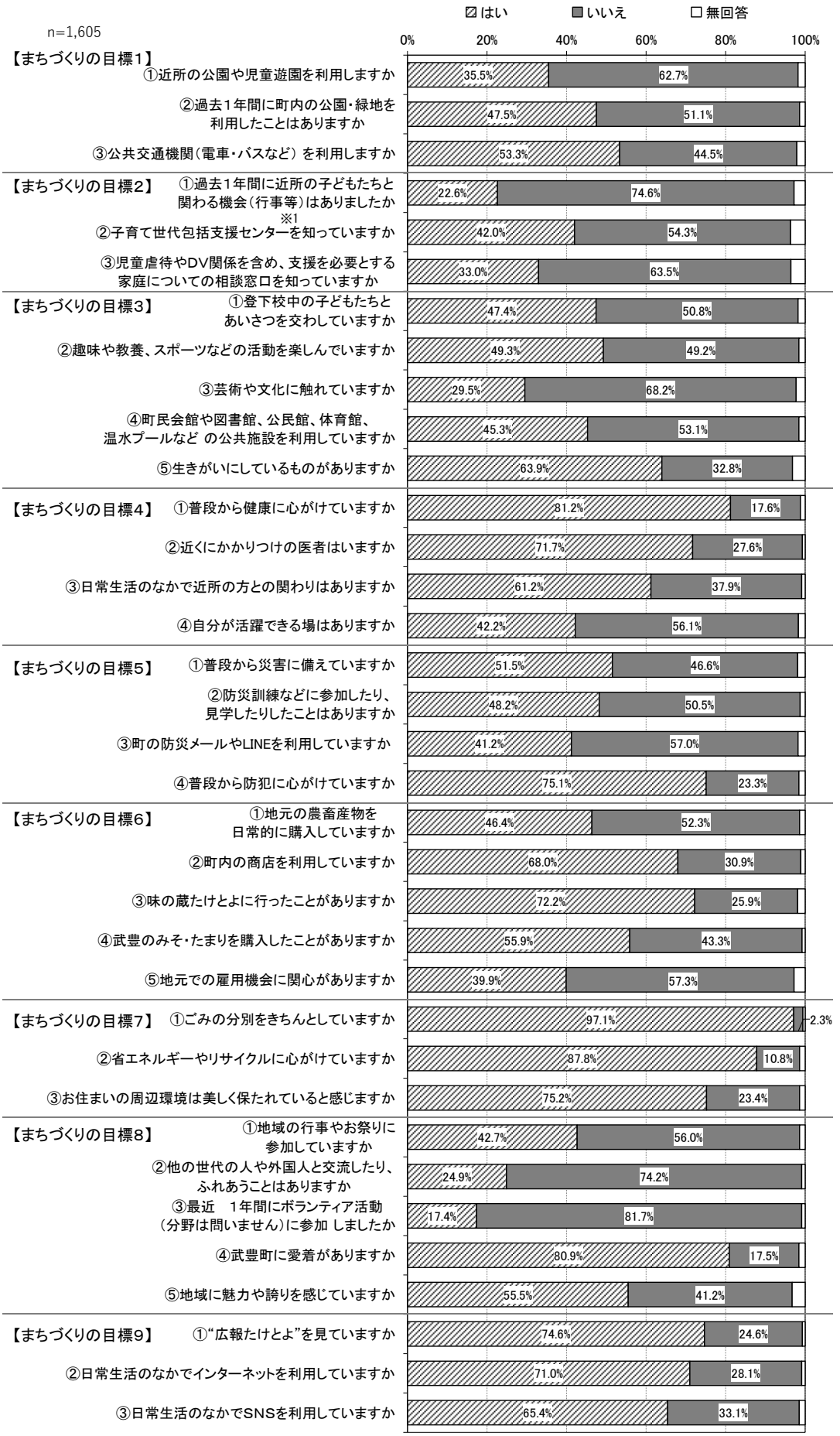
平成 30 年調査、令和３年調査と比較したとき、『はい』と回答した割合が段階的に増加しているのは「日常生活の中でインターネットを利用していますか」で、平成 30 年調査では 60.6%、令和３年調査では 65.4%、今回調査では 71.0%となっており、平成 30 年調査との比較で 10.4 ポイント上昇しています。

同様に、平成 30 年調査、令和３年調査、今回調査で割合を着実に伸ばしているのは、「近所の公園や児童遊園を利用しますか」で、順に 25.8%、35.0%、35.5%となっており 9.7 ポイント増加しています。また、「省エネルギーやリサイクルに心がけていますか」も順に 83.8%、86.1%、87.8%となっており、4.0 ポイント増加しています。

一方、平成 30 年調査、令和３年調査と比較して段階的に割合を低下させているのは、「防災訓練などに参加したり、見学したりしたことはありますか」で、順に 61.0%、52.6%、48.2%となっており、12.8 ポイント低下しています。また、「地元の農畜産物を日常的に購入していますか」についても、順に 56.4%、49.2%、46.4%となっており、10.0 ポイント低下しています。

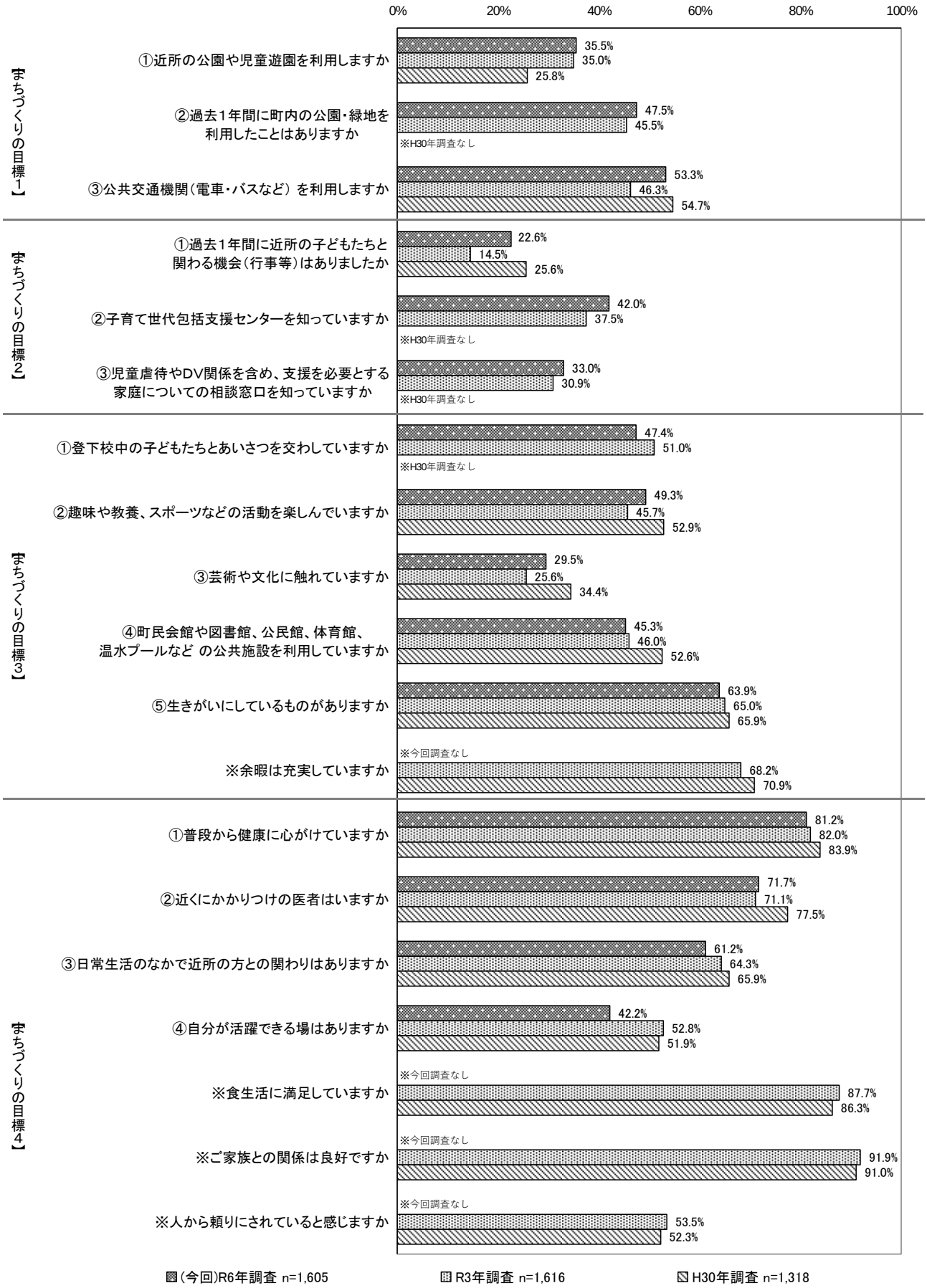
図表 1-3-3～37 に属性別、日常生活における意識・行動の結果をグラフに示します。

図表 1-3-1　日常生活における行動・意識

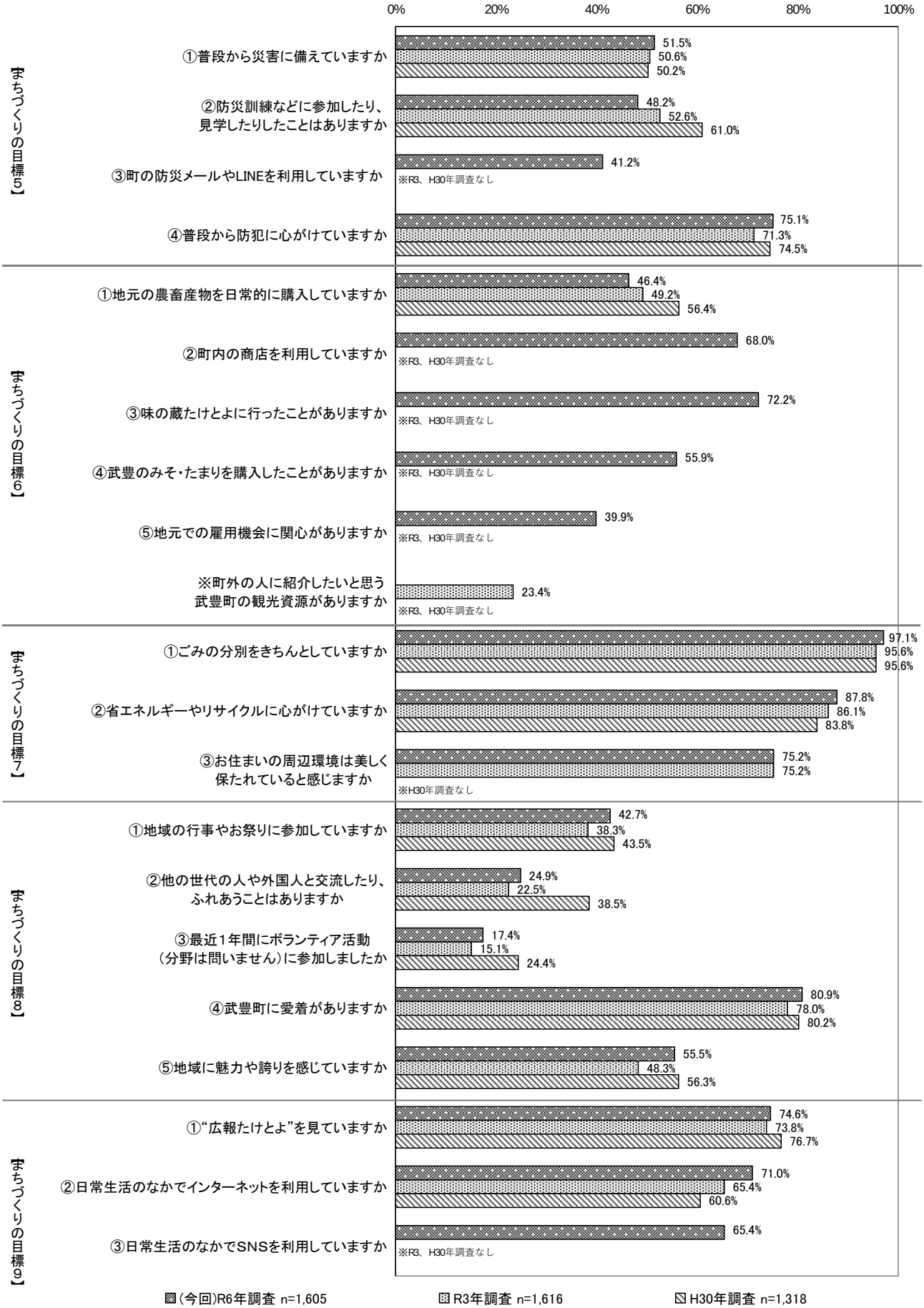


※1…妊娠・出産・子育てに関する各相談に応じ、母子保健施策と子育て施策との包括的な支援を行うことにより、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援を提供するもの。

図表 1-3-2　日常生活における行動・意識（過去調査との比較）（１／２）



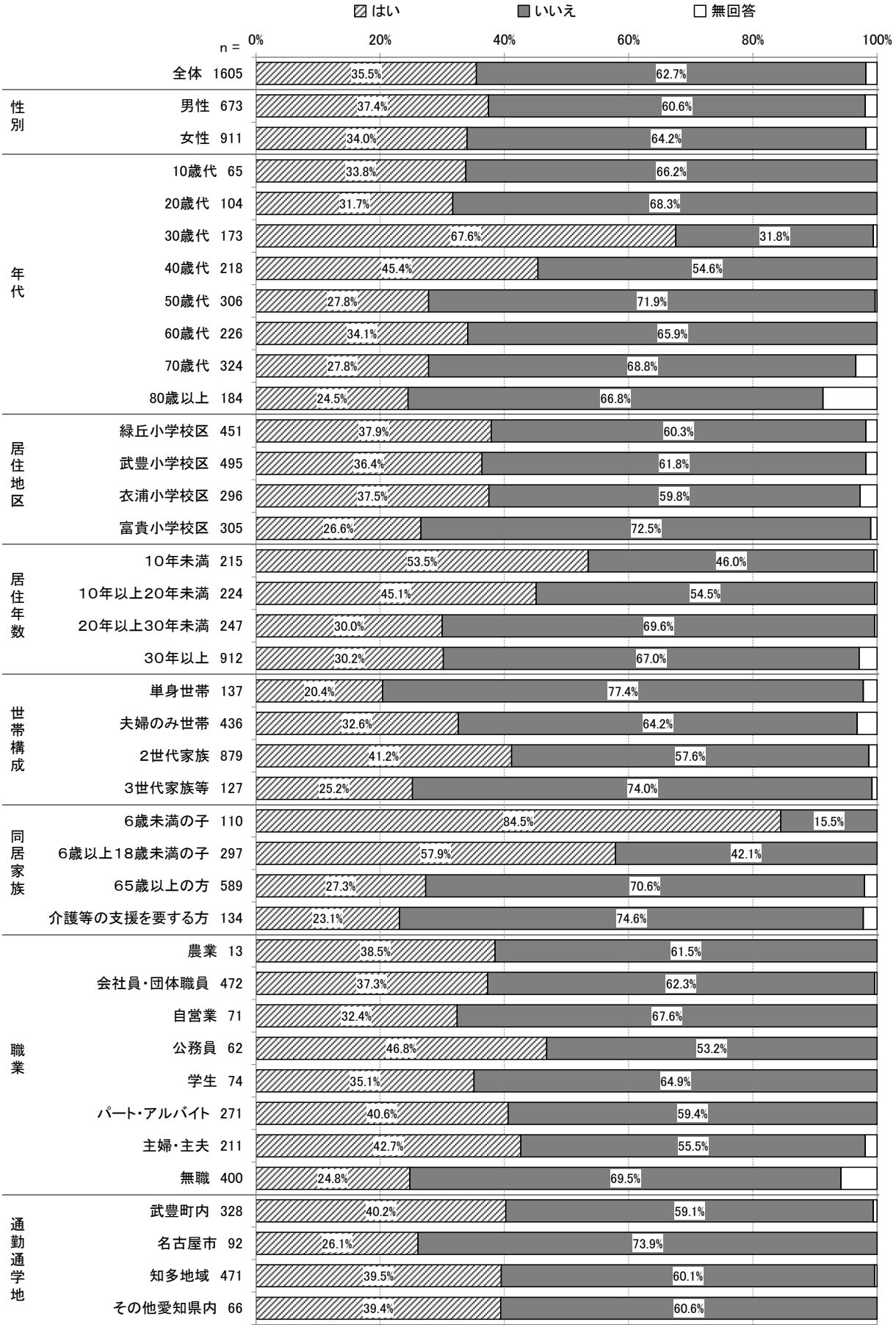
図表 1-3-2　日常生活における行動・意識（過去調査との比較）（２／２）



図表 1-3-3　属性別、日常生活における行動・意識

まちづくりの目標１　定住先として選択されるまち［都市環境］

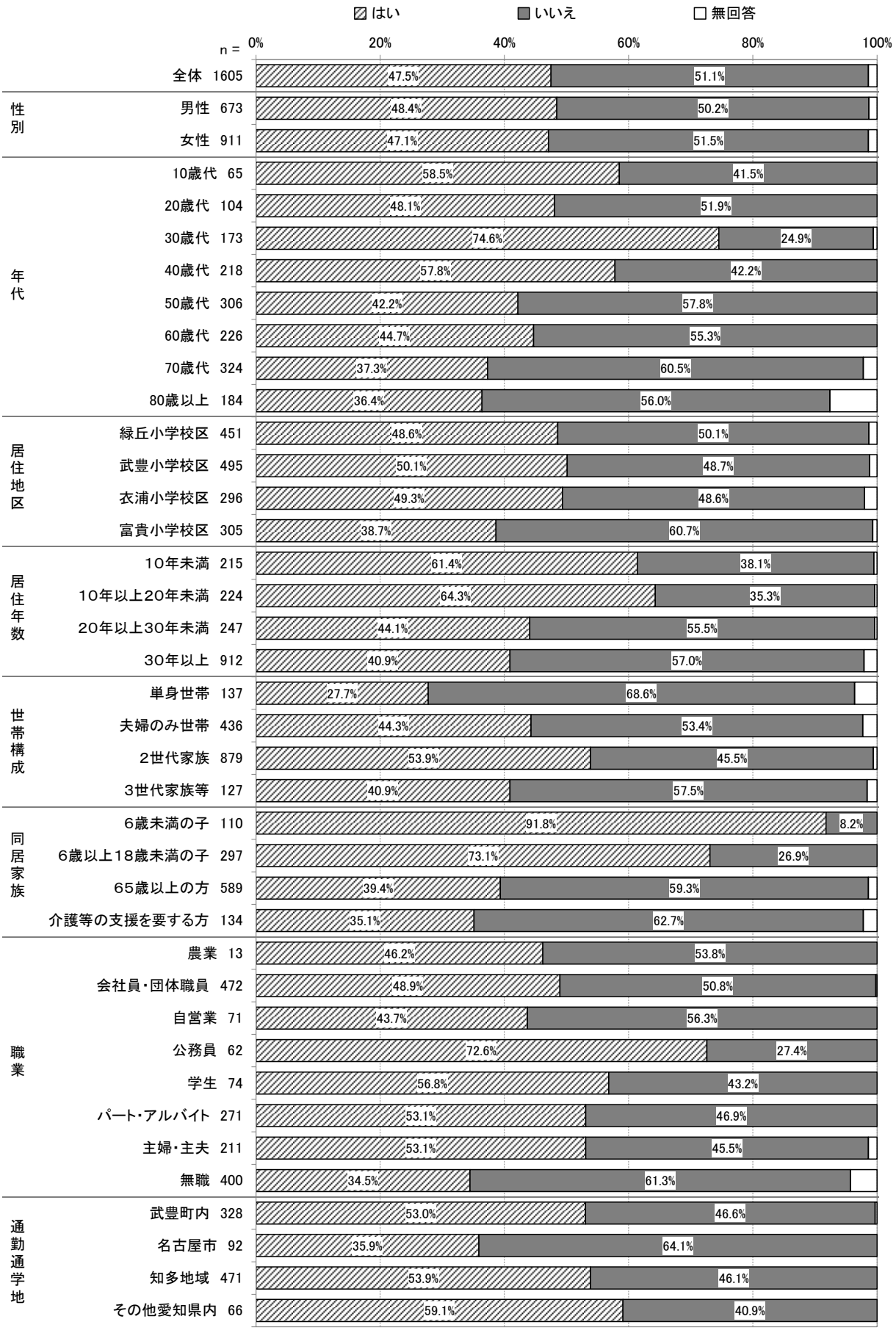
①近所の公園や児童遊園を利用しますか？



図表 1-3-4　属性別、日常生活における行動・意識

まちづくりの目標１　定住先として選択されるまち［都市環境］

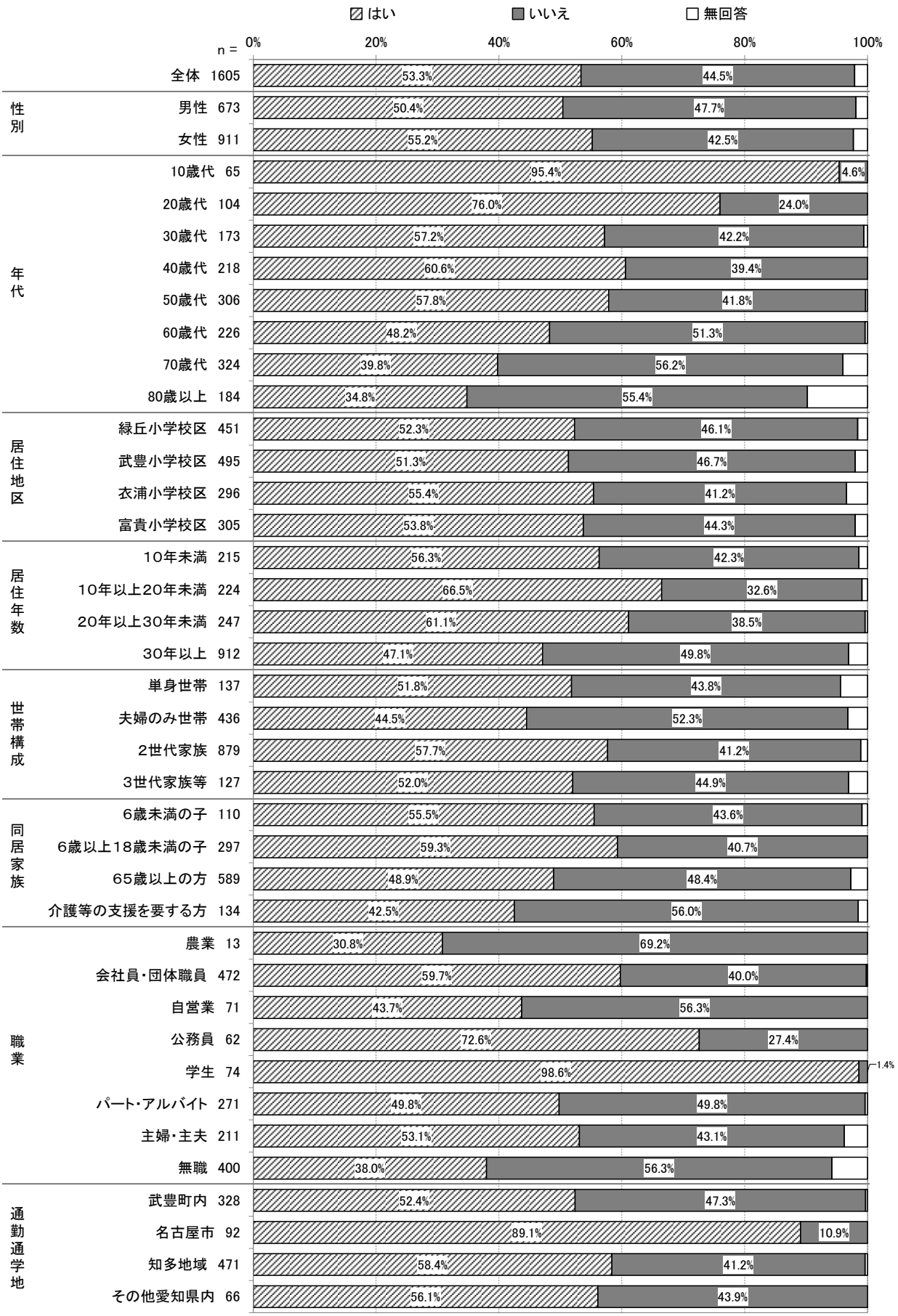
②過去１年間に町内の公園・緑地を利用したことはありますか？



図表 1-3-5　属性別、日常生活における行動・意識

まちづくりの目標１　定住先として選択されるまち［都市環境］

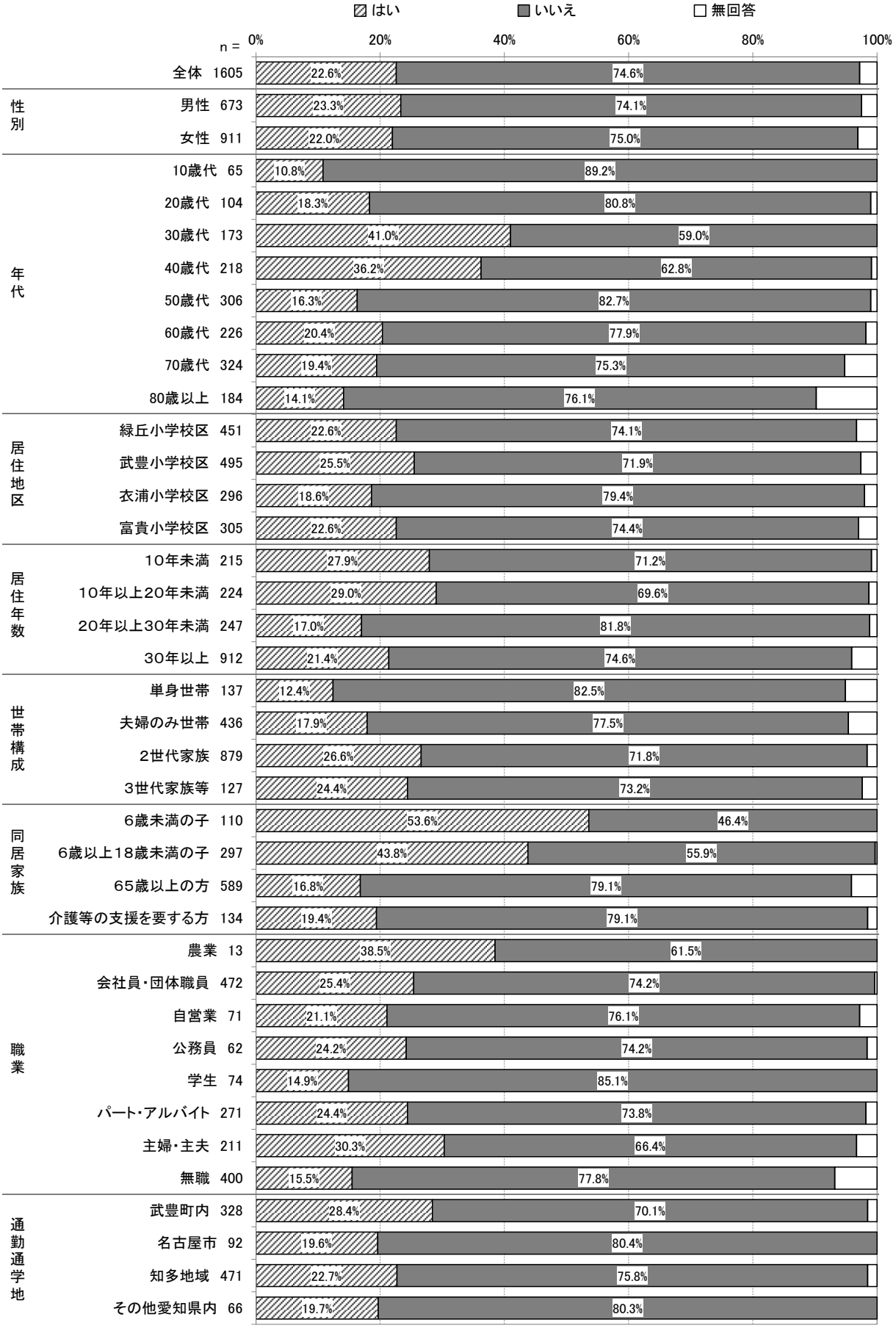
③公共交通機関（電車・バスなど）を利用しますか？



図表 1-3-6　属性別、日常生活における行動・意識

まちづくりの目標２　安全して子どもを産み育てることができるまち［子ども］

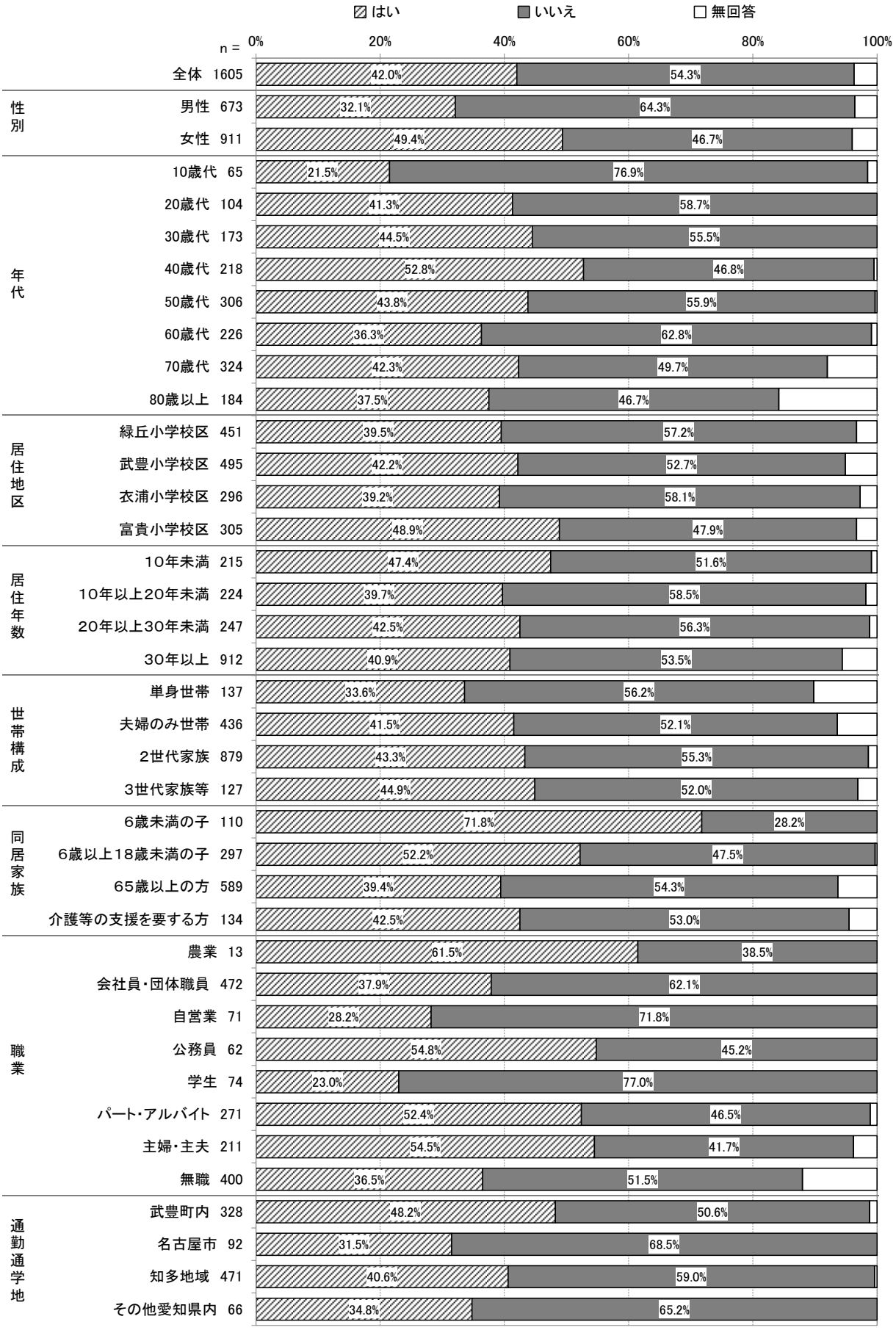
①過去１年間に近所の子どもたちと関わる機会（行事等）はありましたか？



図表 1-3-7　属性別、日常生活における行動・意識

まちづくりの目標２　安全して子どもを産み育てることができるまち［子ども］

②子育て世代包括支援センター※1を知っていますか？

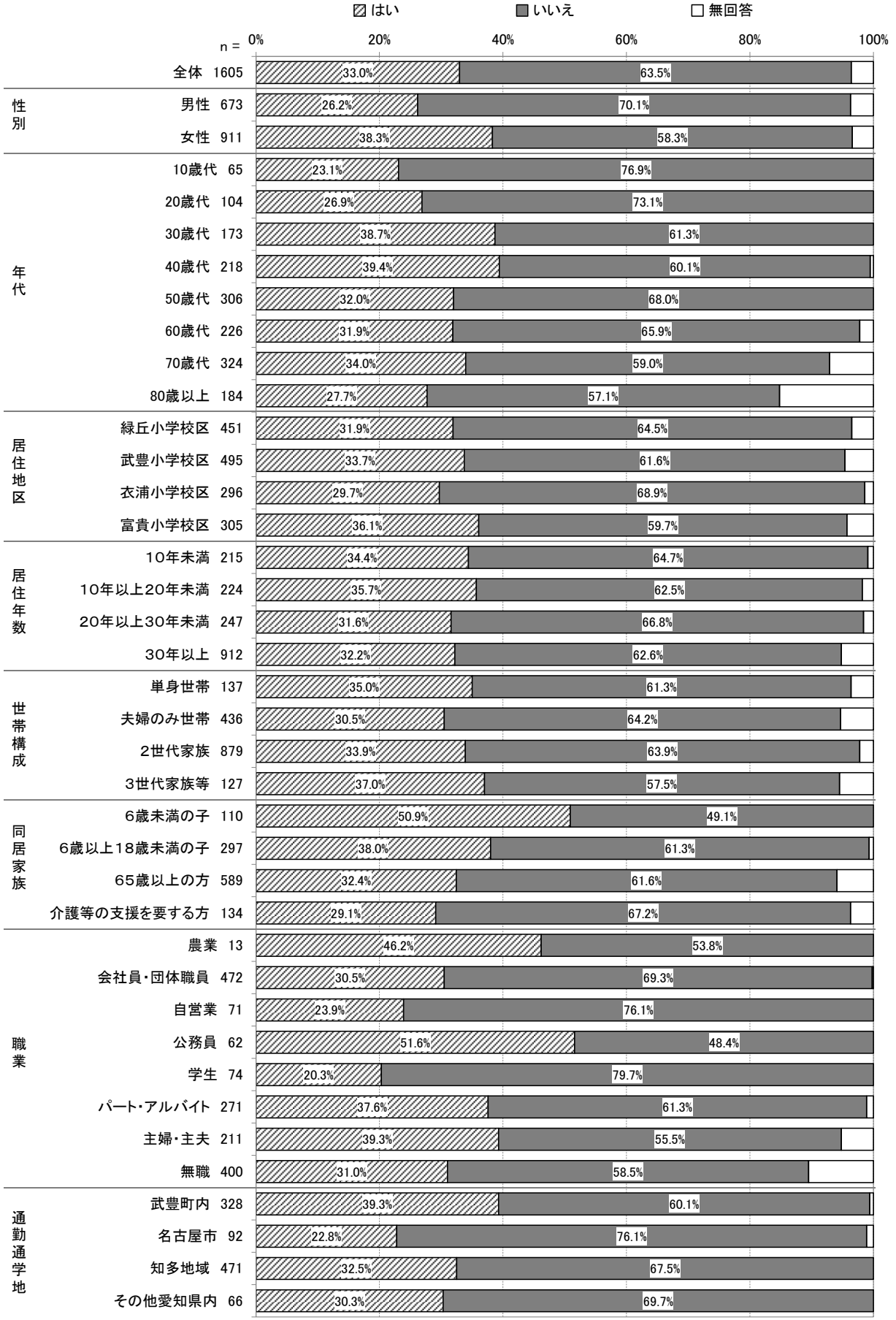


※1…妊娠・出産・子育てに関する各相談に応じ、母子保健施策と子育て施策との包括的な支援を行うことにより、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援を提供するもの。

図表 1-3-8　属性別、日常生活における行動・意識

まちづくりの目標２　安全して子どもを産み育てることができるまち［子ども］

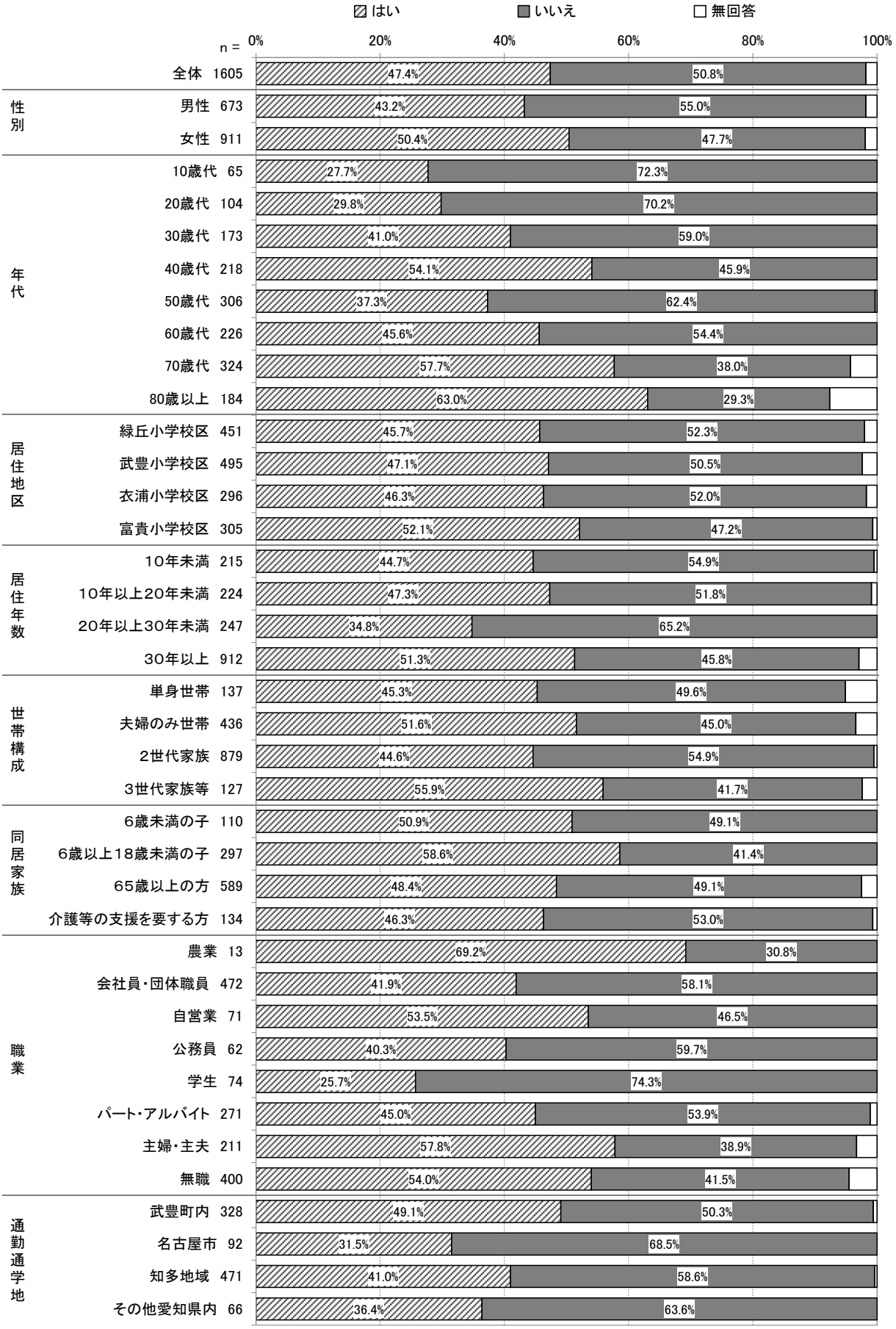
③児童虐待やＤＶ関係を含め、支援を必要とする家庭についての相談窓口を知っていますか？



図表 1-3-9　属性別、日常生活における行動・意識

まちづくりの目標３　楽しく学び、いきいきとした生活ができるまち［学び］

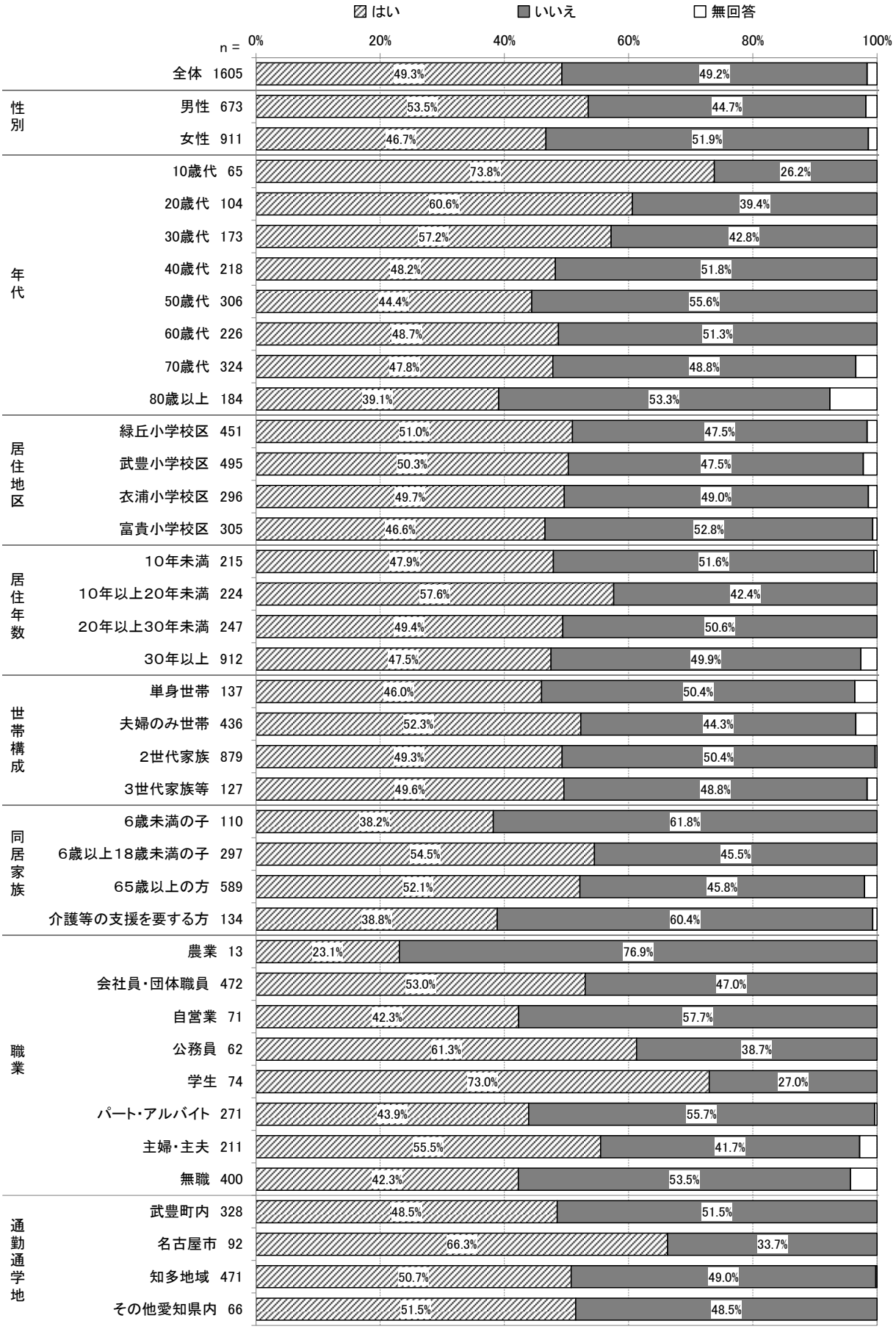
①登下校中の子どもたちとあいさつを交わしていますか？



図表 1-3-10　属性別、日常生活における行動・意識

まちづくりの目標３　楽しく学び、いきいきとした生活ができるまち［学び］

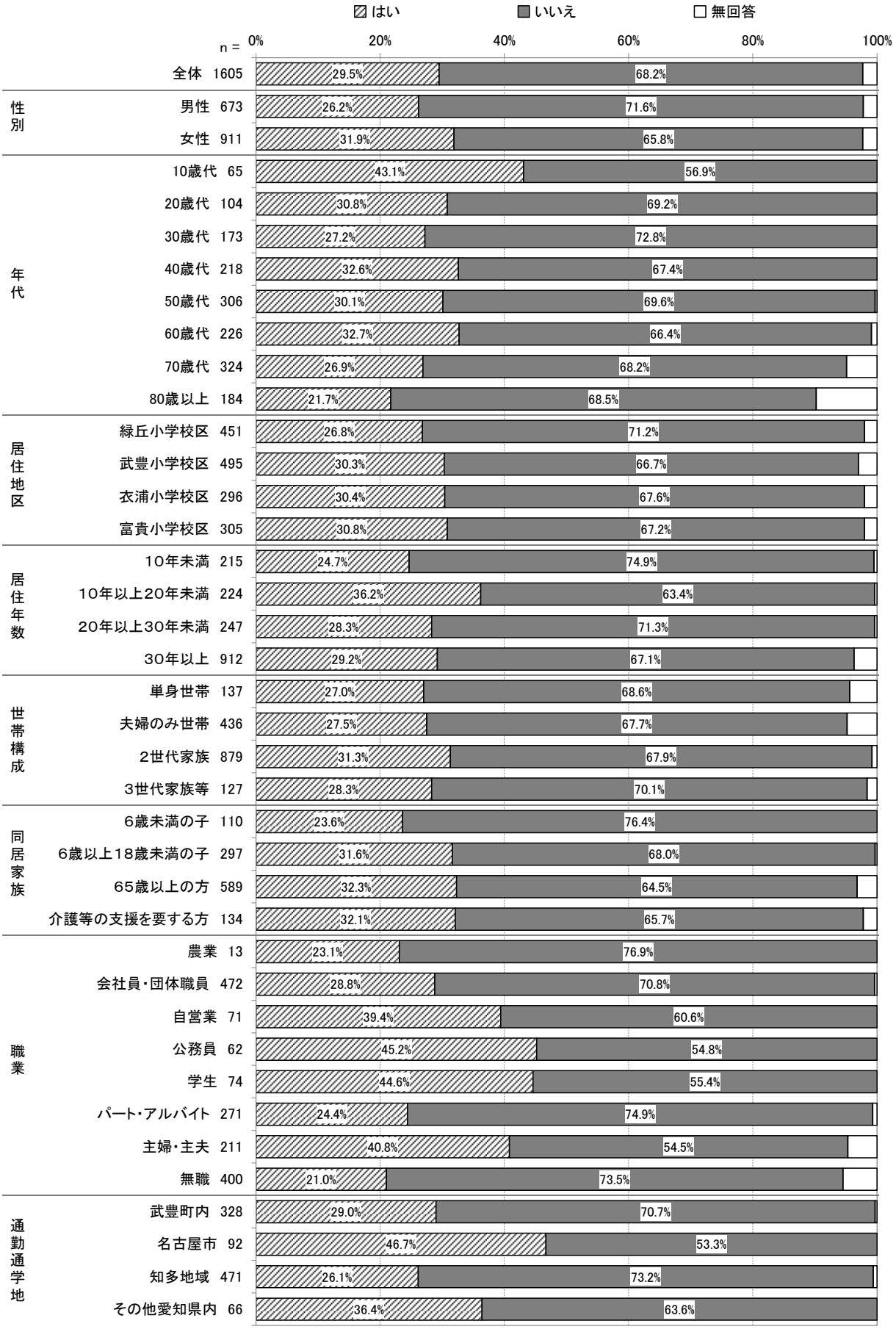
②趣味や教養、スポーツなどの活動を楽しんでいますか？



図表 1-3-11　属性別、日常生活における行動・意識

まちづくりの目標３　楽しく学び、いきいきとした生活ができるまち［学び］

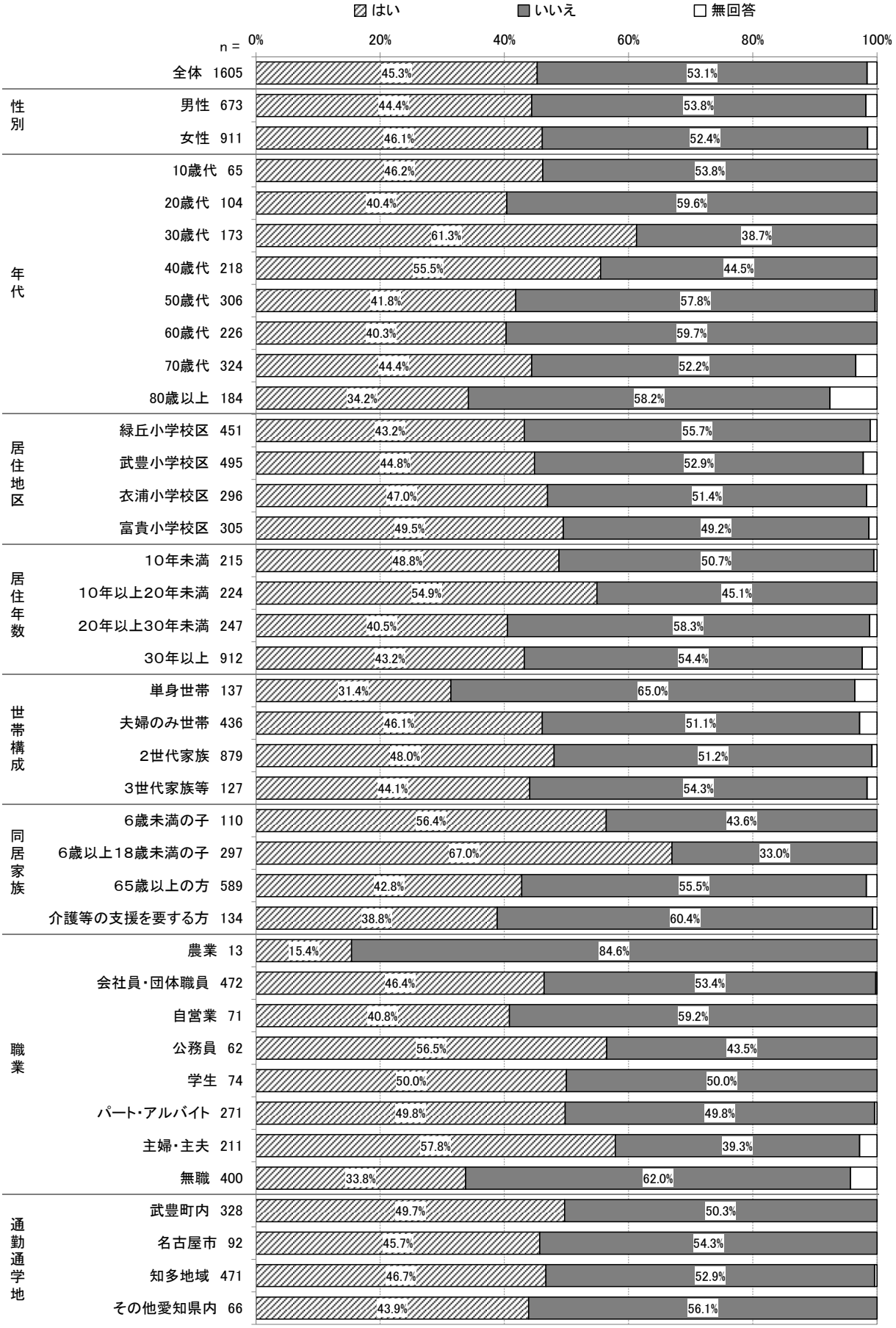
③芸術や文化に触れていますか？



図表 1-3-12　属性別、日常生活における行動・意識

まちづくりの目標３　楽しく学び、いきいきとした生活ができるまち［学び］

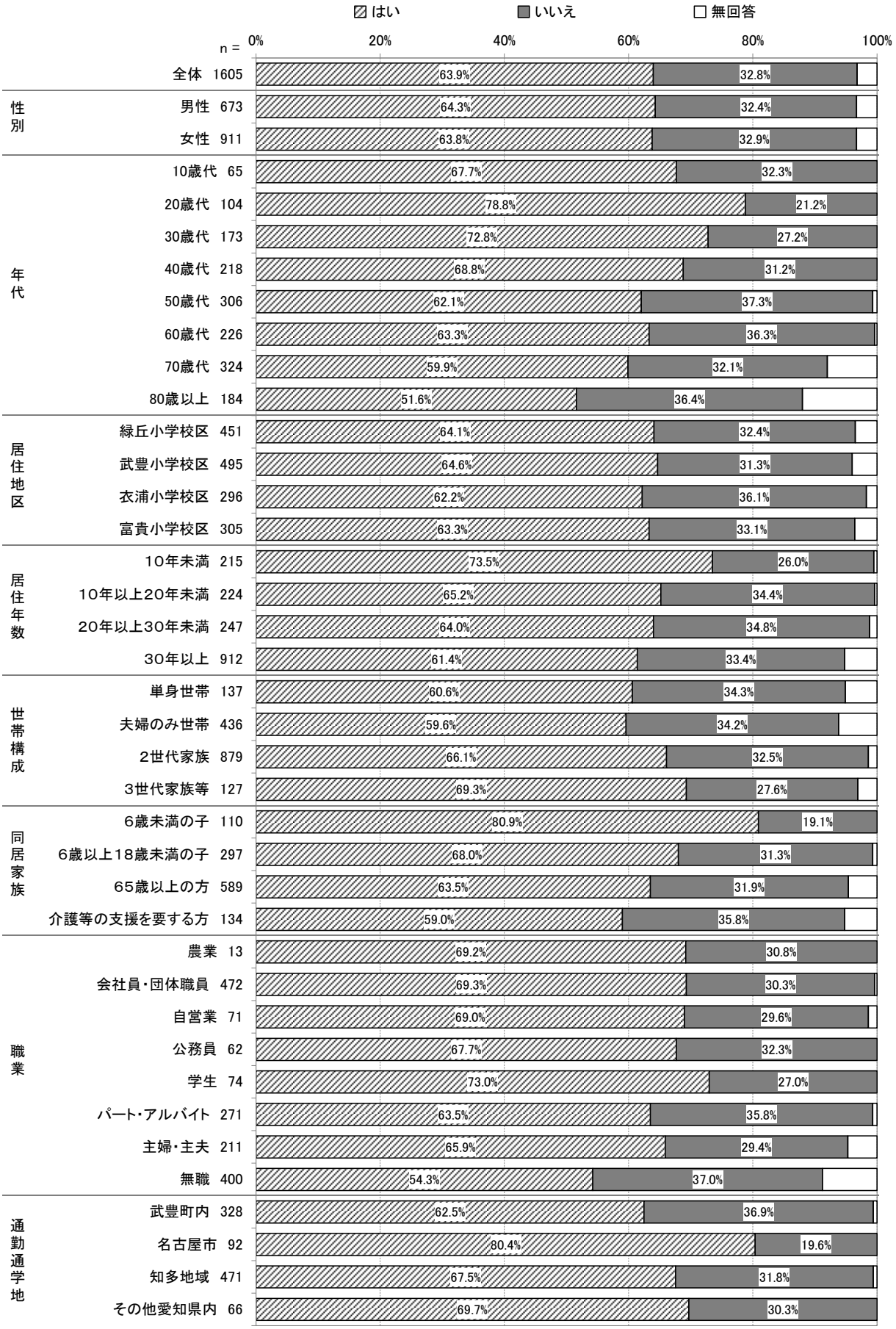
④町民会館や図書館、公民館、体育館、温水プールなどの公共施設を利用していますか？



図表 1-3-13　属性別、日常生活における行動・意識

まちづくりの目標３　楽しく学び、いきいきとした生活ができるまち［学び］

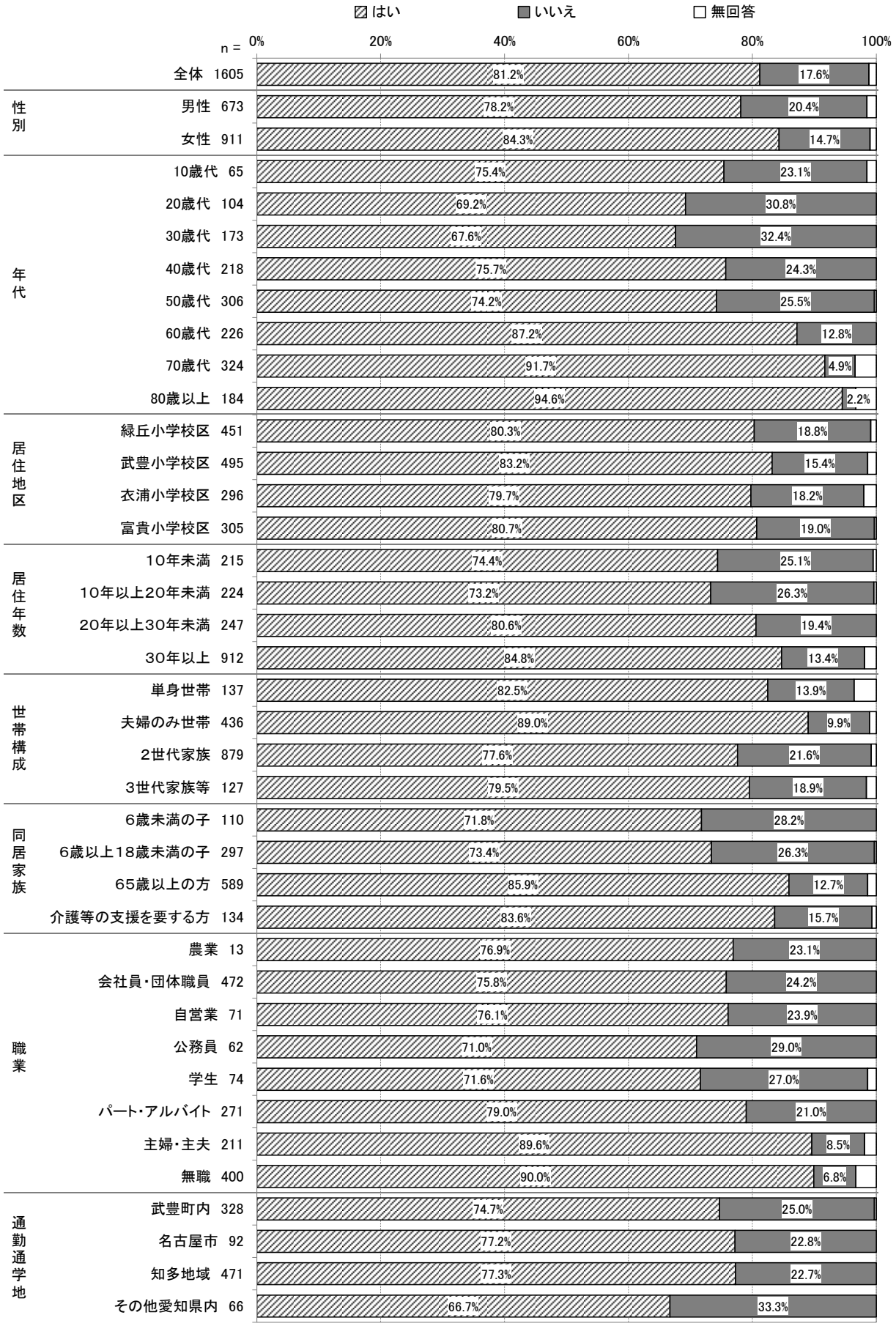
⑤生きがいにしているものがありますか？



図表 1-3-14　属性別、日常生活における行動・意識

まちづくりの目標４　人と人がつながり、互いに支え合い　健康で安心して暮らせるまち［健康・福祉］

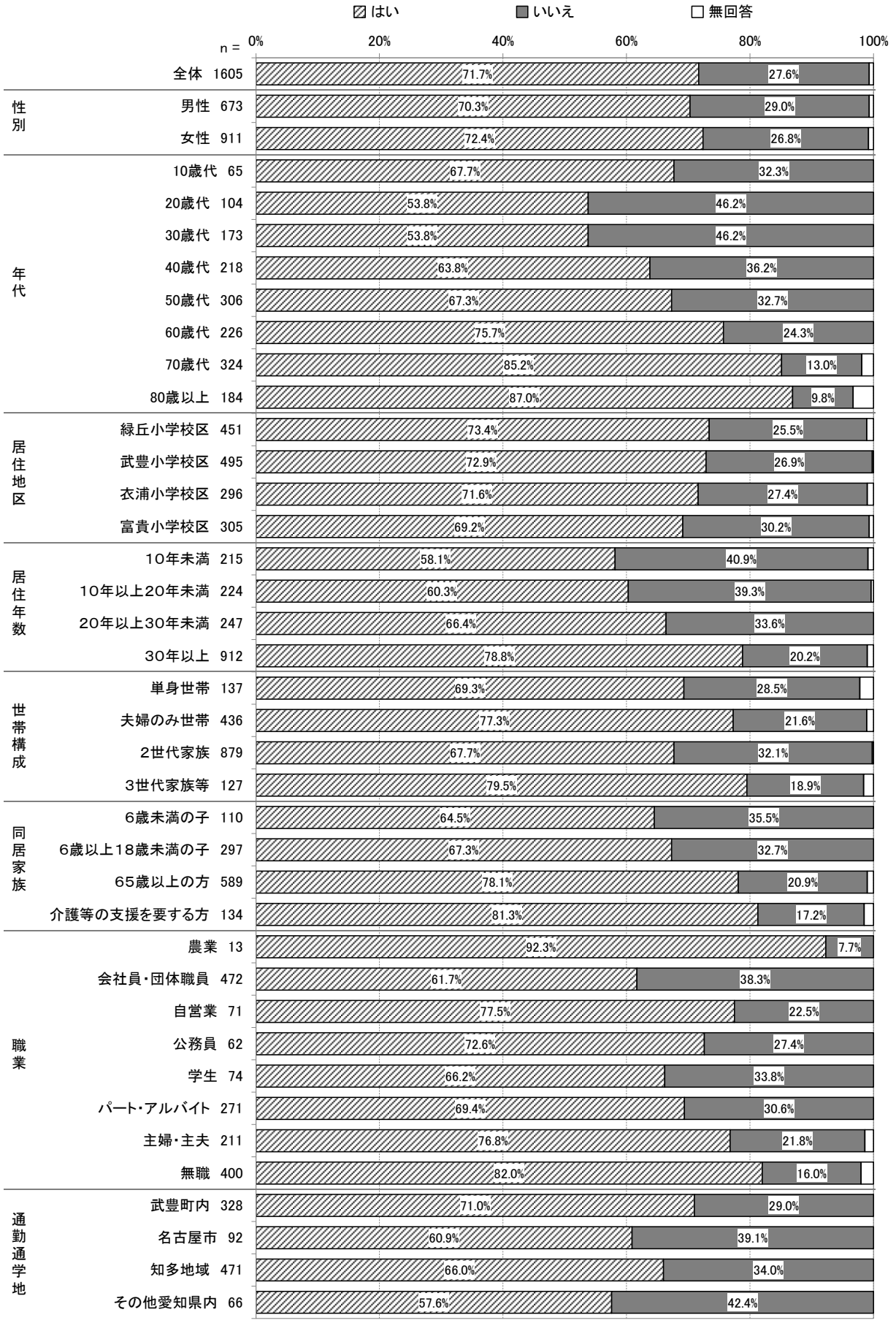
①普段から健康に心がけていますか？



図表 1-3-15　属性別、日常生活における行動・意識

まちづくりの目標４　人と人がつながり、互いに支え合い　健康で安心して暮らせるまち［健康・福祉］

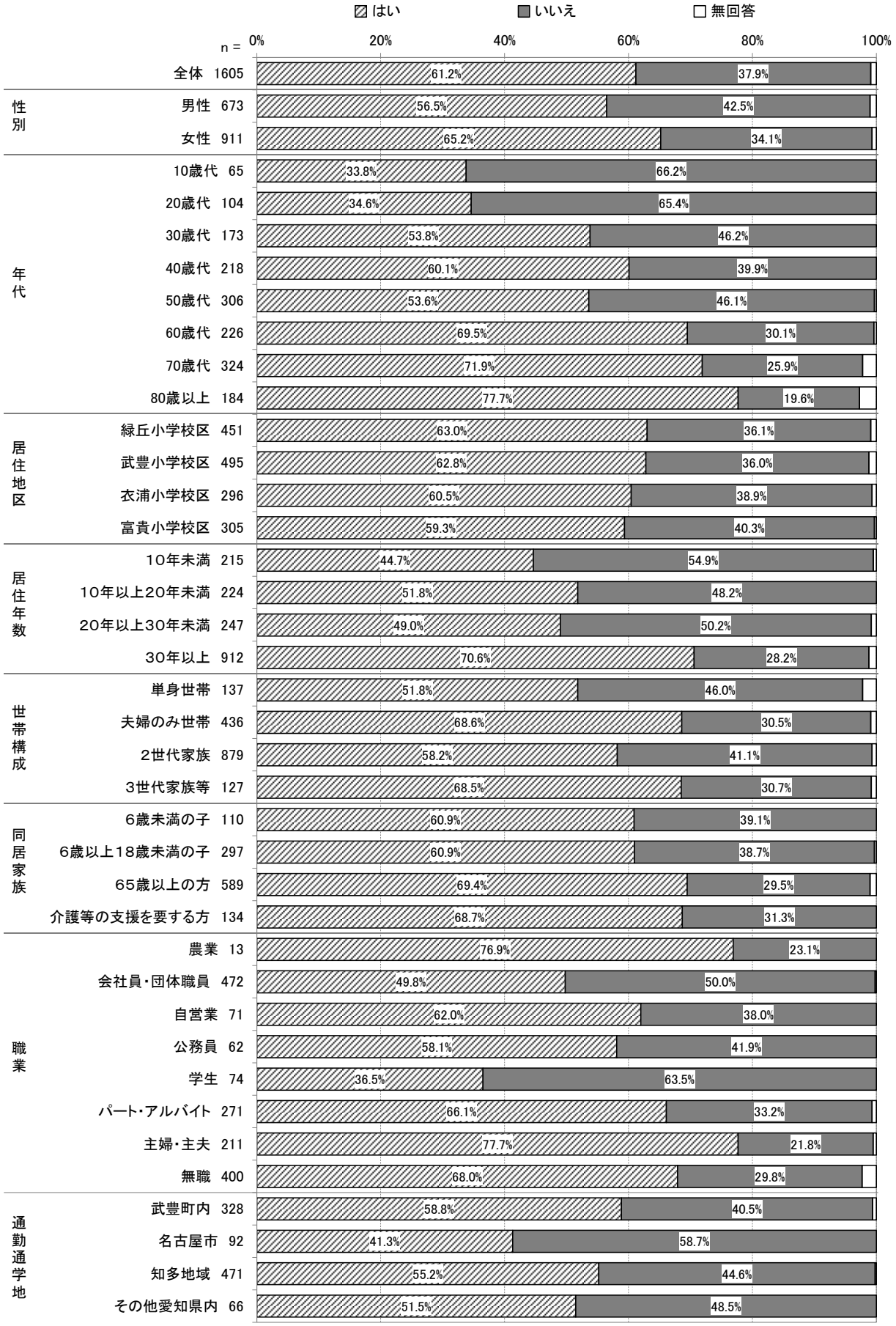
②近くにかかりつけの医者はいますか？



図表 1-3-16　属性別、日常生活における行動・意識

まちづくりの目標４　人と人がつながり、互いに支え合い　健康で安心して暮らせるまち［健康・福祉］

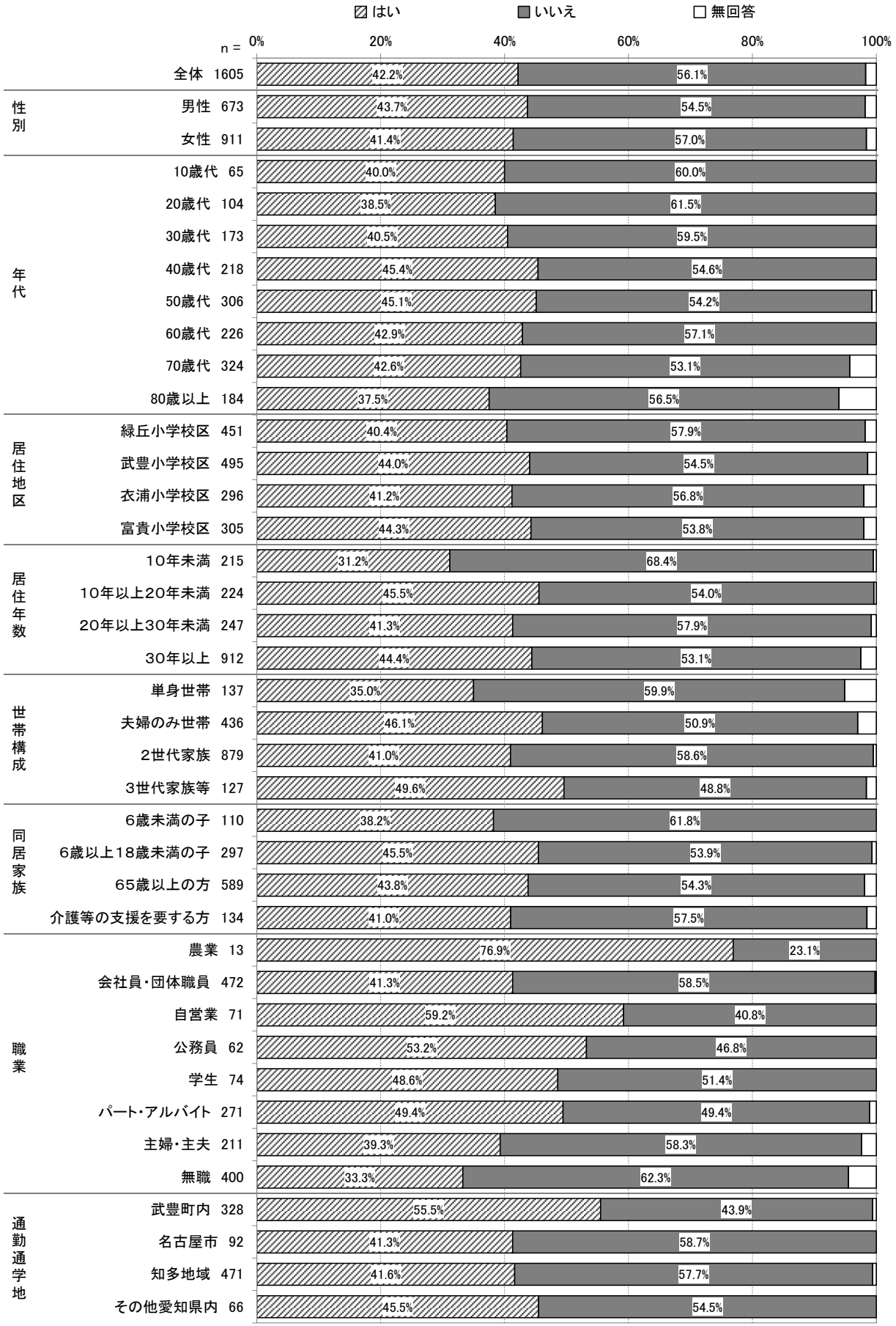
③日常生活のなかで近所の方との関わりはありますか？



図表 1-3-17　属性別、日常生活における行動・意識

まちづくりの目標４　人と人がつながり、互いに支え合い　健康で安心して暮らせるまち［健康・福祉］

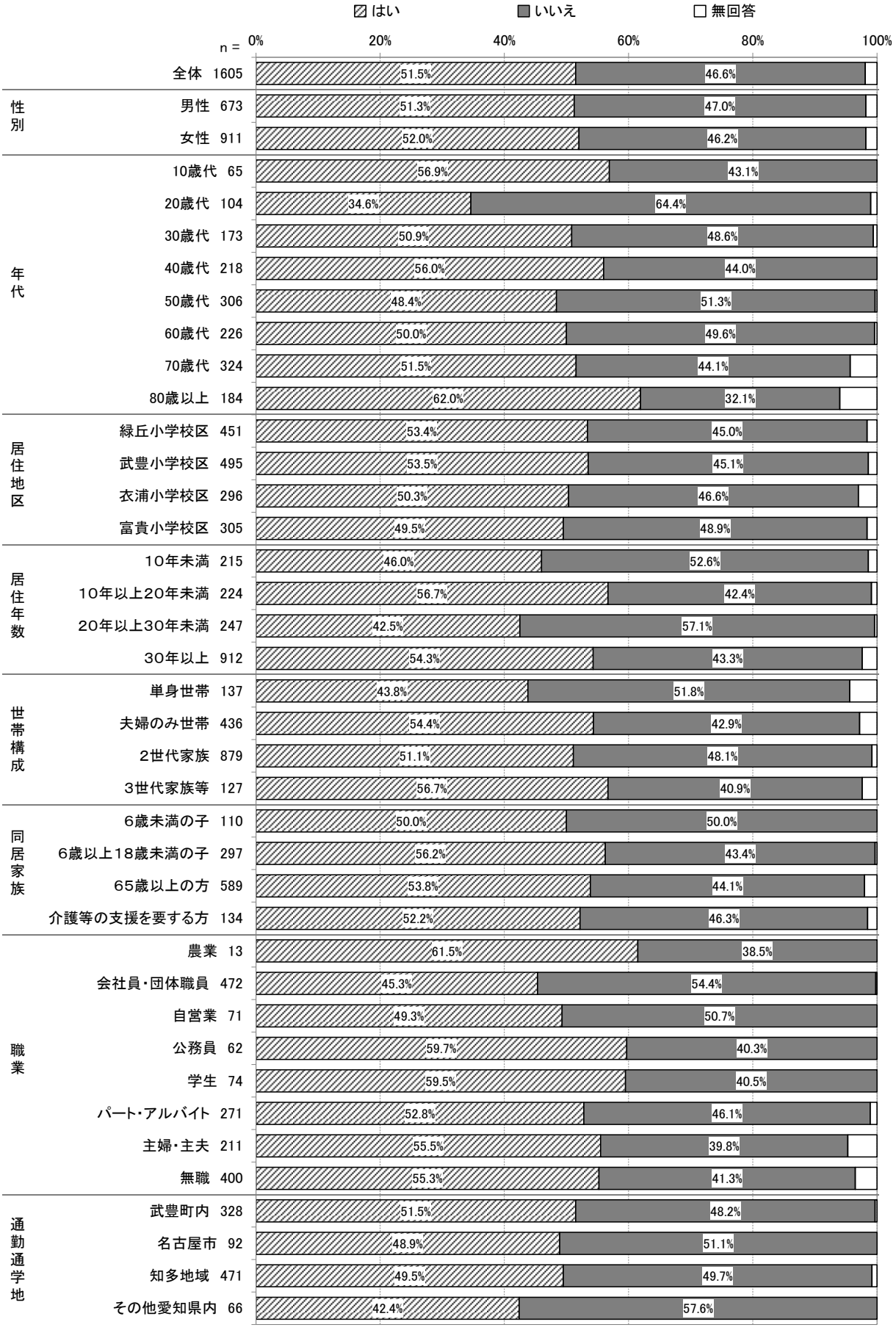
④自分が活躍できる場はありますか？



図表 1-3-18　属性別、日常生活における行動・意識

まちづくりの目標５　災害に強く、安全・安心に暮らせるまち［安全・安心］

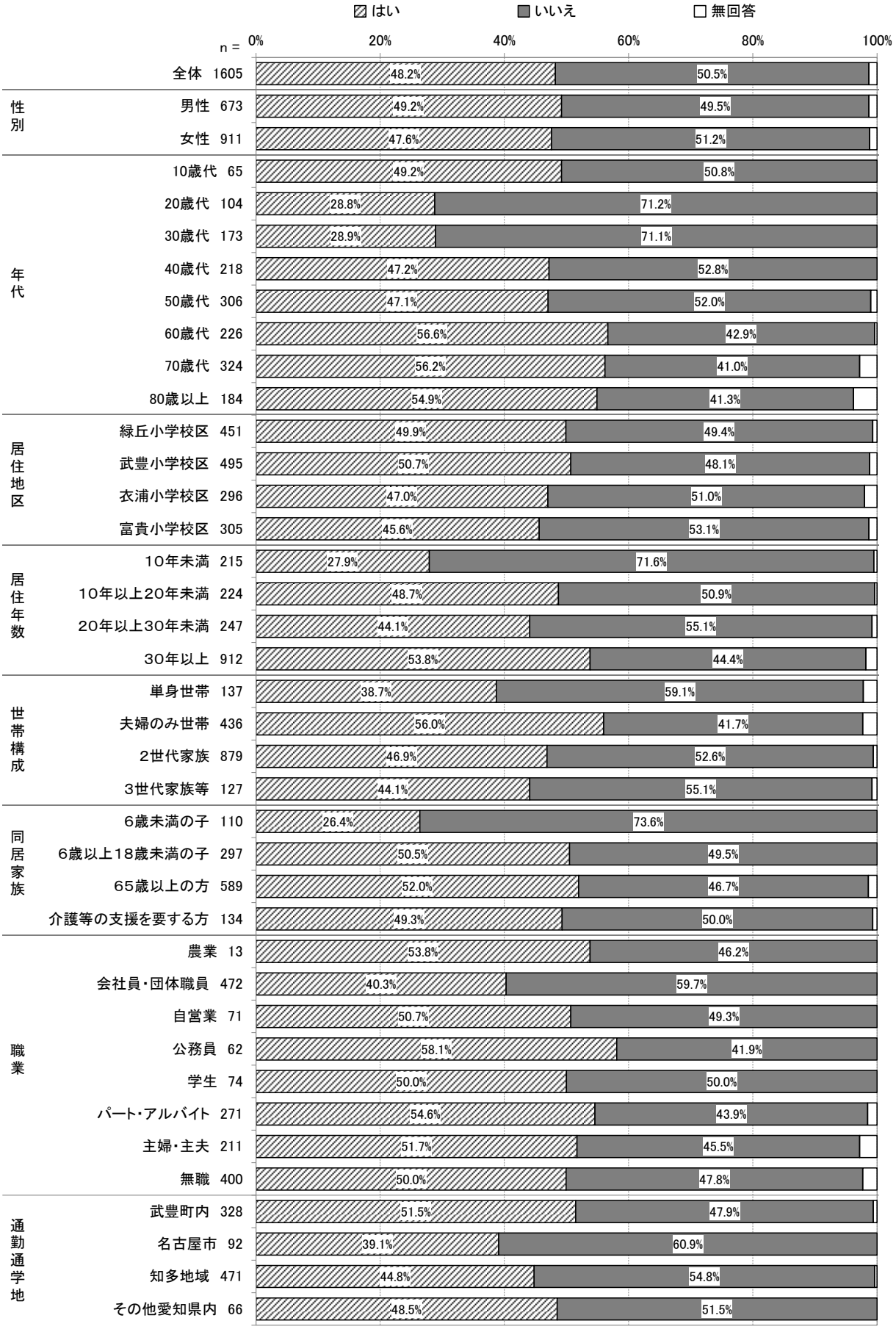
①普段から災害に備えていますか？



図表 1-3-19　属性別、日常生活における行動・意識

まちづくりの目標５　災害に強く、安全・安心に暮らせるまち［安全・安心］

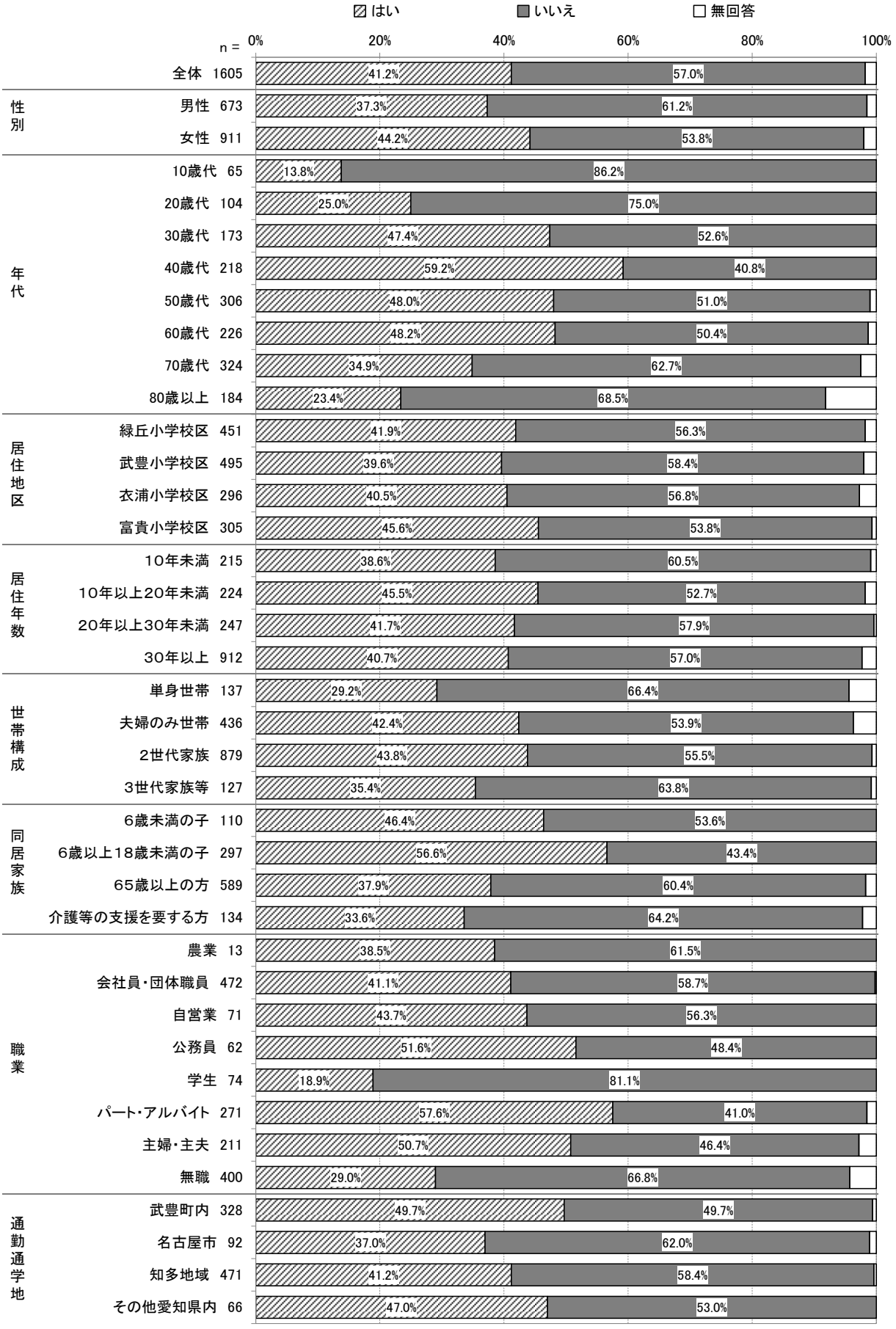
②防災訓練などに参加したり、見学したりしたことはありますか？



図表 1-3-20　属性別、日常生活における行動・意識

まちづくりの目標５　災害に強く、安全・安心に暮らせるまち［安全・安心］

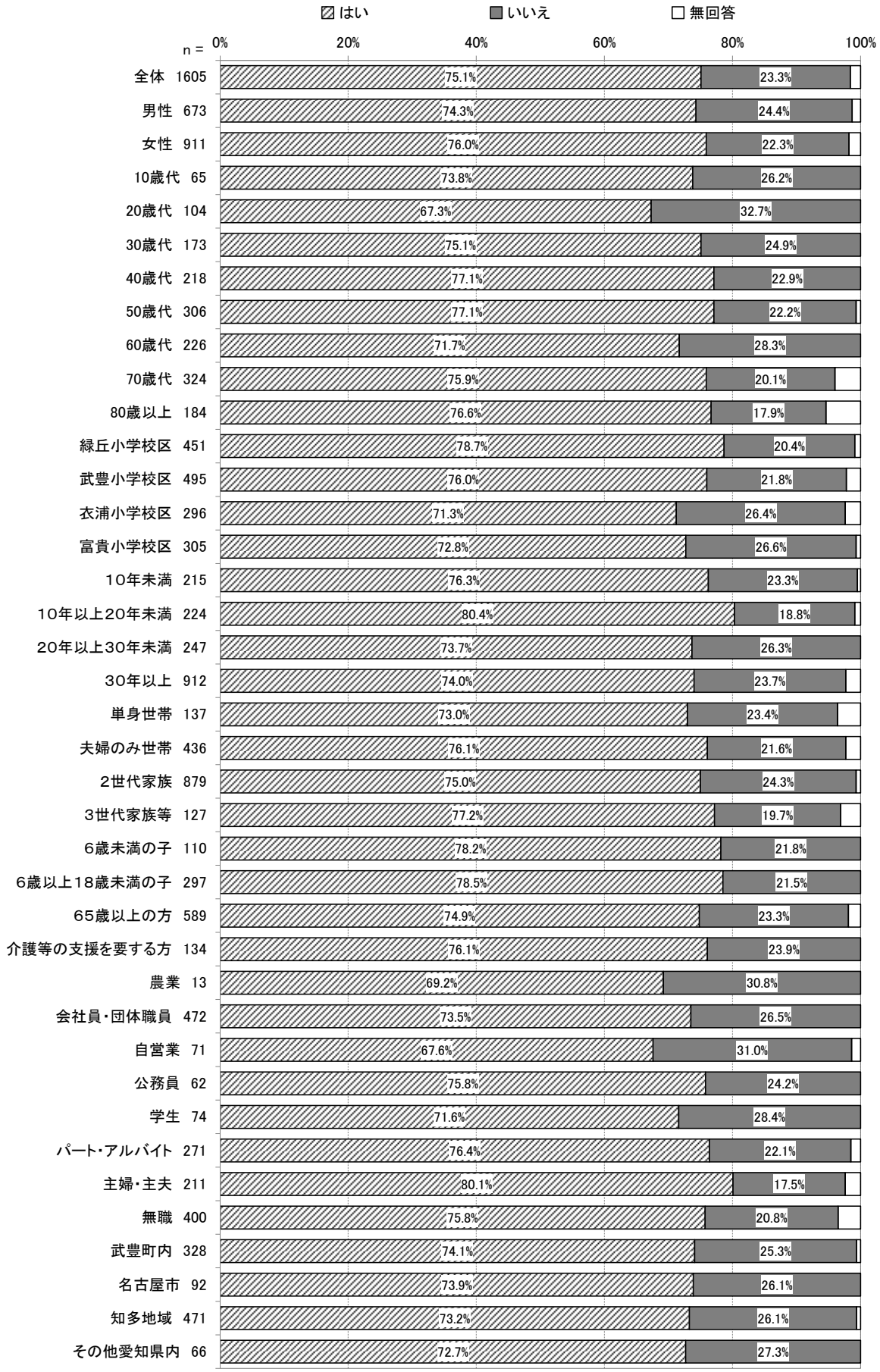
③町の防災メールや LINE を利用していますか？



図表 1-3-21　属性別、日常生活における行動・意識

まちづくりの目標５　災害に強く、安全・安心に暮らせるまち［安全・安心］

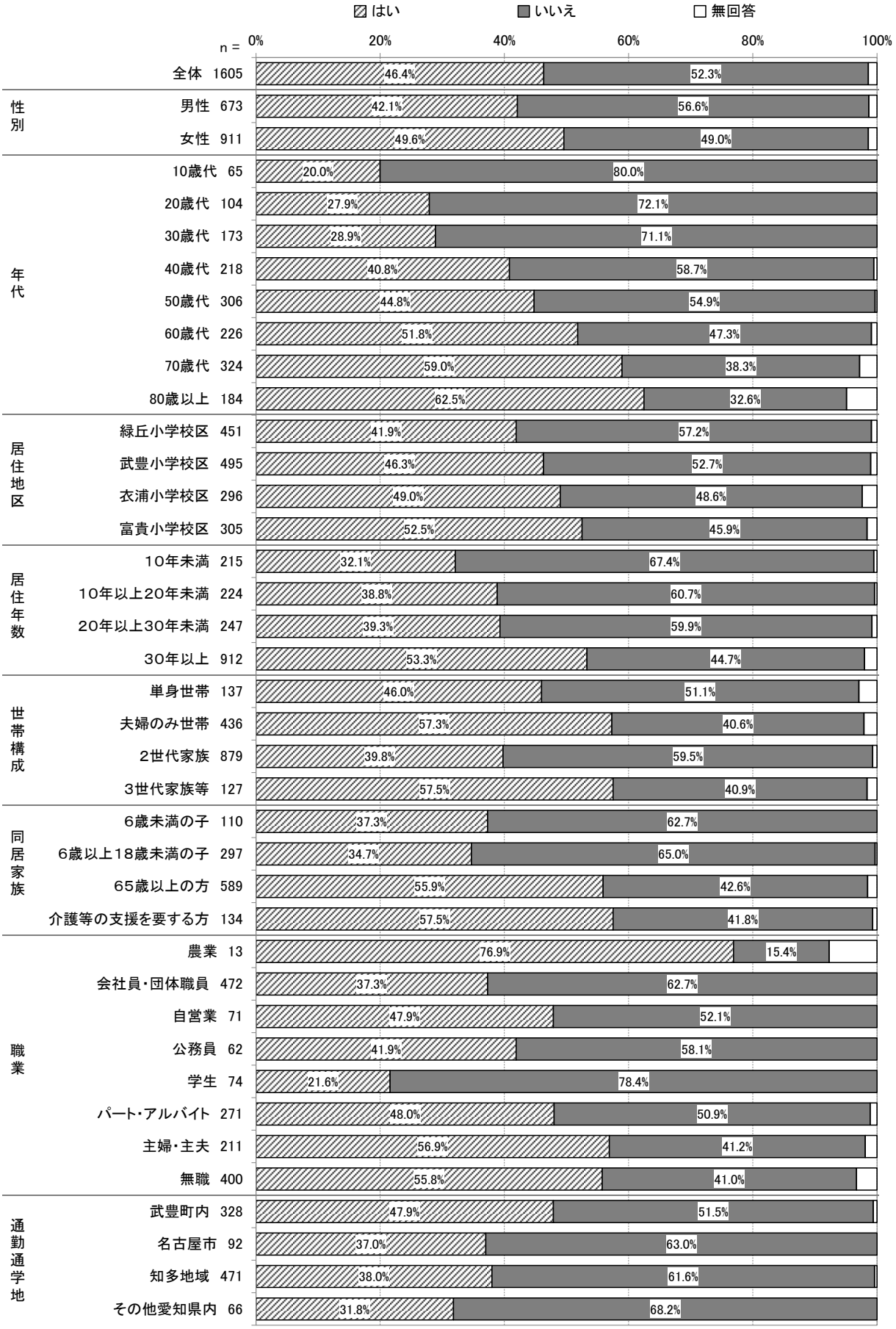
④普段から防犯に心がけていますか？



図表 1-3-22　属性別、日常生活における行動・意識

まちづくりの目標６　産業が持続・発展する活力のあるまち［産業・交流］

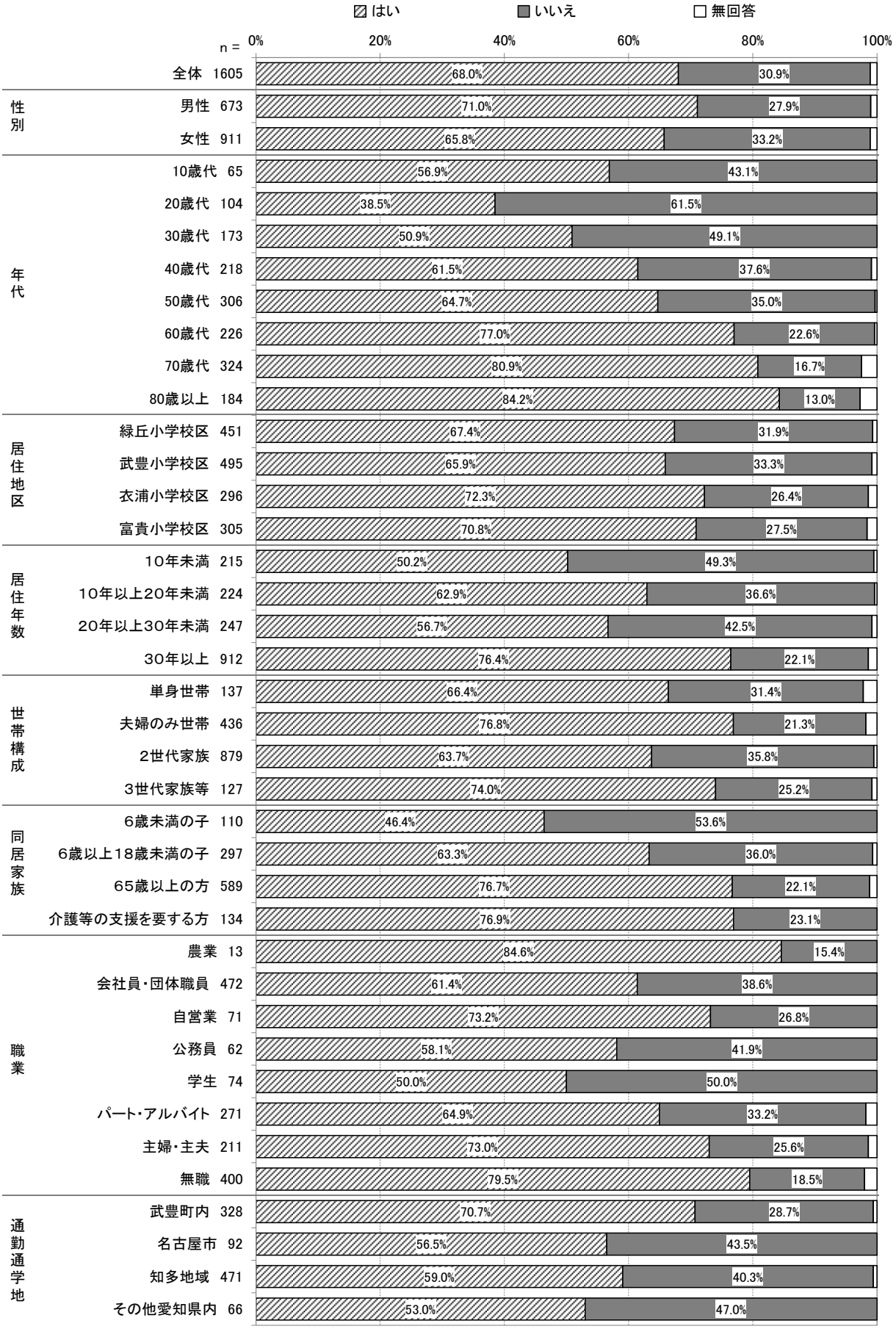
①地元の農畜産物を日常的に購入していますか？



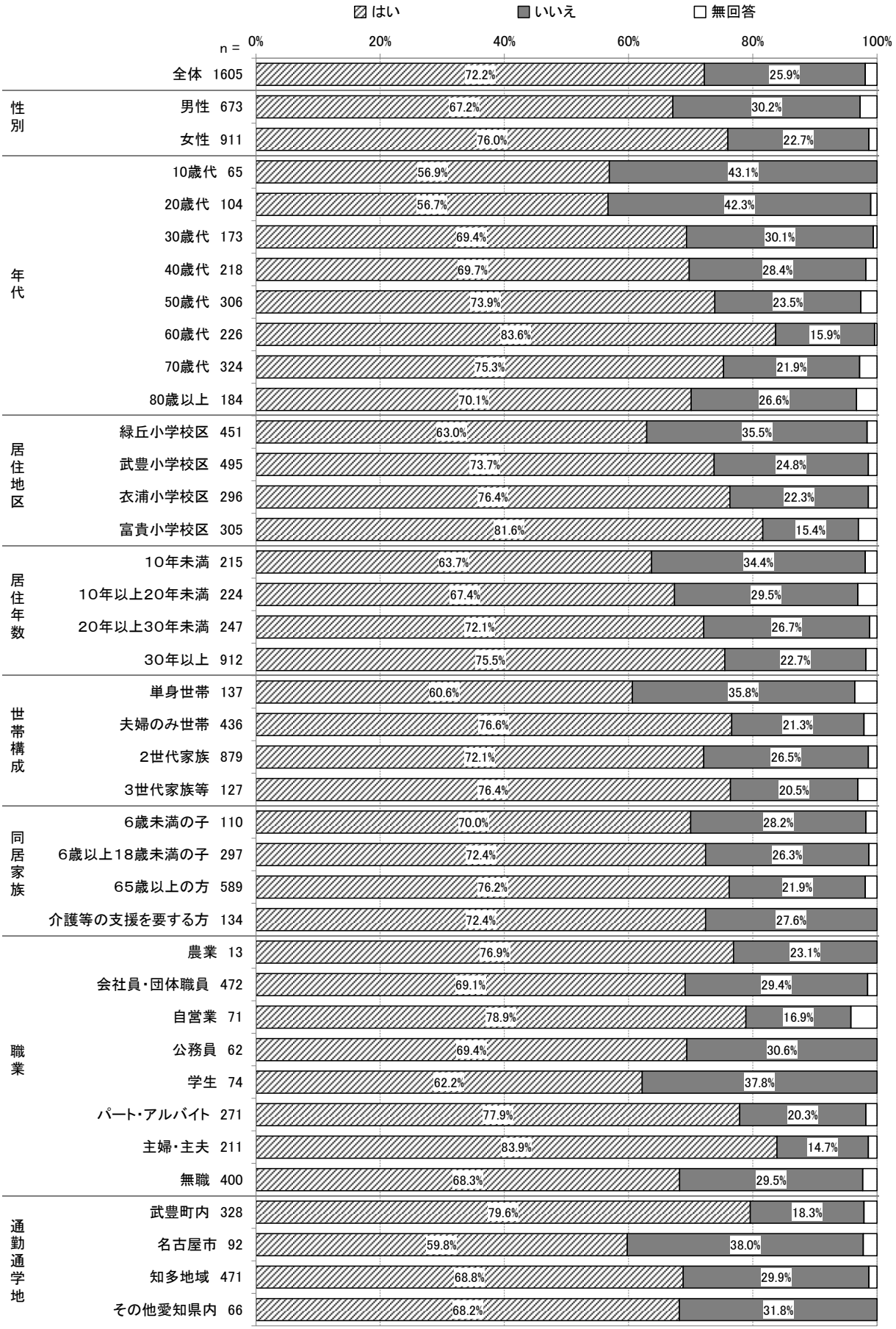
図表 1-3-23　属性別、日常生活における行動・意識

まちづくりの目標６　産業が持続・発展する活力のあるまち［産業・交流］

②町内の商店を利用していますか？



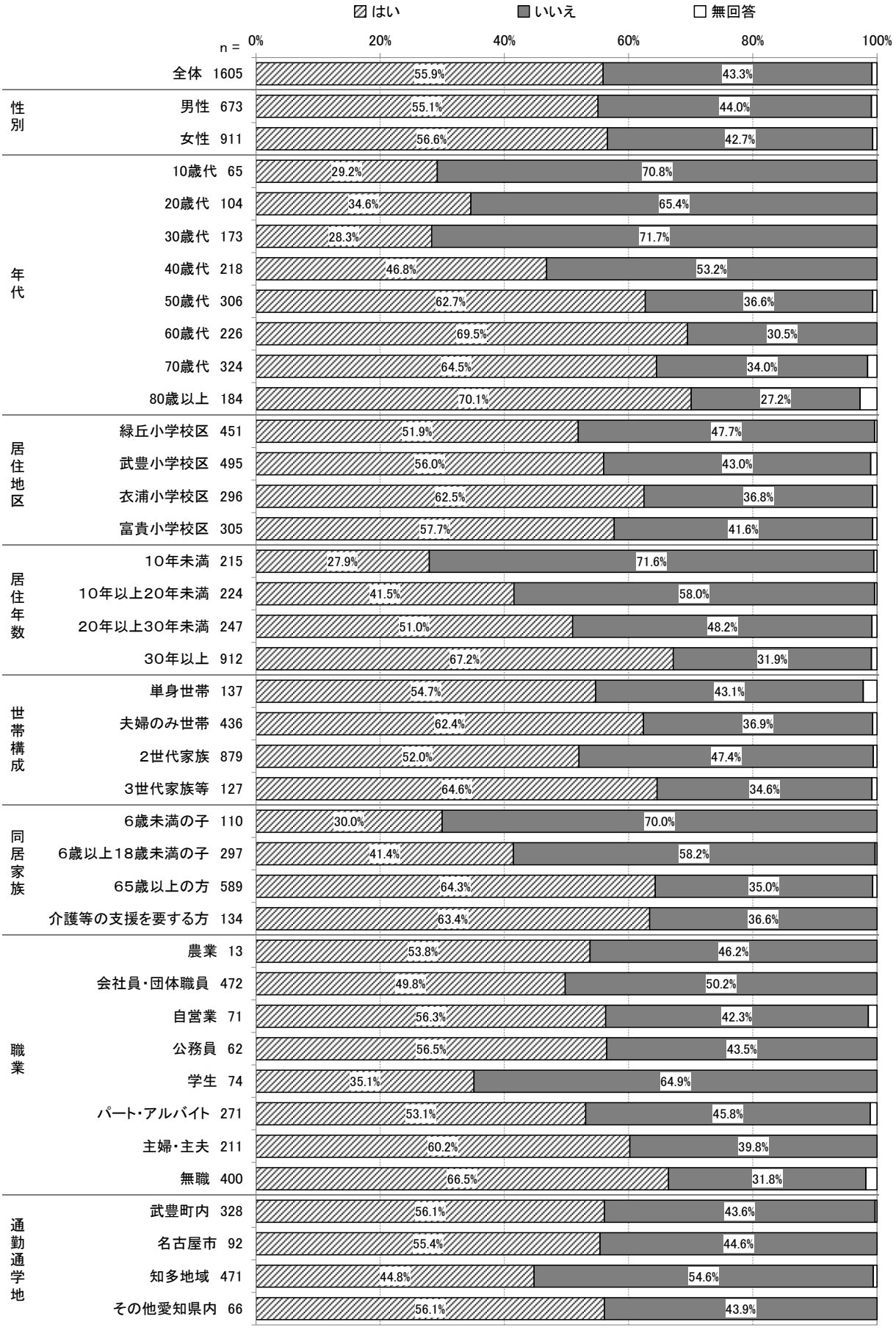
図表 1-3-24　属性別、日常生活における行動・意識
まちづくりの目標６　産業が持続・発展する活力のあるまち［産業・交流］
③味の蔵たけとよに行ったことがありますか？



図表 1-3-25　属性別、日常生活における行動・意識

まちづくりの目標６　産業が持続・発展する活力のあるまち［産業・交流］

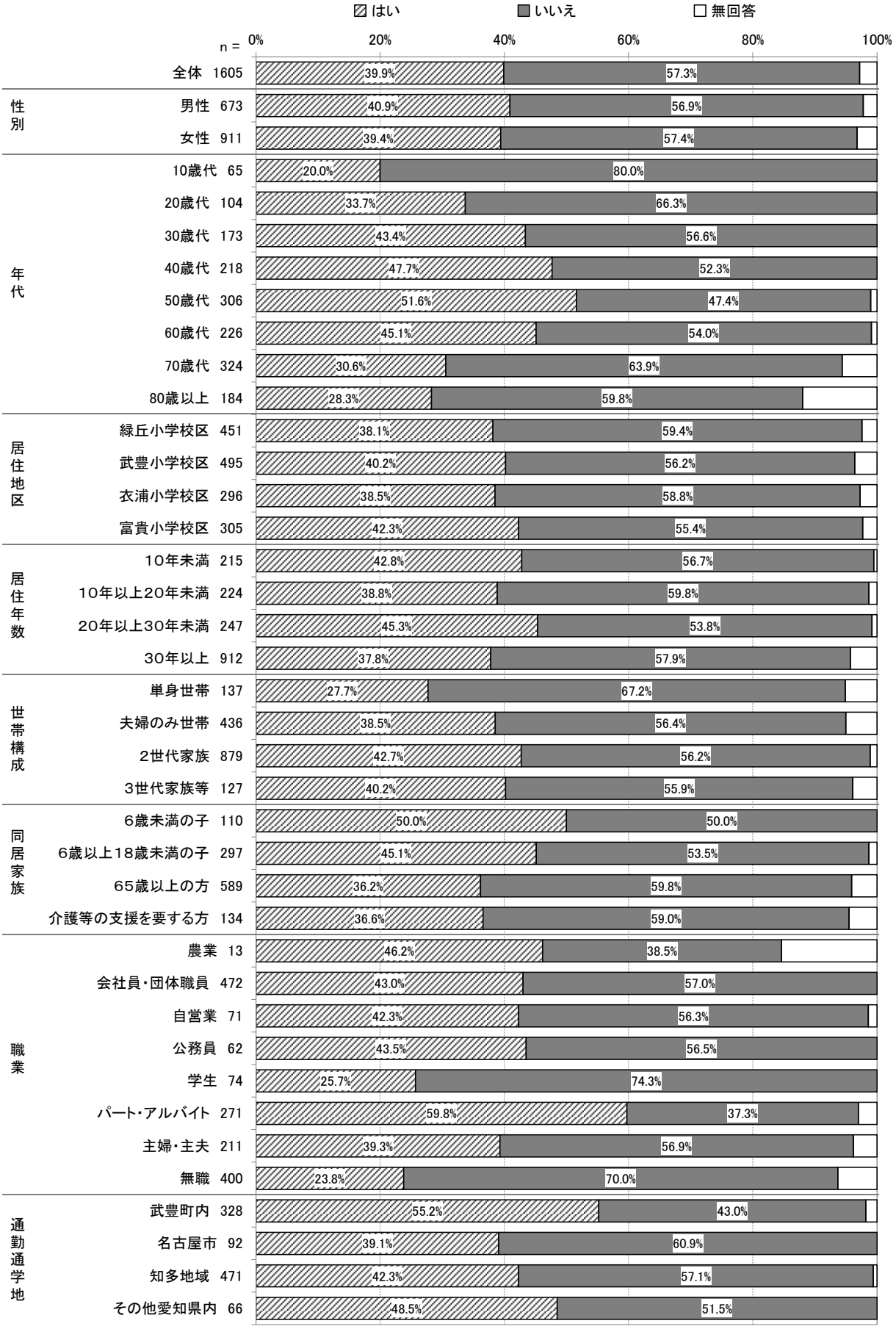
④武豊のみそ・たまりを購入したことがありますか？



図表 1-3-26　属性別、日常生活における行動・意識

まちづくりの目標６　産業が持続・発展する活力のあるまち［産業・交流］

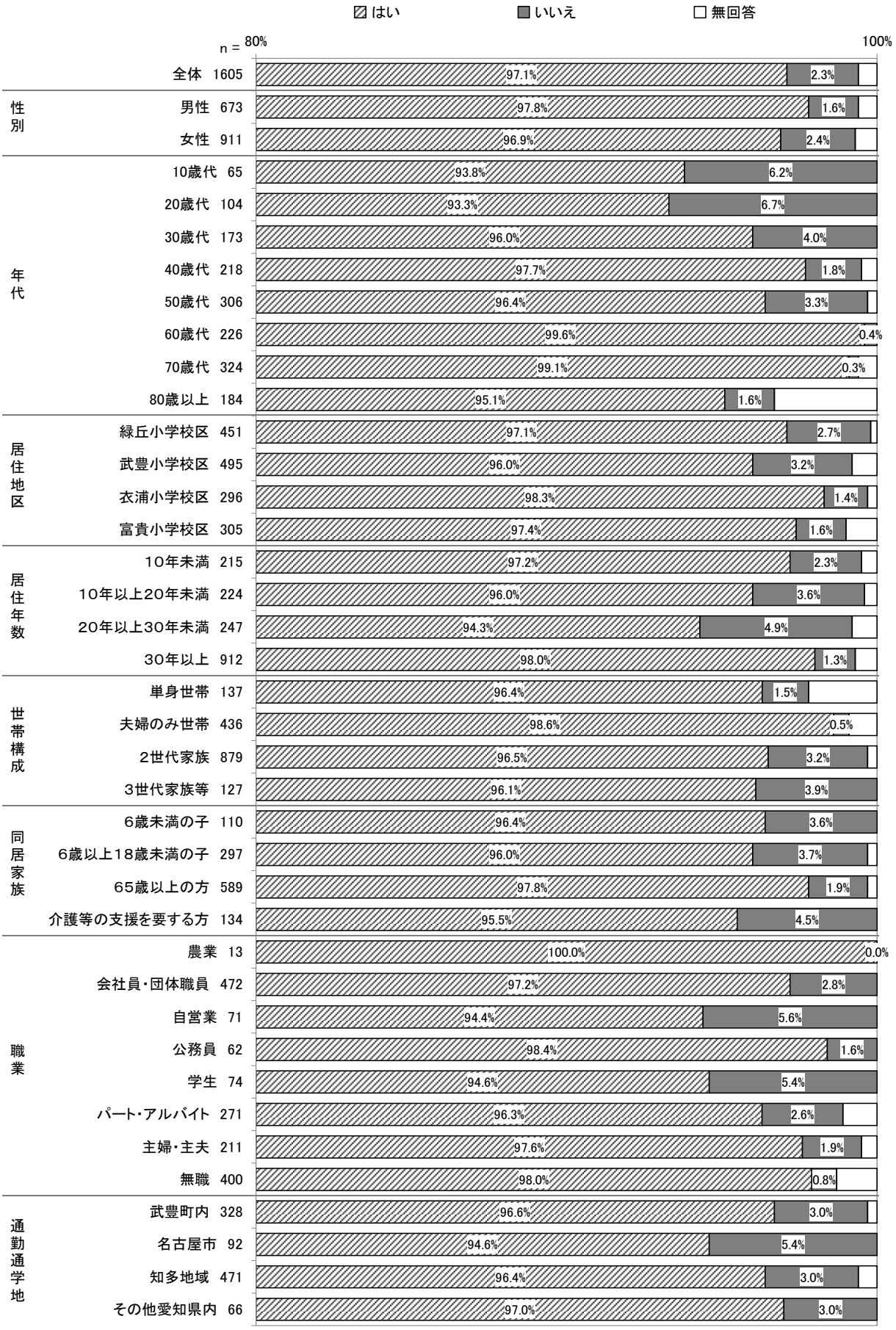
⑤地元での雇用機会に関心がありますか？



図表 1-3-27　属性別、日常生活における行動・意識

まちづくりの目標７　環境にやさしいまち［環境］

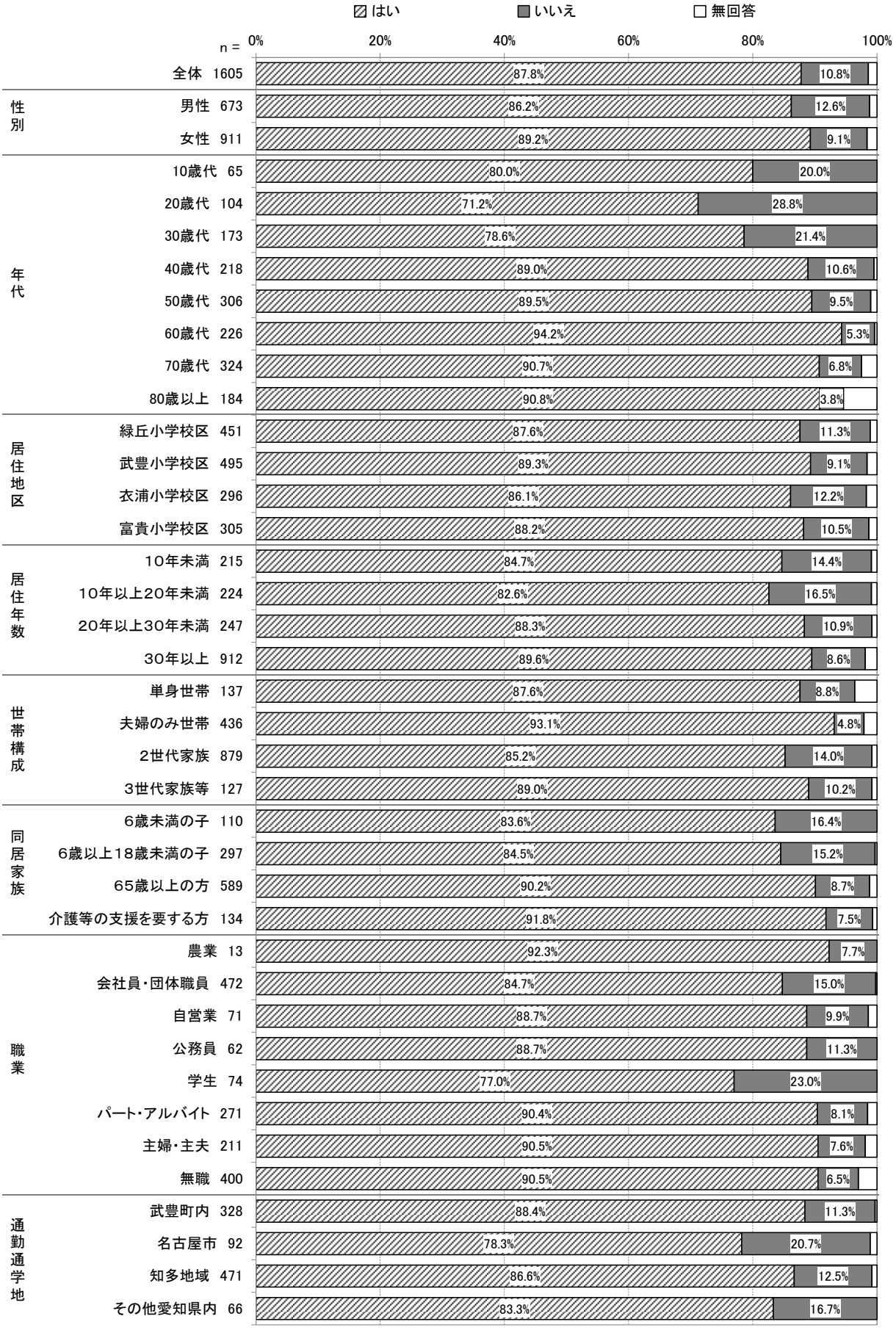
①ごみの分別をきちんとしていますか？



図表 1-3-28　属性別、日常生活における行動・意識

まちづくりの目標７　環境にやさしいまち［環境］

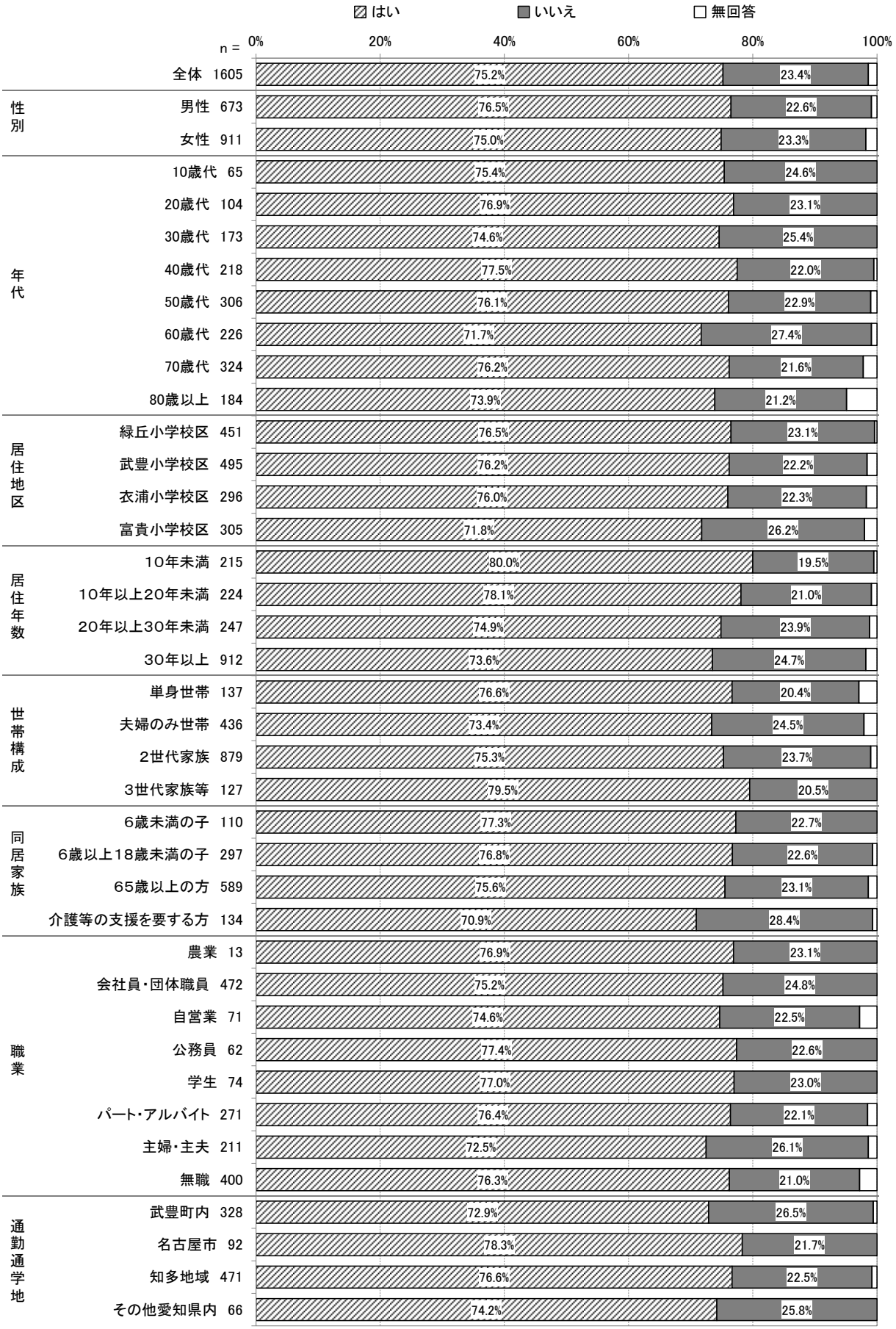
②省エネルギーやリサイクルに心がけていますか？



図表 1-3-29　属性別、日常生活における行動・意識

まちづくりの目標７　環境にやさしいまち［環境］

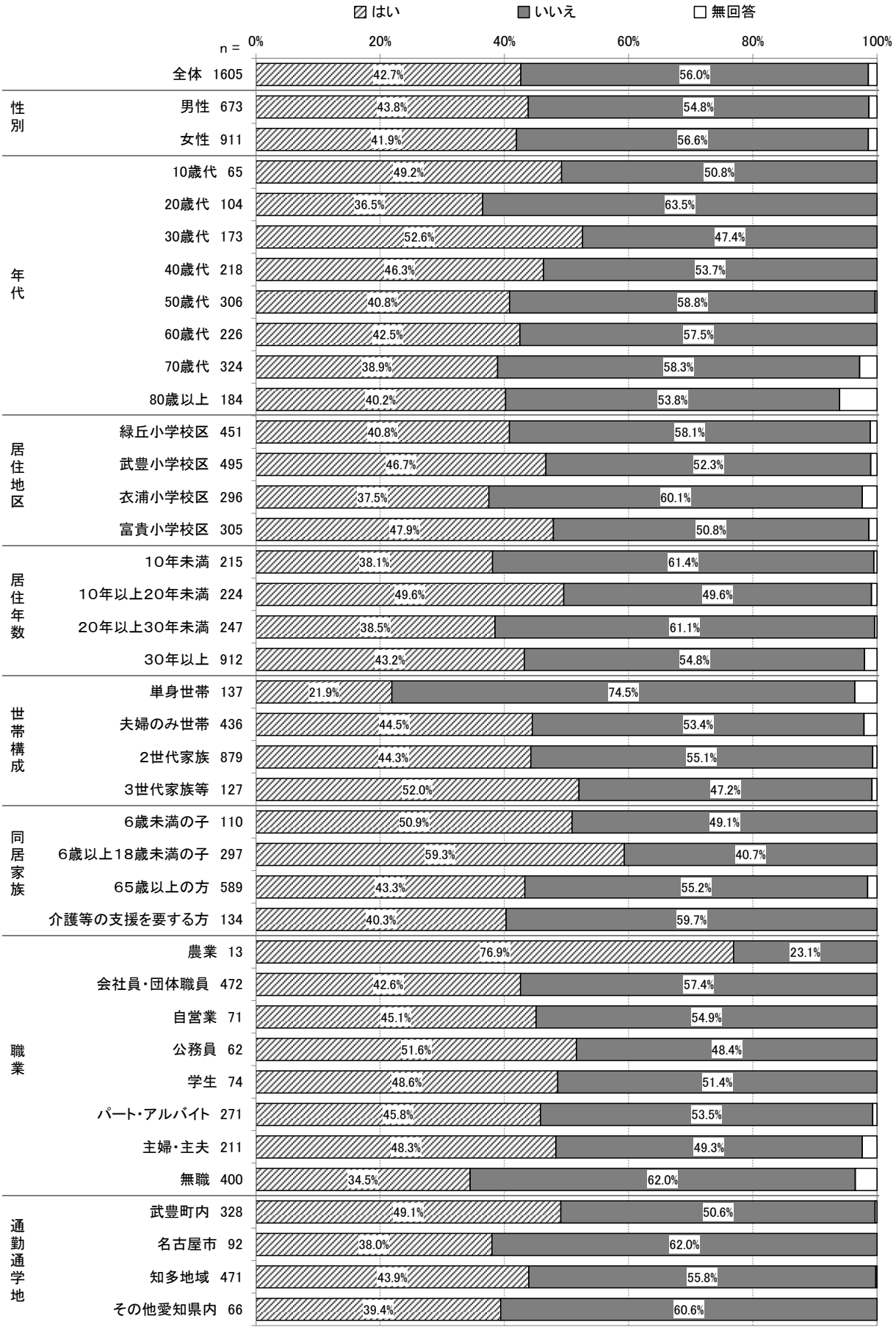
③お住まいの周辺環境は美しく保たれていると感じますか？



図表 1-3-30　属性別、日常生活における行動・意識

まちづくりの目標８　多様な主体が連携・協働するまち［まちづくり・地域経営］

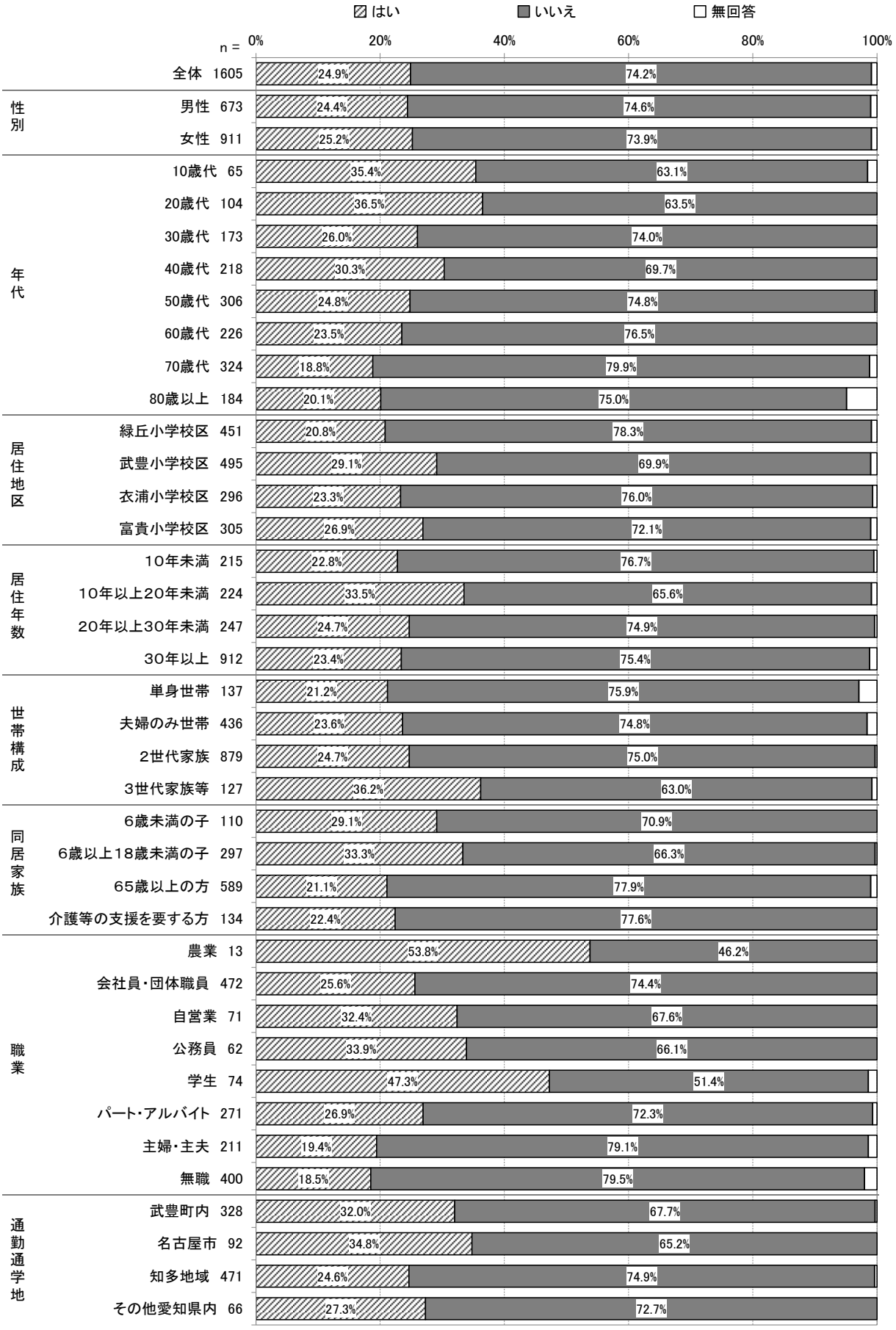
①地域の行事やお祭りに参加していますか？



図表 1-3-31　属性別、日常生活における行動・意識

まちづくりの目標８　多様な主体が連携・協働するまち［まちづくり・地域経営］

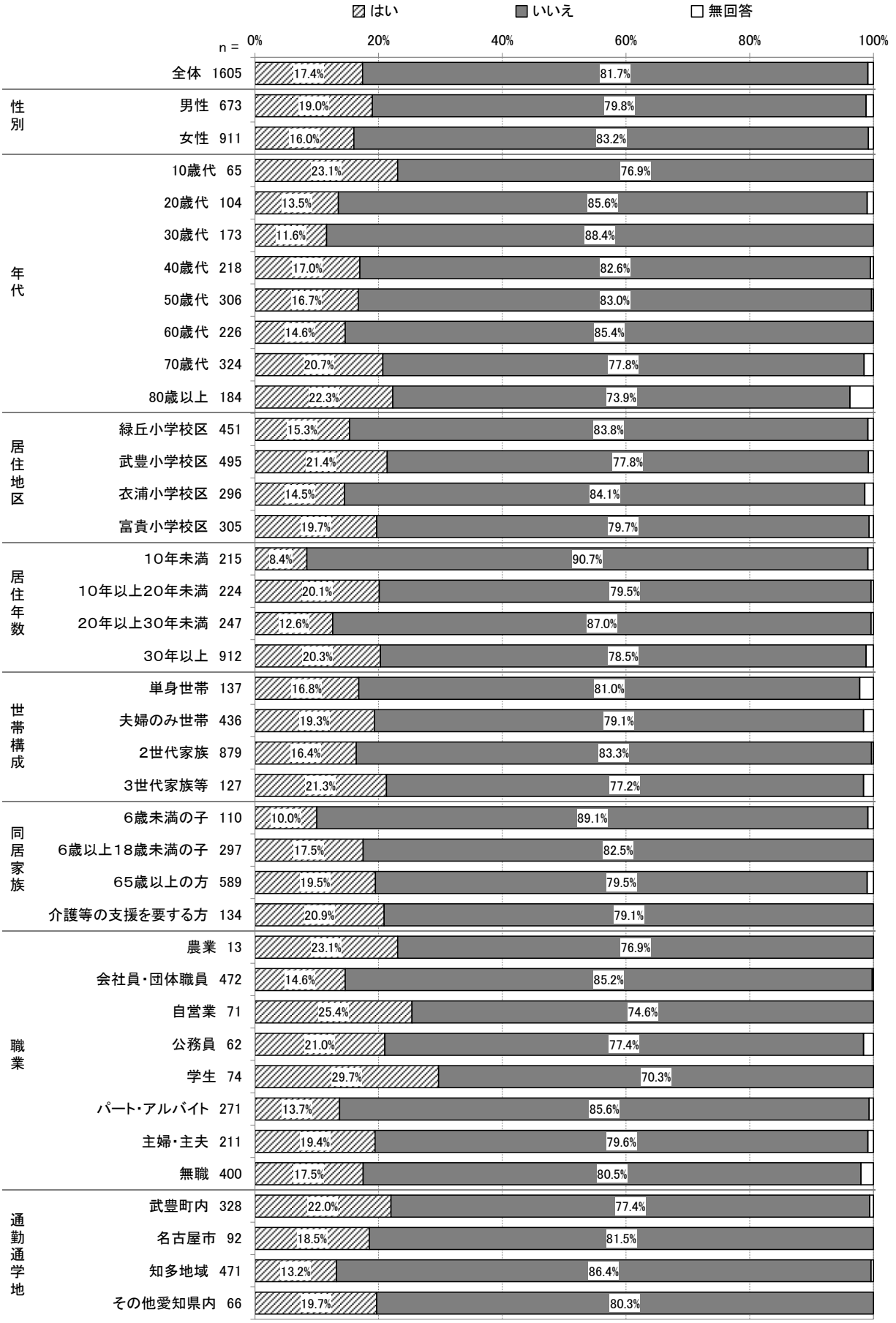
②他の世代の人や外国人と交流したり、ふれあうことはありますか？



図表 1-3-32　属性別、日常生活における行動・意識

まちづくりの目標８　多様な主体が連携・協働するまち［まちづくり・地域経営］

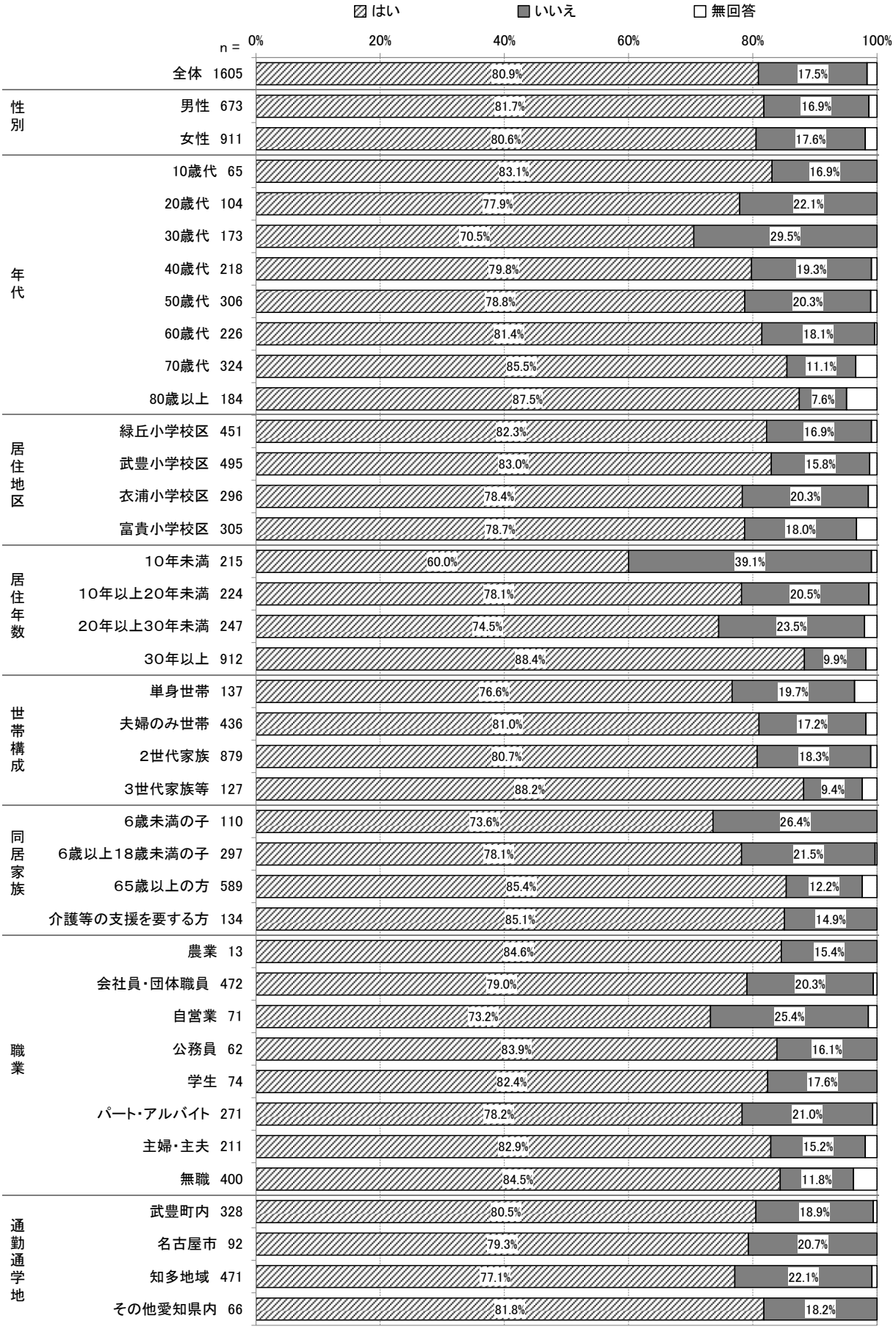
③最近１年間にボランティア活動（分野は問いません）に参加しましたか？



図表 1-3-33　属性別、日常生活における行動・意識

まちづくりの目標８　多様な主体が連携・協働するまち［まちづくり・地域経営］

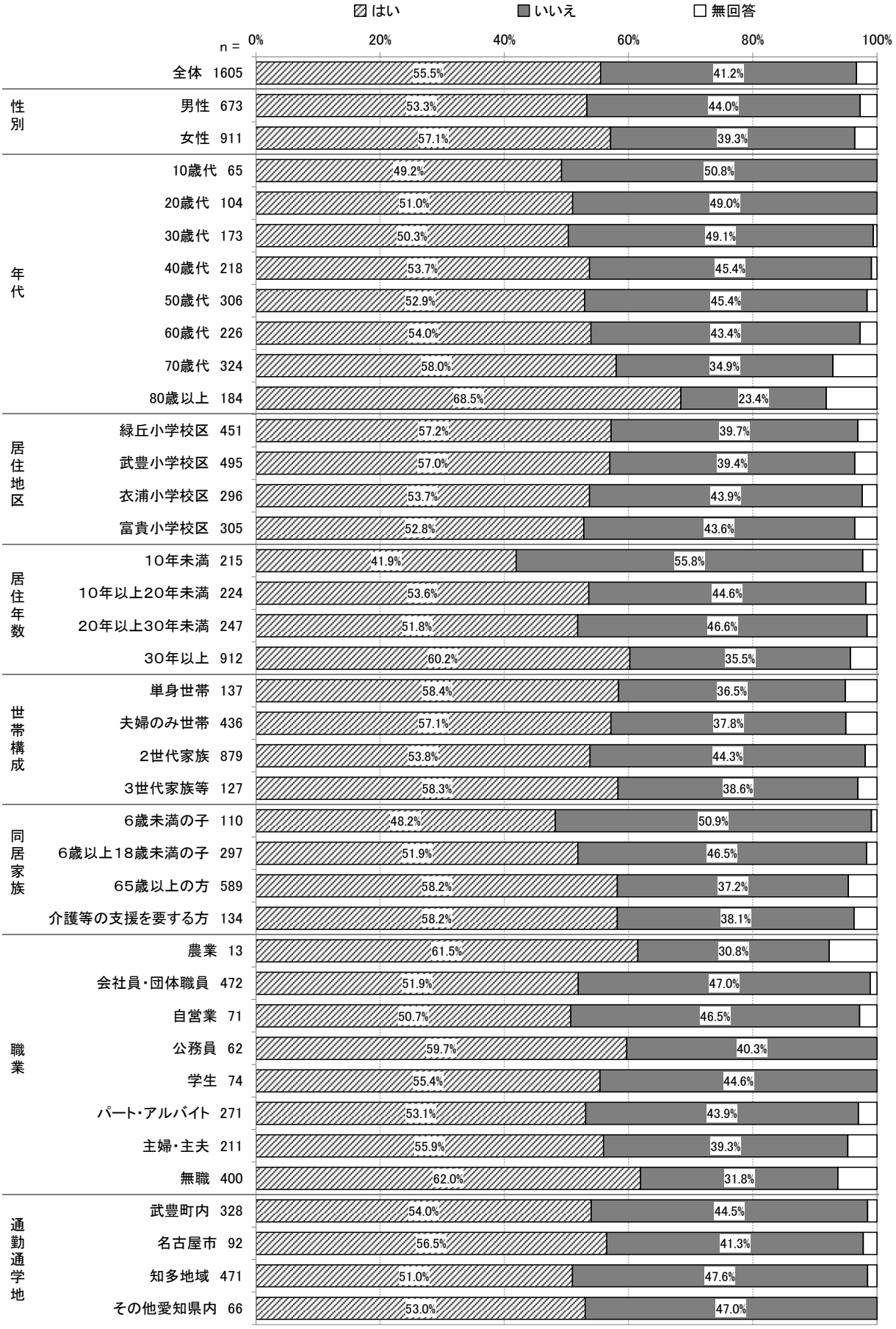
④武豊町に愛着がありますか？



図表 1-3-34　属性別、日常生活における行動・意識

まちづくりの目標８　多様な主体が連携・協働するまち［まちづくり・地域経営］

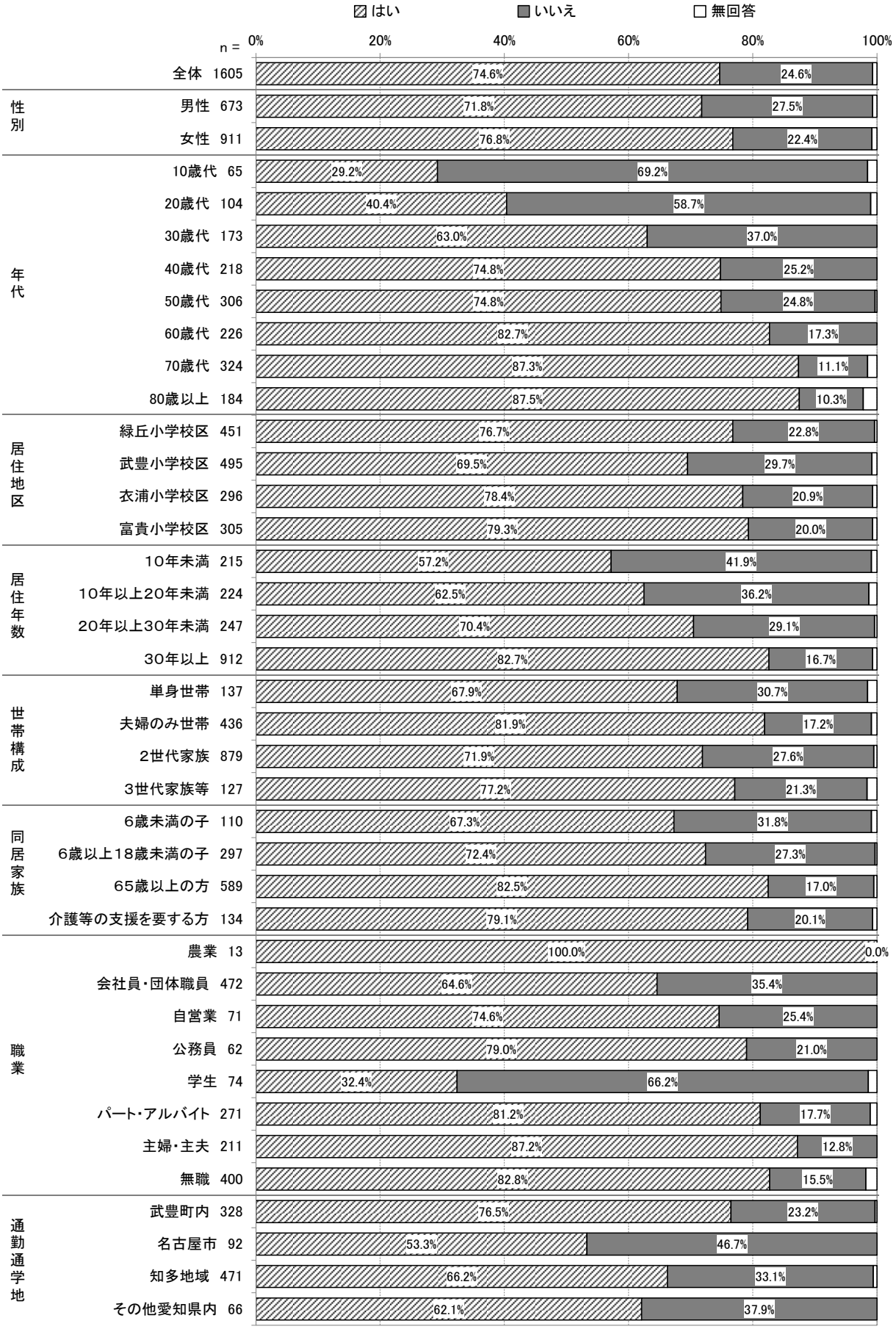
⑤地域に魅力や誇りを感じていますか？



図表 1-3-35　属性別、日常生活における行動・意識

まちづくりの目標９　効率的で効果的な行政運営のまち［行財政］

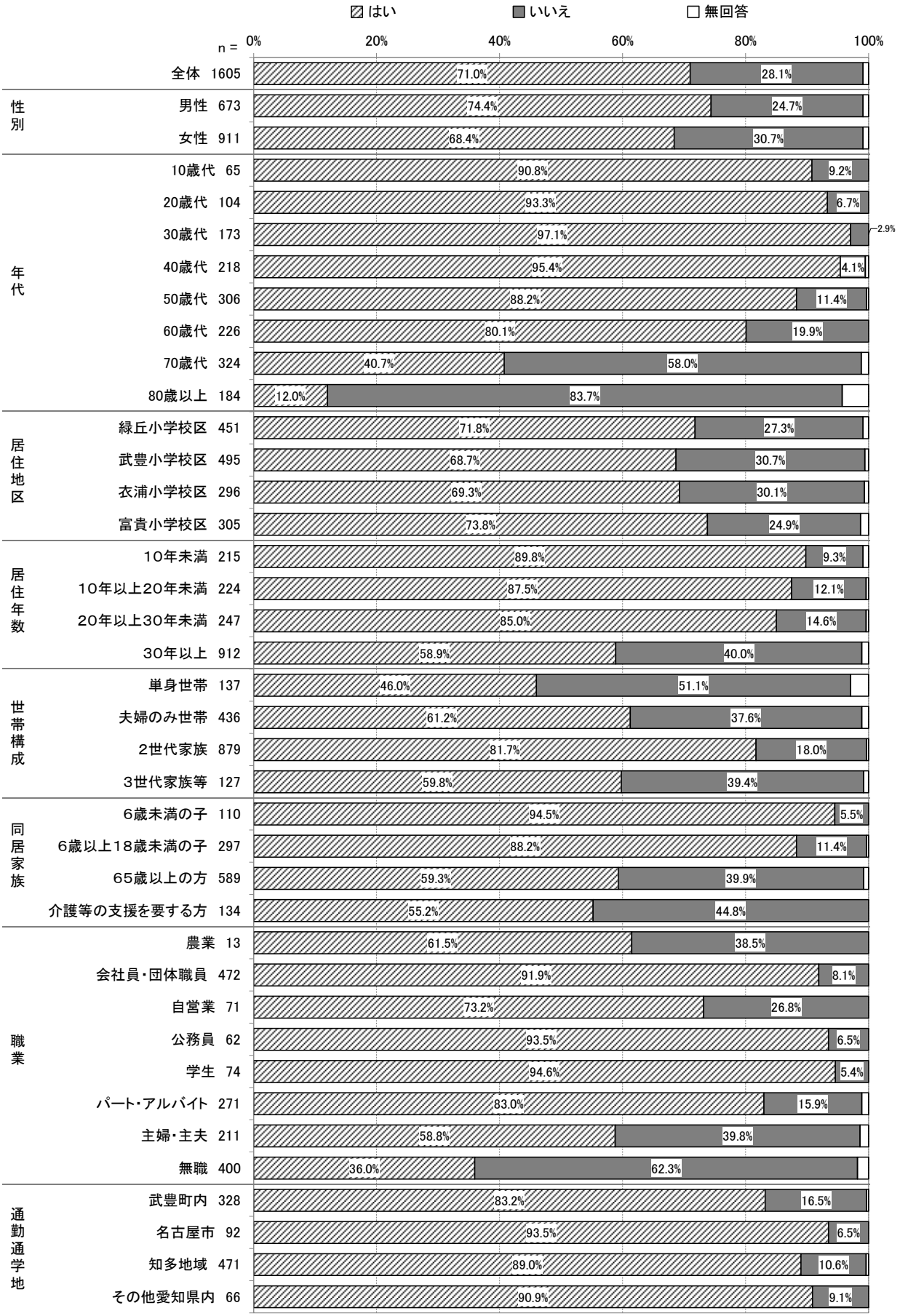
①“広報たけとよ”を見ていますか？



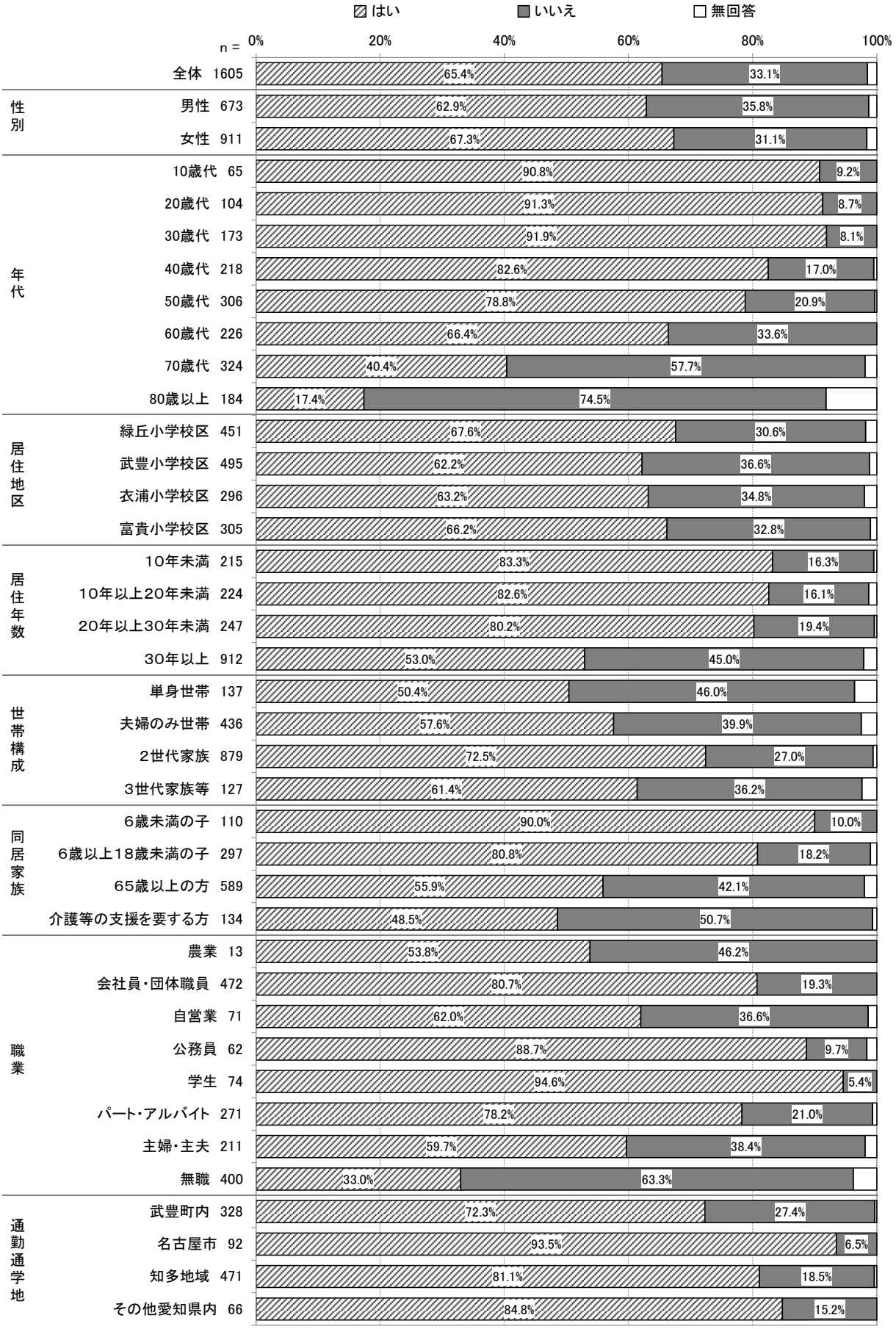
図表 1-3-36　属性別、日常生活における行動・意識

まちづくりの目標９　効率的で効果的な行政運営のまち［行財政］

②日常生活のなかでインターネットを利用していますか？



図表 1-3-37　属性別、日常生活における行動・意識
まちづくりの目標９　効率的で効果的な行政運営のまち［行財政］
③　日常生活のなかでＳＮＳを利用していますか？

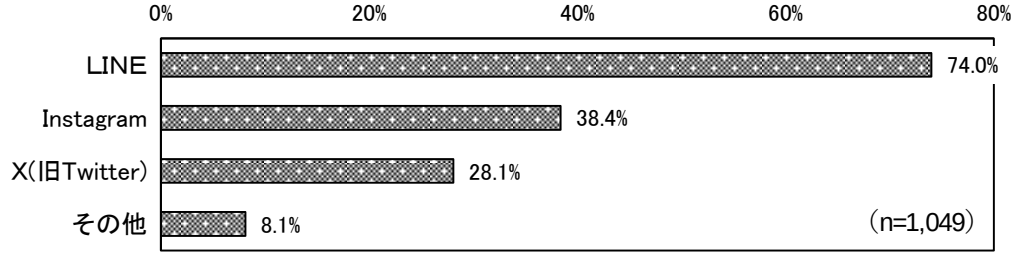


（2）利用しているＳＮＳツール

問４－１　まちづくりの目標９　効率的で効果的な行政運営のまち（行財政）
③　日常生活の中でＳＮＳを利用していますか？
※利用しているツールすべてに○印をつけてください。
（ＬＩＮＥ・Ｘ（旧 Twitter）・Instagram・他）

日常生活の中でＳＮＳを利用していますかとの問いに対して、「はい」と回答した 1,049 人を対象に、利用しているツールをたずねました。これによると、「ＬＩＮＥ」が 74.0%で最も高く、次いで、「Instagram」が 38.4%、「Ｘ（旧 Twitter)」が 28.1%、「その他」が 8.1%となっています。

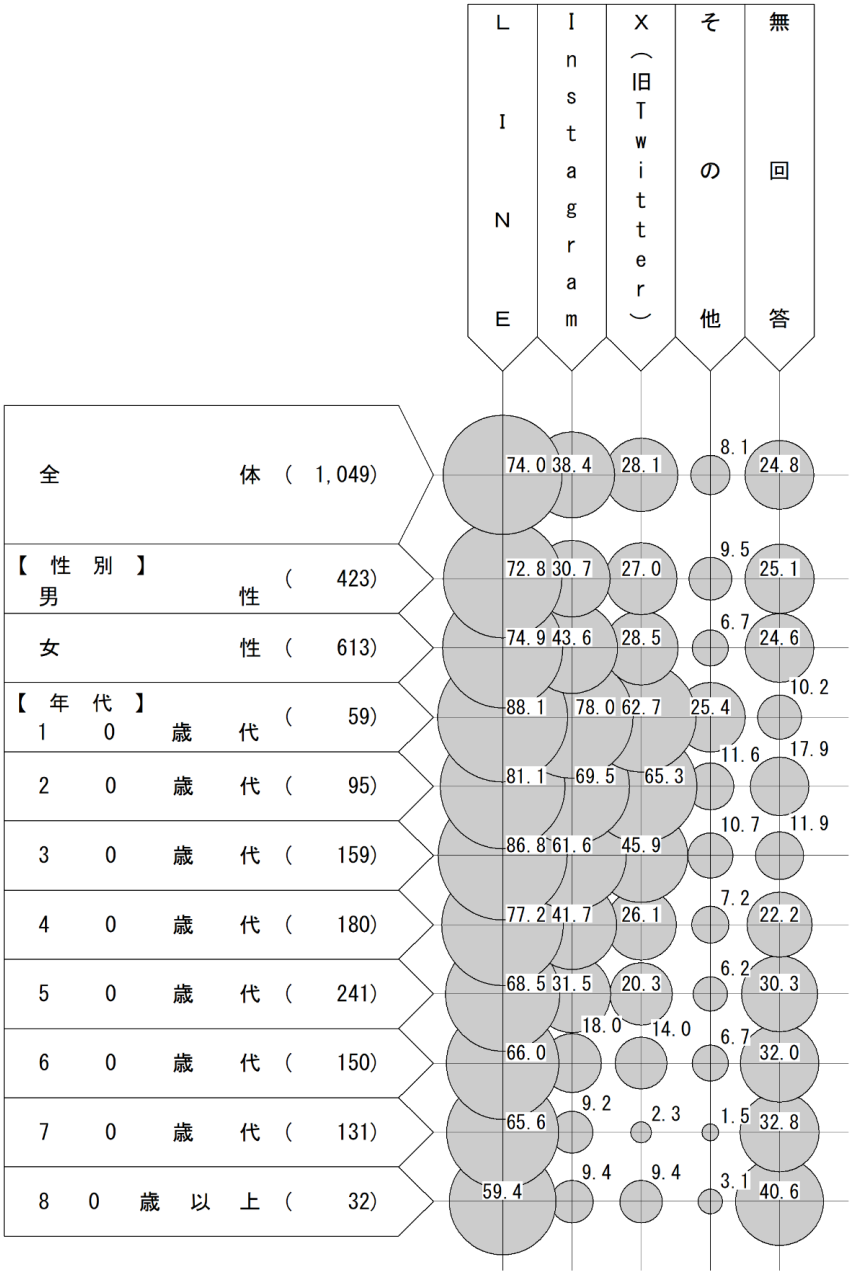
図表 1-3-38　利用しているツール　-複数回答（該当するものすべて）-



以下、性別、年代別に傾向をみていきます。

性別	○「ＬＩＮＥ」は男性が 72.8%、女性が 74.9%、「Ｘ（旧 Twitter)」は男性が 27.0%、女性が 28.5%となっており、ともに顕著な差はありません。 ○「Instagram」については、男性の 30.7%に対して、女性は 43.6%で、女性の方が 12.9 ポイント高くなっています。
年代	○「ＬＩＮＥ」については、10 歳代、20 歳代、30 歳代ではそれぞれ 88.1%、81.1%、86.8%といずれも８割を上回る高い割合を示しています。40 歳代では 77.2%、50 歳代では 68.5%、60 歳代では 66.0%、70 歳代では 65.6%、80 歳以上では 59.4%と、年齢が高くなるにつれて割合は低下していますが、80 歳以上でも６割近い割合となっています。 ○「Instagram」については、10 歳代が 78.1%、20 歳代が 69.5%、30 歳代が 61.6%で、これらの若い世代ではでは６割以上を示しています。その後、年齢が高くなるにつれて割合は低下しており、60 歳代では 18.0%、70 歳代では 9.2%、80 歳以上では 9.4%と少数となっています。 ○「Ｘ（旧 Twitter)」についても、10 歳代が 62.7%、20 歳代が 65.3%で、これら世代ではかなり高い割合で利用されています。30 歳代では 45.9%とやや低下し、その後、年齢が高くなるにつれて割合はさらに低下しており、60 歳代では 14.0%、70 歳代では 2.3%、80 歳以上では 9.4%と少数となっています。

図表 1-3-39　属性別、利用しているツール　-複数回答（該当するものすべて）-



１－４　幸福度

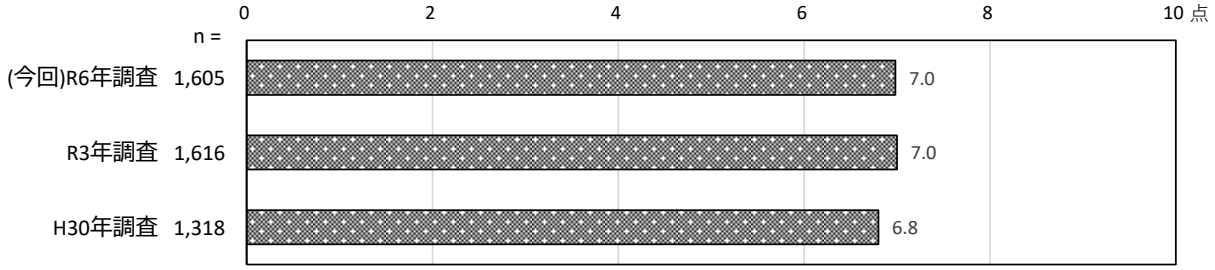
（１）現在の幸福度

問５　　現在あなたは、どの程度幸せですか。「とても幸せ」を 10 点、「とても不幸」を０点とすると、何点くらいになると思いますか。（あてはまる数字１つに○印）

10 点を満点として幸福度をたずねたところ、「８点」が 22.4%と最も高く、次いで「７点」の 20.4%、「５点」の 17.7%となりました。

平均点は 7.0 点で、令和３年調査と同水準となりました。

図表 1-4-1　現在の幸福度（過去調査との比較）

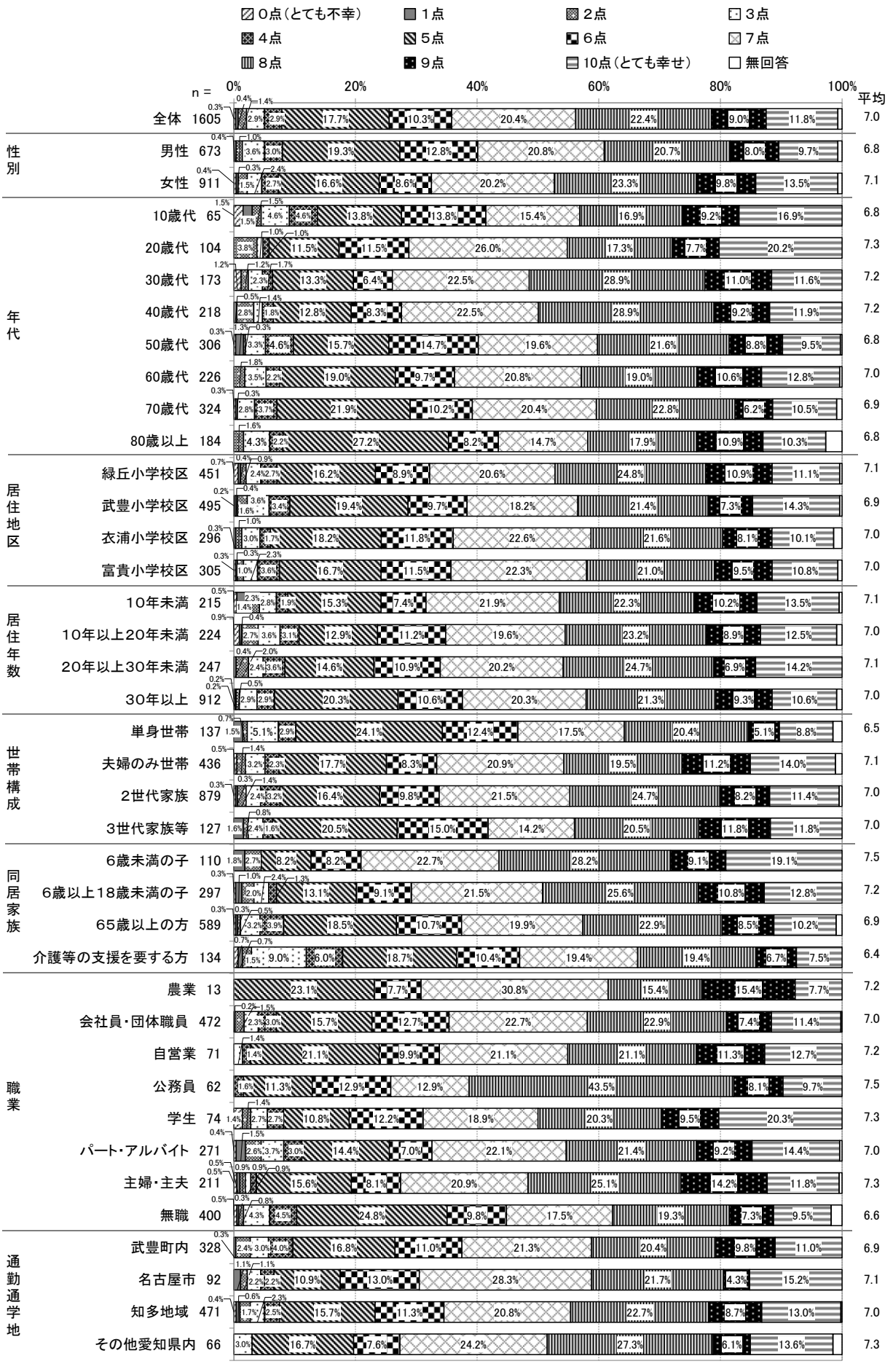


No.	幸福度（評点）	令和６年		令和３年	平成 30 年
		n	%	%	%
1	０点	5	0.3%	0.6%	0.4%
2	１点	7	0.4%	1.1%	0.4%
3	２点	22	1.4%	0.9%	1.3%
4	３点	46	2.9%	2.4%	3.3%
5	４点	46	2.9%	3.0%	4.8%
6	５点	284	17.7%	17.0%	20.7%
7	６点	165	10.3%	10.0%	9.7%
8	７点	327	20.4%	18.8%	18.3%
9	８点	359	22.4%	22.6%	20.8%
10	９点	144	9.0%	12.1%	9.4%
11	10 点	189	11.8%	10.5%	9.1%
無回答		11	0.7%	1.1%	1.9%
平均点		－	7.0 点	7.0 点	6.8 点
全体		1,605	100.0%	100.0%	100.0%

以下、回答者の属性別に傾向をみていきます。

性別	○男性は「７点」が、女性は「８点」が最も多くなっています。女性は「９点」と「10点」がそれぞれ 9.8%、13.5%で、男性よりも高くなっています。 ○平均点でみると男性は 6.8 点、女性は 7.1 点で、女性の方が高くなっています。
年代	○10 歳代では「８点」と「10 点」がともに 16.9%で最も多くなっていますが、「３点」、「４点」の割合が他の年代と比べて高く、平均点は 6.8 点にとどまっています。 ○20 歳代は「７点」が 26.0%と最も高く、次いで「10 点」の 20.2%となっています。 ○30 歳代、40 歳代では、「８点」の割合がともに 28.9%で特に高くなっています。 ○60 歳代では「５点」が 19.0%ですが、70 歳代、80 歳以上になるにつれて、21.9%、27.2%と高くなる傾向がみられます。 ○平均点でみると、20 歳代の 7.3 点が最も高く、次いで、30 歳代・40 歳代の 7.2 点となっています。低いのは 10 歳代と 80 歳以上の 6.8 点です。
居住地区	○武豊小学校区では、「８点」が 21.4%で最も高く、次いで、「５点」が 19.4%と高い割合を示しています。 ○衣浦小学校区では、「７点」が 22.6%で最も高く、次いで「８点」の 21.6%となっています。富貴小学校区でも「７点」が 22.3%で最も多く、次いで「８点」の 21.0%が多くなっています。 ○平均点でみると、緑丘小学校区の 7.1 点、富貴小学校区の 7.0 点、衣浦小学校区の 7.0 点、武豊小学校区の 6.9 点といった順になっています。
居住年数	○居住年数に関係なく「８点」が最も高く、次いで「７点」が高くなっています。 ○居住年数 10 年未満では、「９点（10.2%）」と「10 点（13.5%）」の割合が高く、その結果、平均点は 7.1 点とやや高くなっています。
世帯構成	○単身世帯では、「５点」が 24.1%で最も高く、「３点」も高くなっています。 ○平均点でみると、夫婦のみ世帯が 7.1 点、２世代家族が 7.0 点、３世代家族等が 7.0 点で、単身世帯は 6.5 点と低くなっています。
同居家族	○子どものいる世帯では高い点数を回答した割合が多くなっています。 ○平均点でみると、６歳未満の子がいる世帯は 7.5 点、６歳以上 18 歳未満の子がいる世帯では 7.2 点で、ともに高い点数となっています。子どもの存在が幸福度を高めている様子がうかがえます。 ○介護を要する方がいる世帯では、「５点」の 18.7%が高く、「３点」も 9.0%と高くなっています。平均点は 6.4 点でとりわけ低い点数となっています。
職業	○農業は「７点」が 30.8%で最も高く、次いで「５点」が 23.1%と高くなっています。 ○公務員は、「８点」が 43.5%と高く、平均点でも 7.5 点と高い値となっています。 ○学生は「10 点」が 20.3%と高く、また、主婦・主夫は「８点（25.1%）」と「７点（20.9%）」が高いことに加え、「10 点」もやや高くなっています。学生、主婦・主婦の平均点はともに公務員に次ぐ 7.3 点となっています。 ○職業別でもっとも低いのは無職の 6.6 点です。
通勤通学地	○武豊町内に通勤通学する者は、平均点が 6.9 点で、他と比べるとやや低くなっています。

図表 1-4-2　属性別、現在の幸福度



（２）５年前と比べた幸福感の変化

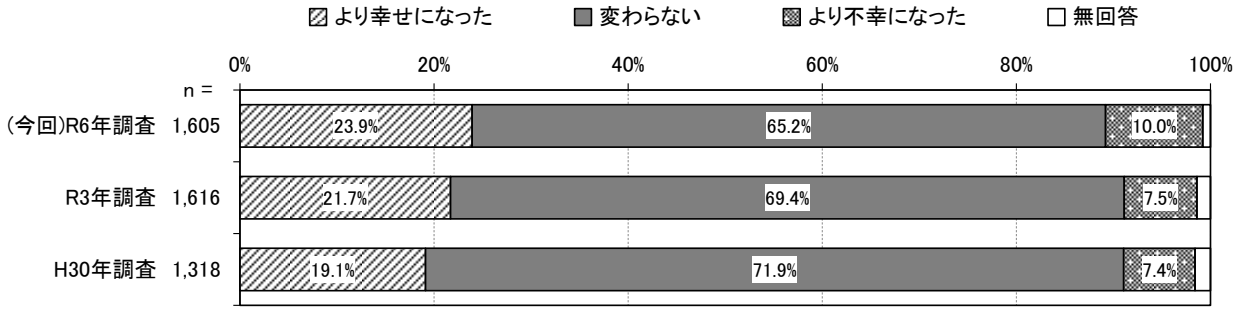
問６　５年前と比べて、あなたの幸福感に変化はありますか。（１つに○印）

「変わらない」が 65.2%で全体の約３分の２を占めています。「より幸せになった」は 23.9%、「より不幸になった」は 10.0%となっています。

過去調査と比較すると、「変わらない」は平成 30 年調査では 71.9%、令和３年調査では 69.4%で、やや減少傾向にあります。

一方、「より幸せになった」は平成 30 年調査から順に 19.1%、21.7%、23.9%と推移しており、増加傾向がみられます。また、「より不幸になった」は順に 7.4%、7.5%、10.0%と推移しており、こちらも増加傾向がみられます。

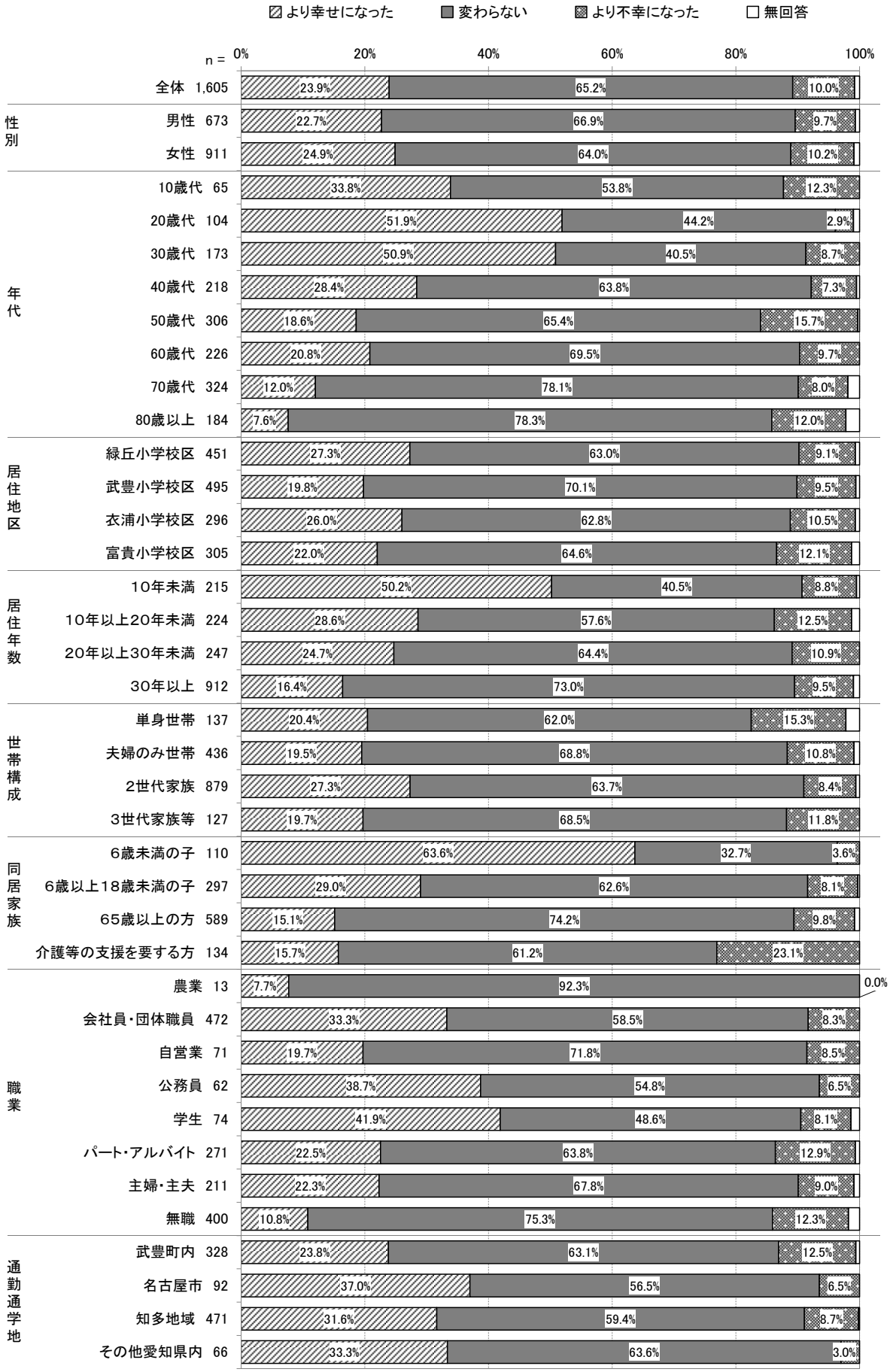
図表 1-4-3　５年前と比べた幸福感の変化（過去調査との比較）



以下、回答者の属性別に傾向をみていきます。

性別	○「より幸せになった」は男性の 22.7%に対して女性は 24.9%で、2.2 ポイント女性の方が高くなっています。
年代	○「より幸せになった」の割合が高いのは 20 歳代の 51.9%、30 歳代の 50.9%です。次いで、10 歳代の 33.8%、40 歳代の 28.4%が高くなっています。 ○40 歳代以降「より幸せになった」は低くなり、代わって「変わらない」が高くなる傾向があります。
居住地区	○「より幸せになった」の割合を高い順にみていくと、緑丘小学校区の 27.3%、衣浦小学校区の 26.0%、富貴小学校区の 22.0%、武豊小学校区の 19.8%となっています。
居住年数	○居住年数 10 年未満では、「より幸せになった」が 50.2%と特に高くなっています。
世帯構成	○単身世帯、夫婦のみ世帯よりも２世代家族の方が、「より幸せになった」の割合が高くなっています。
同居家族	○６歳未満の子がいる世帯では、「より幸せになった」が 63.6%と特に高い割合を示しています。 ○６歳以上 18 歳未満の子がいる世帯でも、「より幸せになった」は 29.0%で、全体の 23.9%よりも 5.1 ポイント高くなっています。
職業	○会社員・団体職員、公務員、学生では、「より幸せになった」が３割を超えており、他と比べて高い値となっています。
通勤 通学地	○「より幸福になった」の割合は、名古屋市に通勤通学する者が 37.0%で最も高くなっています。

図表 1-4-4　属性別、５年前と比べた幸福感の変化



（3）幸福感を判断する際に重視した事項

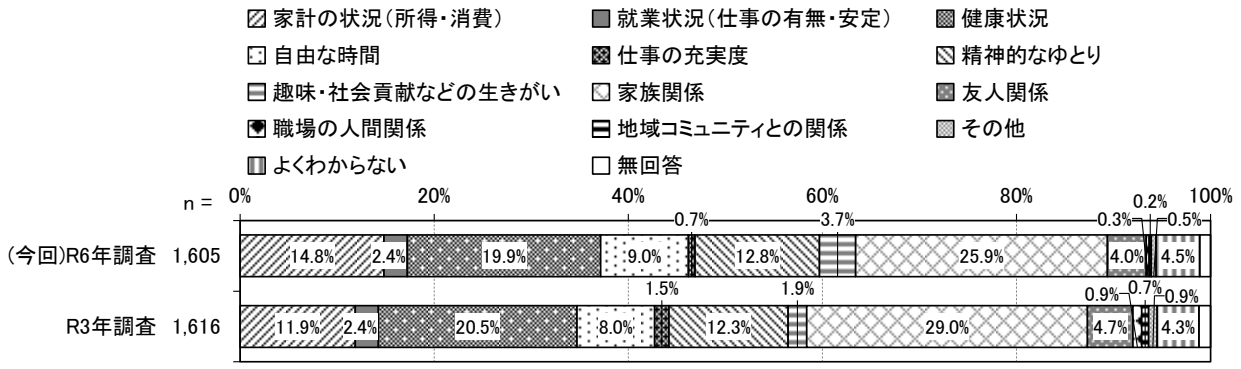
問7　問5･6で、幸福感を判断する際に最も重視した事項は何ですか。（1つに○印）

幸福感を判断する際に重視した事項としては、「家族関係」が最も多く 25.9%で、「健康状況」の 19.9%がそれに続いています。さらに、「家計の状況（所得・消費）」の 14.8%、「精神的なゆとり」の 12.8%が続いています。

これら上位４つが幸福感を判断する際に重視した主な事項としてあげられます。

令和３年調査と比較すると、「家族関係」は 3.1 ポイント低下したのに対して、「家計の状況（所得・消費）」は 2.9 ポイント上昇しています。

図表 1-4-5　幸福感を判断する際に重視した事項



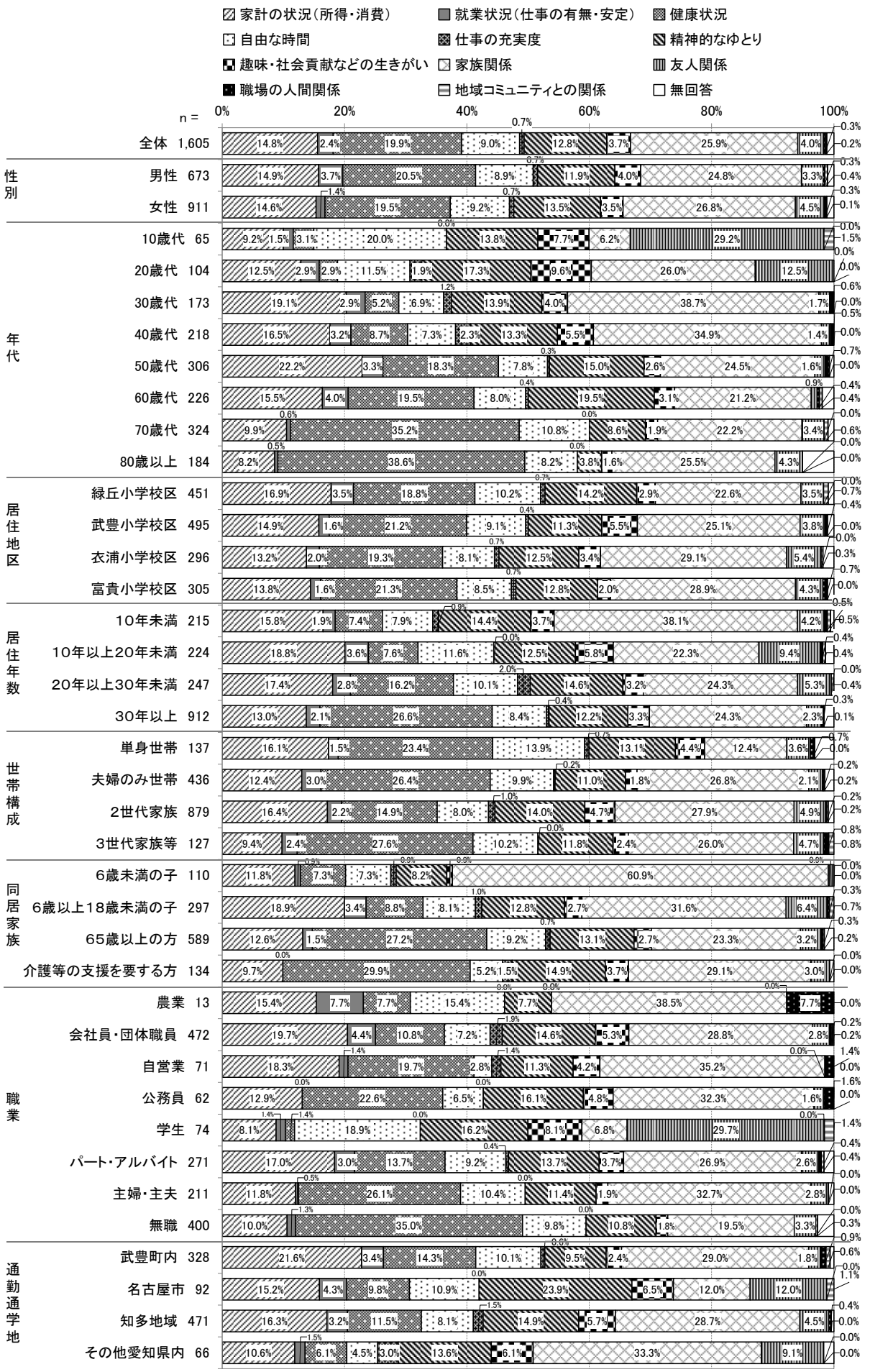
※平成 30 年調査では複数回答であったため比較はなし

以下、回答者の属性別に傾向をみていきます。

性別	○男性、女性とも「家族関係」、「健康状況」、「家計の状況（所得・消費）」、「精神的なゆとり」の順に高くなっています。 ○「健康状況」と「家計の状況（所得・消費）」は女性よりも男性の方が高く、「家族関係」、「精神的なゆとり」は女性の方が高くなっています。
年代	○10 歳代では「友人関係」が 29.2%で、とりわけ大きな割合を占めています。 ○20 歳代では「家族関係」が 26.0%で最も高く、次いで２番目が「精神的なゆとり」で 17.3%、３番目は「家計の状況（所得・消費）」と「友人関係」がともに 12.5%となっています。 ○30 歳代と 40 歳代では「家族関係」がそれぞれ 38.7%、34.9%と３割以上の大きな割合を占めています。 ○50 歳代では、「家族関係」が 24.5%で最も高くなっていますが、次いで、「家計の状況（所得・消費）」が 22.2%と高い割合を占めています。 ○60 歳代以上になると「健康状況」が 19.5%とやや高くなり、70 歳代、80 歳以上になると、「健康状況」がそれぞれ 35.2%、38.6%と最も高くなっています。
居住地区	○いずれの居住地区でも「家族関係」が１番目に、「健康状況」が２番目に、「家計の状況（所得・消費）」が３番目に高くなっています。
居住年数	○居住年数 10 年未満では、「家族関係」が 38.1%と４割近くを占めています。 ○居住年数 30 年以上では、「健康状況」が最も多く 26.6%となっています。

世帯構成	○単身世帯では、「健康状況」が最も多く 23.4%となっています。 ○夫婦のみ世帯、２世代家族では「家族関係」がそれぞれ 26.8%、27.9%で最も高くなっています。 ○３世代家族等では、「健康状況」が 27.6%、「家族関係」が 26.0%で両者が拮抗しています。
同居家族	○６歳未満の子がいる世帯では、「家族関係」が 60.9%と特に高い割合を占めています。６歳以上 18 歳未満の子がいる世帯でも「家族関係」は 31.6%と高くなっています。 ○65 歳以上の方がいる世帯、介護を要する方がいる世帯では、「健康状況」が最も高く、それぞれ 27.2%、29.9%となっています。
職業	○農業、自営業、公務員、主婦・主夫では「家族関係」がいずれも 30%台を上回っています。 ○学生では「友人関係」が 29.7%で最も多く、全体の 4.0%を 25.7 ポイントも上回っています。 ○無職では、「健康状況」が 35.0%で、全体の 19.9%を 15.1 ポイント上回っています。
通勤 通学地	○武豊町内に通勤通学する者は「家計の状況（所得・消費）」が 21.6%で高くなっています。 ○名古屋市に通勤通学する者は、「精神的なゆとり」が 23.9%で高くなっています。

図表 1-4-6　属性別、幸福感を判断する際に重視した事項



１－５　武豊町のまちづくりに関する評価

（１）満足度

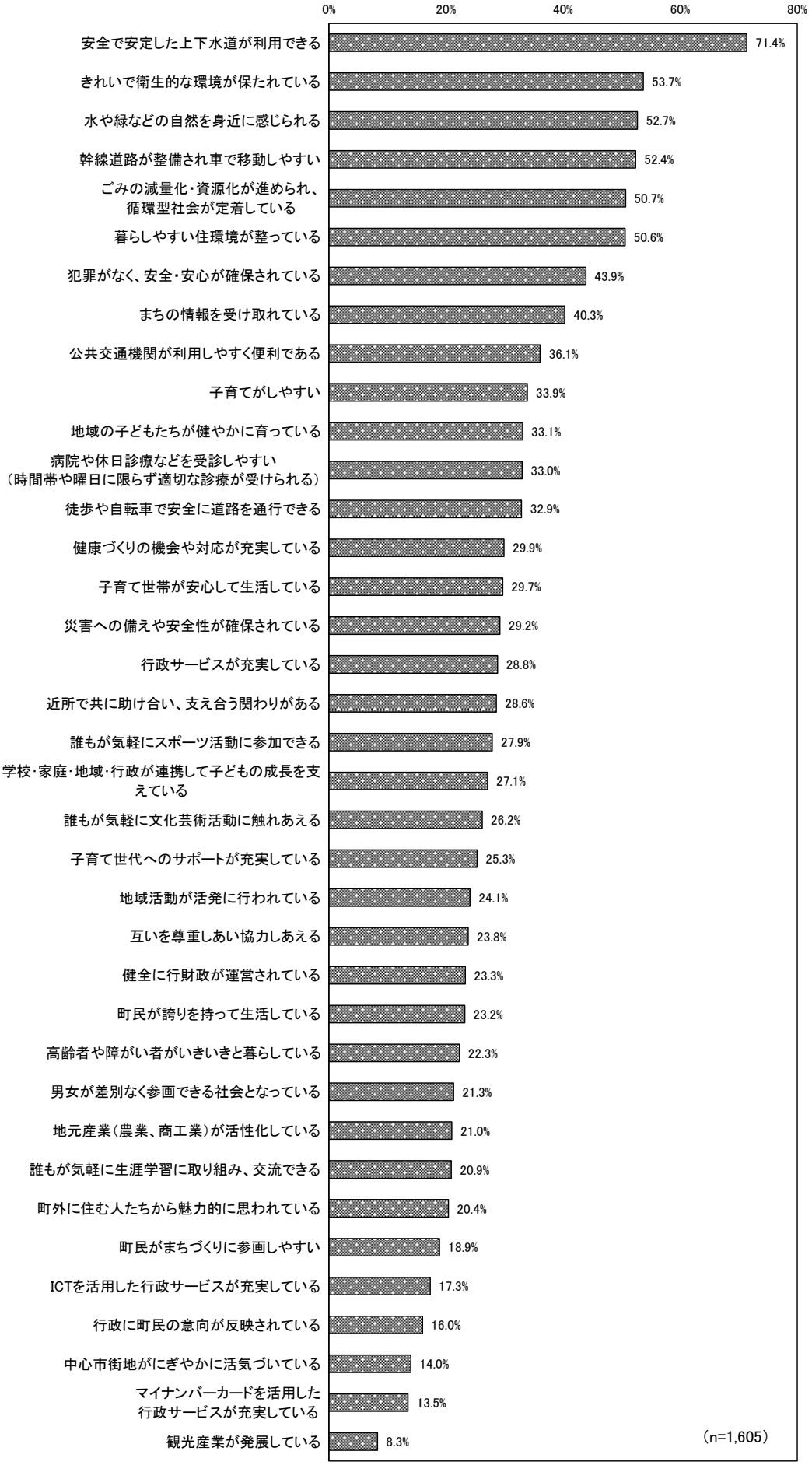
問８　　第６次総合計画で進めている下記の取組について、あなたはどの程度満足していますか。また、どの程度重要であるとお考えですか。回答例にならって、お考えに最も近い番号を１つずつ選んで○印をつけてください。

第６次総合計画で進めている 37 項目の取組について、「満足」、「やや満足」、「どちらともいえない」、「やや不満」、「不満」「わからない」の６区分で満足度の評価について回答を求めました。

ここでは、「満足」または「やや満足」に回答した割合を『満足度』としています。その評価が高い項目を順にみていくと、「安全で安定した上下水道が利用できる」が 71.4%で最も高くなっています。さらに、「きれいで衛生的な環境が保たれている」の 53.7%、「水や緑などの自然を身近に感じられる」の 52.7%、「幹線道路が整備され車で移動しやすい」の 52.4%、「ごみの減量化・資源化が進められ、循環型社会が定着している」の 50.7%、「暮らしやすい住環境が整っている」の 50.6%が続いており、以上 5 項目は 50%台を示しました。

逆に、評価の低い項目をみていくと、「観光産業が発展している」が 8.3%、「マイナンバーカードを活用した行政サービスが充実している」が 13.5%、「中心市街地がにぎやかに活気づいている」は 14.0%でした。

図表 1-5-1　満足度　（「満足」＋「やや満足」の割合）



（2）重要度

問８　第６次総合計画で進めている下記の取組について、あなたはどの程度満足していますか。また、どの程度重要であるとお考えですか。回答例にならって、お考えに最も近い番号を１つずつ選んで○印をつけてください。

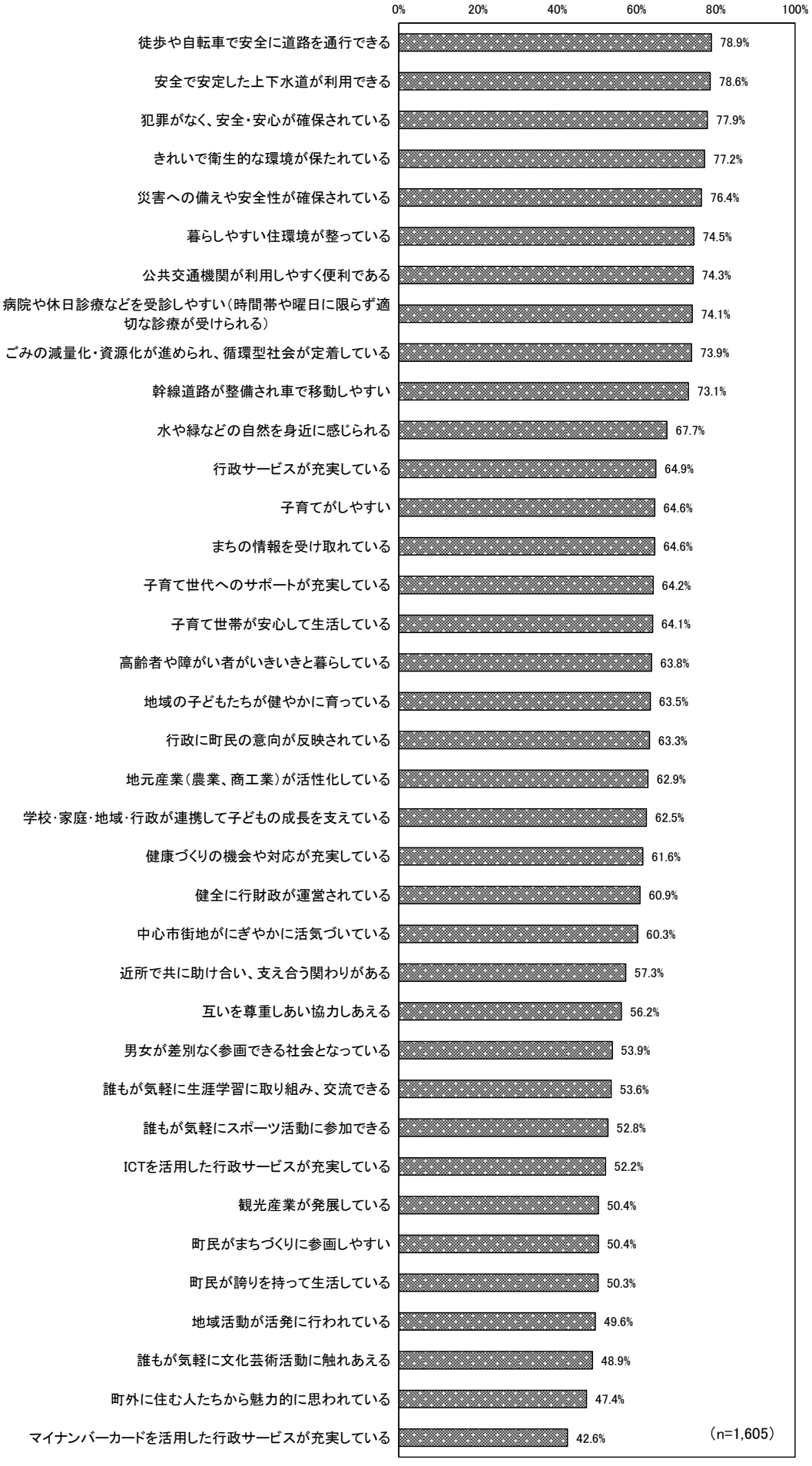
第６次総合計画で進めている 37 項目の取組について、「重要と思う」、「どちらかといえば重要と思う」、「どちらともいえない」、「どちらかと言えば重要とは思わない」、「重要とは思わない」「わからない」の６区分で重要度の評価を求めました。

ここでは、「重要と思う」または「どちらかといえば重要と思う」に回答した割合を『重要度』としています。その評価が高い項目を順にみていくと、「徒歩や自転車で安全に道路を通行できる」の 78.9%、「安全で安定した上下水道が利用できる」の 78.6%、「犯罪がなく、安全・安心が確保されている」の 77.9%が上位３項目となっています。

さらに、「きれいで衛生的な環境が保たれている」の 77.2%、「災害への備えや安全性が確保されている」の 76.4%、「暮らしやすい住環境が整っている」の 74.5%などが上位になりました。

逆に、評価の低い項目をみていくと、「マイナンバーカードを活用した行政サービスが充実している」が 42.6%、「町外に住む人たちから魅力的に思われている」が 47.4%、「誰もが気軽に文化芸術活動に触れ合える」が 48.9%、「地域活動が活発に行われている」が 49.6%となっており、以上の４項目は 50%以下となっています。

図表 1-5-2　重要度　（「重要と思う」＋「どちらかといえば重要と思う」の割合）



（3）満足度指数と重要度指数

問8　第６次総合計画で進めている下記の取組について、あなたはどの程度満足していますか。また、どの程度重要であるとお考えですか。回答例にならって、お考えに最も近い番号を１つずつ選んで○印をつけてください。

満足度と重要度の関係をみるために、次の表に示した算出式により施策項目ごとの回答者の評価を「満足度指数」及び「重要度指数」として設定しました。

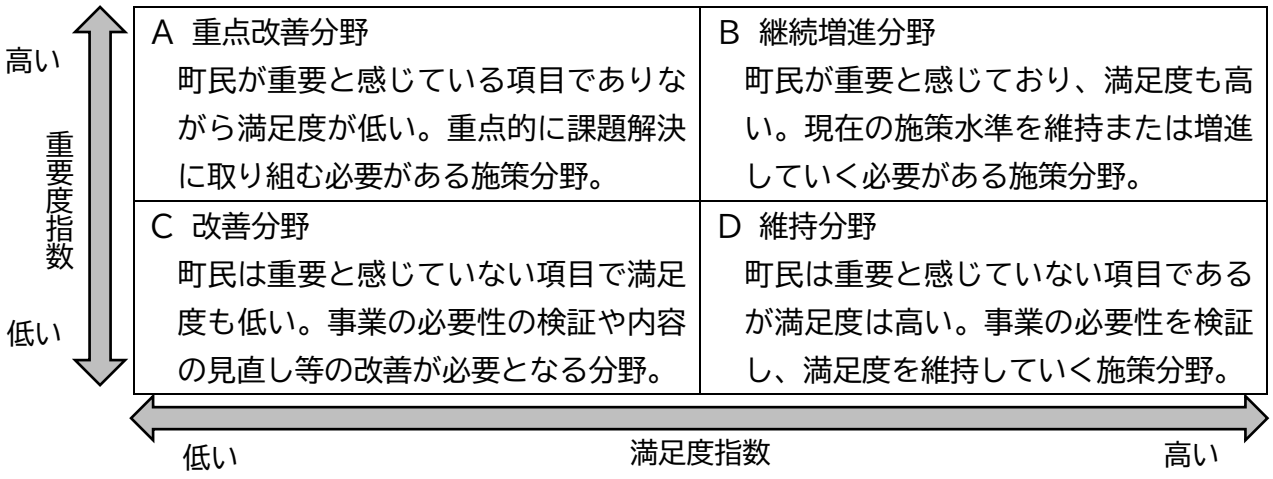
図表 1-5-3　満足度指数と重要度指数の算出方法

評価区分		点数	算出式
満足度	重要度		
満足	重要と思う	+100	$M_i=(A_{i5}\times100+A_{i4}\times50-A_{i2}\times50-A_{i1}\times100)/A_i$ M_i：施策ｉの満足度指数または重要度指数 A_i：施策ｉの回答者数（「わからない」「無回答」除く） A_{i5}：施策ｉを「満足」または「重要と思う」と評価した回答者数 A_{i4}：施策ｉを「やや満足」または「どちらかといえば重要と思う」と評価した回答者数 A_{i2}：施策ｉを「やや不満」または「どちらかといえば重要とは思わない」と評価した回答者数 A_{i1}：施策ｉを「不満」または「重要とは思わない」と評価した回答者数
やや満足	どちらかといえば重要と思う	+50	
どちらともいえない	どちらともいえない	0	
やや不満	どちらかといえば重要とは思わない	−50	
不満	重要とは思わない	−100	

※ある施策の満足度・重要度評価に対して、
・全員が「満足」または「重要と思う」と回答した場合、満足度指数・重要度指数は 100 となります。
・半分が「やや満足」、半分が「やや不満」と回答した場合、また、半数が「どちらかといえば重要と思う」、半分が「どちらかといえば重要とは思わない」と回答した場合、満足度指数・達成度指数は 0 となります。
・満足度指数は、施策に対する満足度が最大のとき 100 となり、最小のとき-100 となります。また、満足と不満の評価が等しいときに 0 となります。重要度も同様です。

満足度指数を横軸、重要度指数を縦軸とするグラフ上に施策項目ごとの指数をプロットしたものが図 1-5-6 の散布図です。全施策項目の満足度指数の平均値は 14.74、重要度指数の平均値は 55.32 となります。この平均値を基準に区分される４つの領域のどこに位置しているかで各々の施策項目は次のように評価されます。

図表 1-5-4　満足度指数と重要度指数からみた施策評価の考え方



重要度指数が高いにもかかわらず満足度指数が低い「重点改善分野」に該当する施策項目としては、以下の７つの施策が該当しています。

4. 公共交通機関が利用しやすく便利である
15. 病院や休日診療などを受診しやすい
（時間帯や曜日に限らず適切な診療が受けられる）
17. 高齢者や障がい者がいきいきと暮らしている
18. 災害への備えや安全性が確保されている
20. 徒歩や自転車で安全に道路を通行できる
32. 行政に町民の意向が反映されている
34. 行政サービスが充実している

令和３年調査でも「４：公共交通機関が利用しやすく便利である」、「15：病院や休日診療などを受診しやすい」、「20：徒歩や自転車で安全に道路を通行できる」、「32：行政に町民の意向が反映されている」、「34：行政サービスが充実している」、「37：健全に行財政が運営されている」の６項目が「重点改善分野」になっていました。今回調査では「37：健全に行財政が運営されている」がはずれる一方で、新たに「17：高齢者や障がい者がいきいきと暮らしている」と「18：災害への備えや安全性が確保されている」が追加され、合計で７項目になってます。

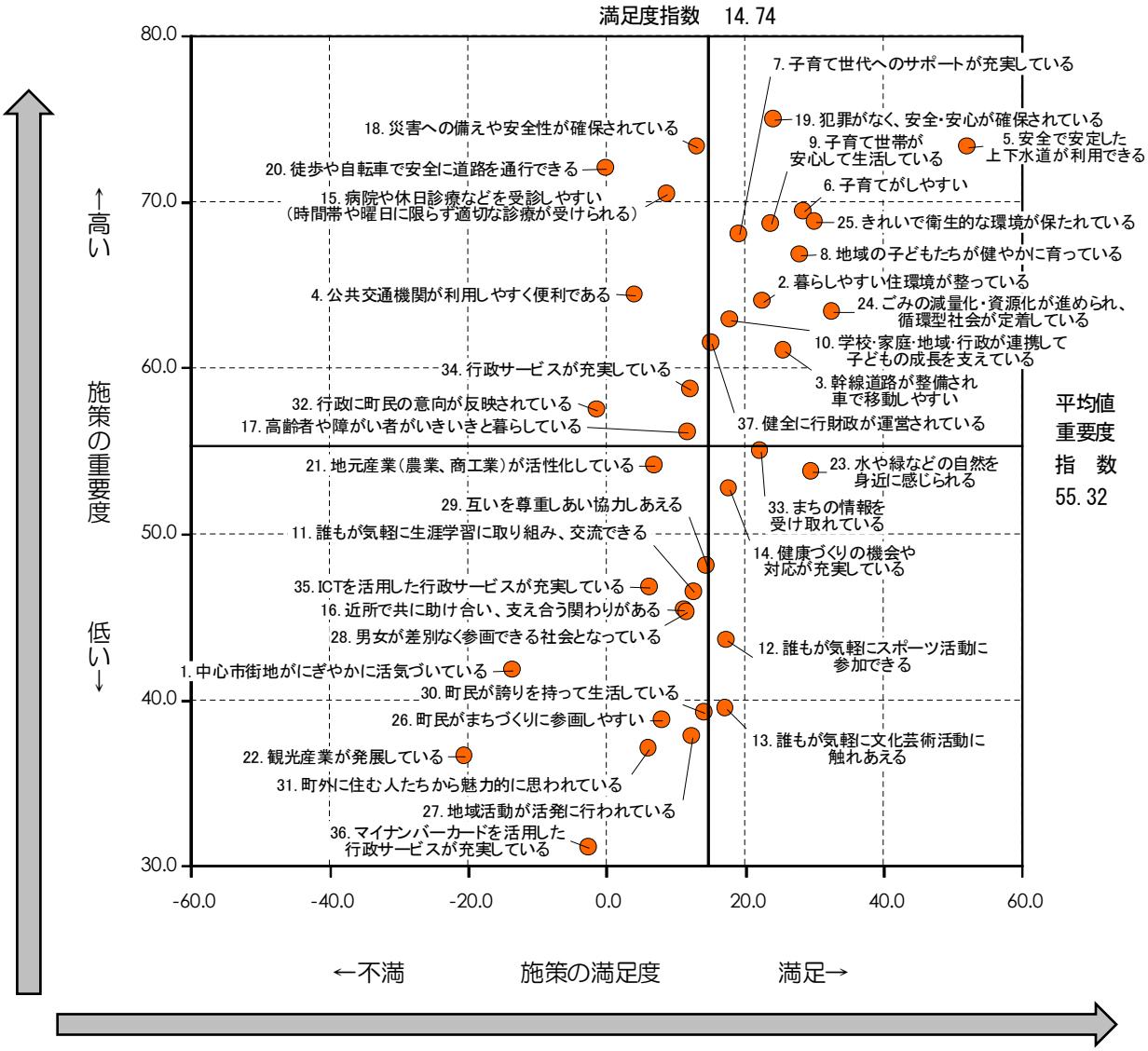
なお、全施策項目の満足度指数の平均値は、平成 30 年調査では 7.8（22 項目）、令和３年調査では 13.42（34 項目）、今回調査では 14.74（37 項目）でした。全体的な施策の満足度は高くなっています。

同様に、全施策項目の重要度指数の平均値は、平成 30 年調査では 53.8（22 項目）、令和３年調査では 54.13（34 項目）、今回調査では 55.32（37 項目）でした。全体的な施策の重要度も高くなっています。

図表 1-5-5　満足度指数と重要度指数（過去調査との比較）

区　分＼調査年	令和６年	令和３年	平成 30 年
満足度指数 平均値	14.74（37 項目）	13.42（34 項目）	7.8（22 項目）
重要度指数 平均値	55.32（37 項目）	54.13（34 項目）	53.8（22 項目）

図表 1-5-6　満足度指数と重要度指数　散布図



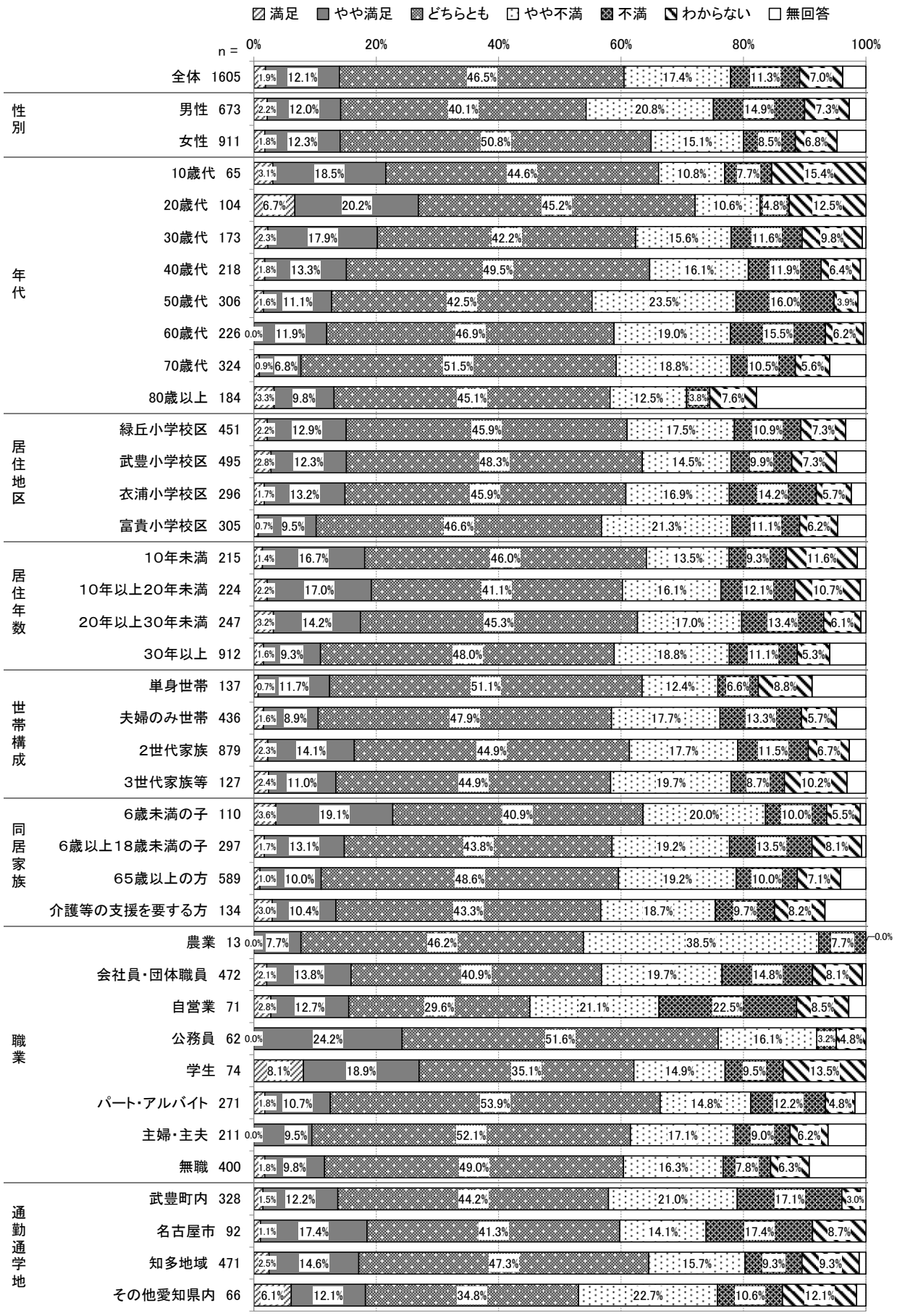
基本目標	No	施策項目	満足度指数	重要度指数
分野1 都市環境	1	中心市街地がにぎやかに活気づいている	-13.44	41.73
	2	暮らしやすい住環境が整っている	22.66	63.94
	3	幹線道路が整備され車で移動しやすい	25.78	61.02
	4	公共交通機関が利用しやすく便利である	4.28	64.35
	5	安全で安定した上下水道が利用できる	52.34	73.26
分野2 子ども	6	子育てがしやすい	28.59	69.38
	7	子育て世代へのサポートが充実している	19.31	67.98
	8	地域の子どもたちが健やかに育っている	28.12	66.75
	9	子育て世帯が安心して生活している	23.88	68.61
分野3 学び	10	学校･家庭･地域･行政が連携して子どもの成長を支えている	18.03	62.82
	11	誰もが気軽に生涯学習に取り組み、交流できる	12.79	46.47
	12	誰もが気軽にスポーツ活動に参加できる	17.49	43.53
	13	誰もが気軽に文化芸術活動に触れあえる	17.41	39.47
分野4 健康・福祉	14	健康づくりの機会や対応が充実している	17.94	52.65
	15	病院や休日診療などを受診しやすい（時間帯や曜日に限らず適切な診療が受けられる）	8.95	70.40
	16	近所で共に助け合い、支え合う関わりがある	11.44	45.37
	17	高齢者や障がい者がいきいきと暮らしている	11.92	56.09
分野5 安全・安心	18	災害への備えや安全性が確保されている	13.34	73.24
	19	犯罪がなく、安全・安心が確保されている	24.28	74.91
	20	徒歩や自転車で安全に道路を通行できる	0.10	71.95
分野6 産業・交流	21	地元産業（農業、商工業）が活性化している	7.06	54.10
	22	観光産業が発展している	-20.28	36.57
分野7 環境	23	水や緑などの自然を身近に感じられる	29.76	53.71
	24	ごみの減量化・資源化が進められ、循環型社会が定着している	32.85	63.34
	25	きれいで衛生的な環境が保たれている	30.26	68.77
分野8 まちづくり ・地域経営	26	町民がまちづくりに参画しやすい	8.20	38.75
	27	地域活動が活発に行われている	12.52	37.76
	28	男女が差別なく参画できる社会となっている	11.82	45.26
	29	互いを尊重しあい協力しあえる	14.62	48.06
	30	町民が誇りを持って生活している	14.34	39.20
	31	町外に住む人たちから魅力的に思われている	6.31	37.06
分野9 行財政	32	行政に町民の意向が反映されている	-1.19	57.40
	33	まちの情報を受け取れている	22.36	54.96
	34	行政サービスが充実している	12.26	58.66
	35	デジタル器機や ICT を活用した行政サービスが充実している	6.44	46.76
	36	マイナンバーカードを活用した行政サービスが充実している	-2.41	31.10
	37	健全に行財政が運営されている	15.33	61.45
平均値			14.74	55.32

図表 1-5-7～43 に属性別満足度の結果を、図表 1-5-44～80 に属性別重要度の結果をグラフに示します。

【満足度】

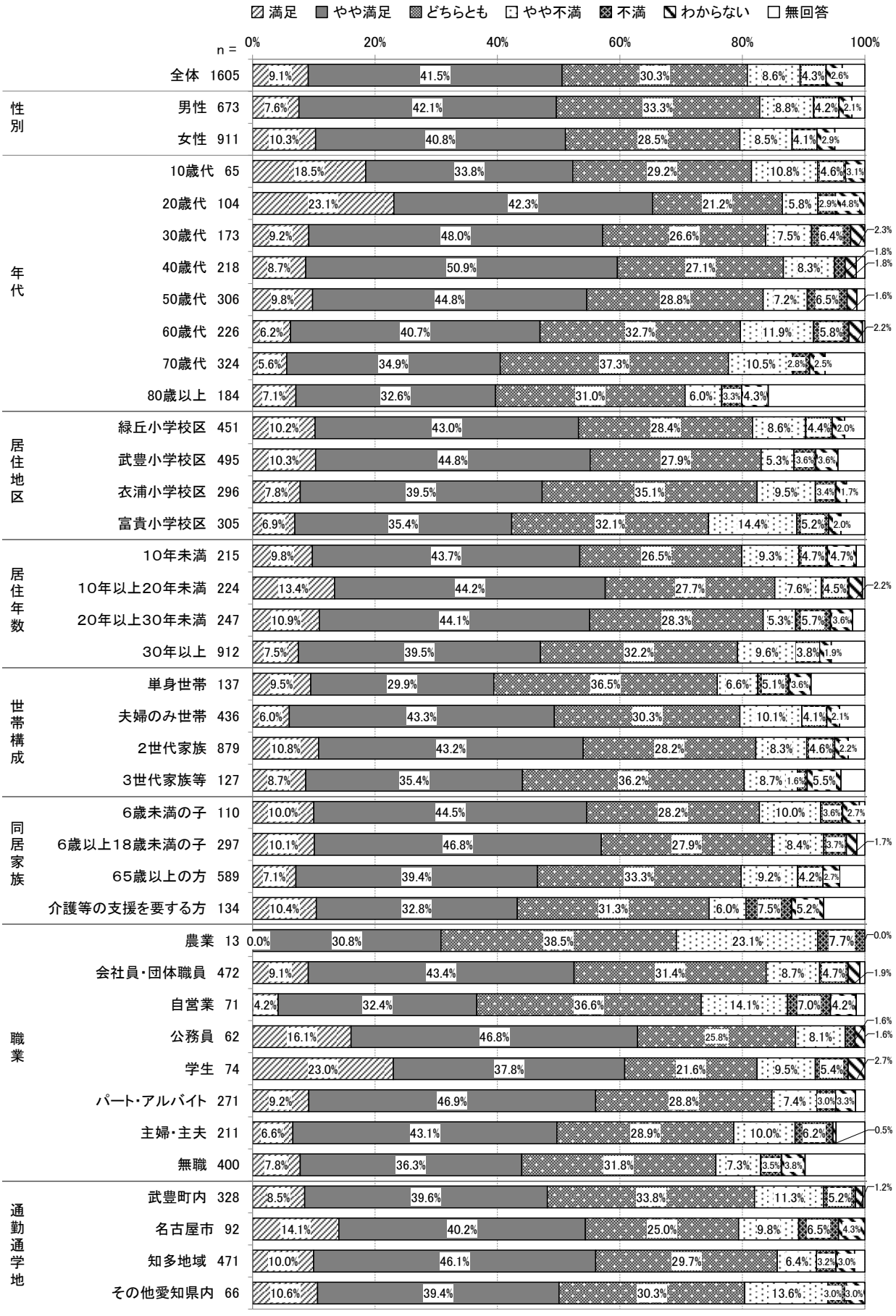
図表 1-5-7　属性別、満足度

分野１　都市環境　　1.中心市街地がにぎやかに活気づいている



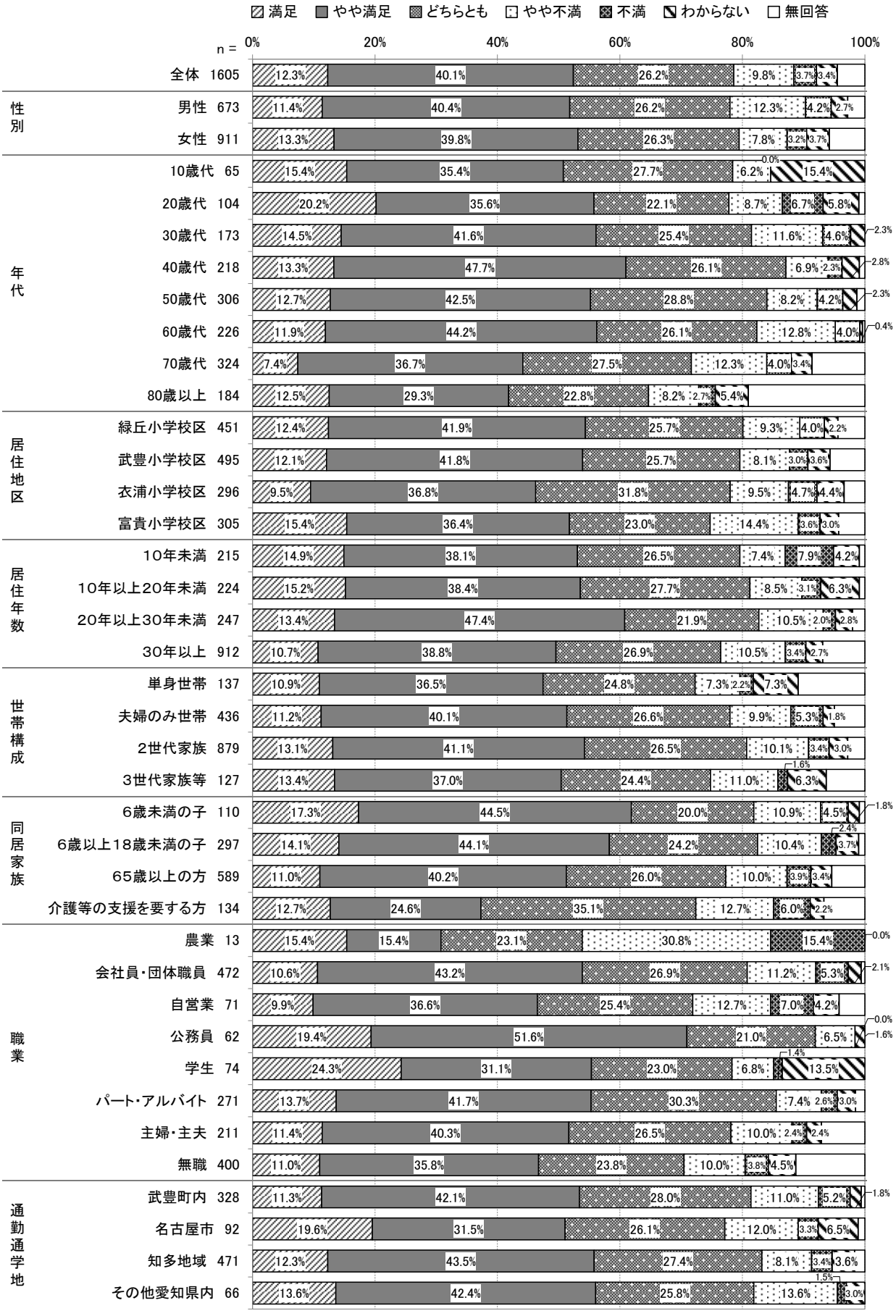
図表 1-5-8　属性別、満足度

分野１　都市環境　　2.暮らしやすい住環境が整っている



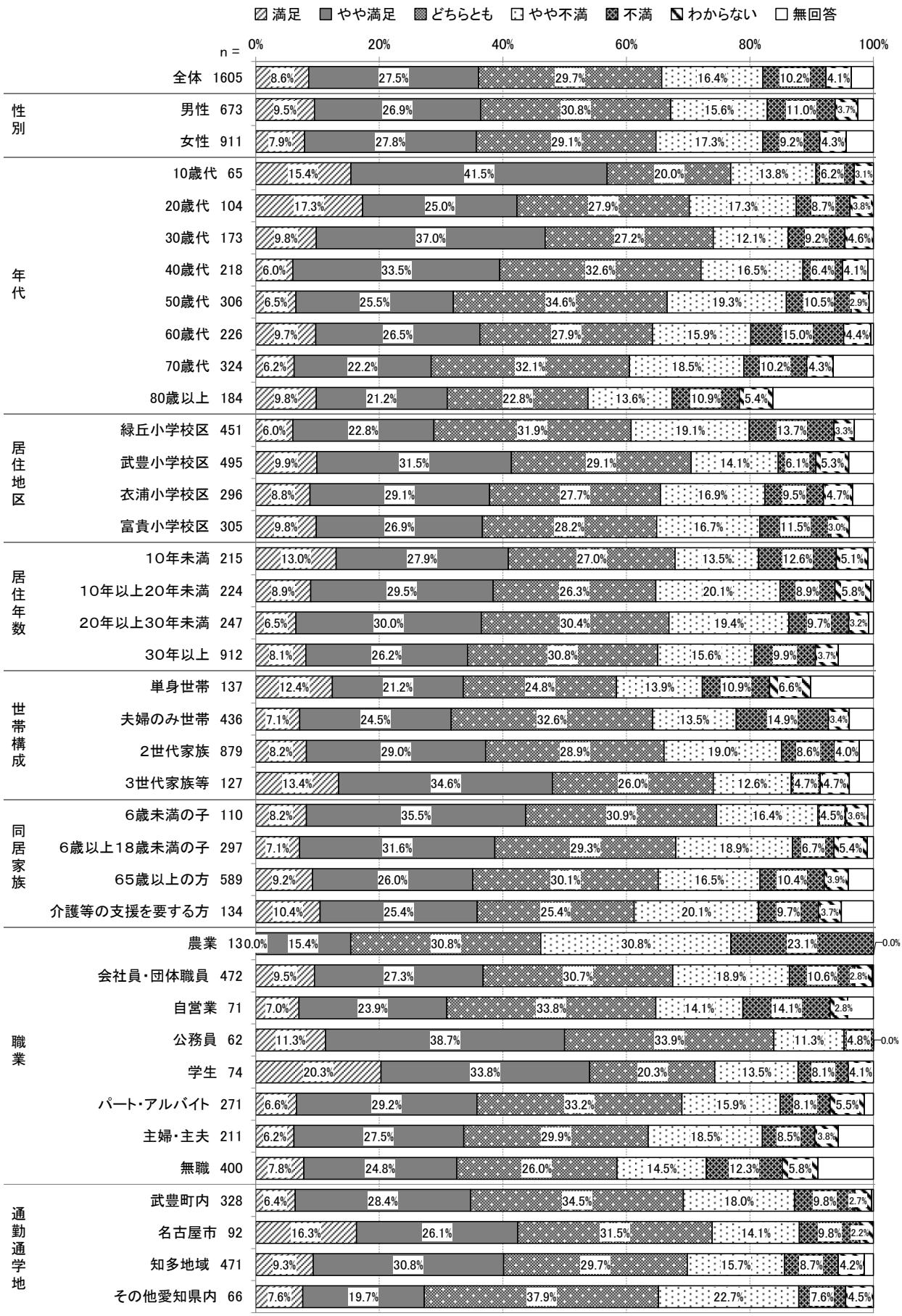
図表 1-5-9　属性別、満足度

分野１　都市環境　　3.幹線道路が整備され車で移動しやすい



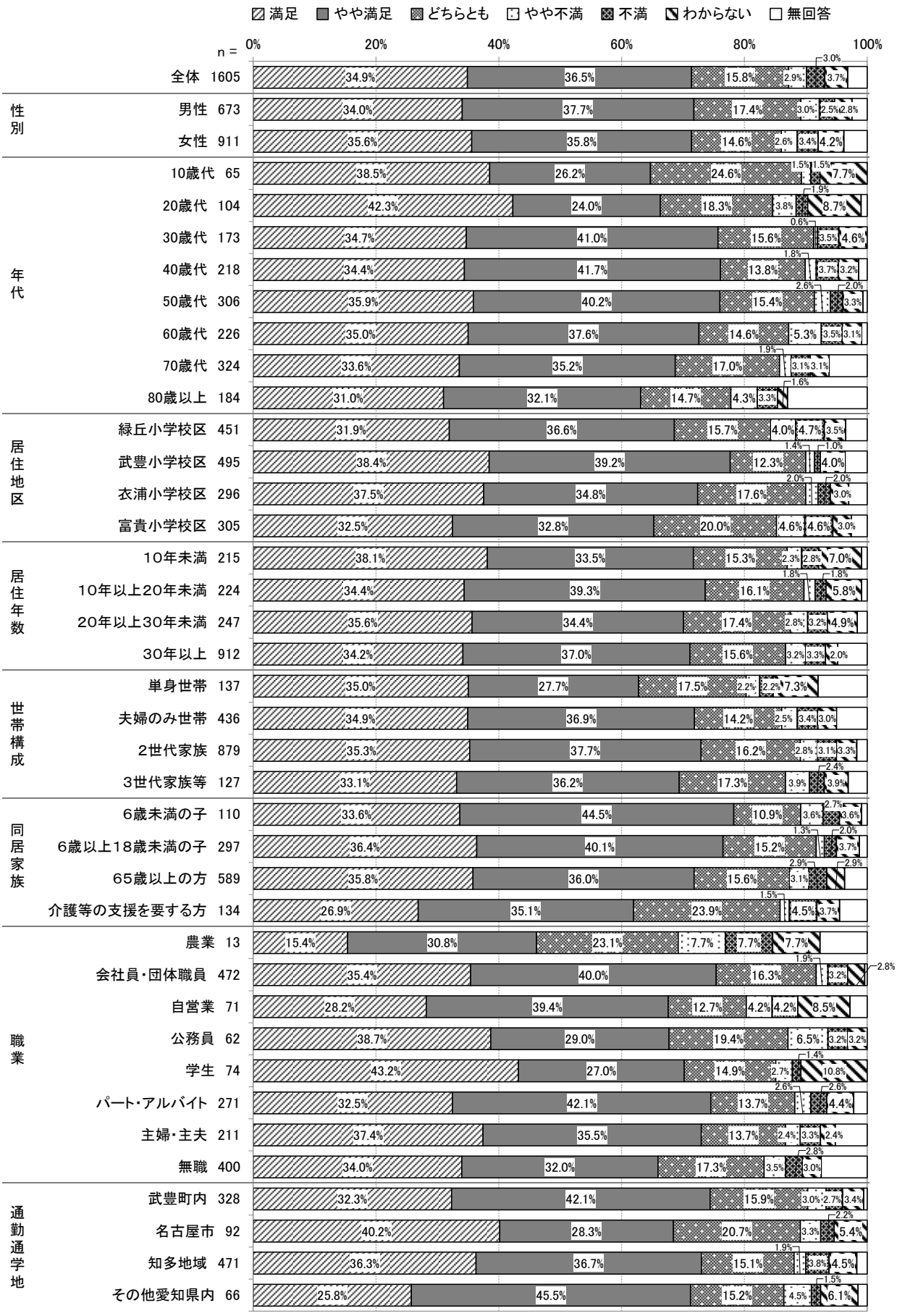
図表 1-5-10　属性別、満足度

分野１　都市環境　　4.公共交通機関が利用しやすく便利である

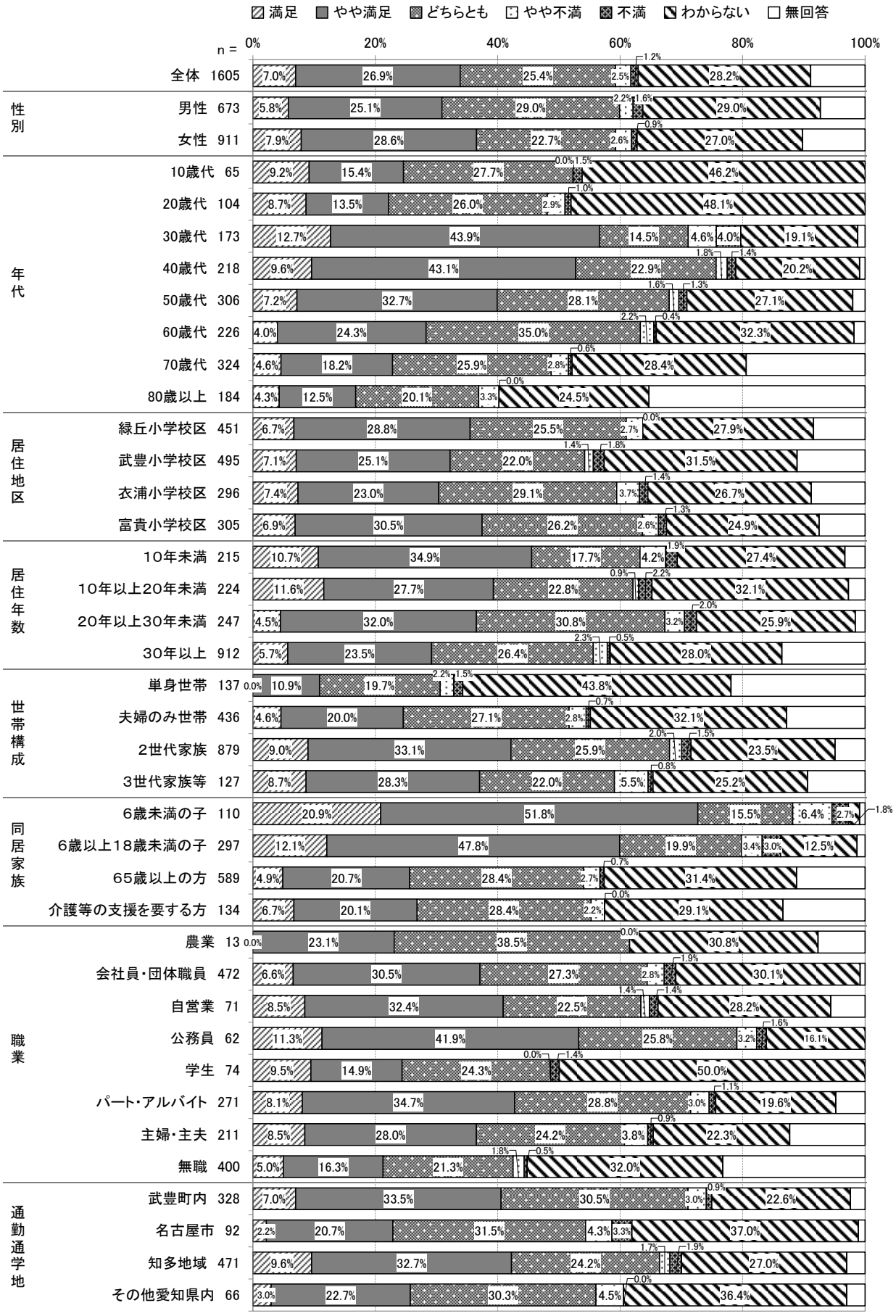


図表 1-5-11　属性別、満足度

分野１　都市環境　　5.安全で安定した上下水道が利用できる

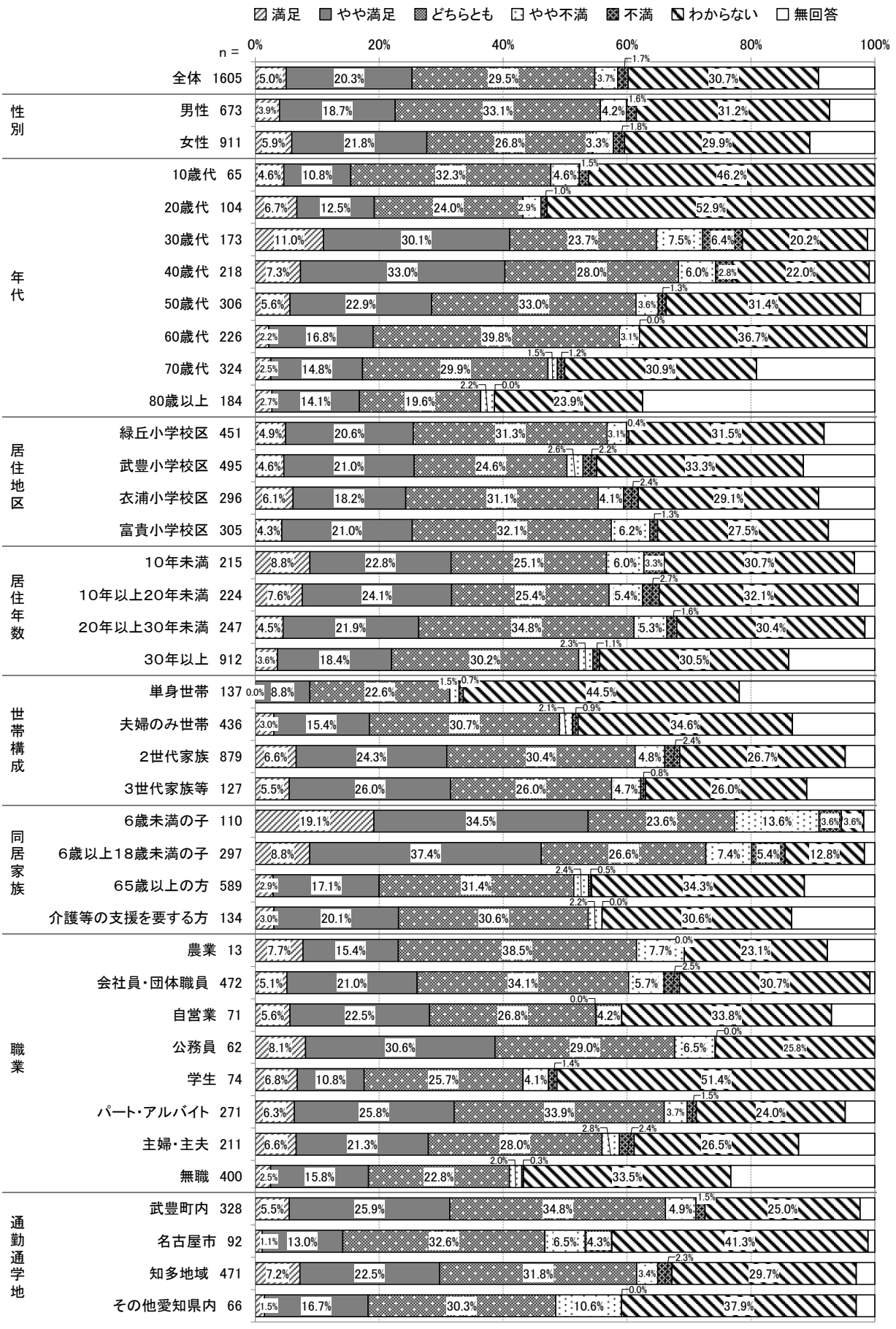


図表 1-5-12　属性別、満足度
分野２　子ども　　6.子育てがしやすい



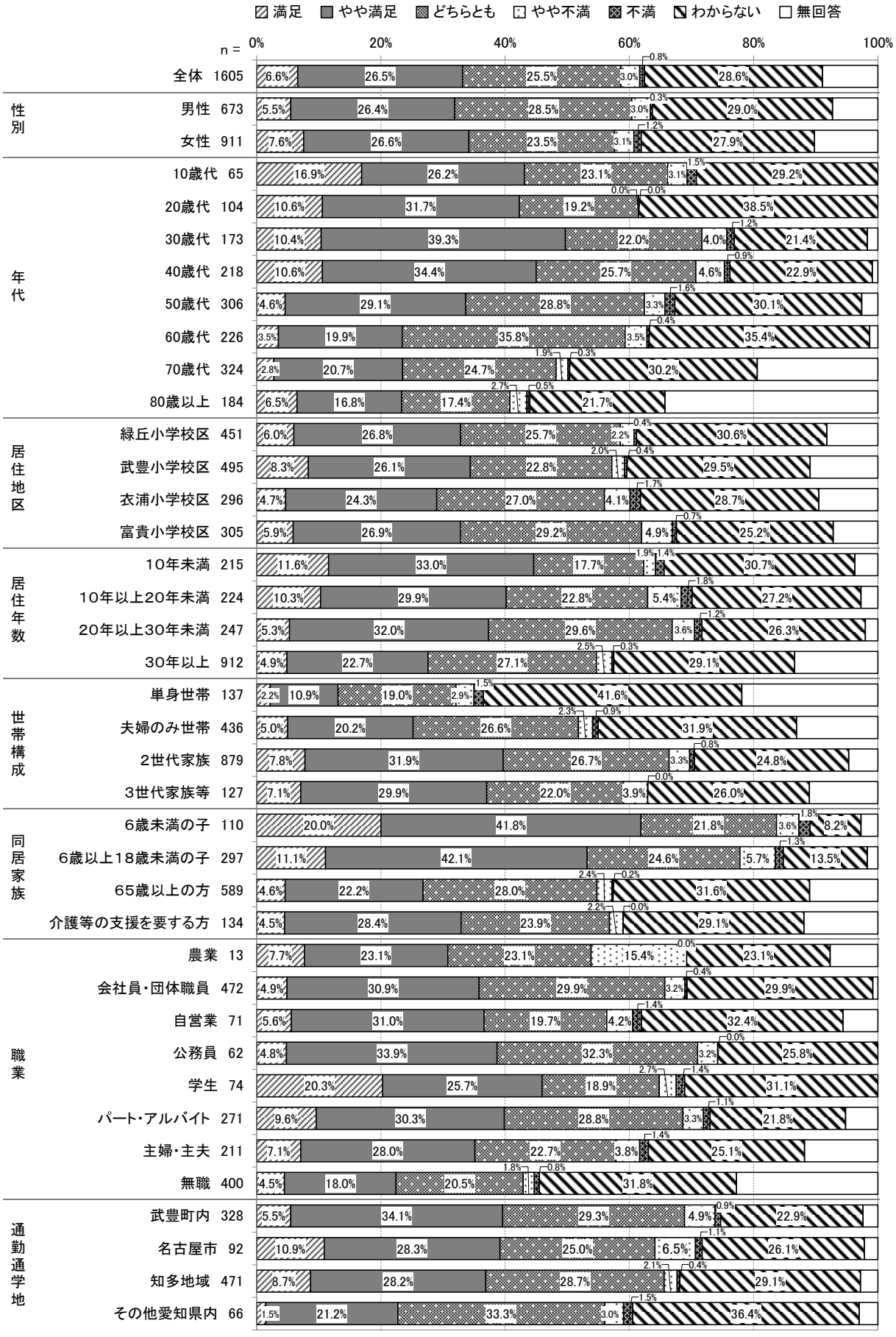
図表 1-5-13　属性別、満足度

分野２　子ども　　7.子育て世代へのサポートが充実している



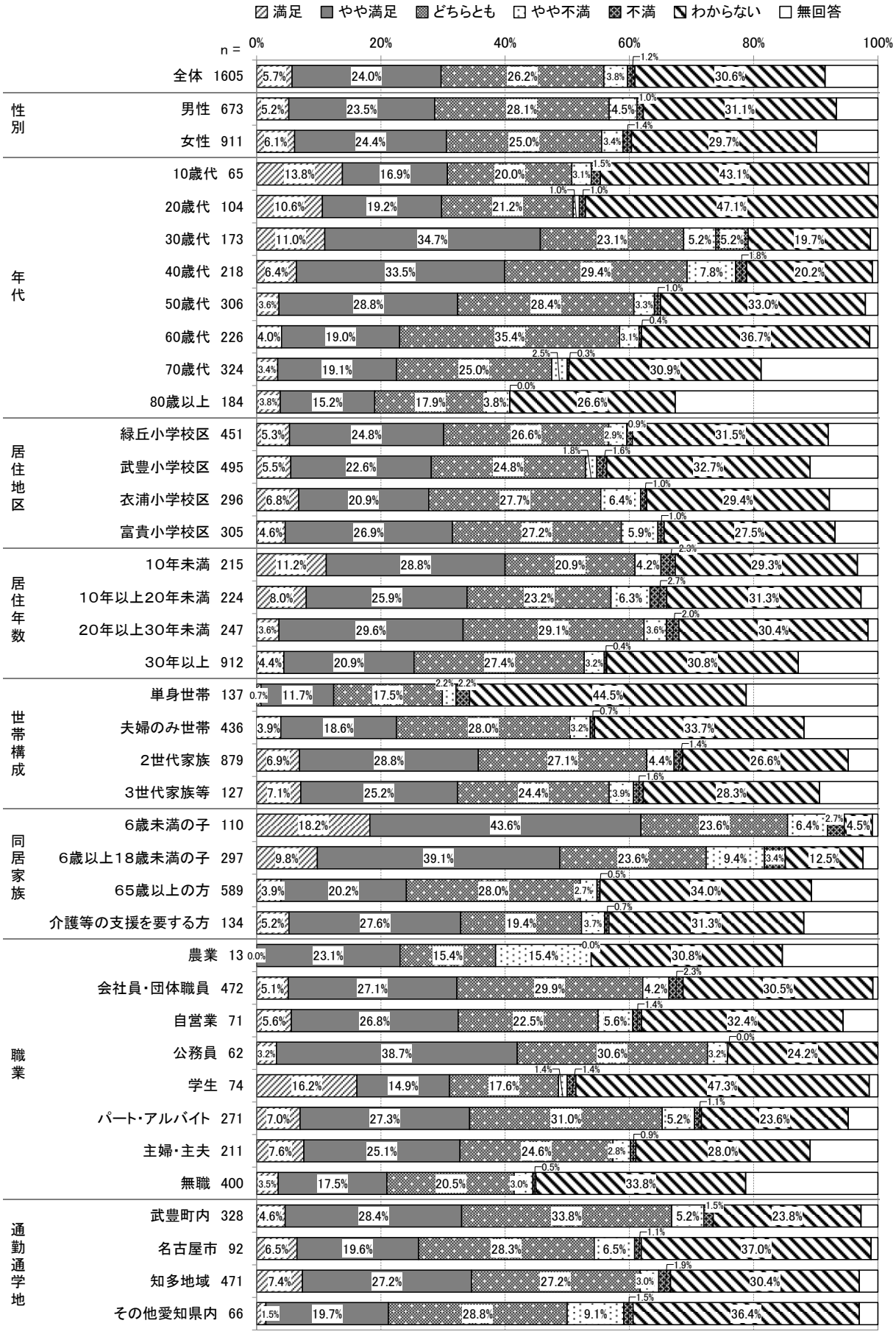
図表 1-5-14　属性別、満足度

分野２　子ども　　8.地域の子どもたちが健やかに育っている



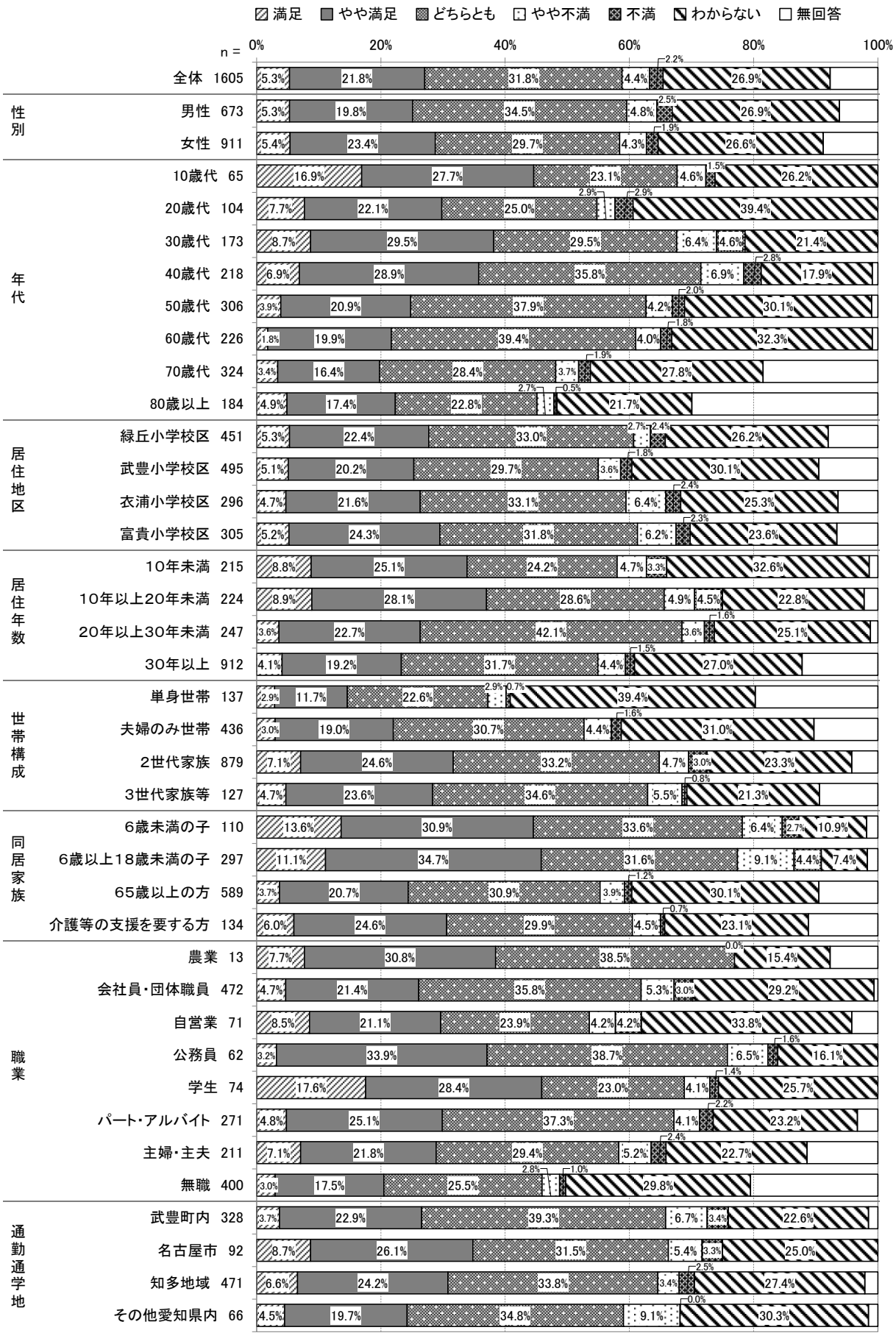
図表 1-5-15　属性別、満足度

分野２　子ども　　9.子育て世帯が安心して生活している



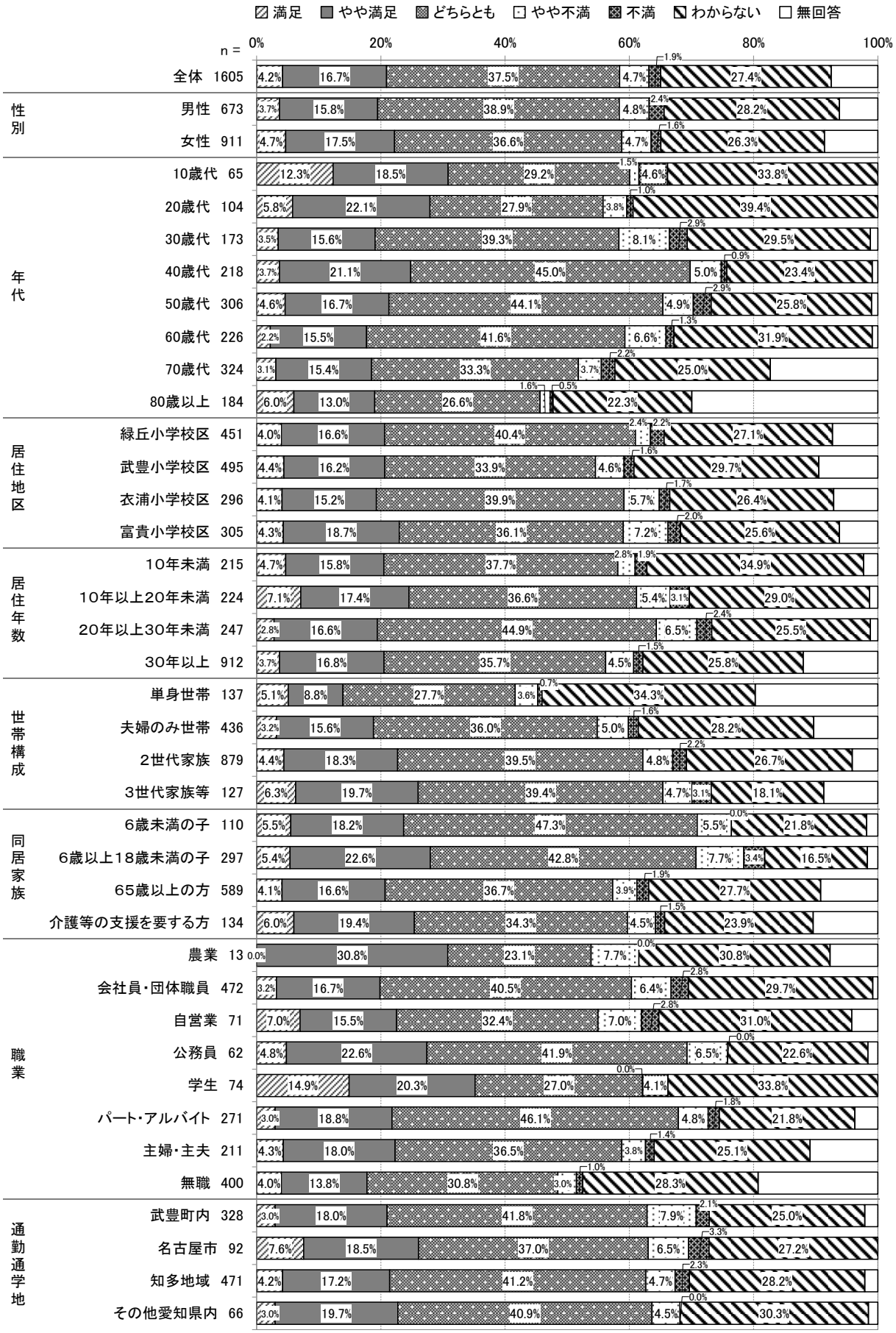
図表 1-5-16　属性別、満足度

分野３　学び　　10.学校･家庭･地域･行政が連携して子どもの成長を支えている



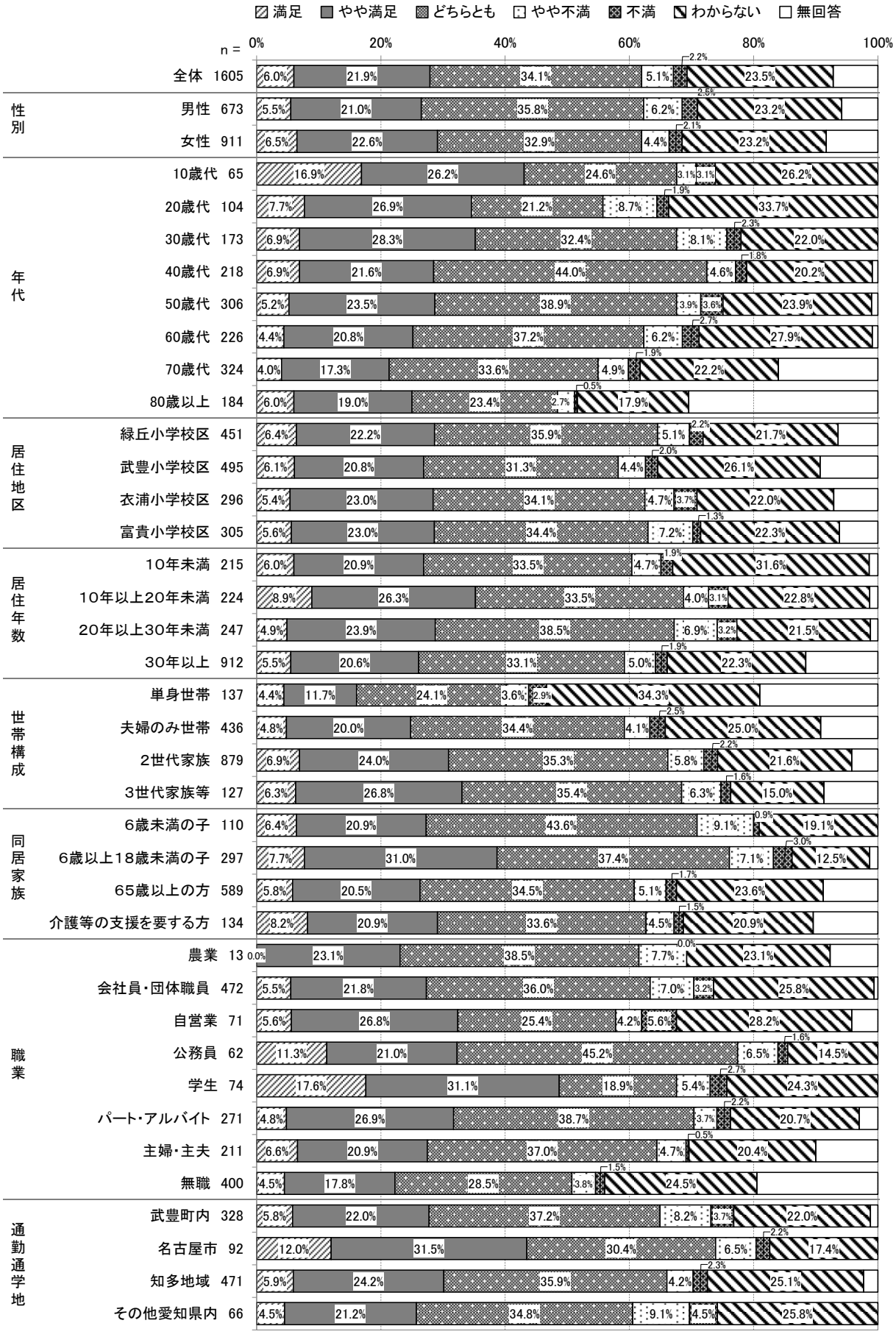
図表 1-5-17　属性別、満足度

分野３　学び　　１１.誰もが気軽に生涯学習に取り組み、交流できる



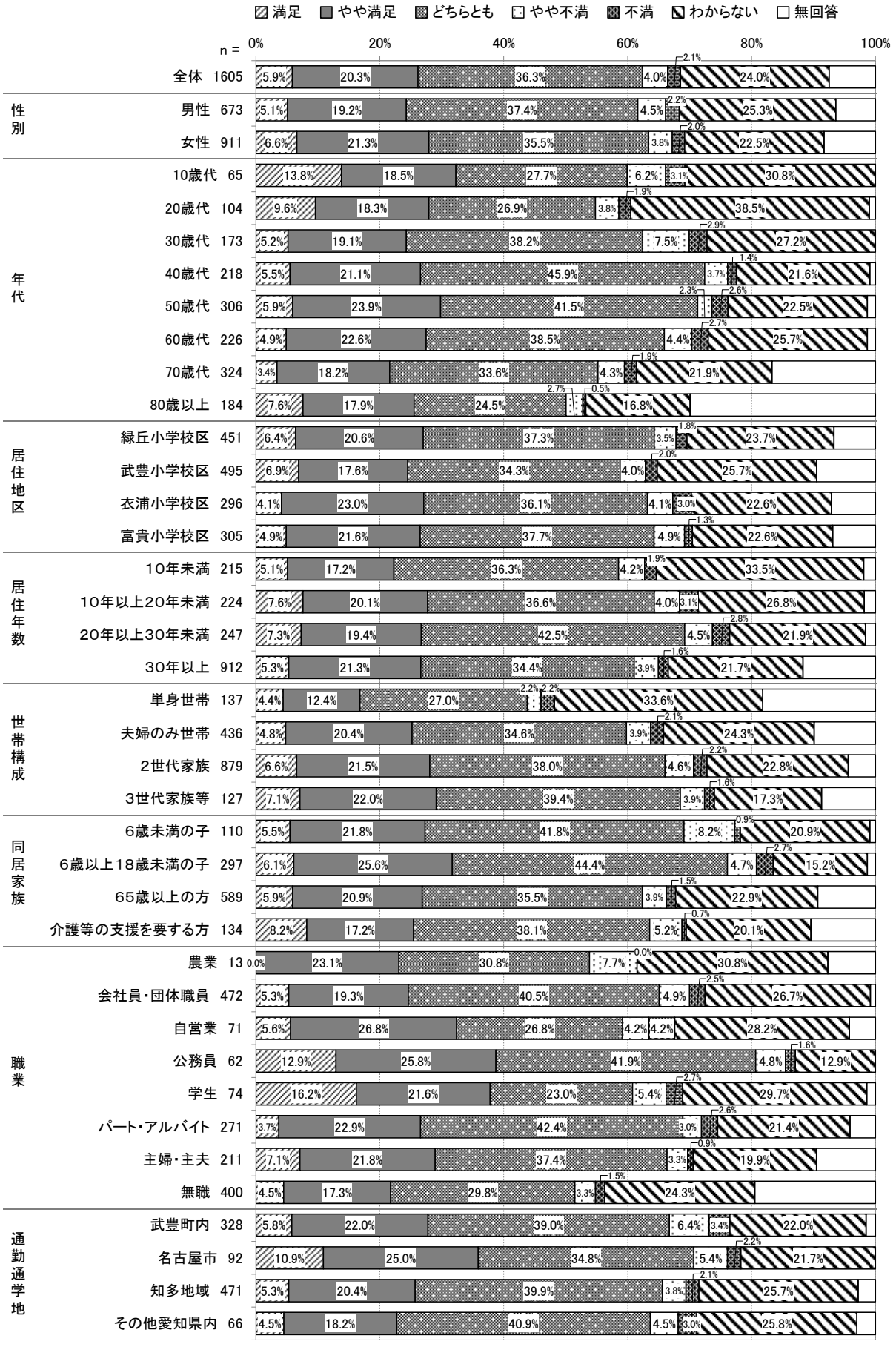
図表 1-5-18　属性別、満足度

分野３　学び　　１２.誰もが気軽にスポーツ活動に参加できる



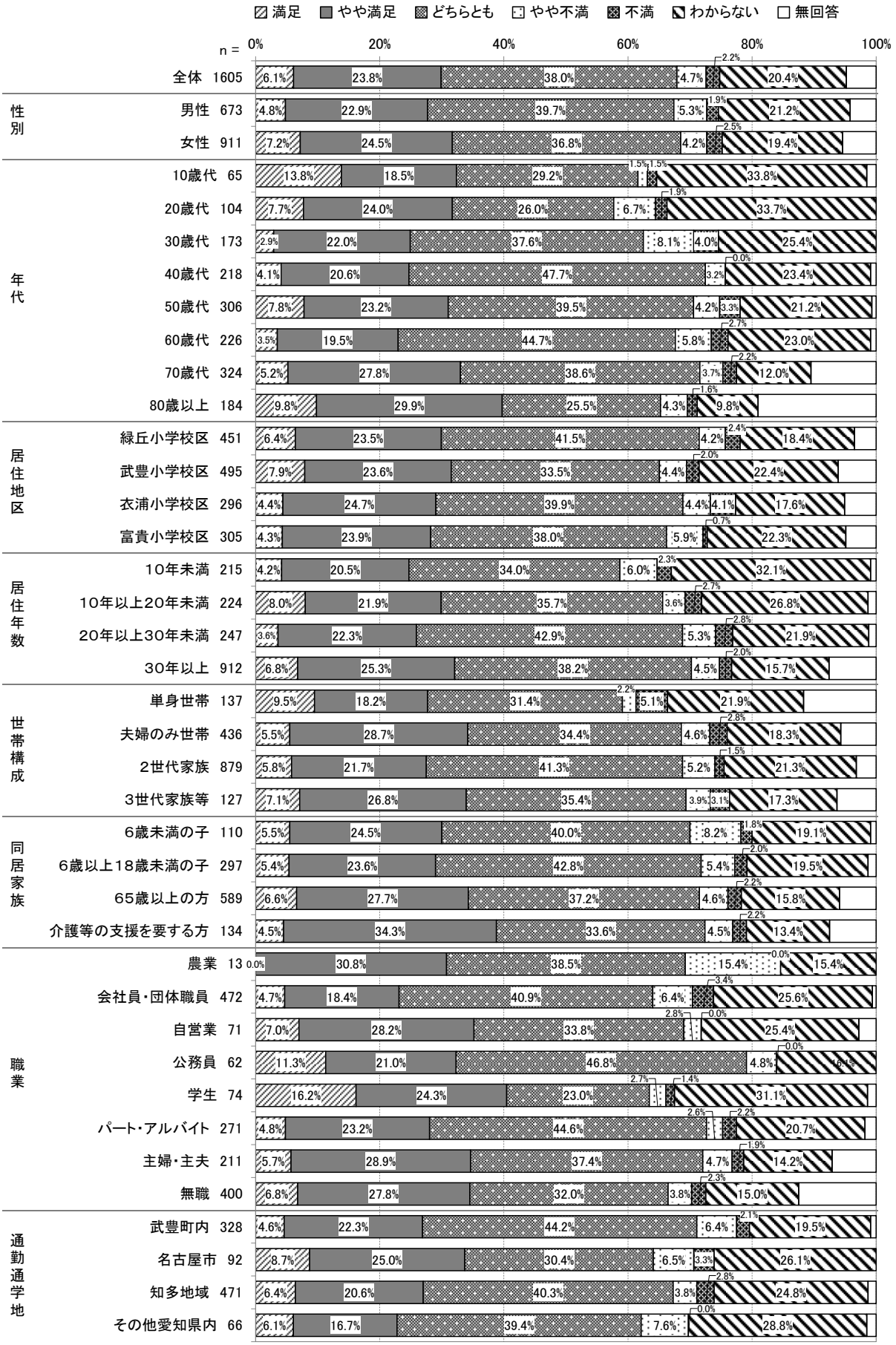
図表 1-5-19　属性別、満足度

分野３　学び　　１３.誰もが気軽に文化芸術活動に触れあえる



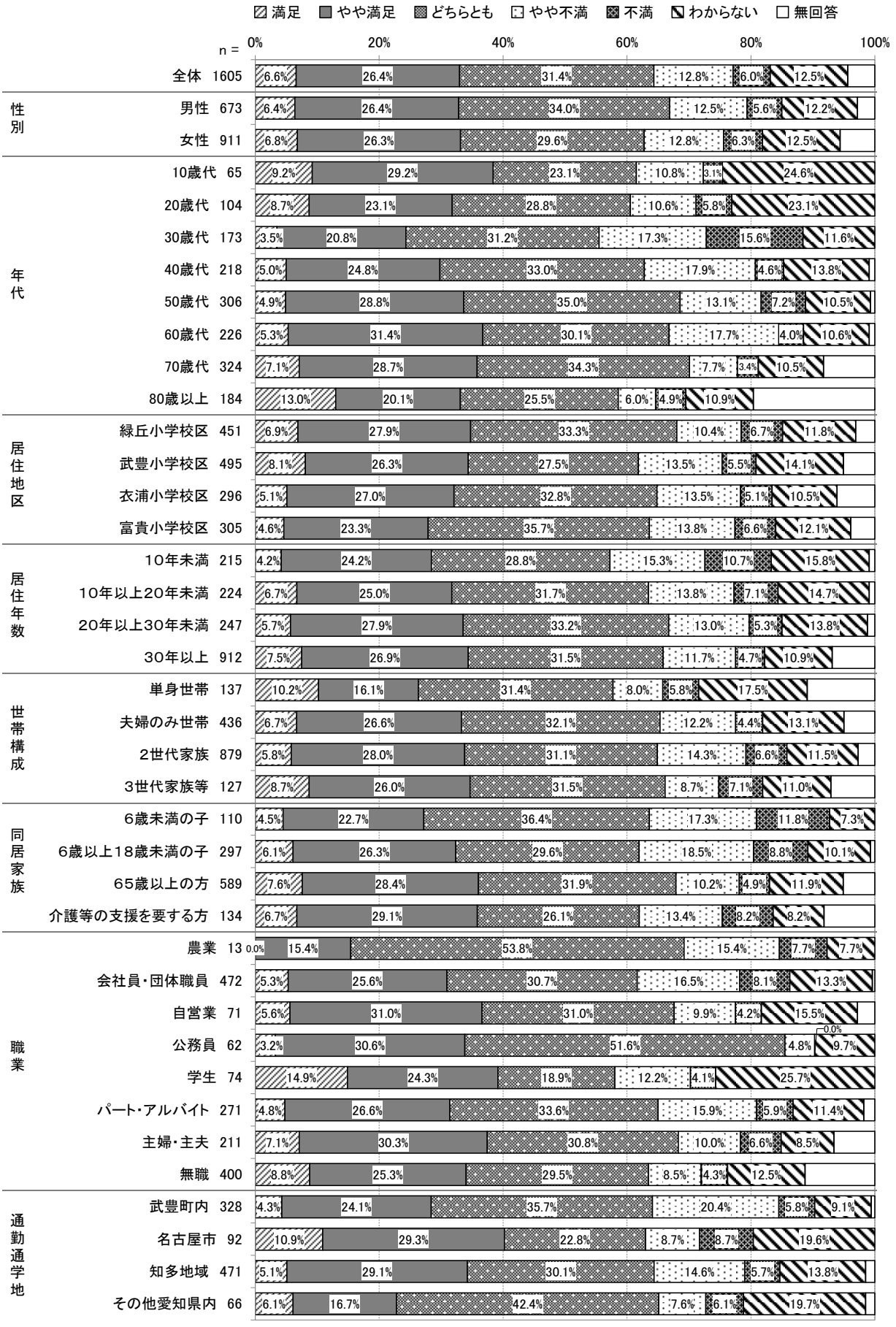
図表 1-5-20　属性別、満足度

分野４　健康・福祉　　14.健康づくりの機会や対応が充実している



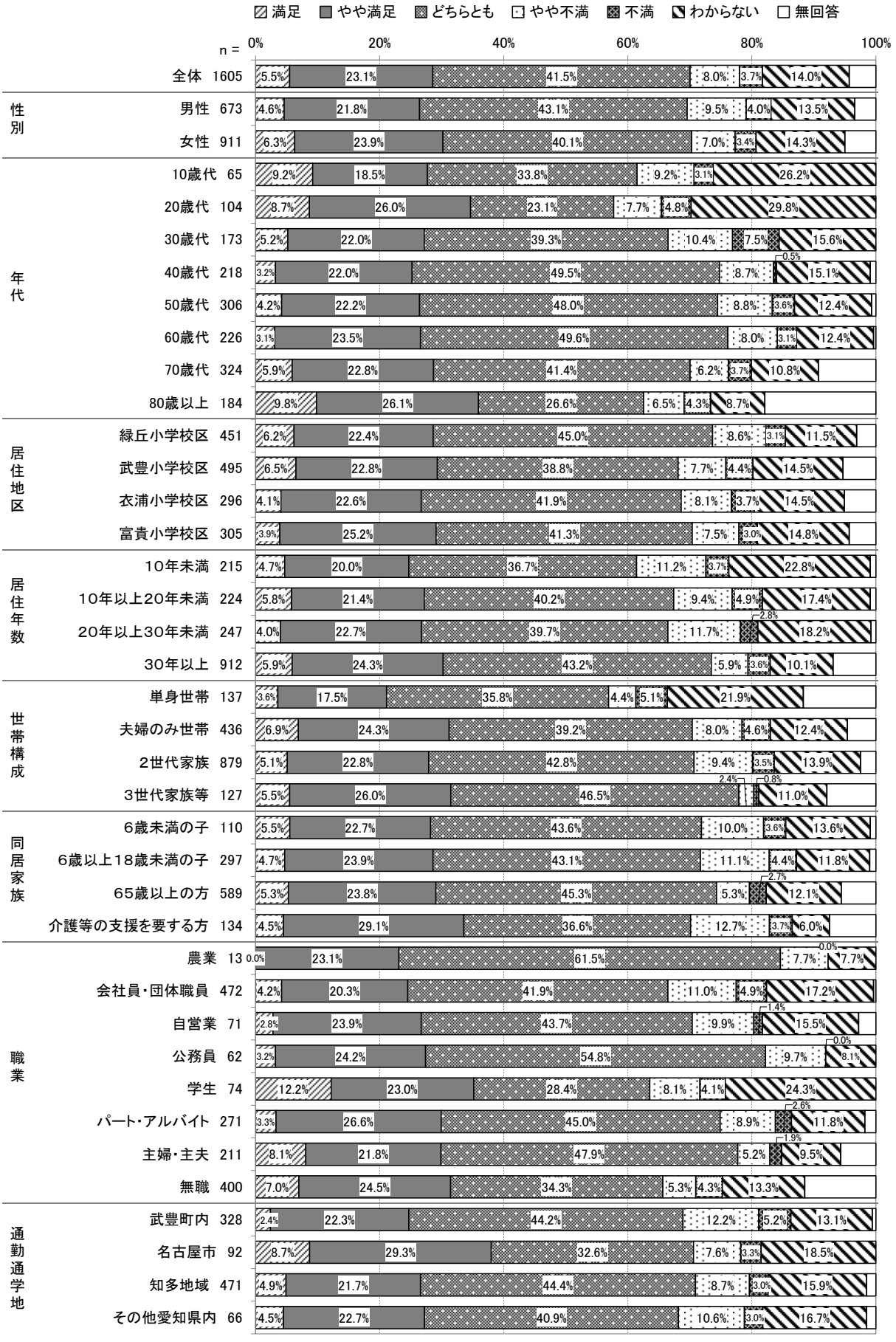
図表 1-5-21　属性別、満足度

分野４　健康・福祉　　15.病院や休日診療などを受診しやすい



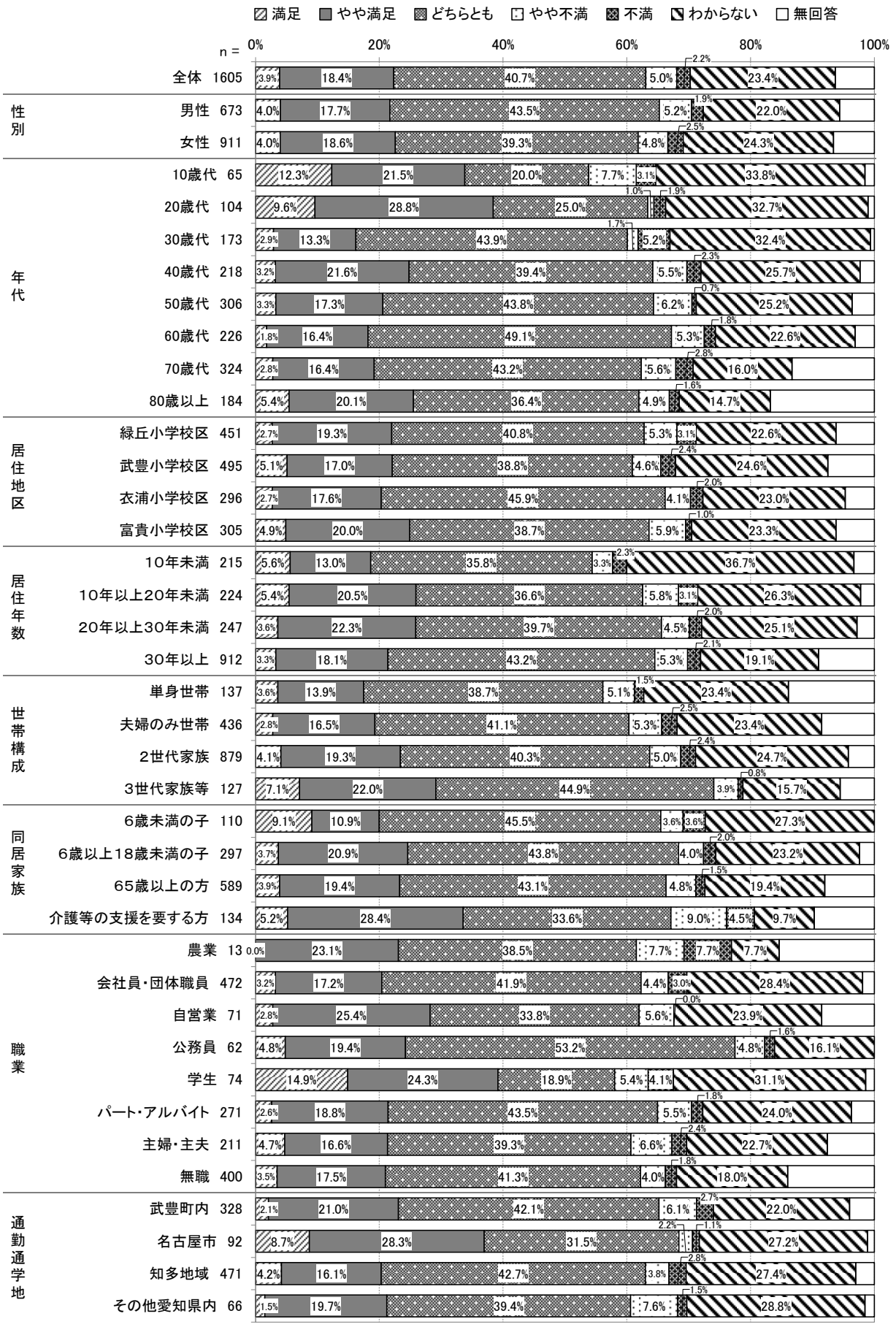
図表 1-5-22　属性別、満足度

分野４　健康・福祉　　16.近所で共に助け合い、支え合う関わりがある



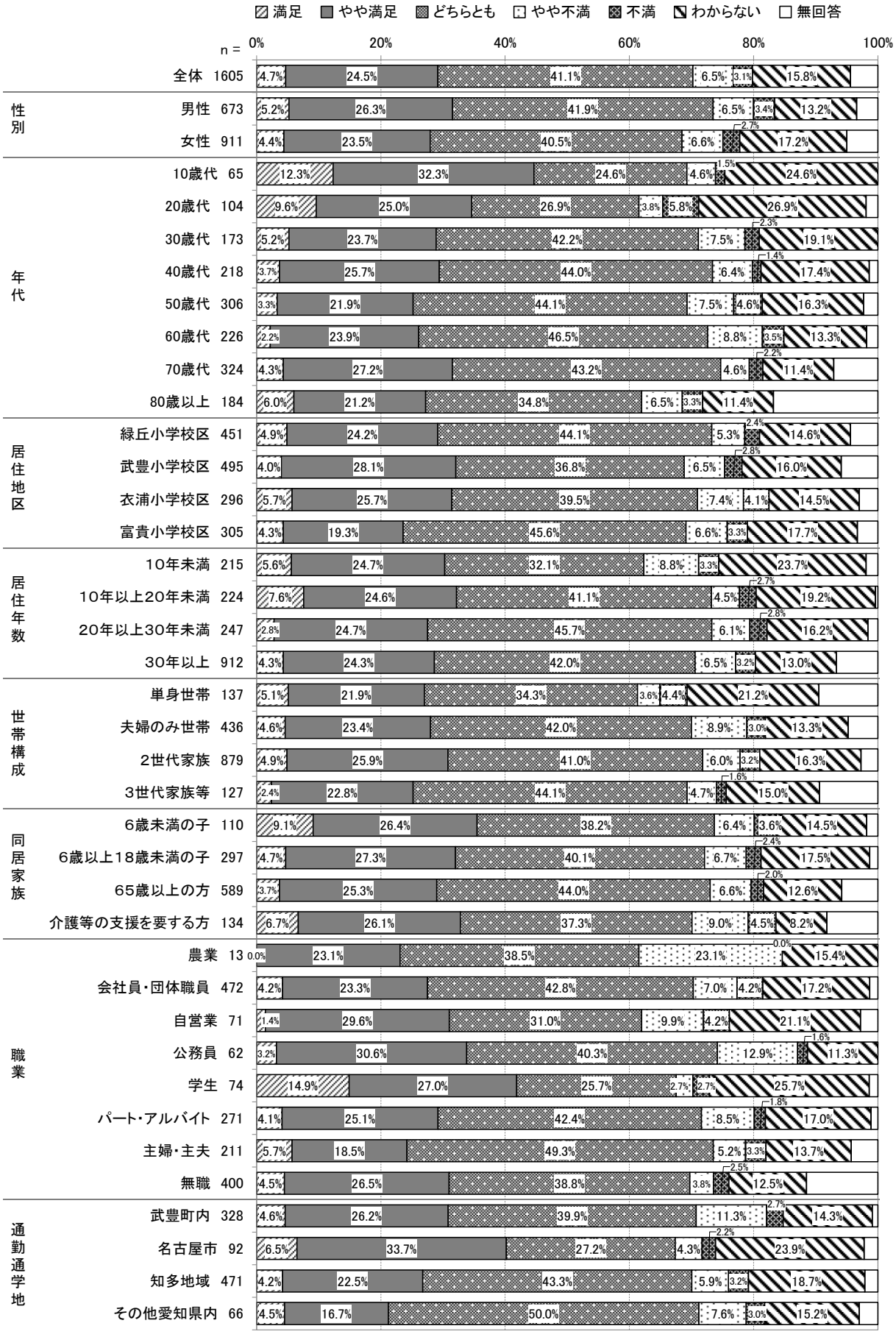
図表 1-5-23　属性別、満足度

分野４　健康・福祉　　17.高齢者や障がい者がいきいきと暮らしている



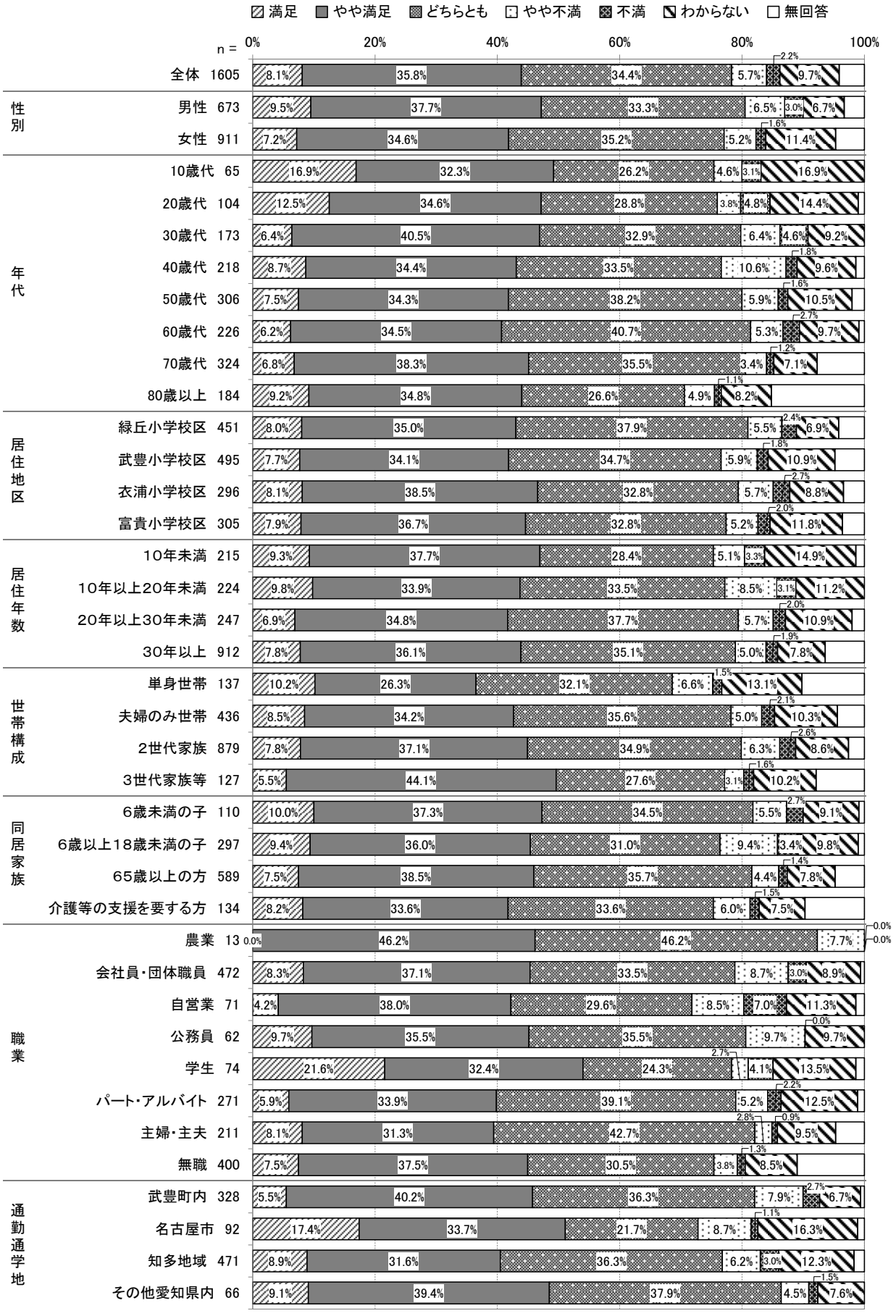
図表 1-5-24　属性別、満足度

分野５　安全・安心　　18.災害への備えや安全性が確保されている



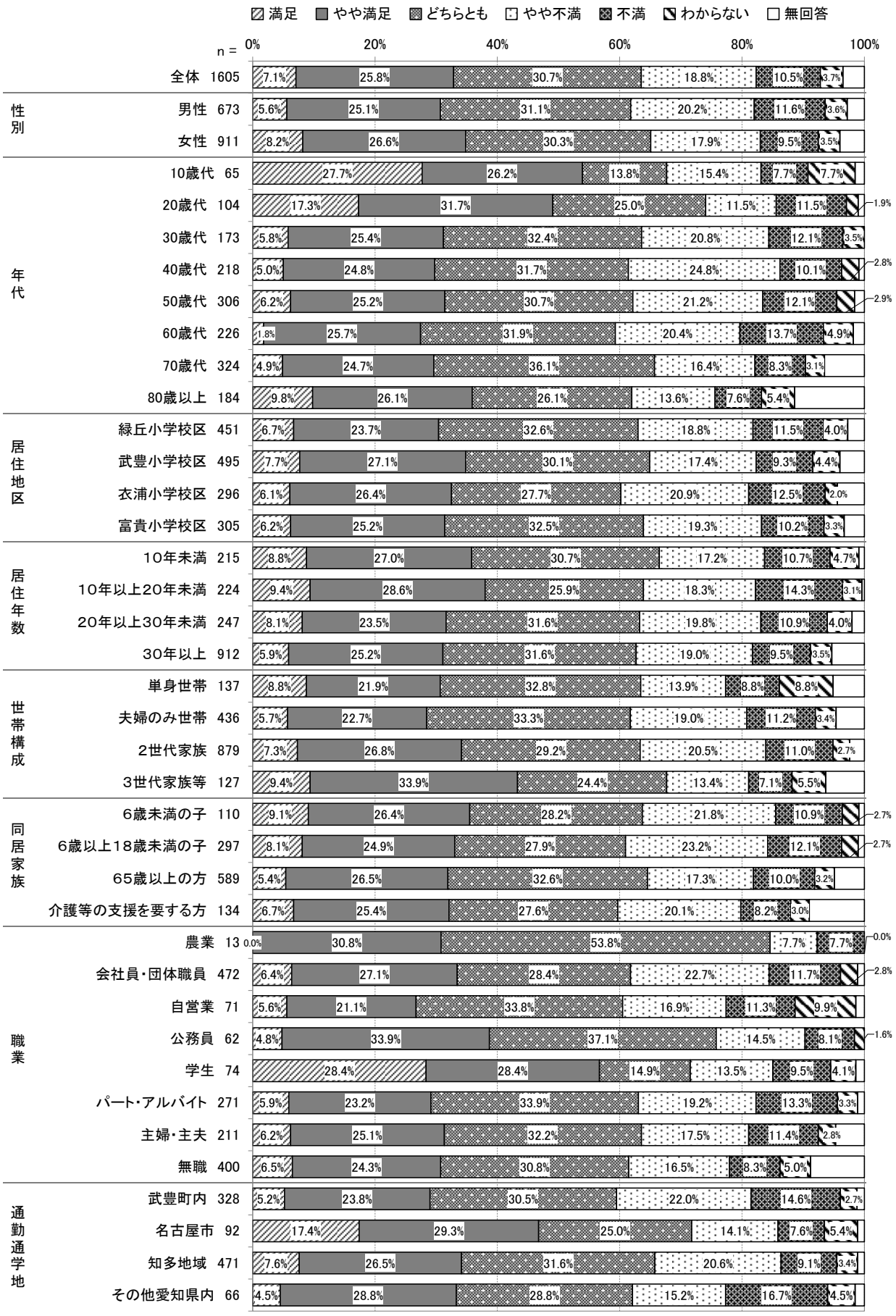
図表 1-5-25　属性別、満足度

分野５　安全・安心　　19.犯罪がなく、安全・安心が確保されている



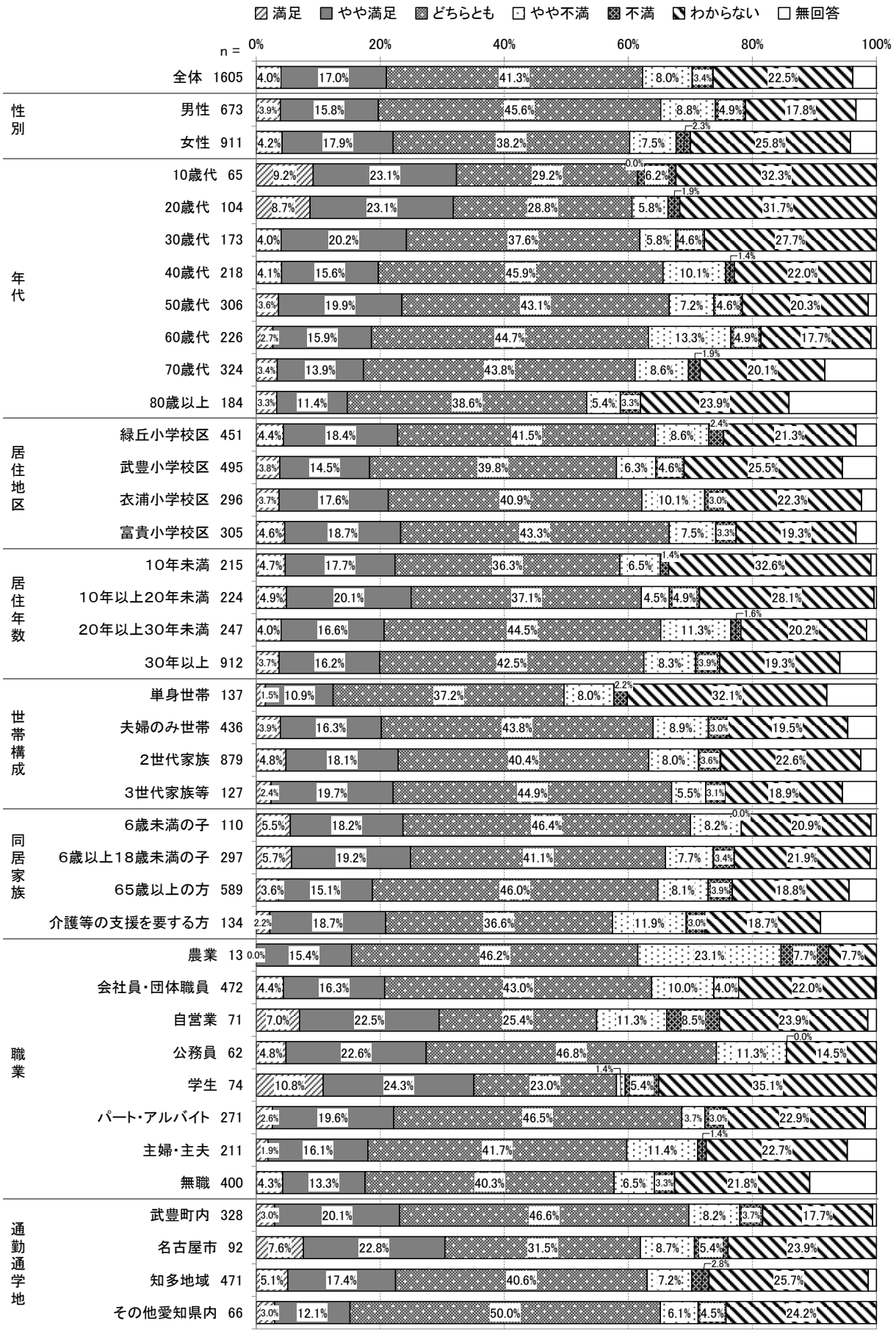
図表 1-5-26　属性別、満足度

分野５　安全・安心　　20.徒歩や自転車で安全に道路を通行できる



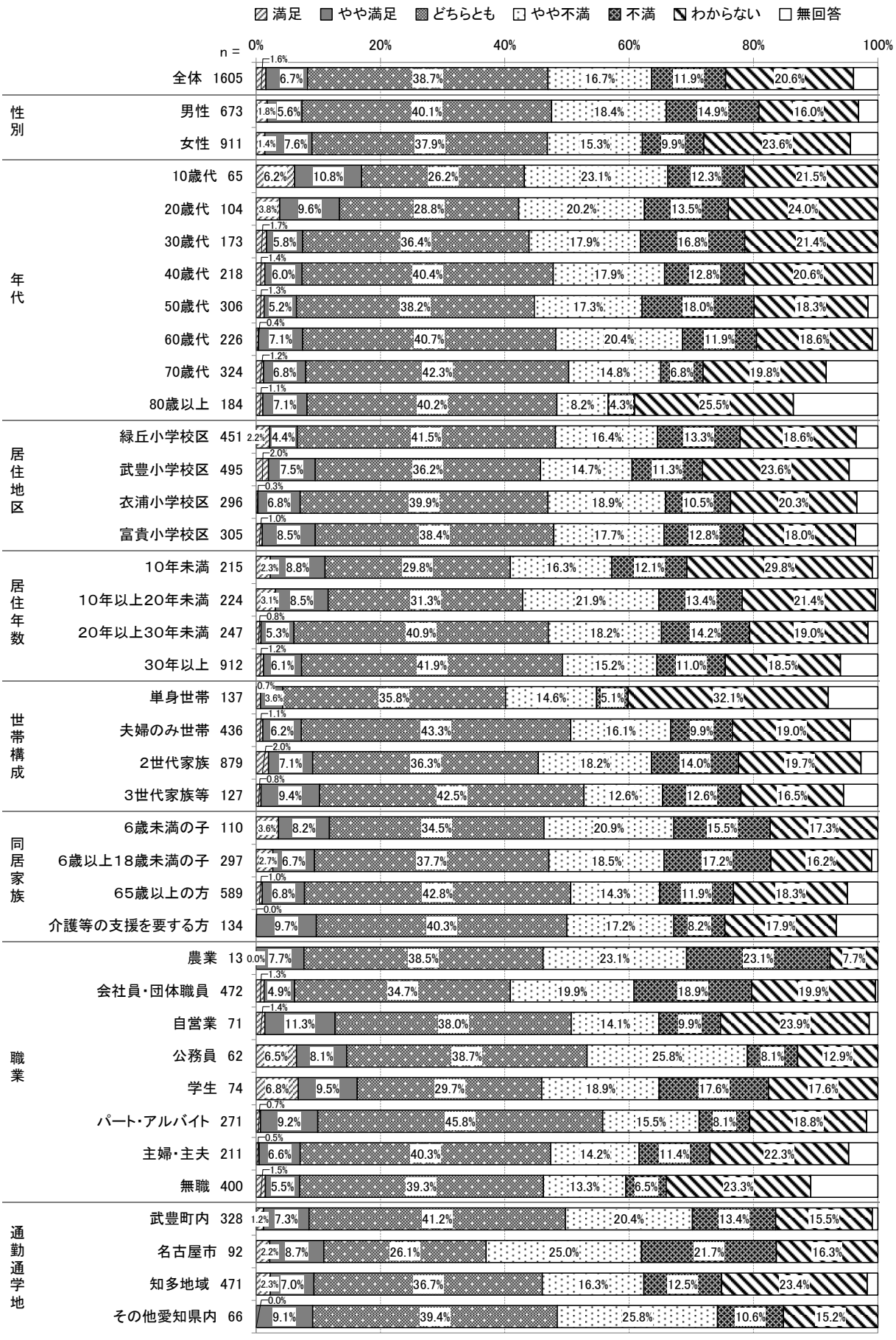
図表 1-5-27　属性別、満足度

分野６　産業・交流　　21.地元産業（農業、商工業）が活性化している



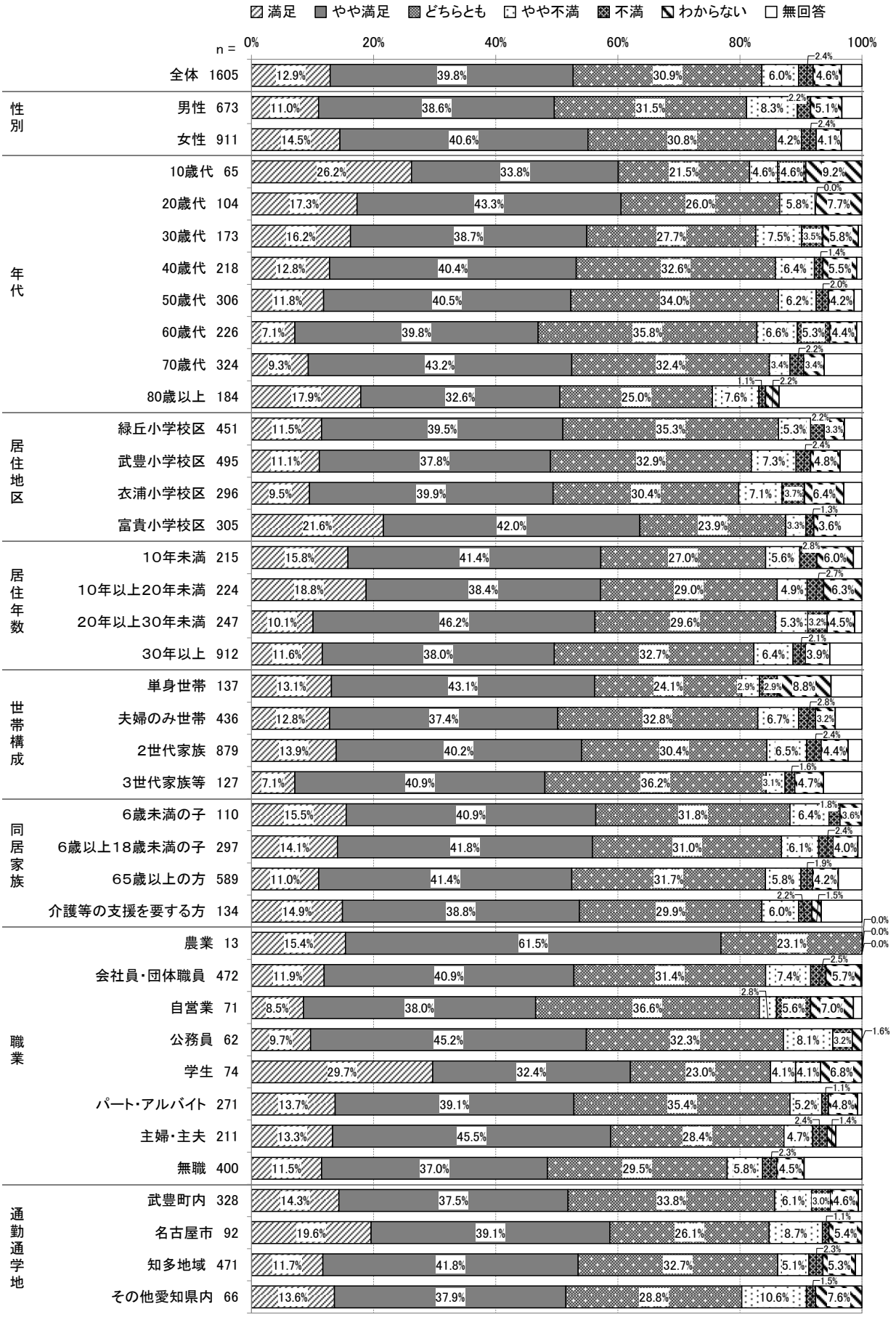
図表 1-5-28　属性別、満足度

分野６　産業・交流　　22.観光産業が発展している



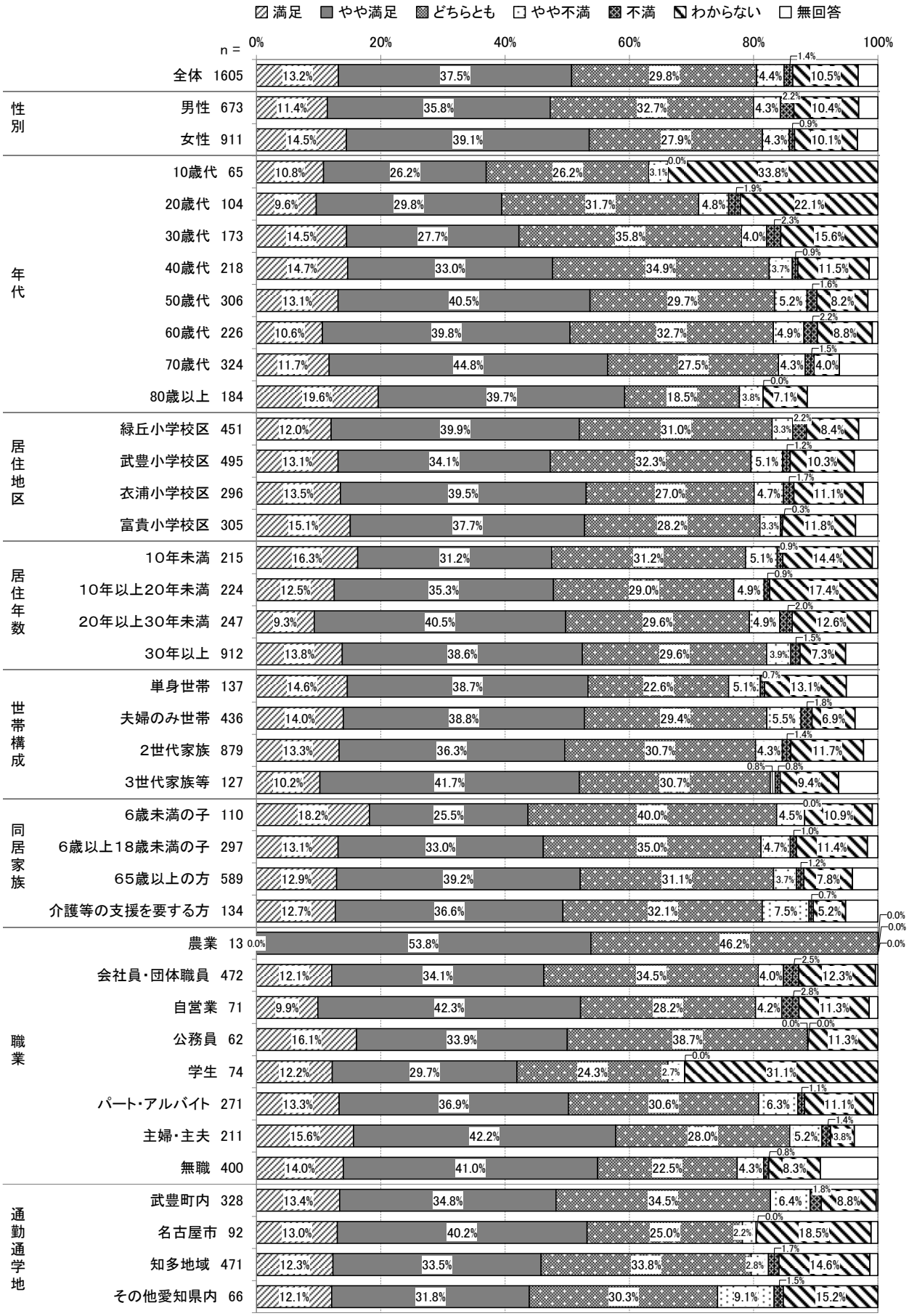
図表 1-5-29　属性、満足度

分野７　環境　　23.水や緑などの自然を身近に感じられる



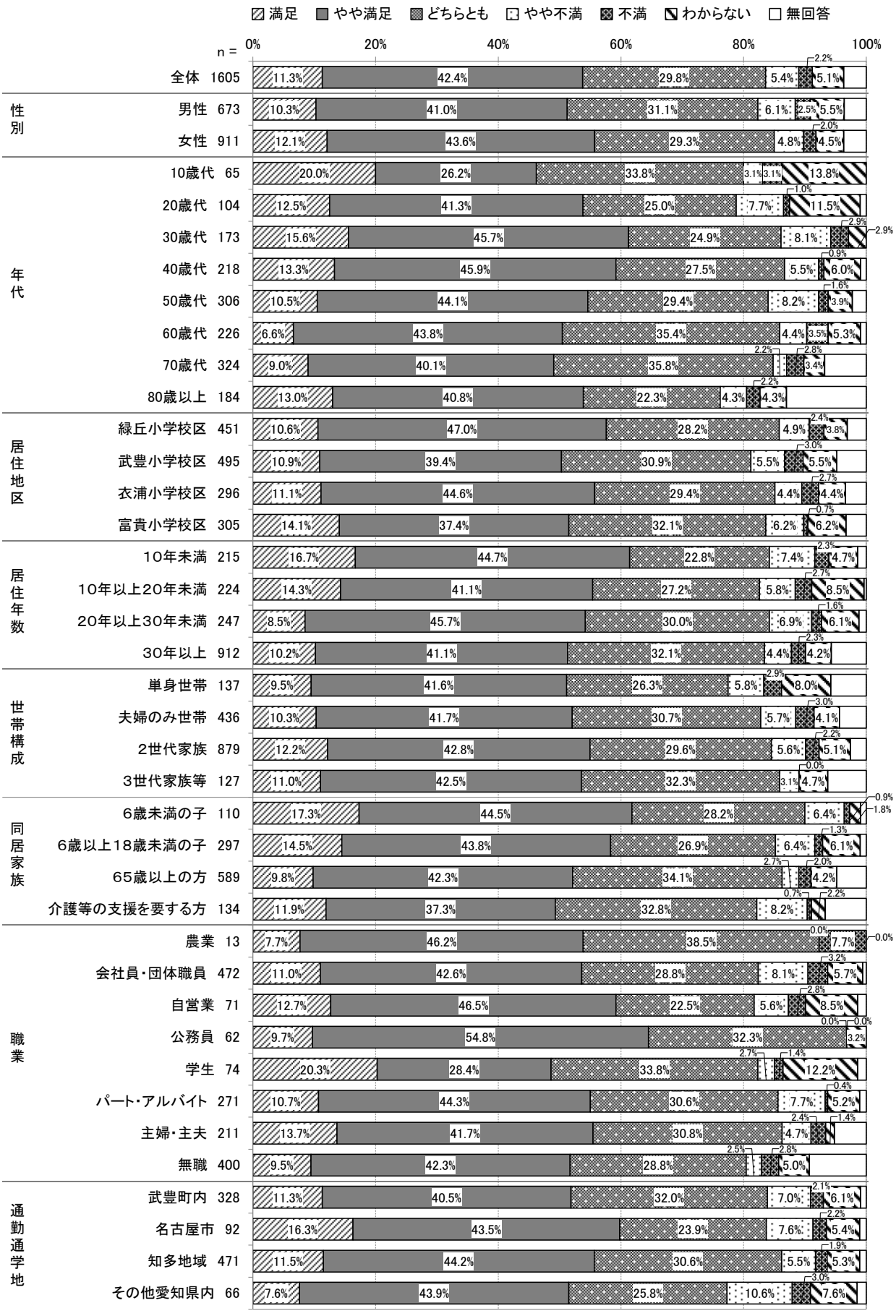
図表 1-5-30　属性別、満足度

分野7　環境　　24.ごみの減量化・資源化が進められ、循環型社会が定着している



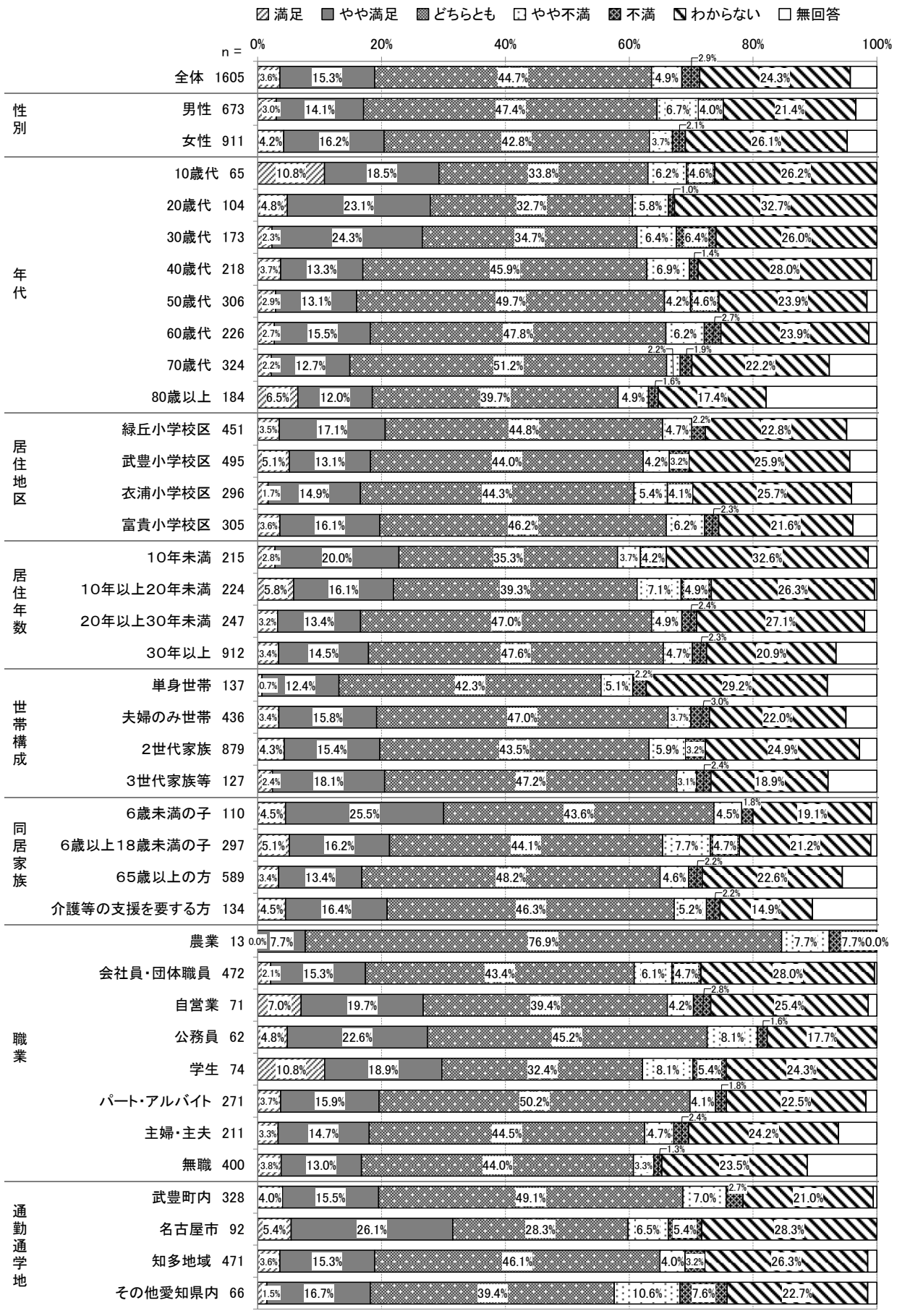
図表 1-5-31　属性別、満足度

分野７　環境　　25.きれいで衛生的な環境が保たれている



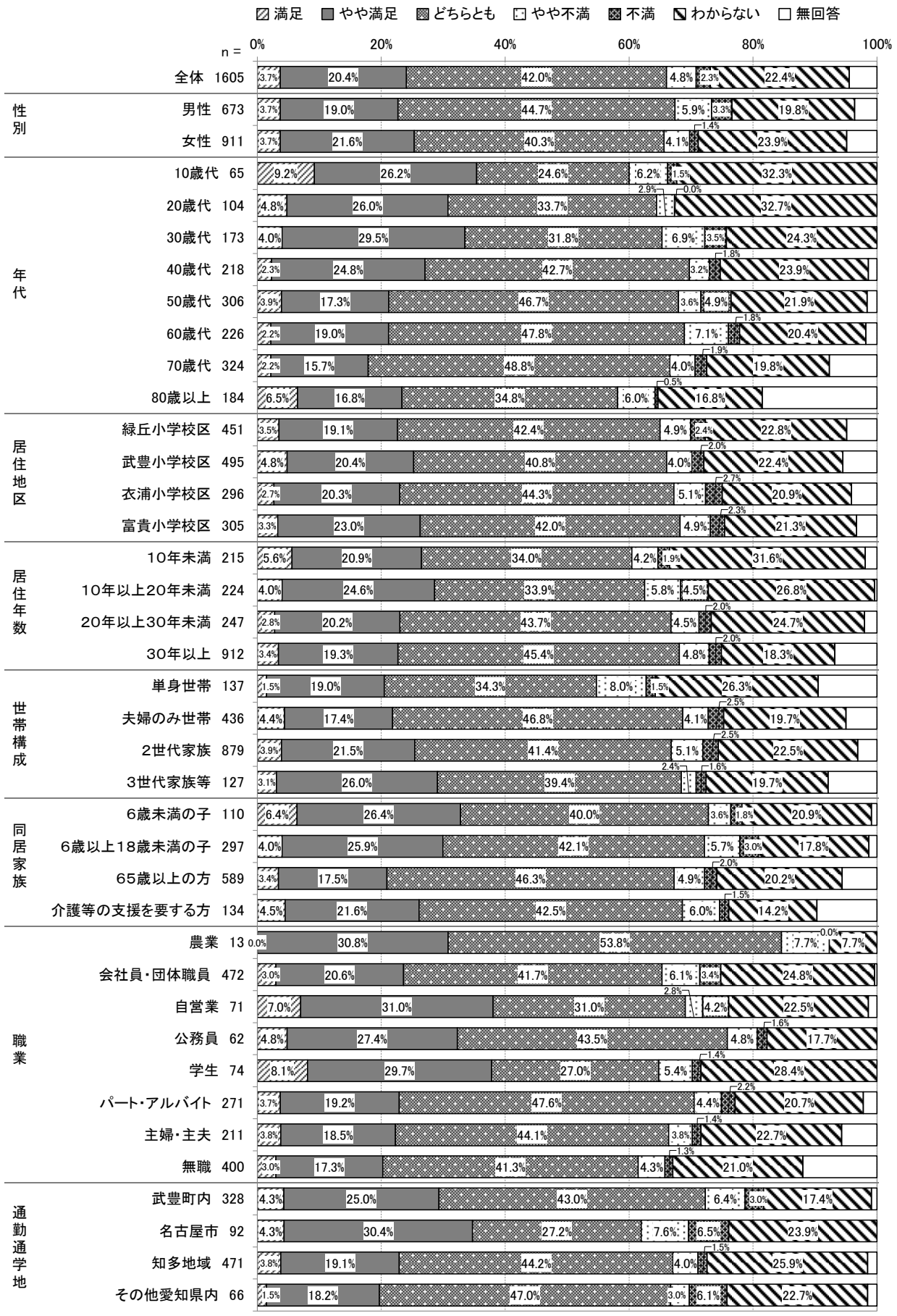
図表 1-5-32　属性別、満足度

分野８　まちづくり・地域経営　　26.町民がまちづくりに参画しやすい



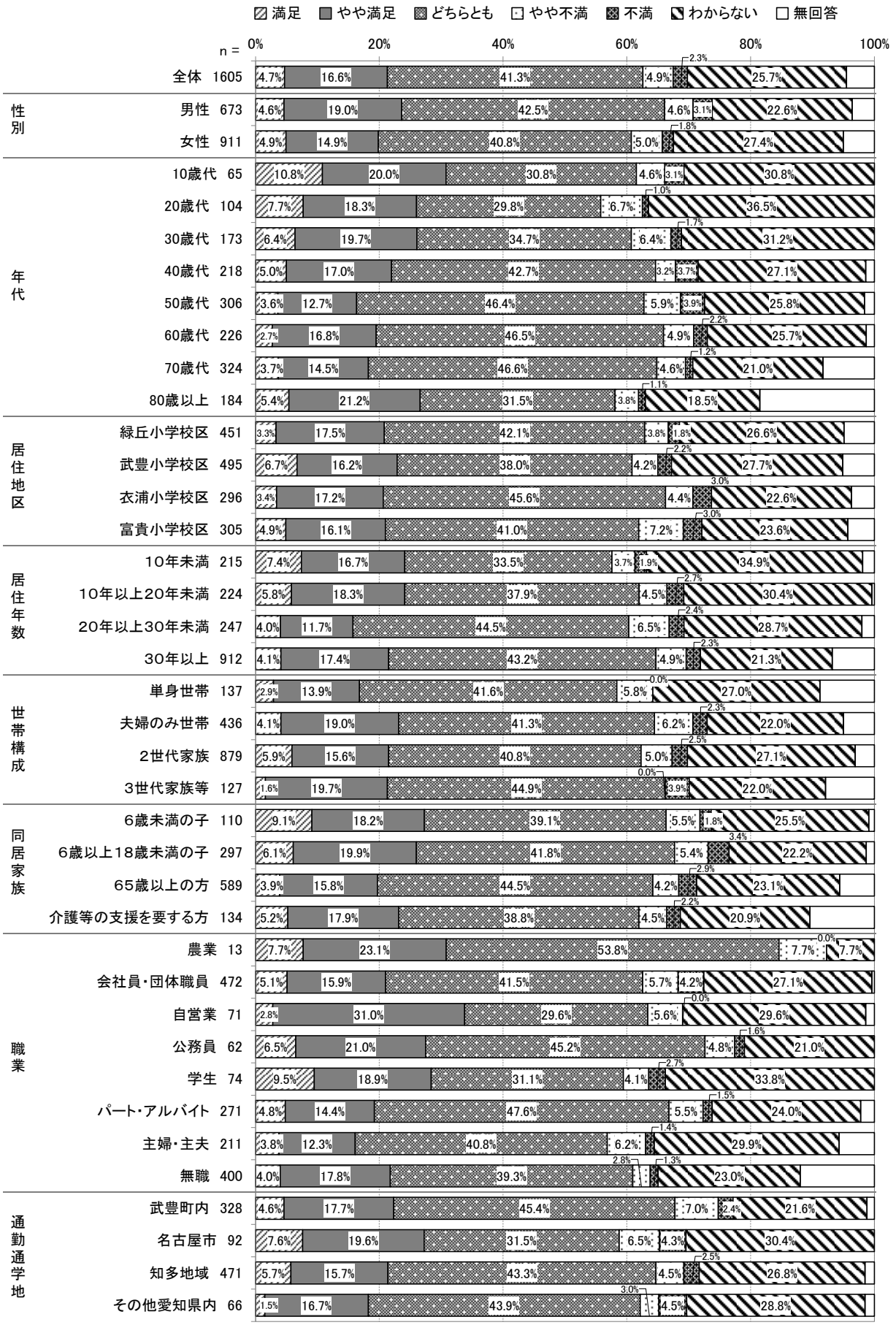
図表 1-5-33　属性別、満足度

分野８　まちづくり・地域経営　　27.地域活動が活発に行われている



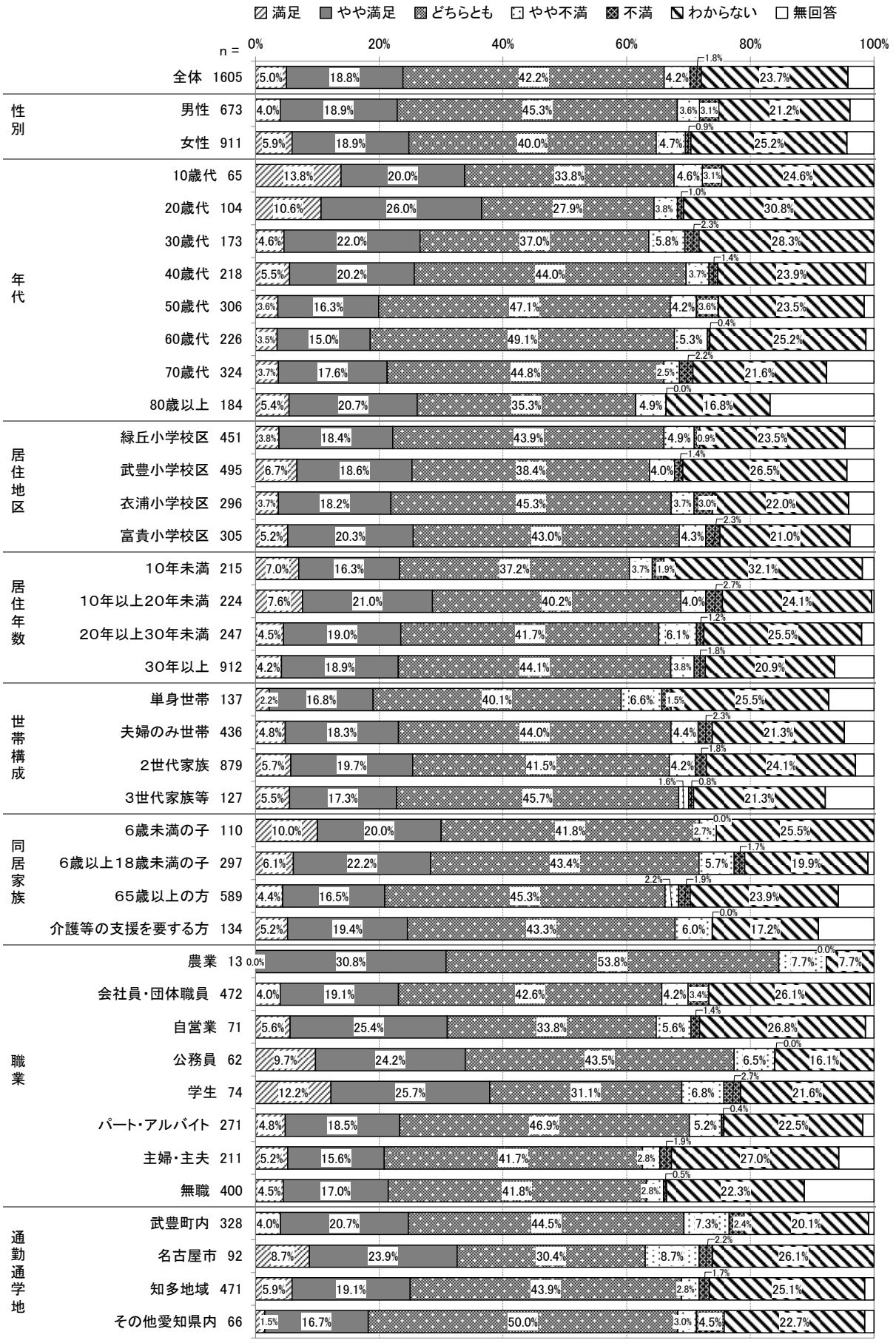
図表 1-5-34　属性別、満足度

分野８　まちづくり・地域経営　　28.男女が差別なく参画できる社会となっている



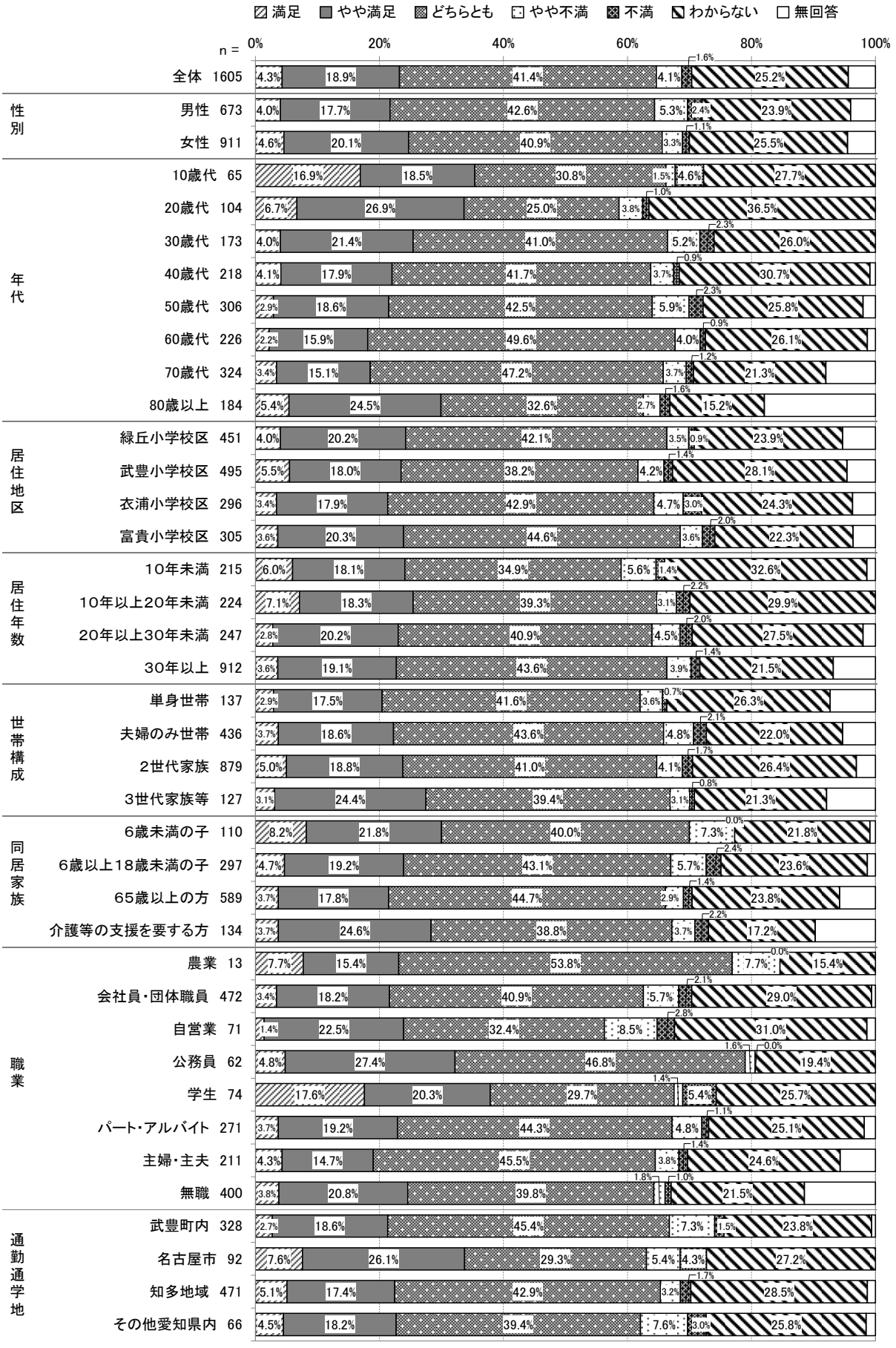
図表 1-5-35　属性別、満足度

分野８　まちづくり・地域経営　　29.互いを尊重しあい協力しあえる



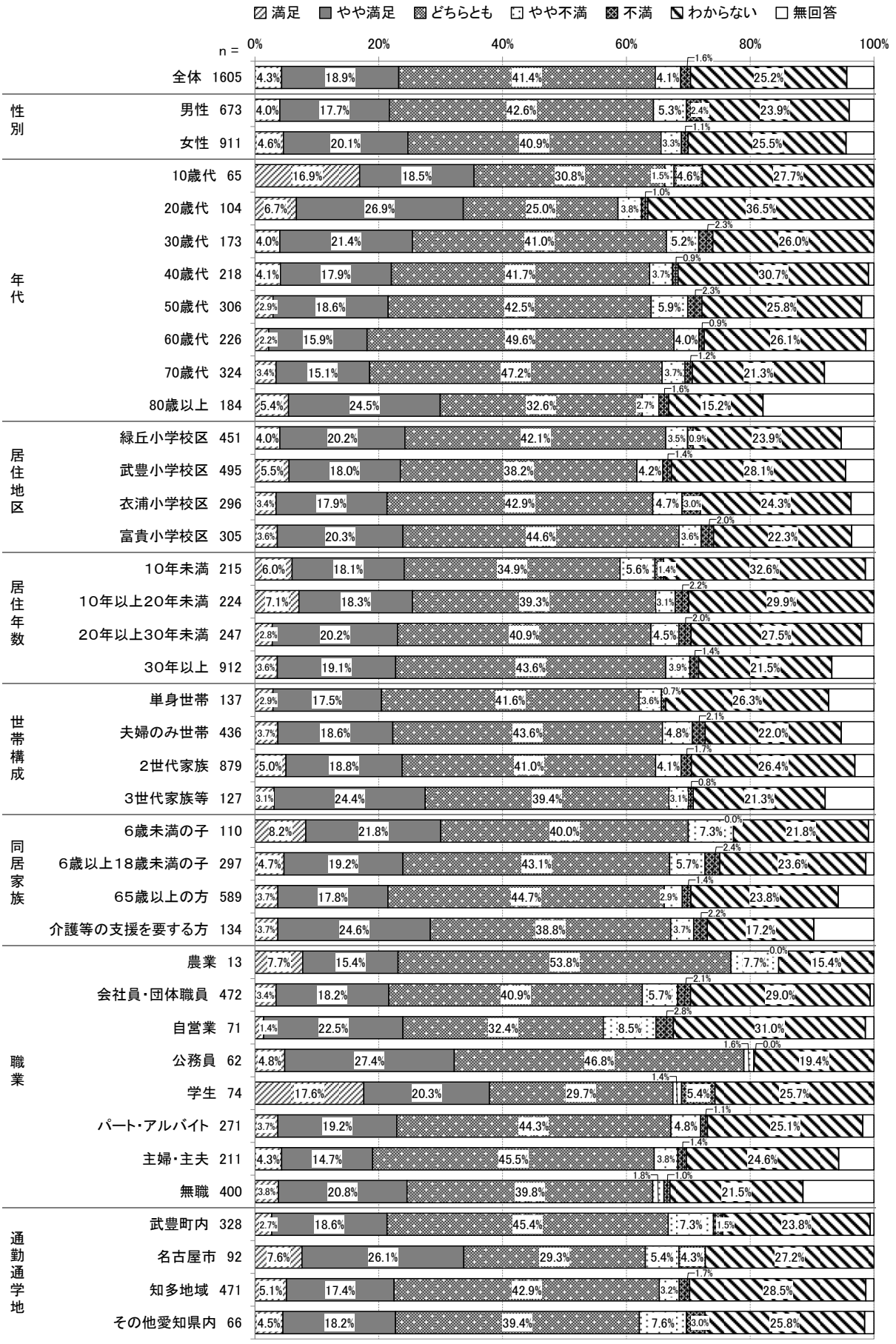
図表 1-5-36　属性別、満足度

分野８　まちづくり・地域経営　　30.町民が誇りを持って生活している



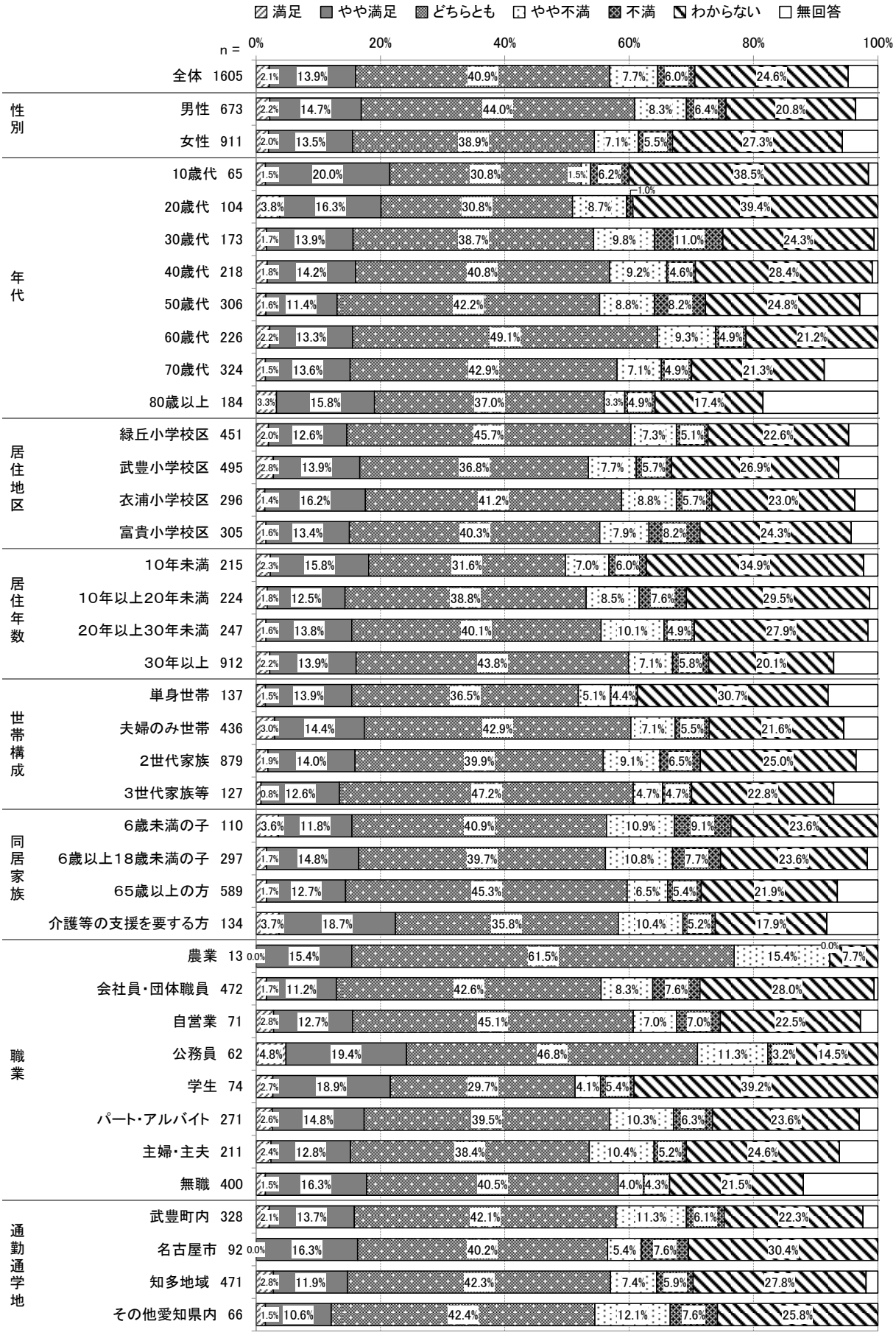
図表 1-5-37　属性別、満足度

分野８　まちづくり・地域経営　　31.町外に住む人たちから魅力的に思われている



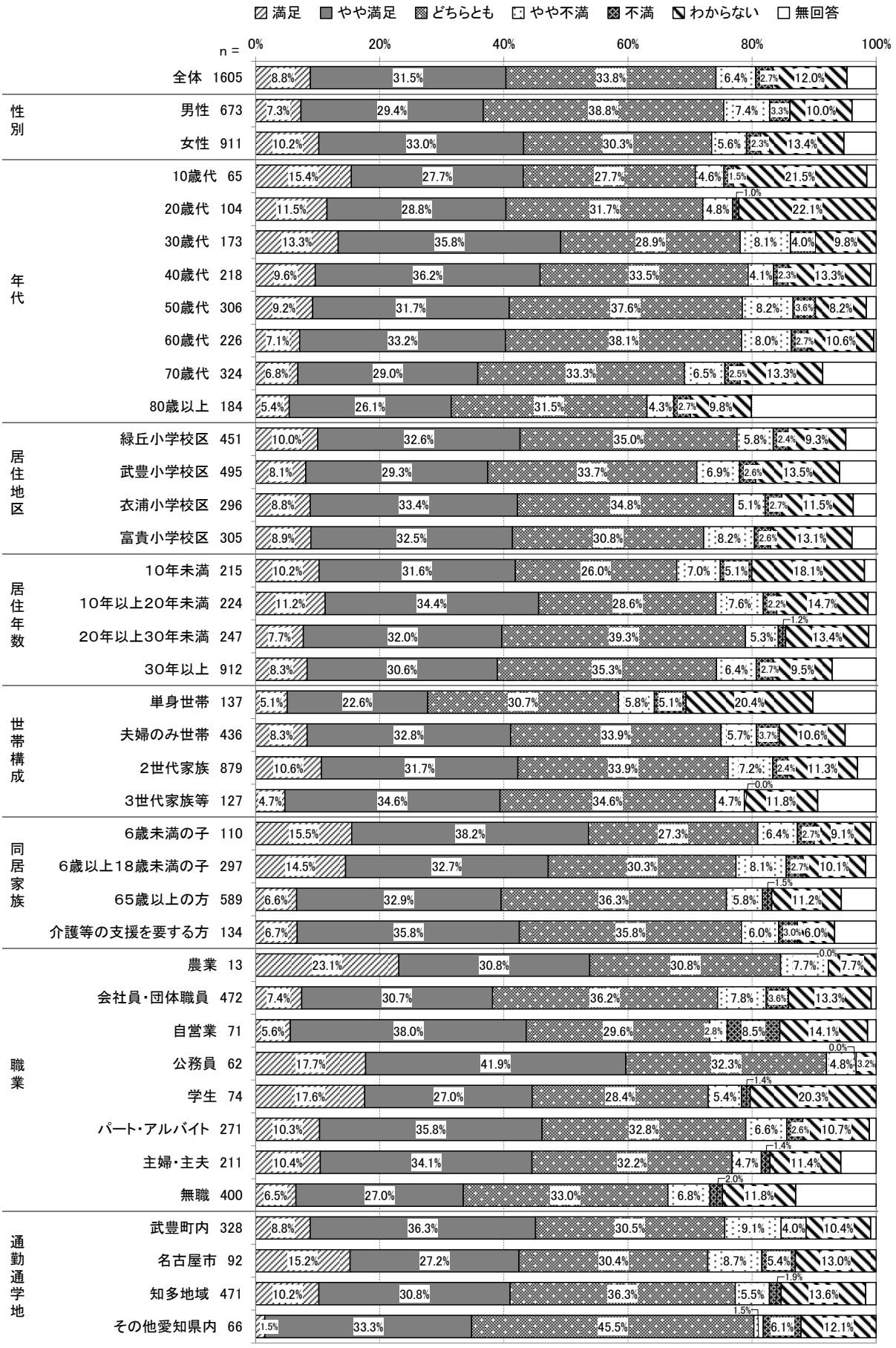
図表 1-5-38　属性別、満足度

分野９　行財政　　32.行政に町民の意向が反映されている



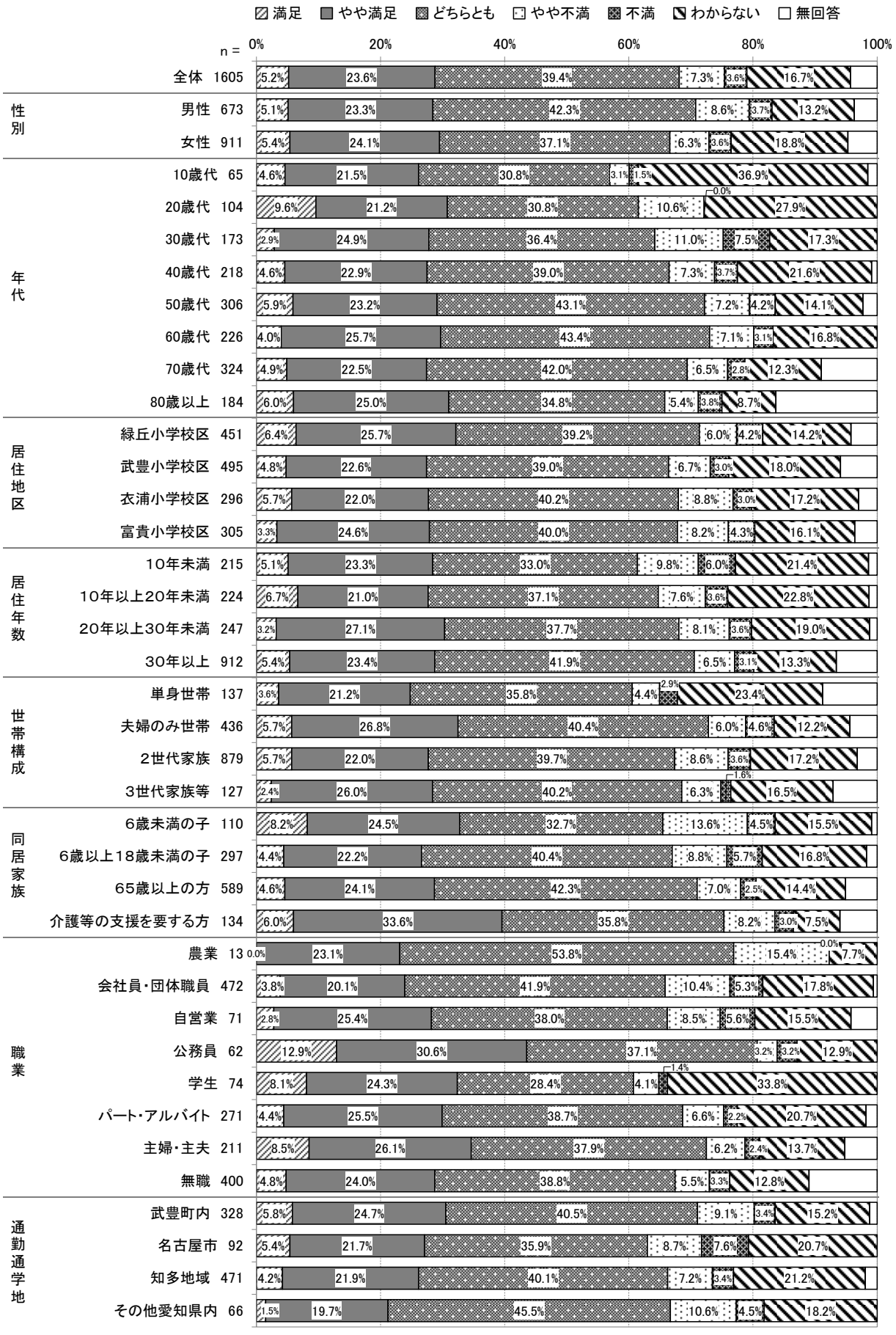
図表 1-5-39　属性別、満足度

分野９　行財政　　33.まちの情報が受け取れている



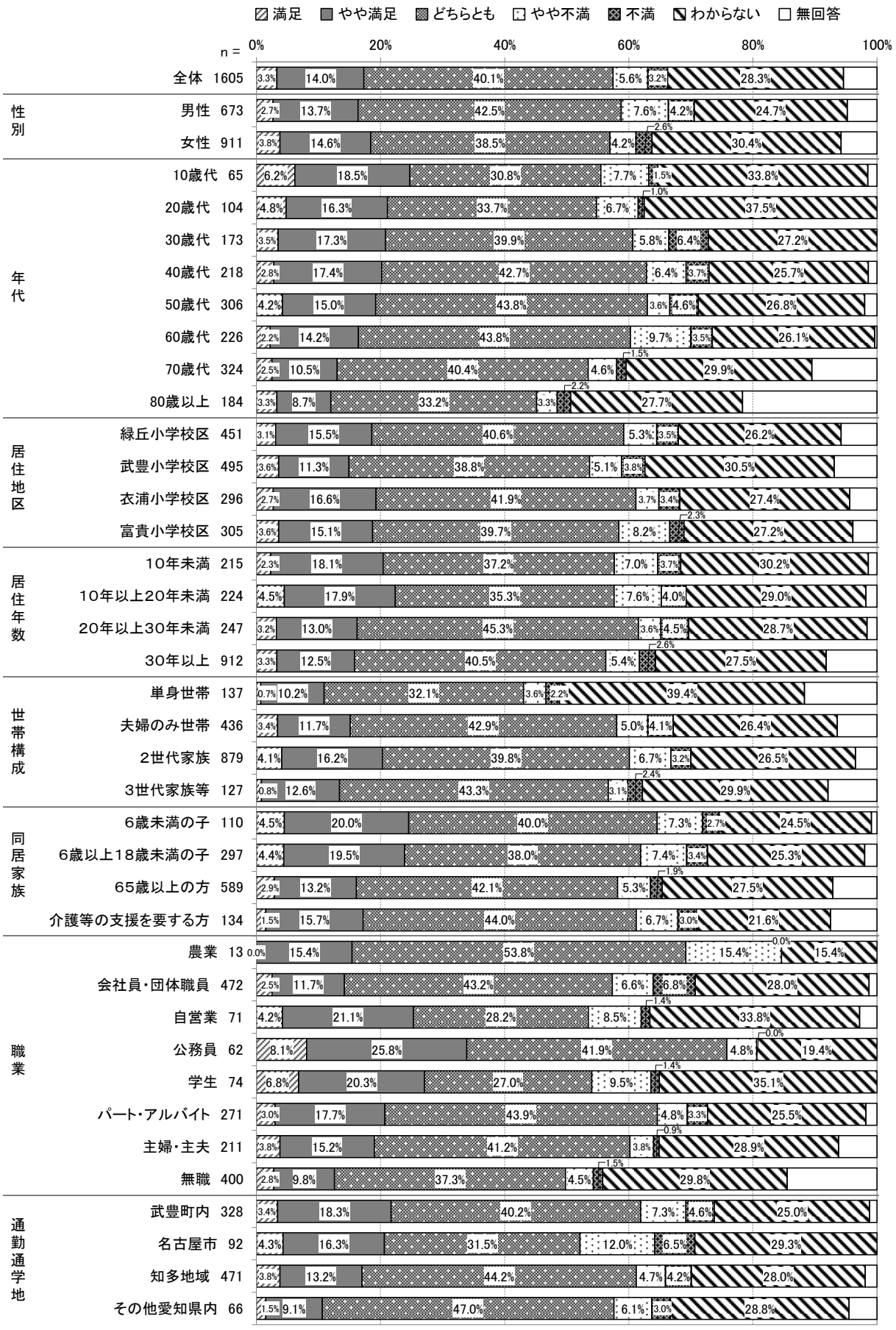
図表 1-5-40　属性別、満足度

分野９　行財政　　34.行政サービスが充実している



図表 1-5-41　属性別、満足度

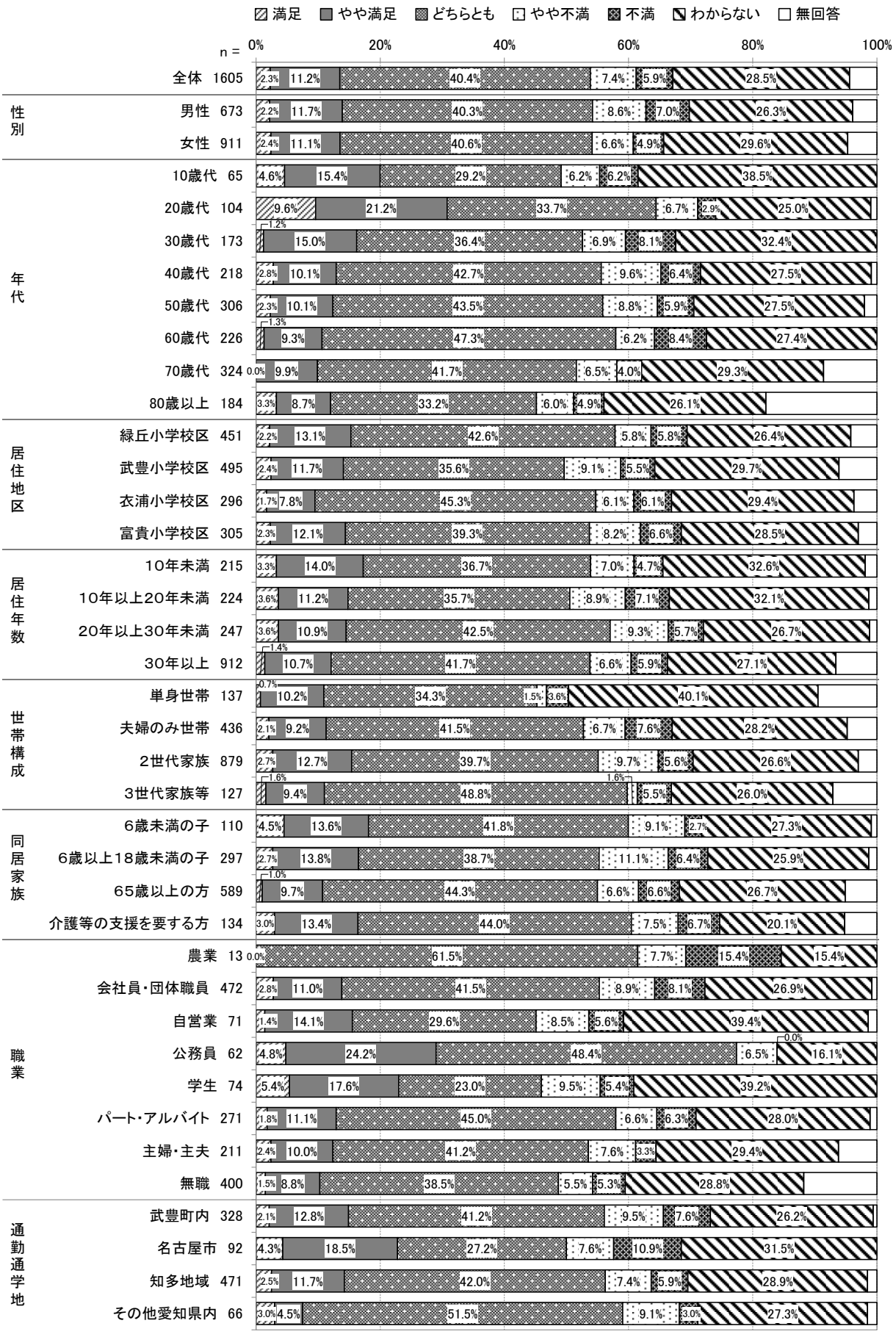
分野９　行財政　　35.デジタル機器やICT※2を活用した行政サービスが充実している



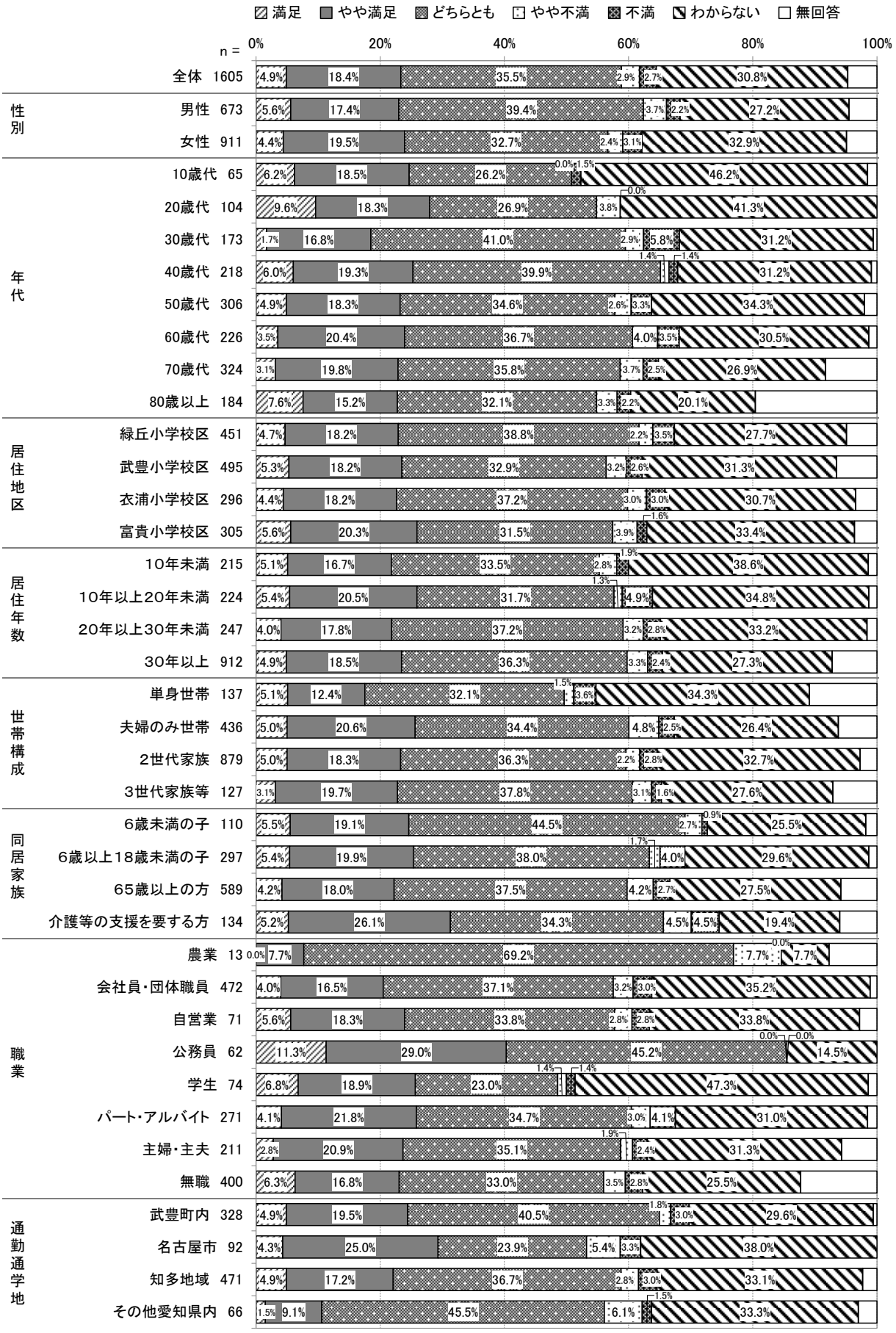
※2…Information and Communication Technology の略で、情報伝達技術、情報通信技術のこと

図表 1-5-42　属性別、満足度

分野９　行財政　　36.マイナンバーカードを活用した行政サービスが充実している



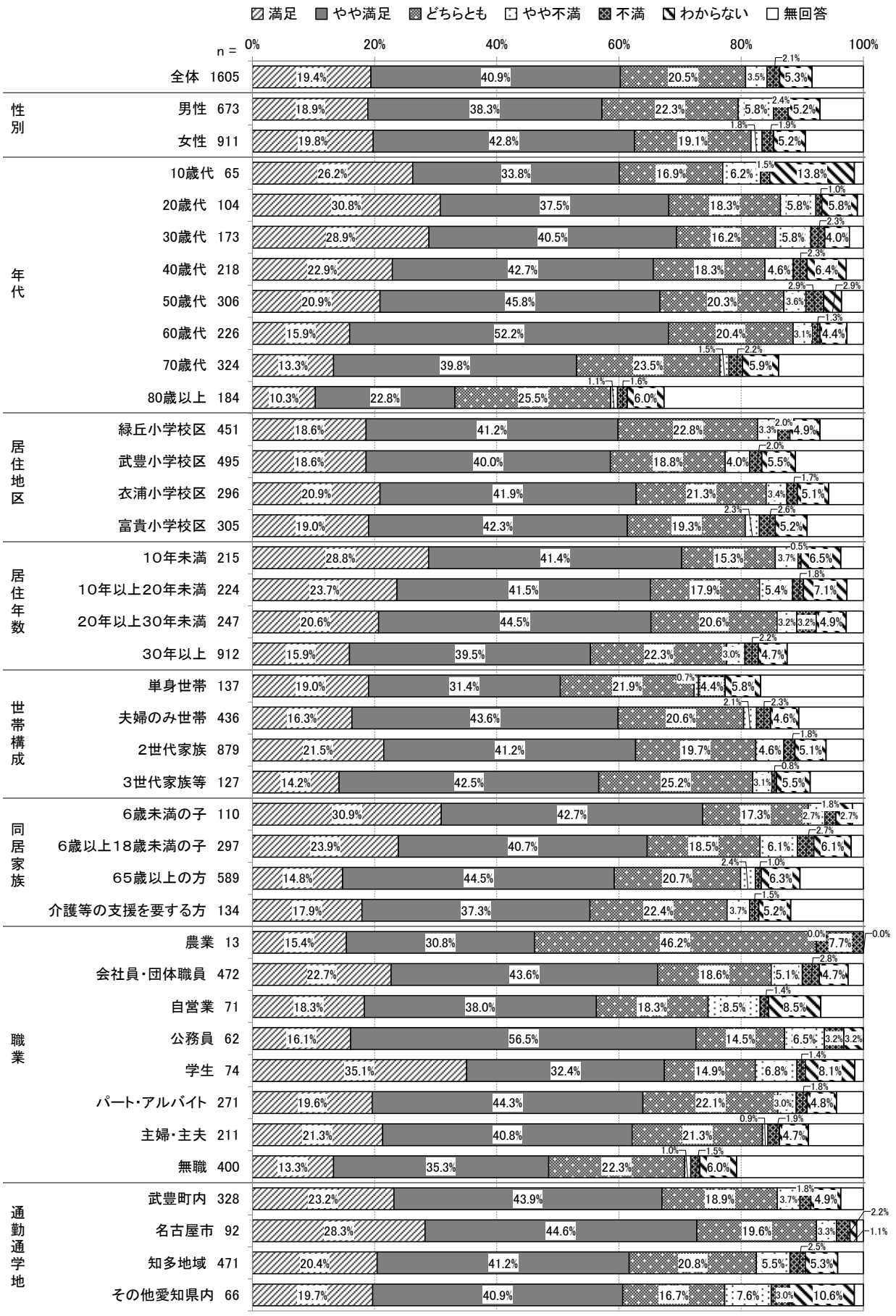
図表 1-5-43　属性別、満足度
分野９　行財政　　37.健全に行財政が運営されている



【重要度】

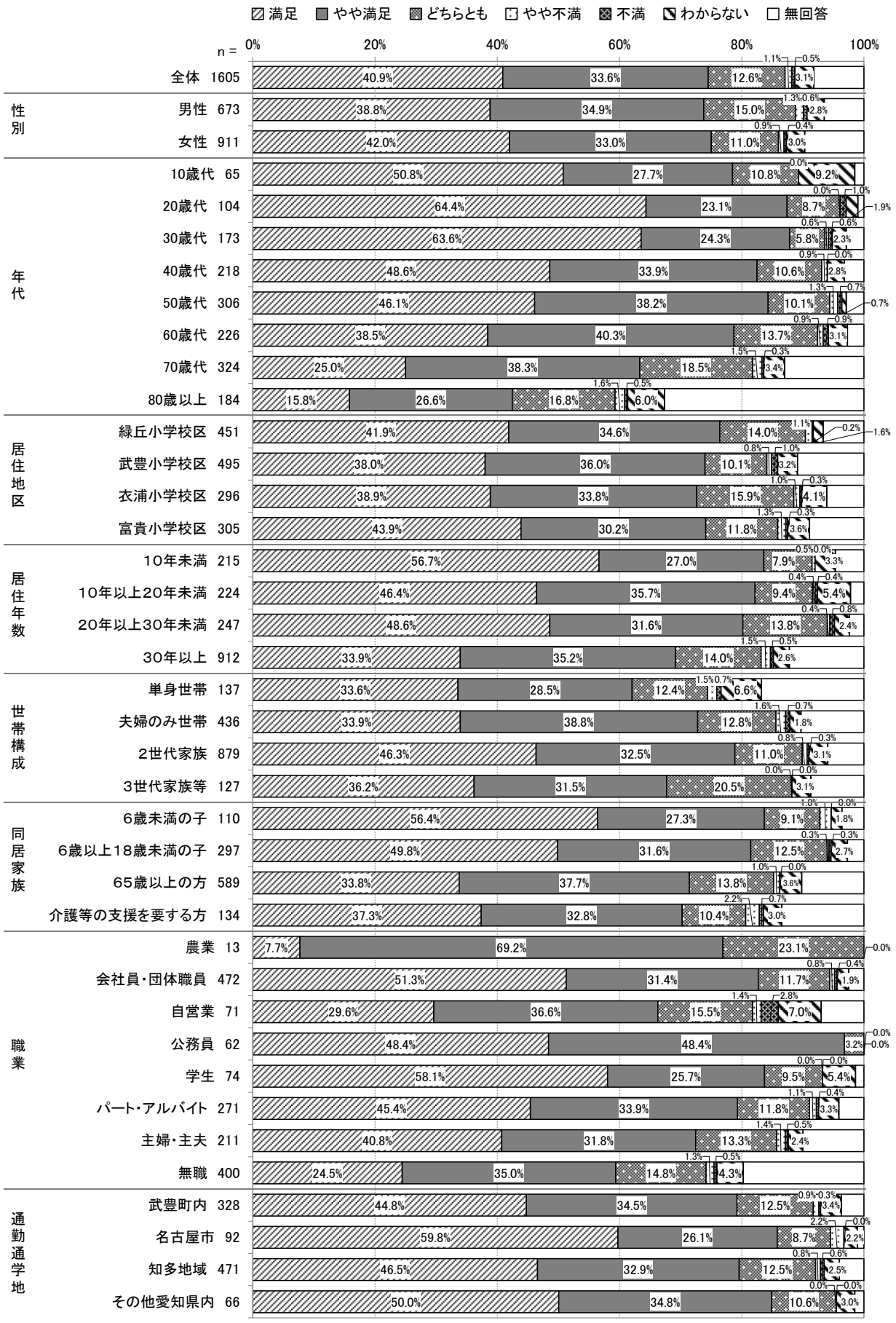
図表 1-5-44　属性別、重要度

分野１　都市環境　　1.中心市街地がにぎやかに活気づいている



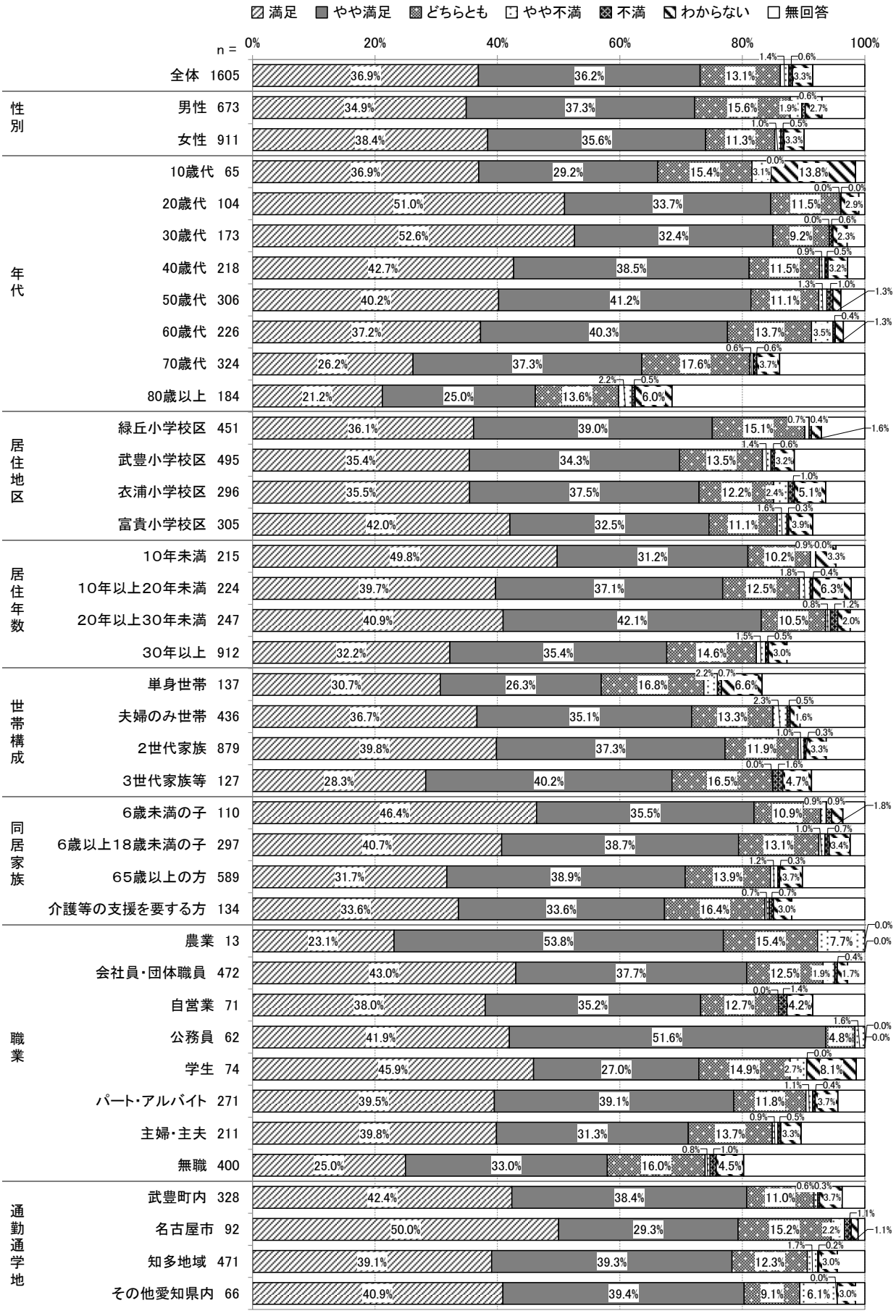
図表 1-5-45　属性別、重要度

分野１　都市環境　　2.暮らしやすい住環境が整っている



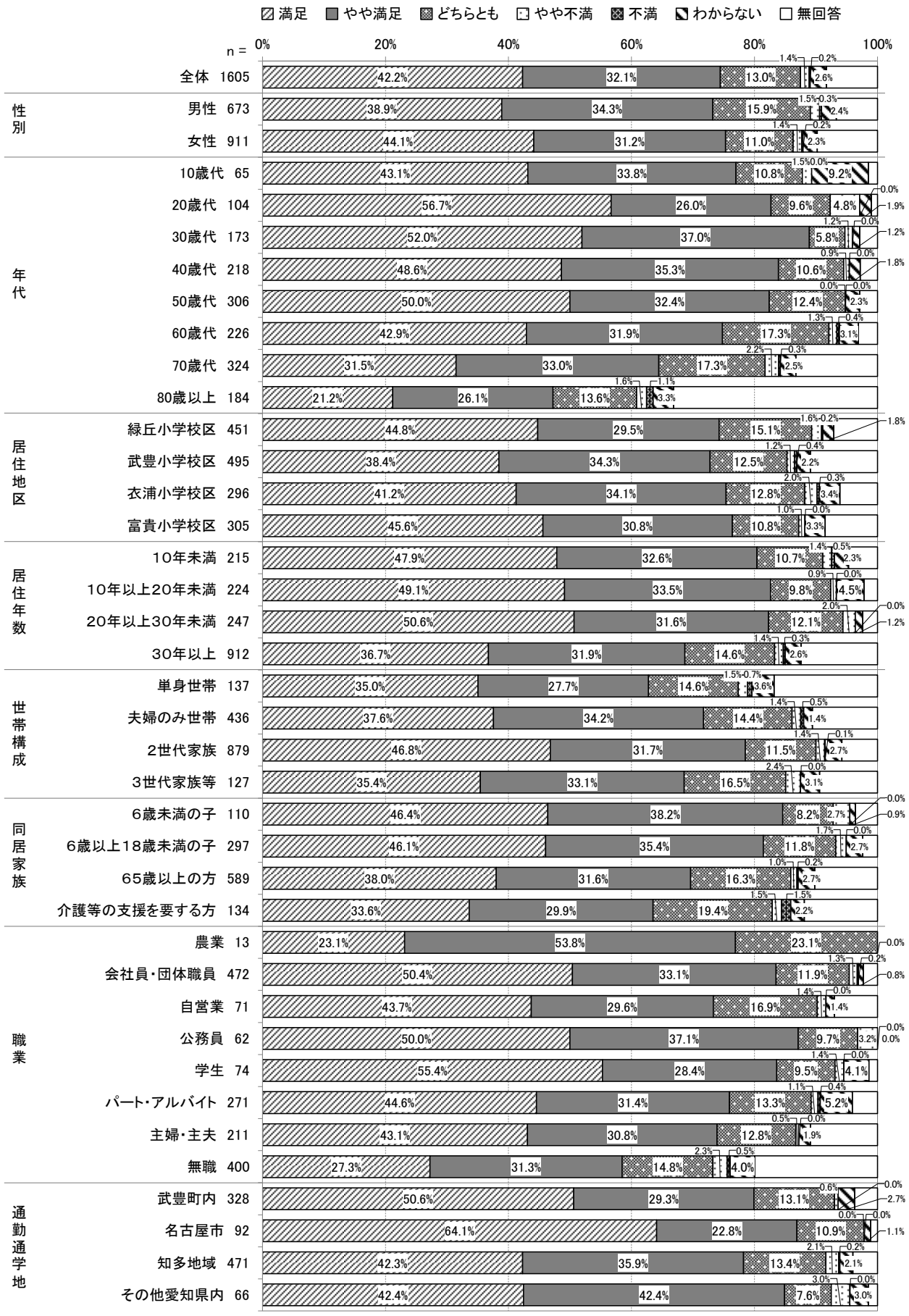
図表 1-5-46　属性別、重要度

分野１　都市環境　　3.幹線道路が整備され車で移動しやすい



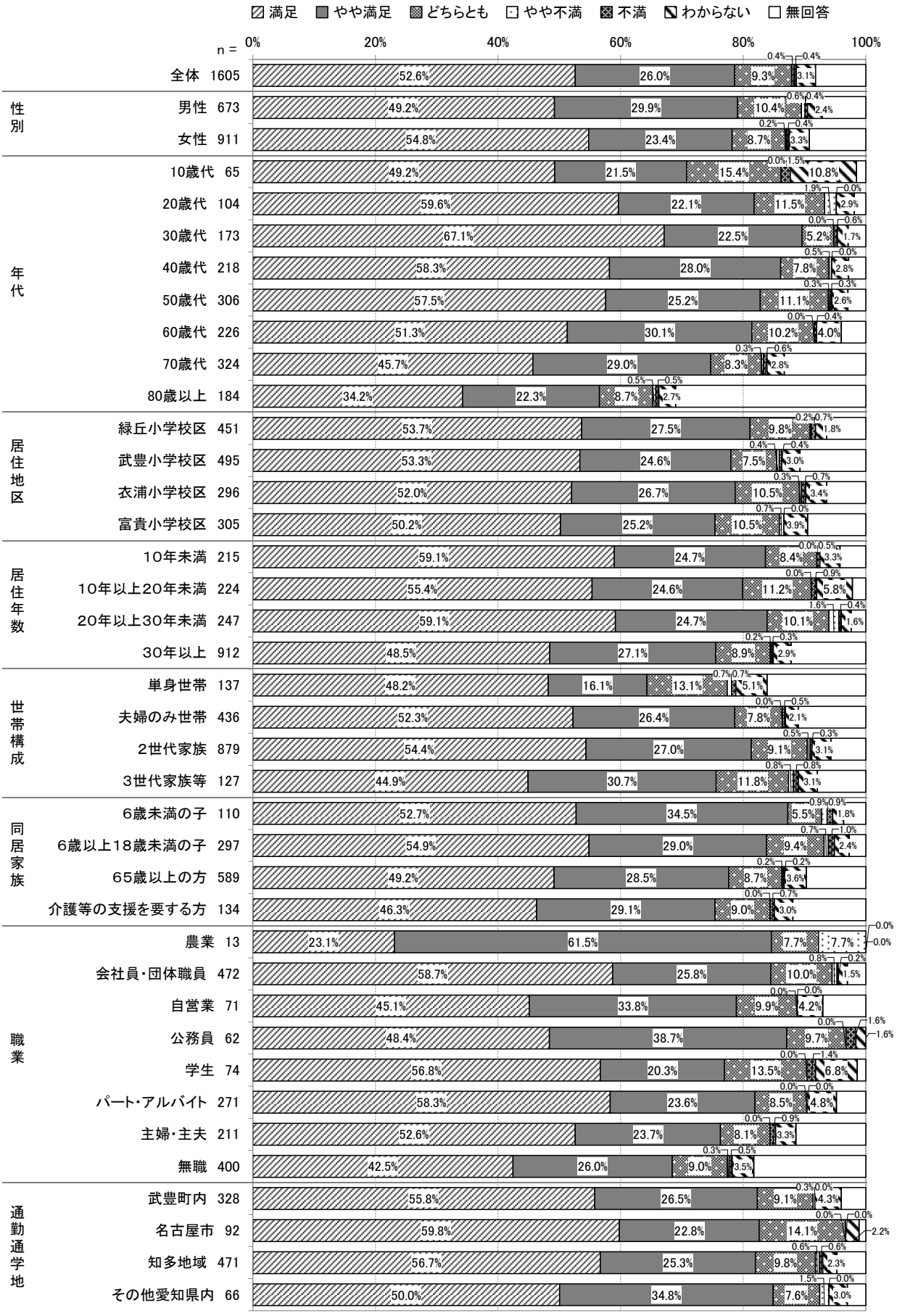
図表 1-5-47　属性別、重要度

分野１　都市環境　　4.公共交通機関が利用しやすく便利である

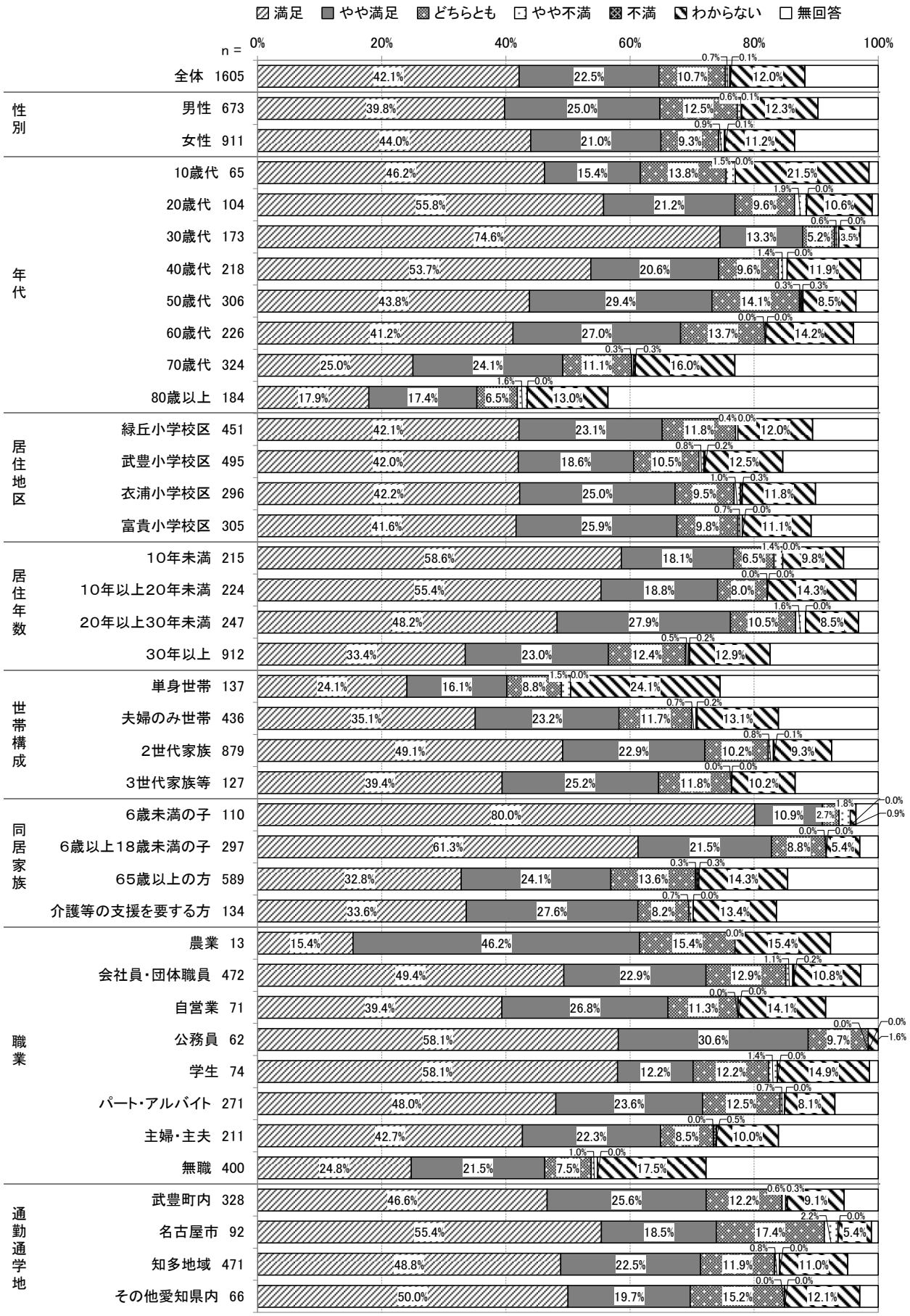


図表 1-5-48　属性別、重要度

分野１　都市環境　　5.安全で安定した上下水道が利用できる

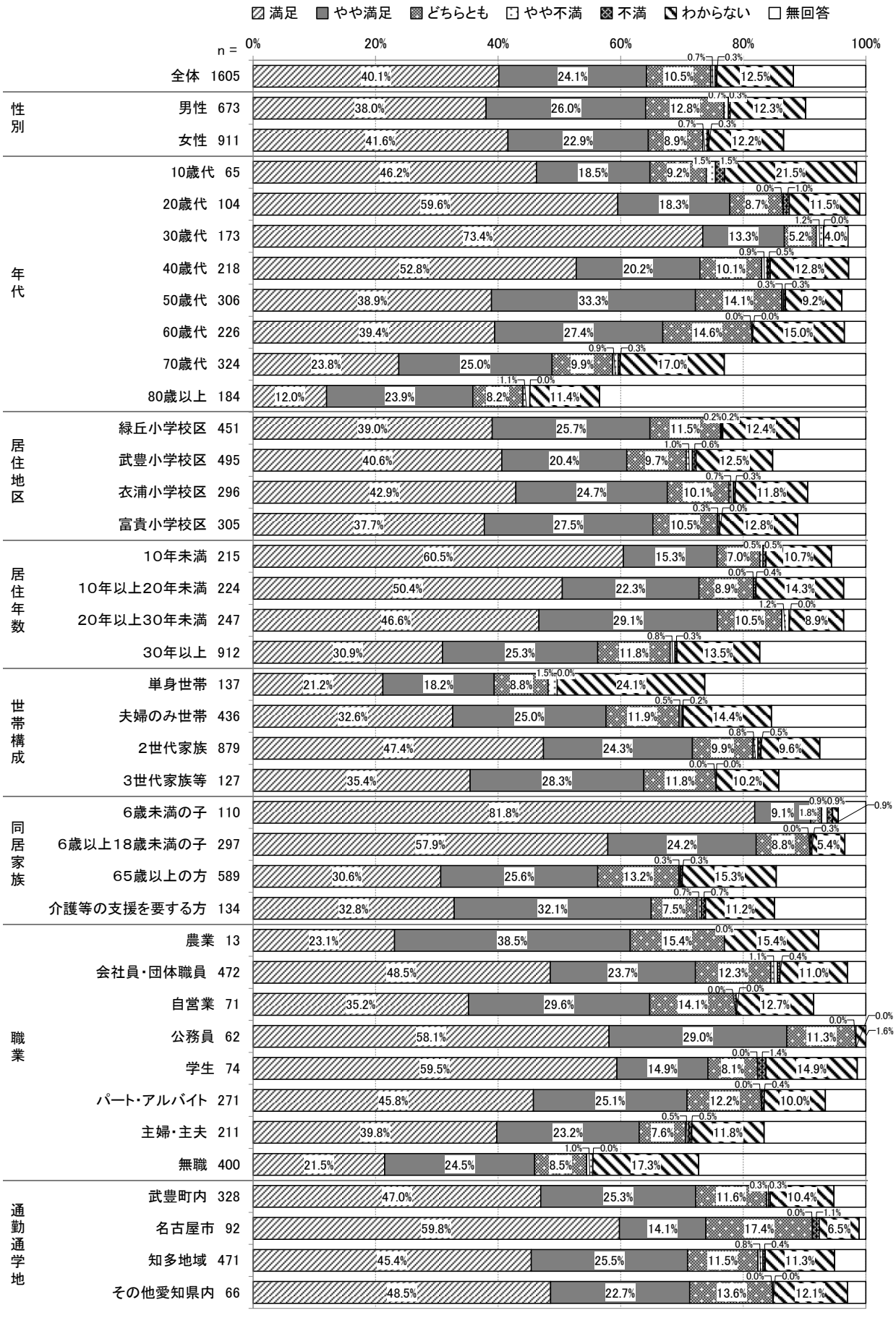


図表 1-5-49　属性別、重要度
分野２　子ども　　6.子育てがしやすい



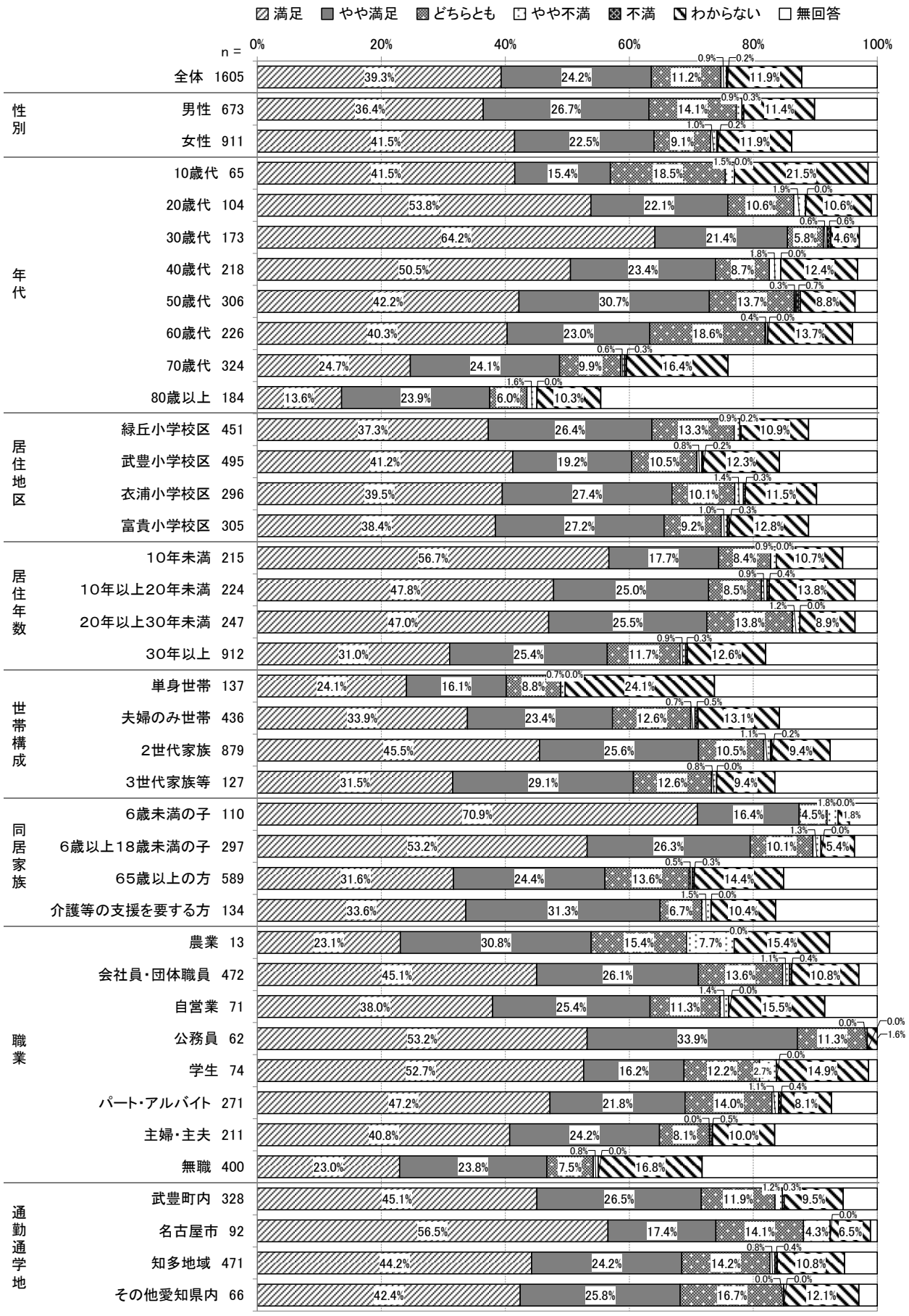
図表 1-5-50　属性別、重要度

分野２　子ども　　7.子育て世代へのサポートが充実している



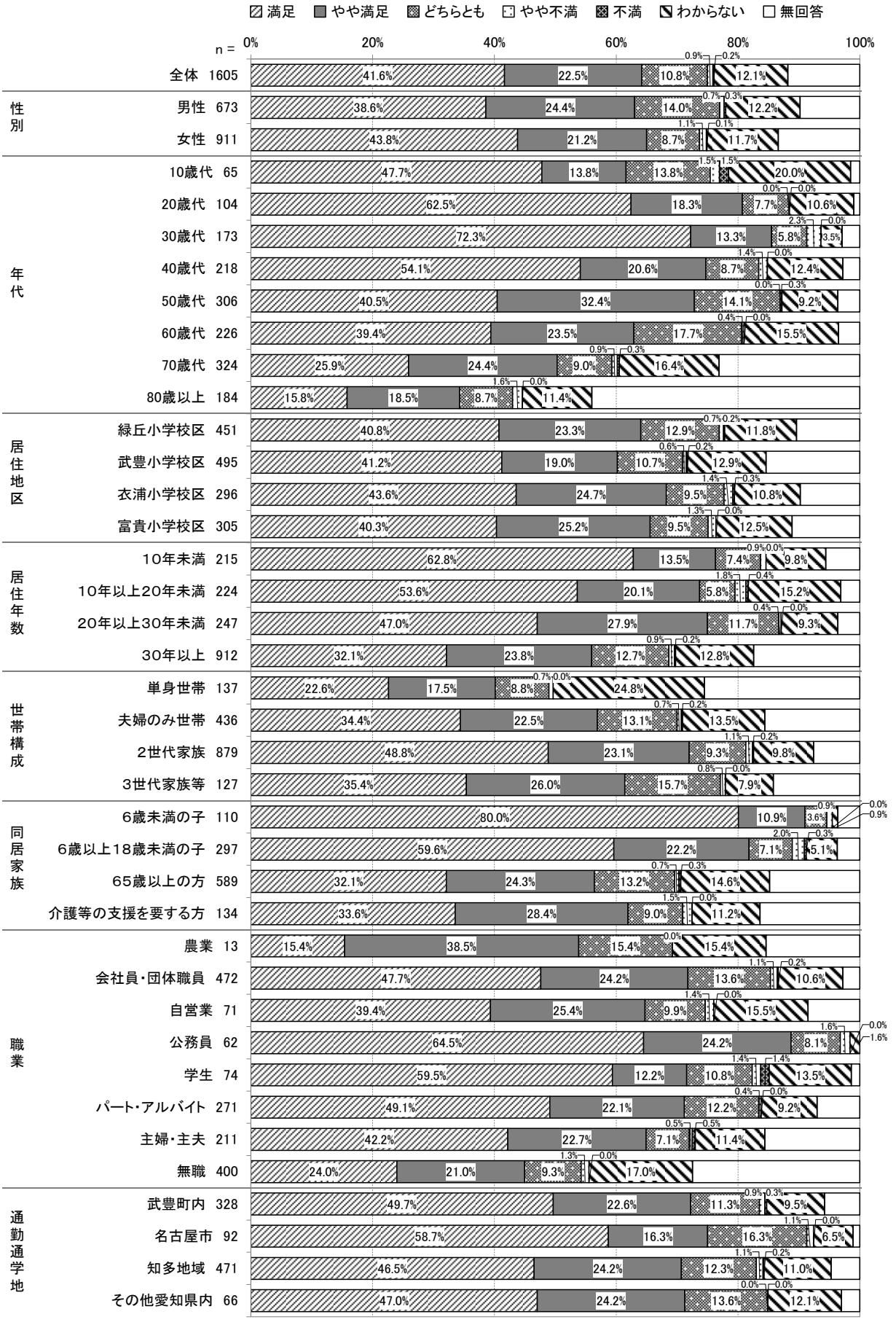
図表 1-5-51　属性別、重要度

分野２　子ども　　8.地域の子どもたちが健やかに育っている



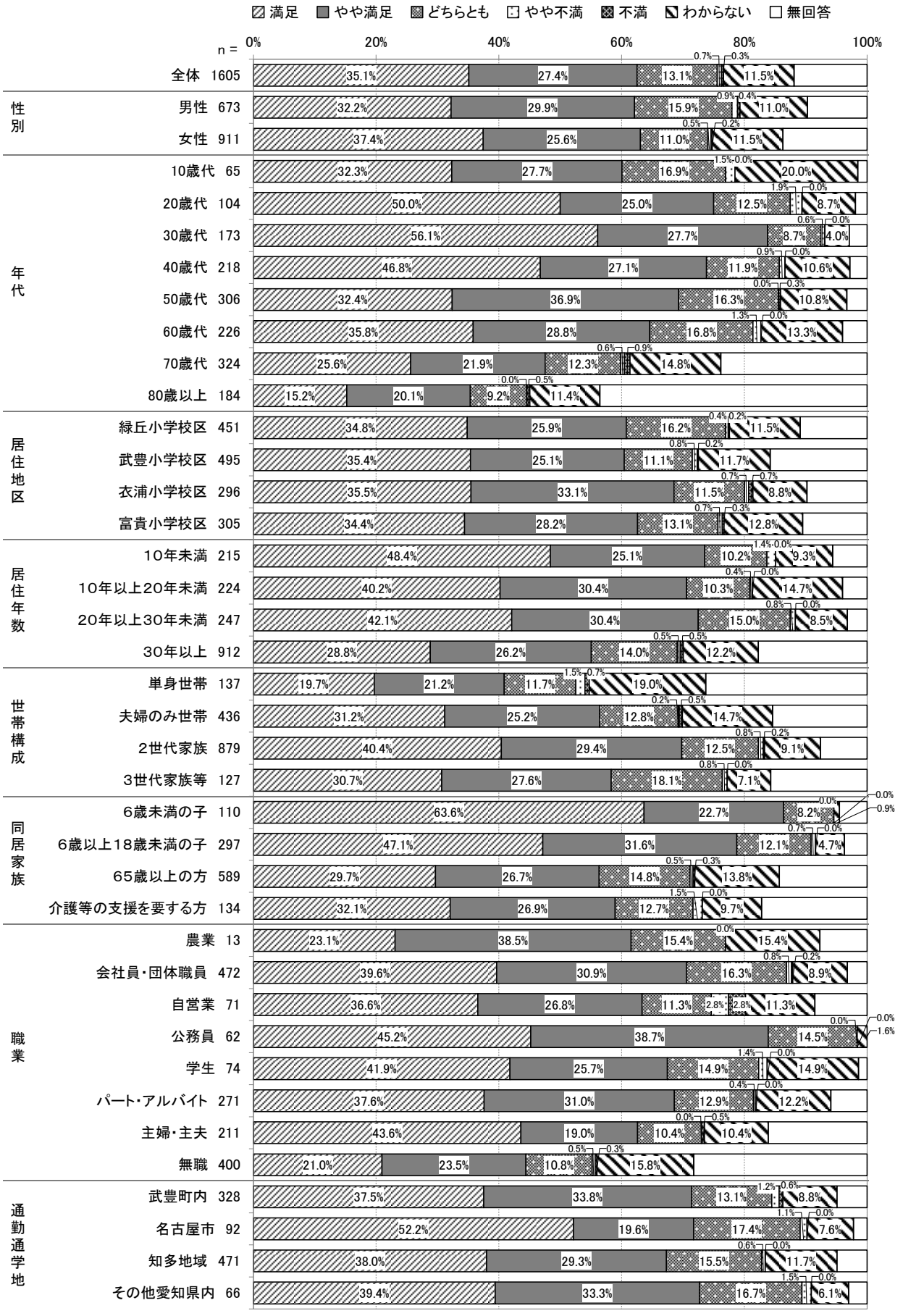
図表 1-5-52　属性別、重要度

分野２　子ども　　9.子育て世帯が安心して生活している



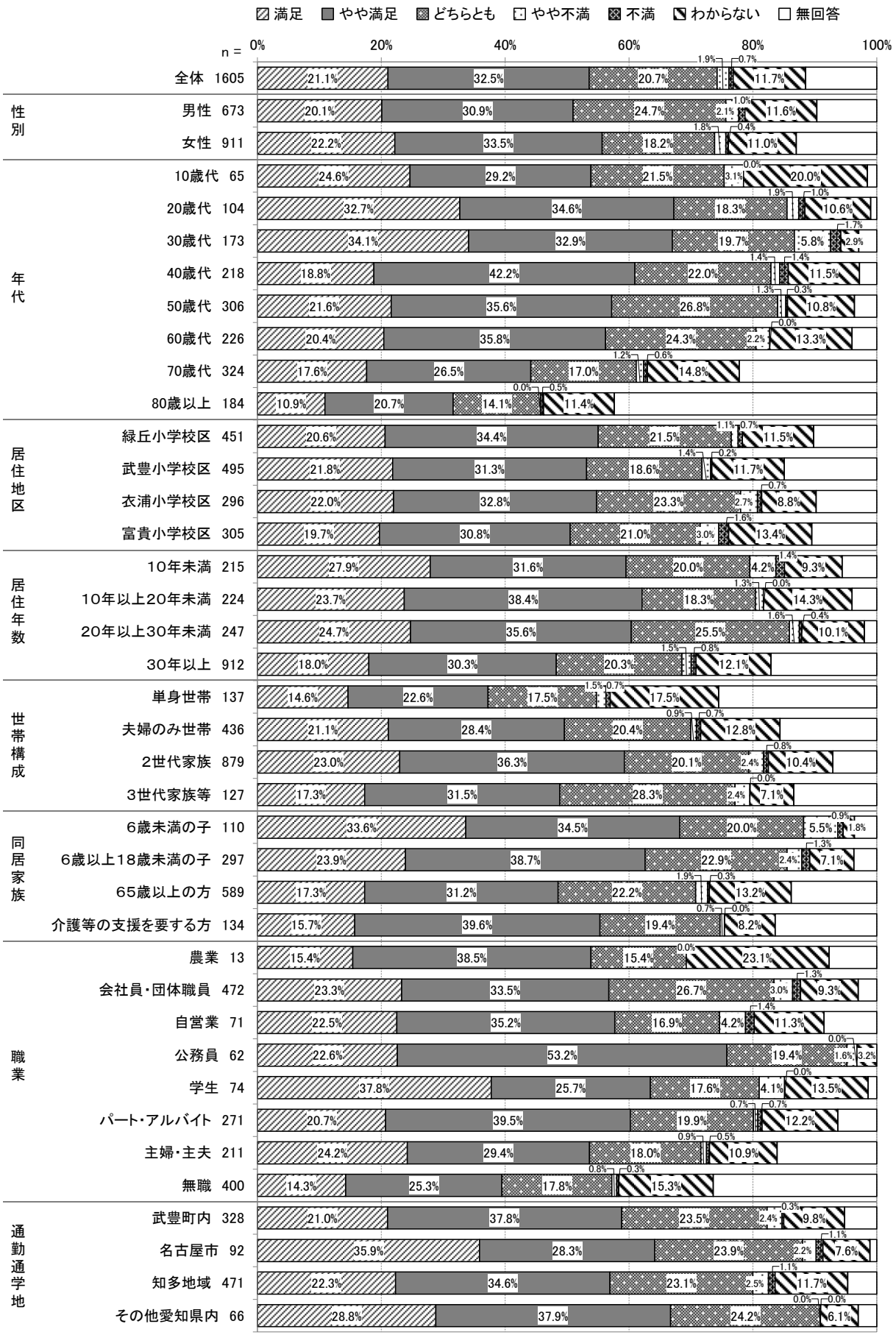
図表 1-5-53　属性別、重要度

分野３　学び　　10.学校･家庭･地域･行政が連携して子どもの成長を支えている



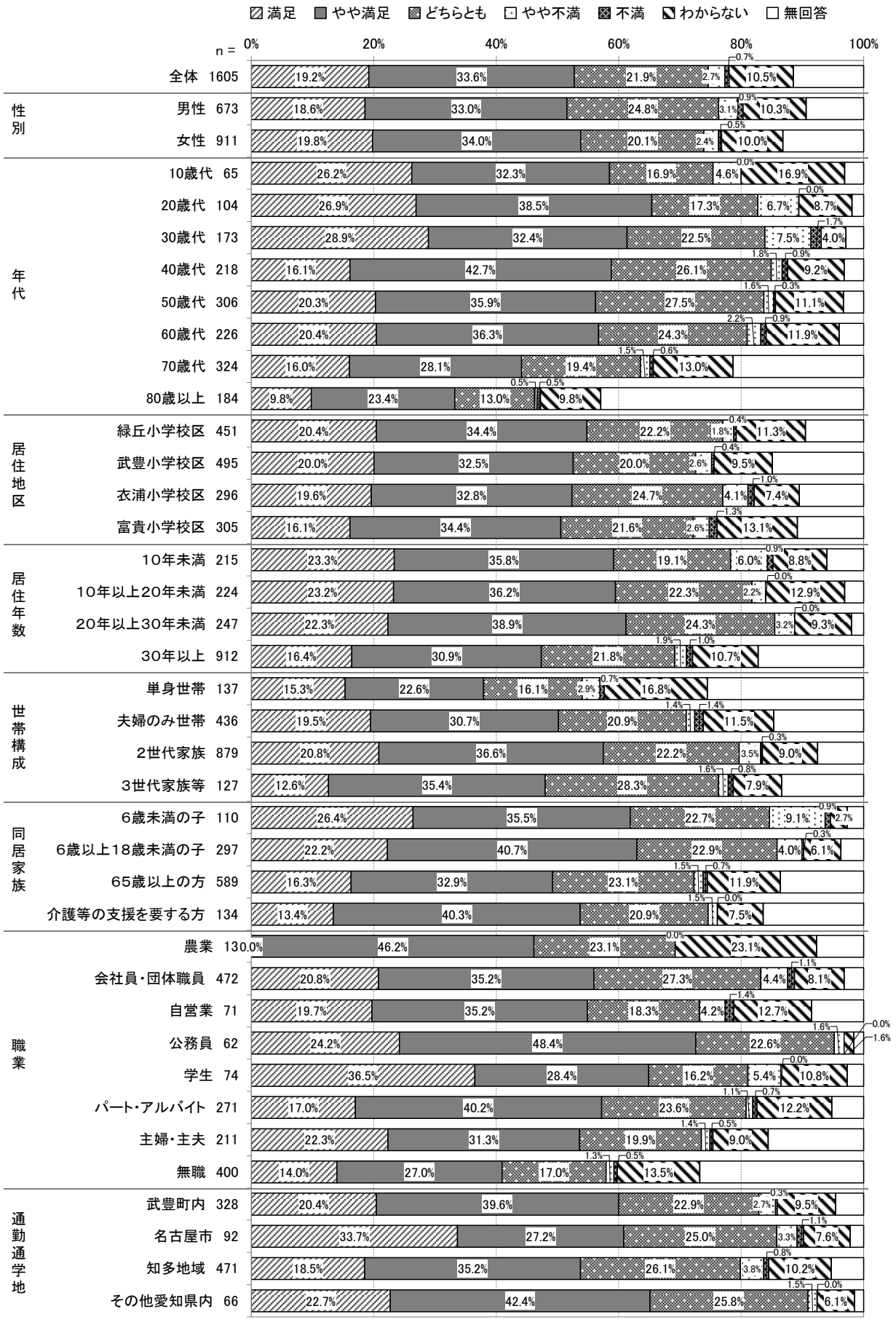
図表 1-5-54　属性別、重要度

分野３　学び　　11.誰もが気軽に生涯学習に取り組み、交流できる



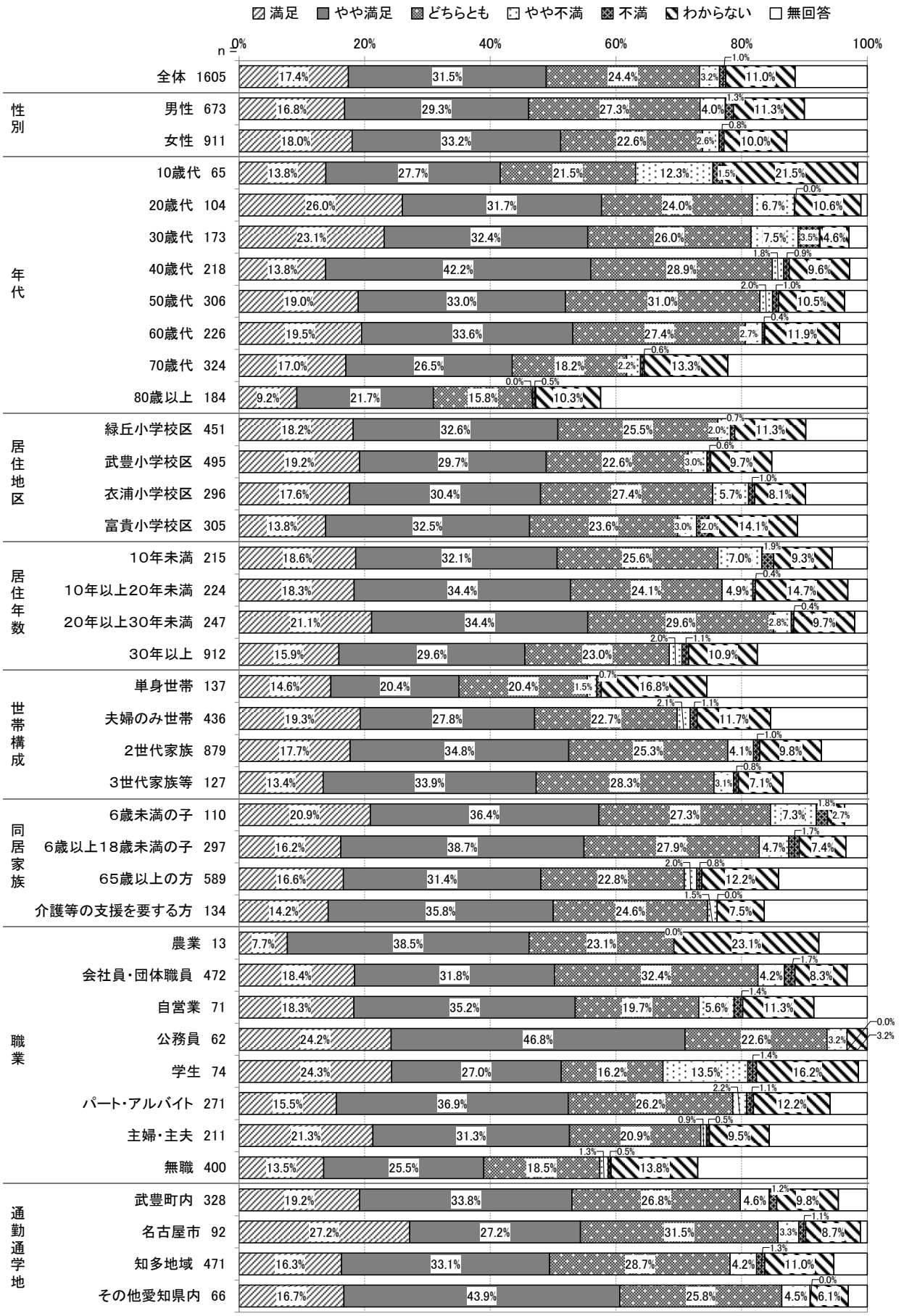
図表 1-5-55　属性別、重要度

分野３　学び　　12.誰もが気軽にスポーツ活動に参加できる



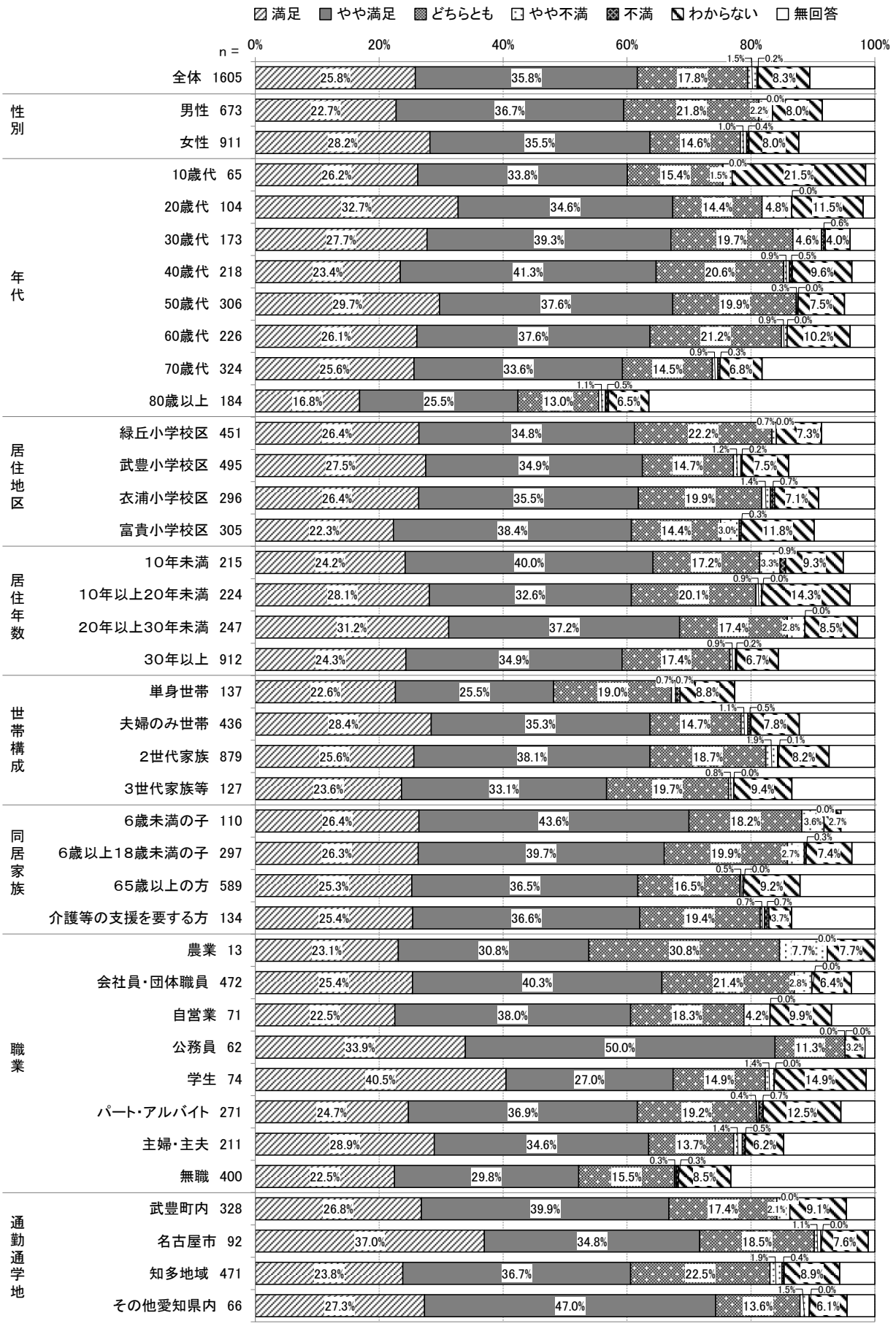
図表 1-5-56　属性別、重要度

分野３　学び　　13.誰もが気軽に文化芸術活動に触れあえる



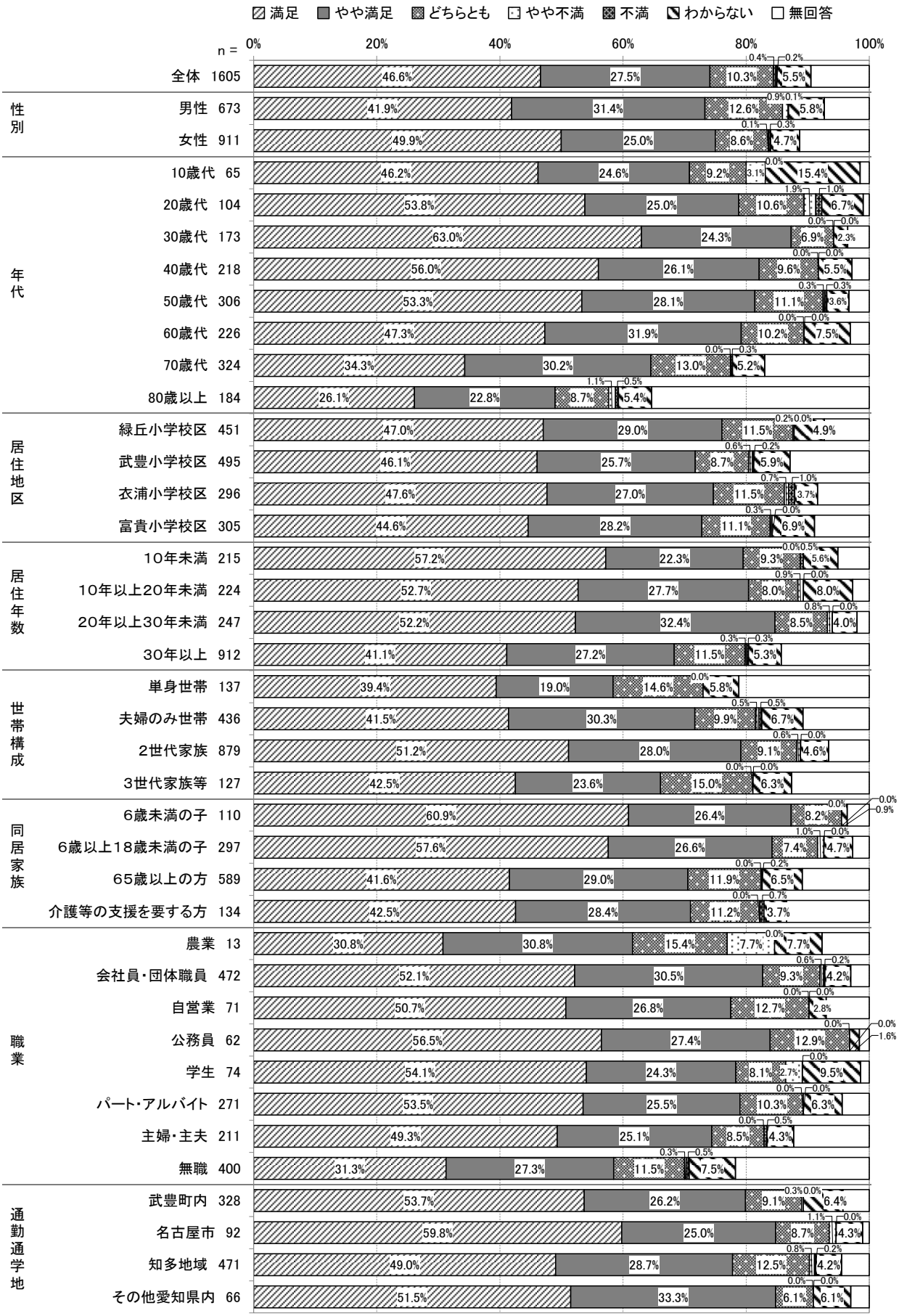
図表 1-5-57　属性別、重要度

分野４　健康・福祉　　14.健康づくりの機会や対応が充実している



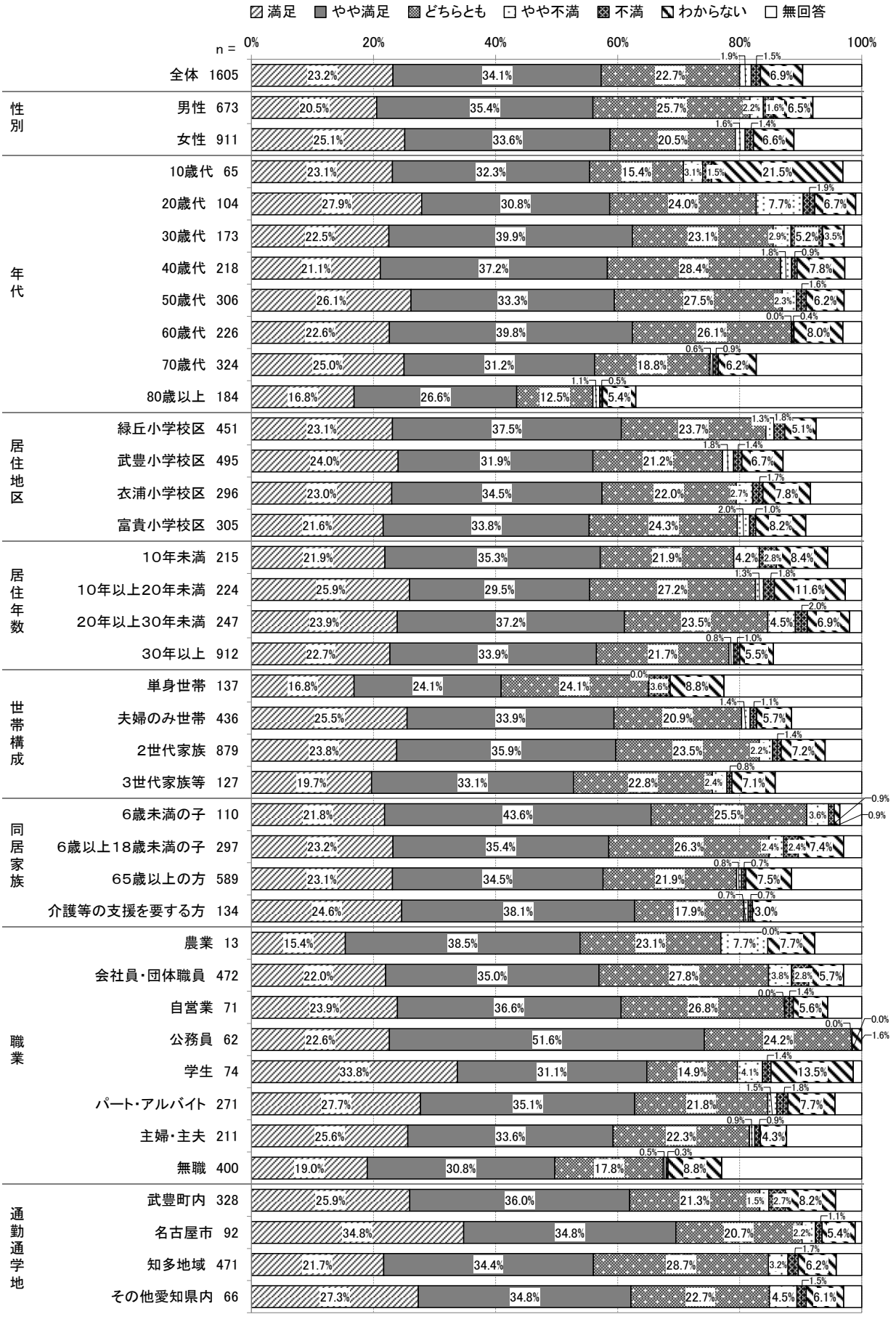
図表 1-5-58　属性別、重要度

分野４　健康・福祉　　15.病院や休日診療などを受診しやすい



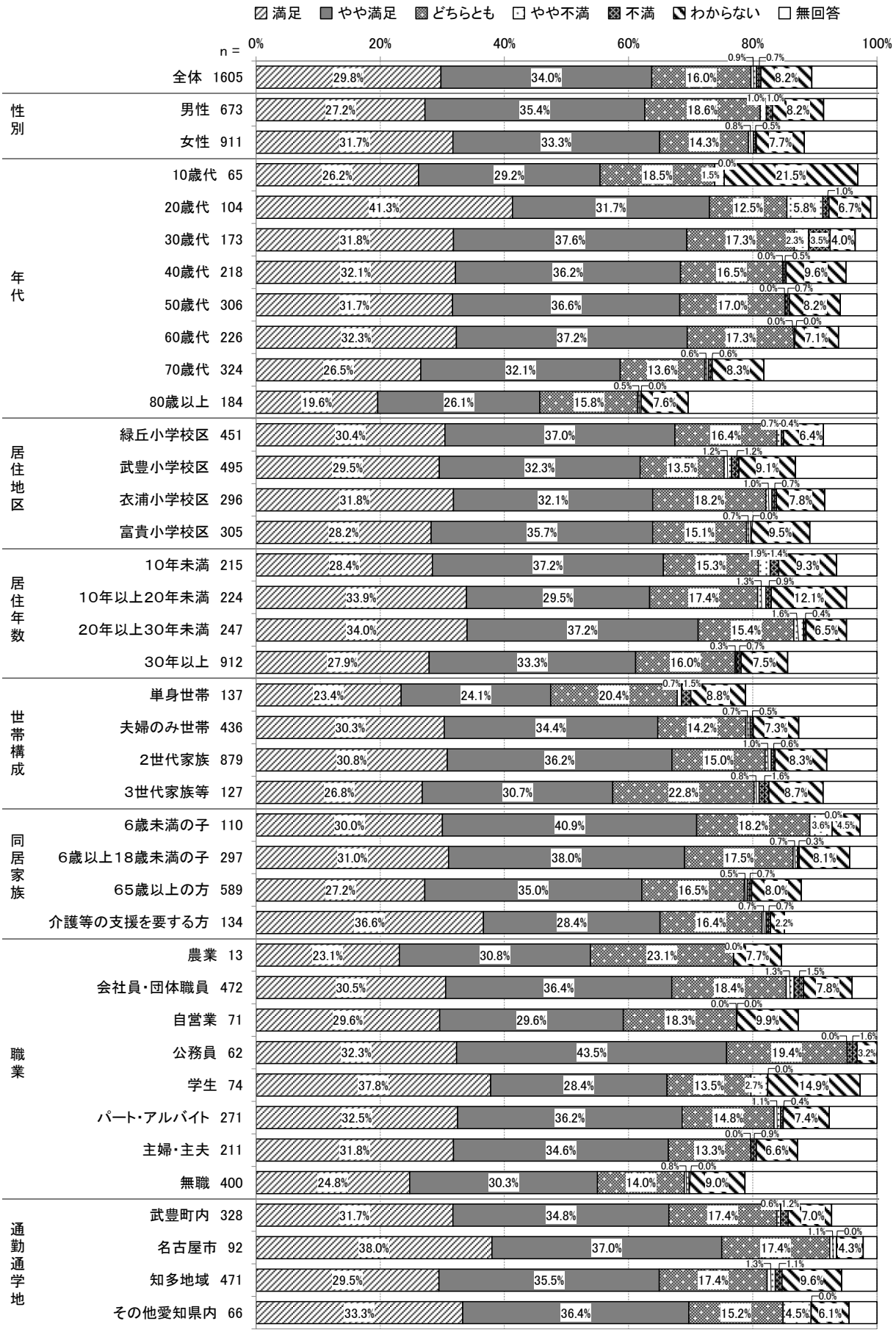
図表 1-5-59　属性別、重要度

分野４　健康・福祉　　16.近所で共に助け合い、支え合う関わりがある



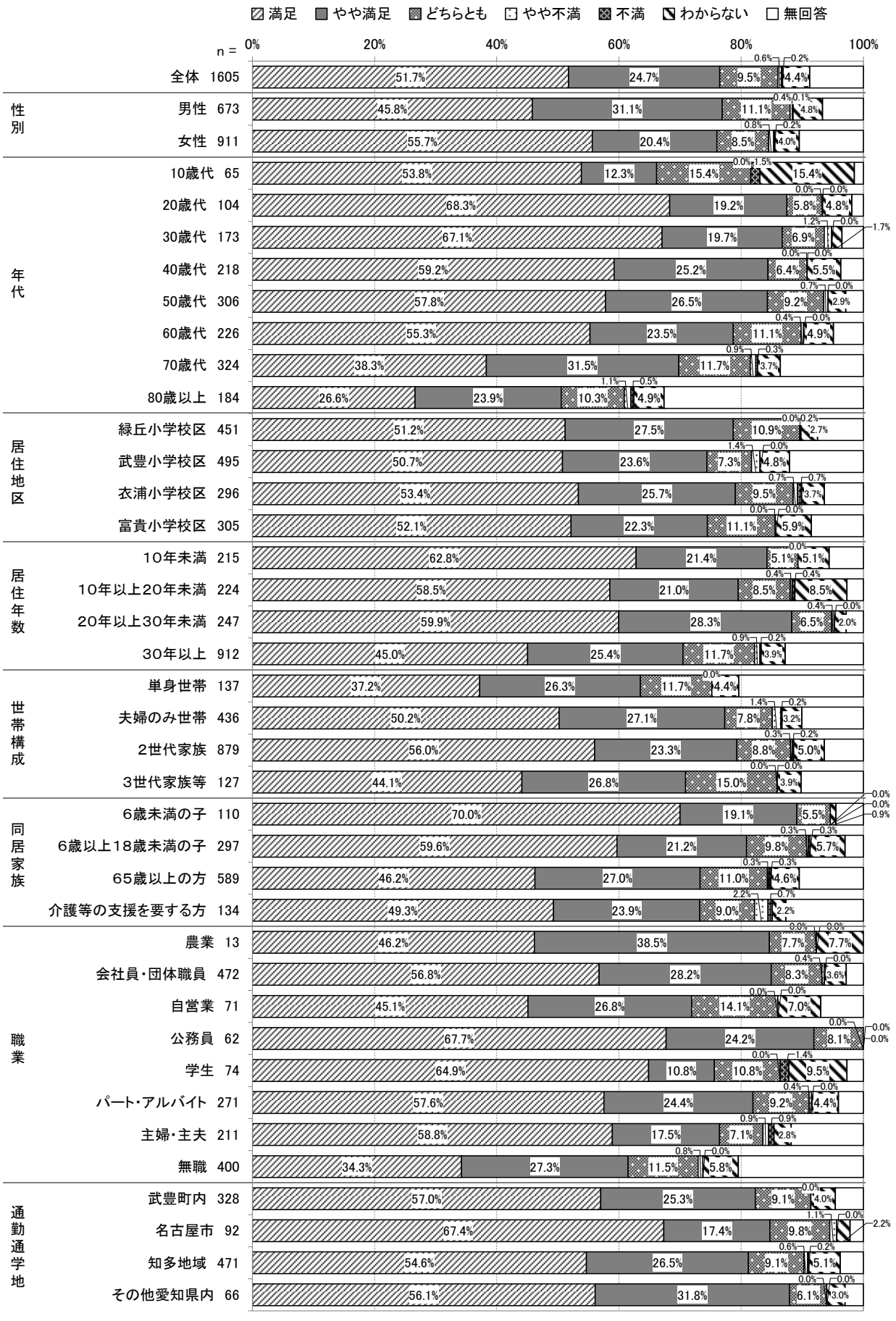
図表 1-5-60　属性別、重要度

分野４　健康・福祉　　17.高齢者や障がい者がいきいきと暮らしている



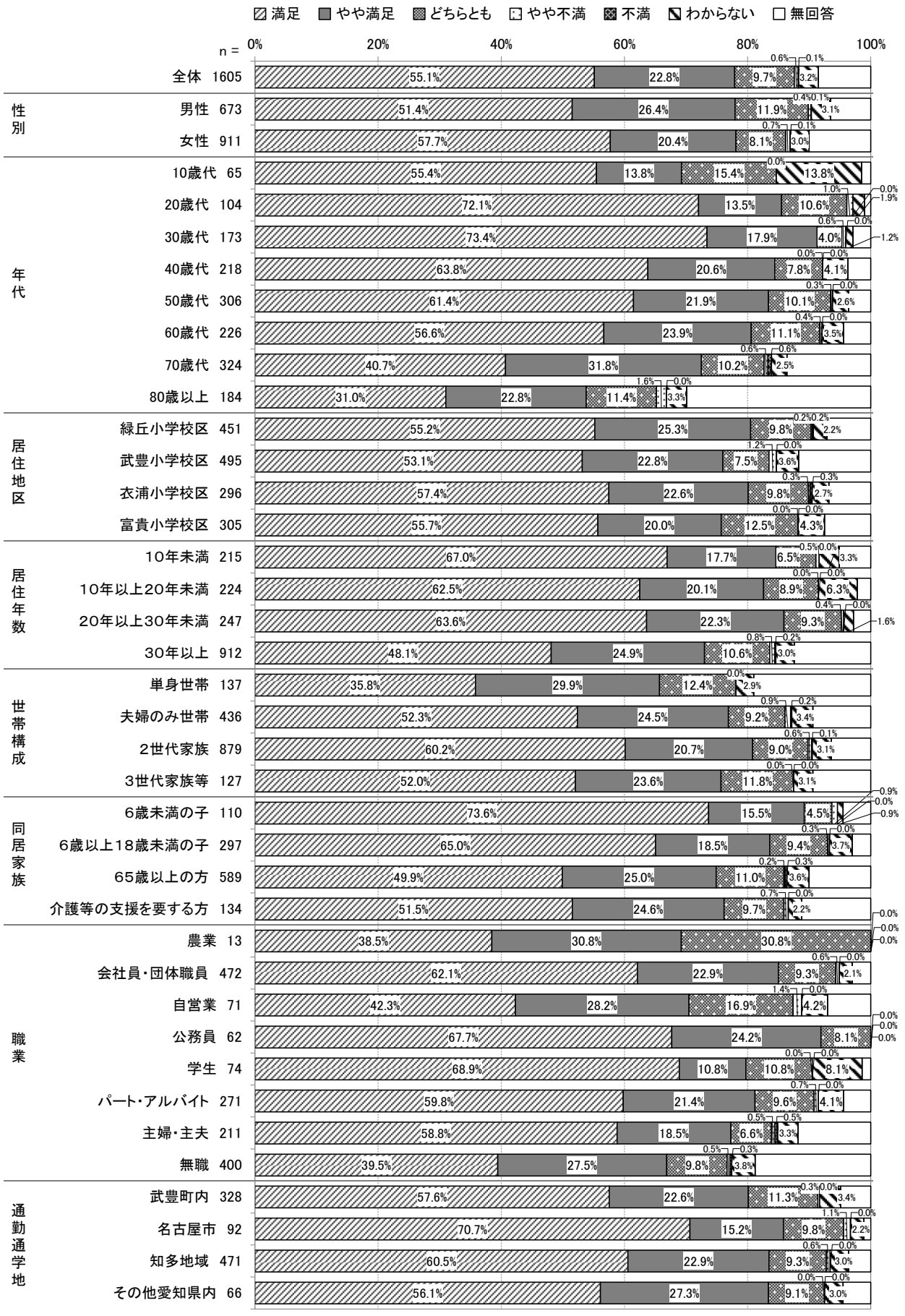
図表 1-5-61　属性別、重要度

分野５　安全・安心　　18.災害への備えや安全性が確保されている



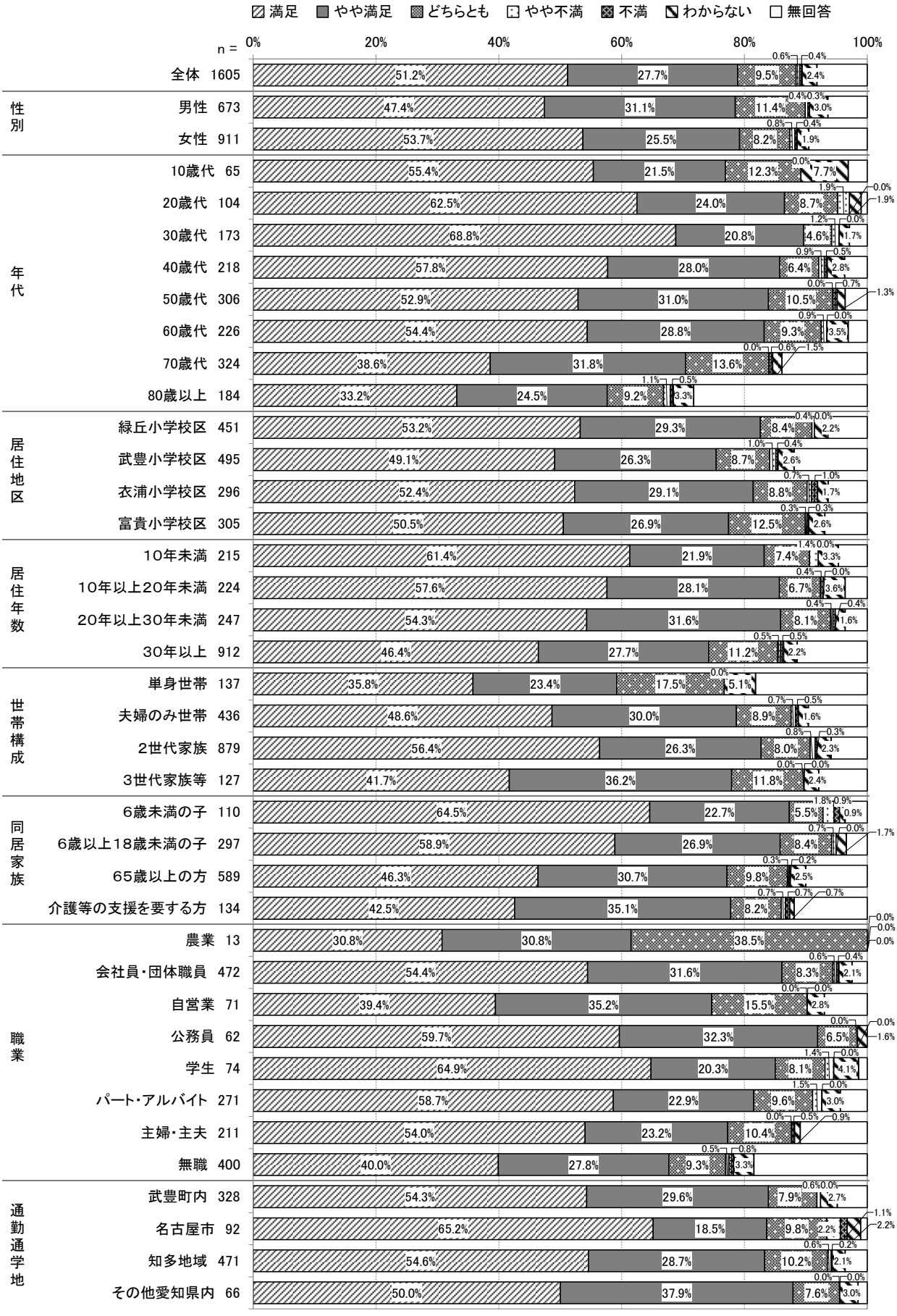
図表 1-5-62　属性別、重要度

分野５　安全・安心　　19.犯罪がなく、安全・安心が確保されている



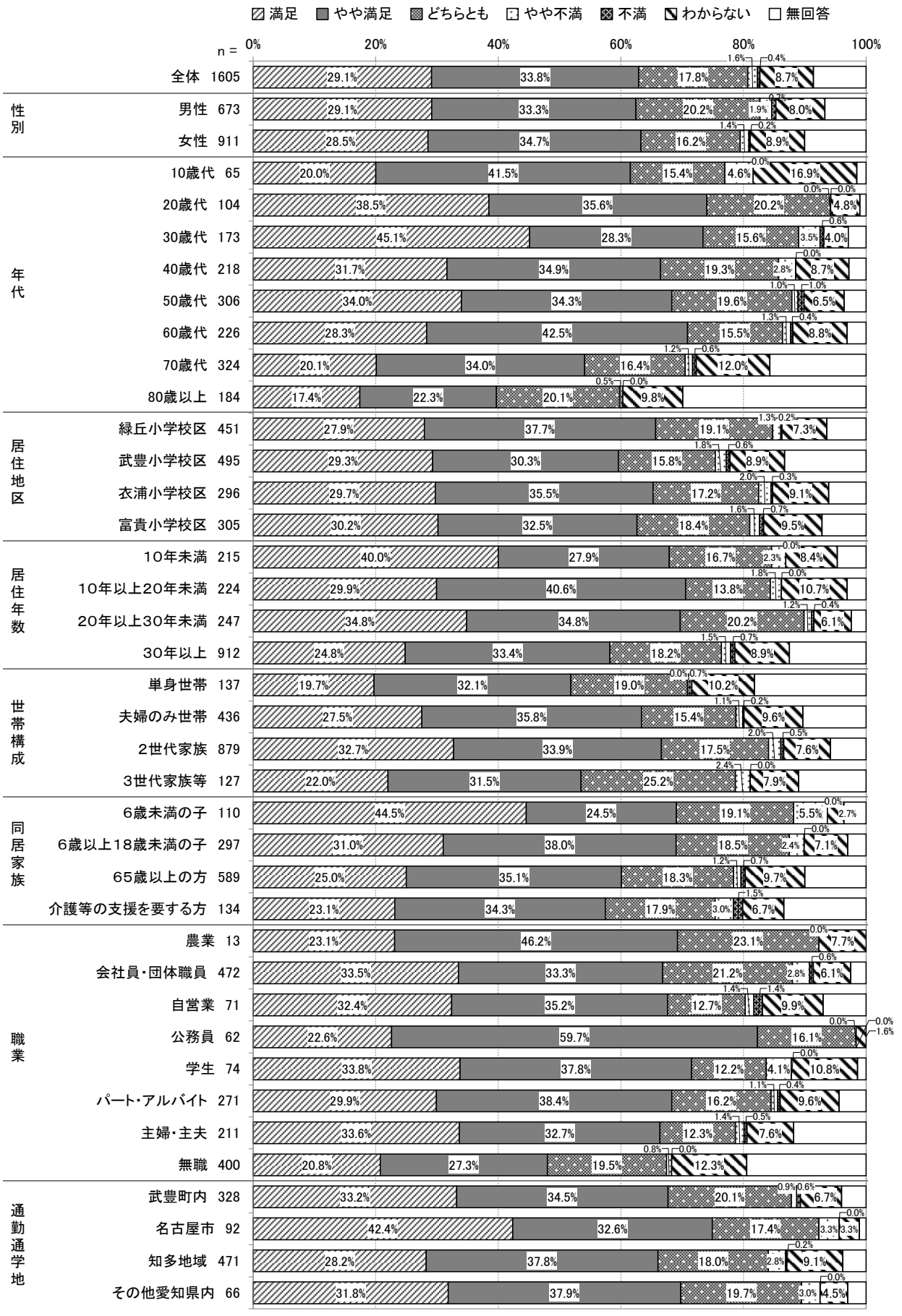
図表 1-5-63　属性別、重要度

分野５　安全・安心　　20.徒歩や自転車で安全に道路を通行できる



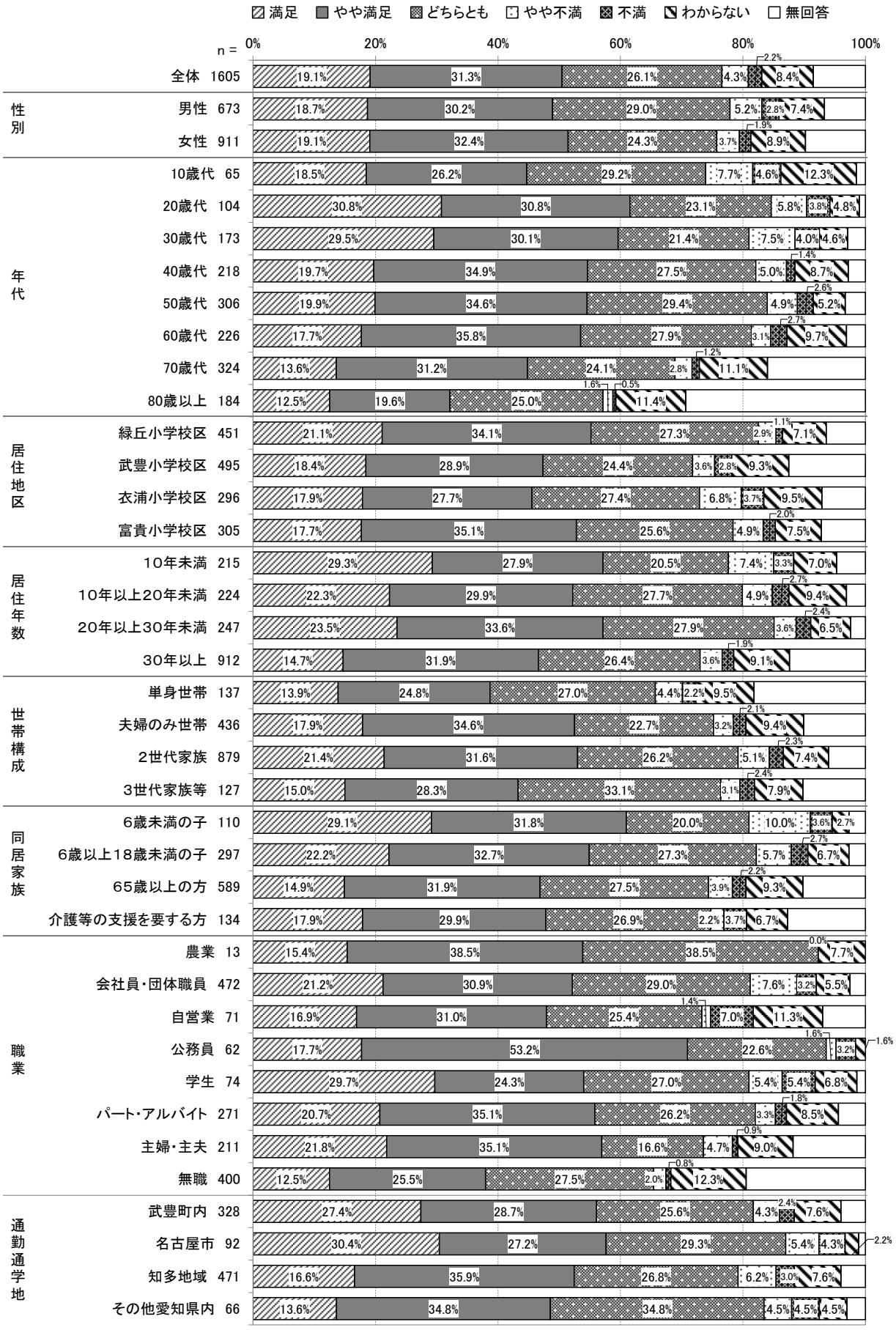
図表 1-5-64　属性別、重要度

分野６　産業・交流　　21.地元産業（農業、商工業）が活性化している



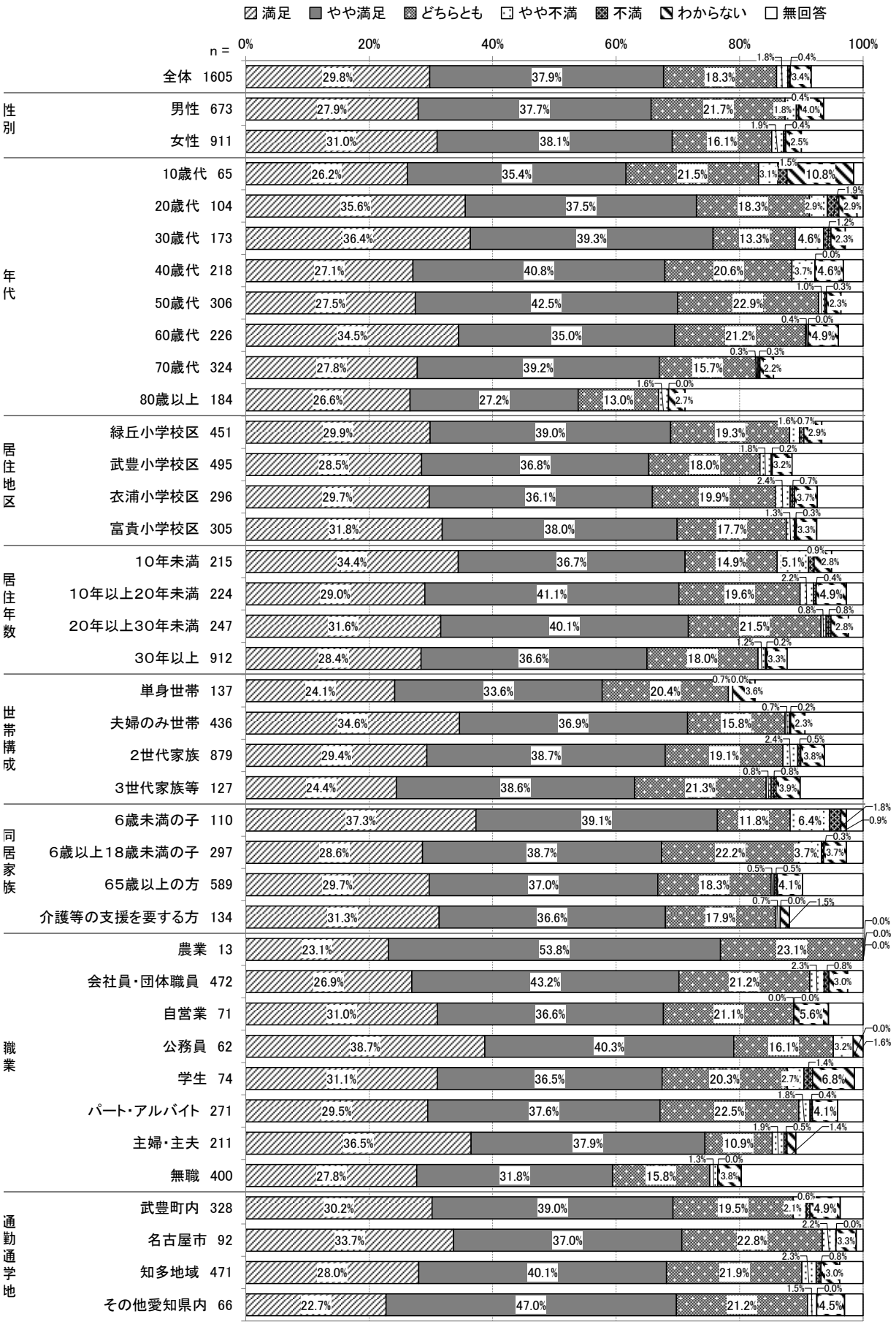
図表 1-5-65　属性別、重要度

分野６　産業・交流　　22.観光産業が発展している



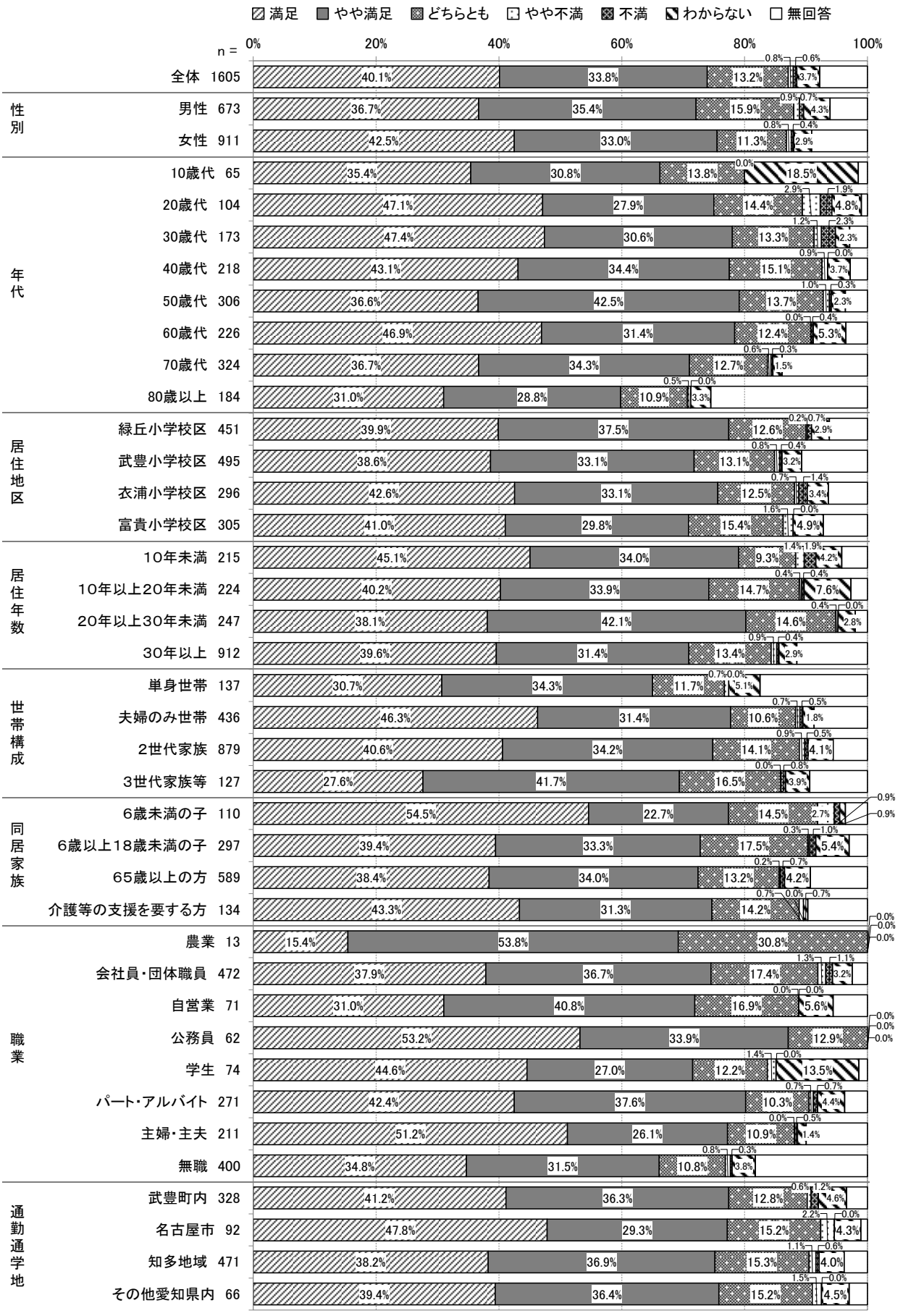
図表 1-5-66　属性別、重要度

分野７　環境　　23.水や緑などの自然を身近に感じられる



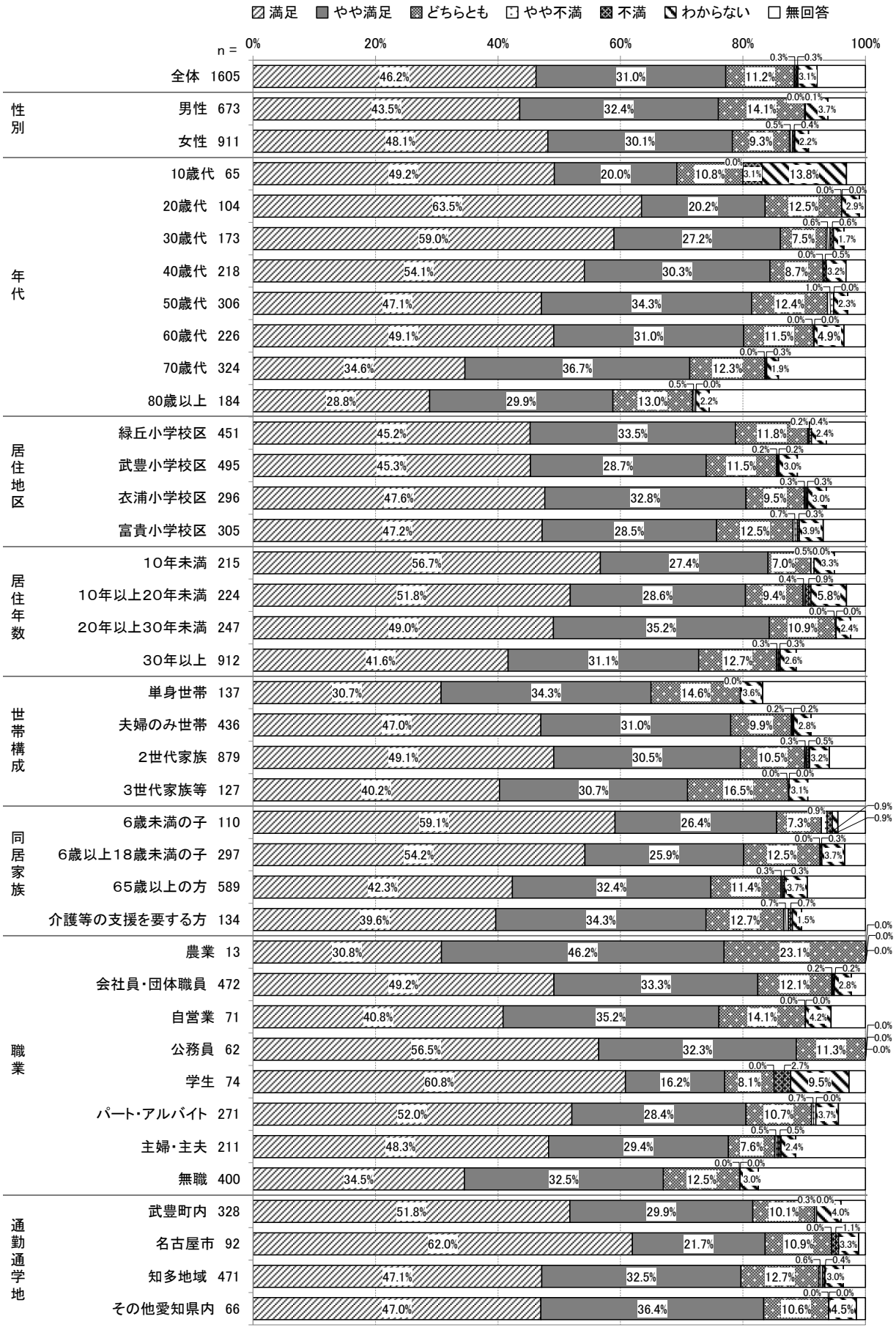
図表 1-5-67　属性別、重要度

分野7　環境　　24.ごみの減量化・資源化が進められ、循環型社会が定着している



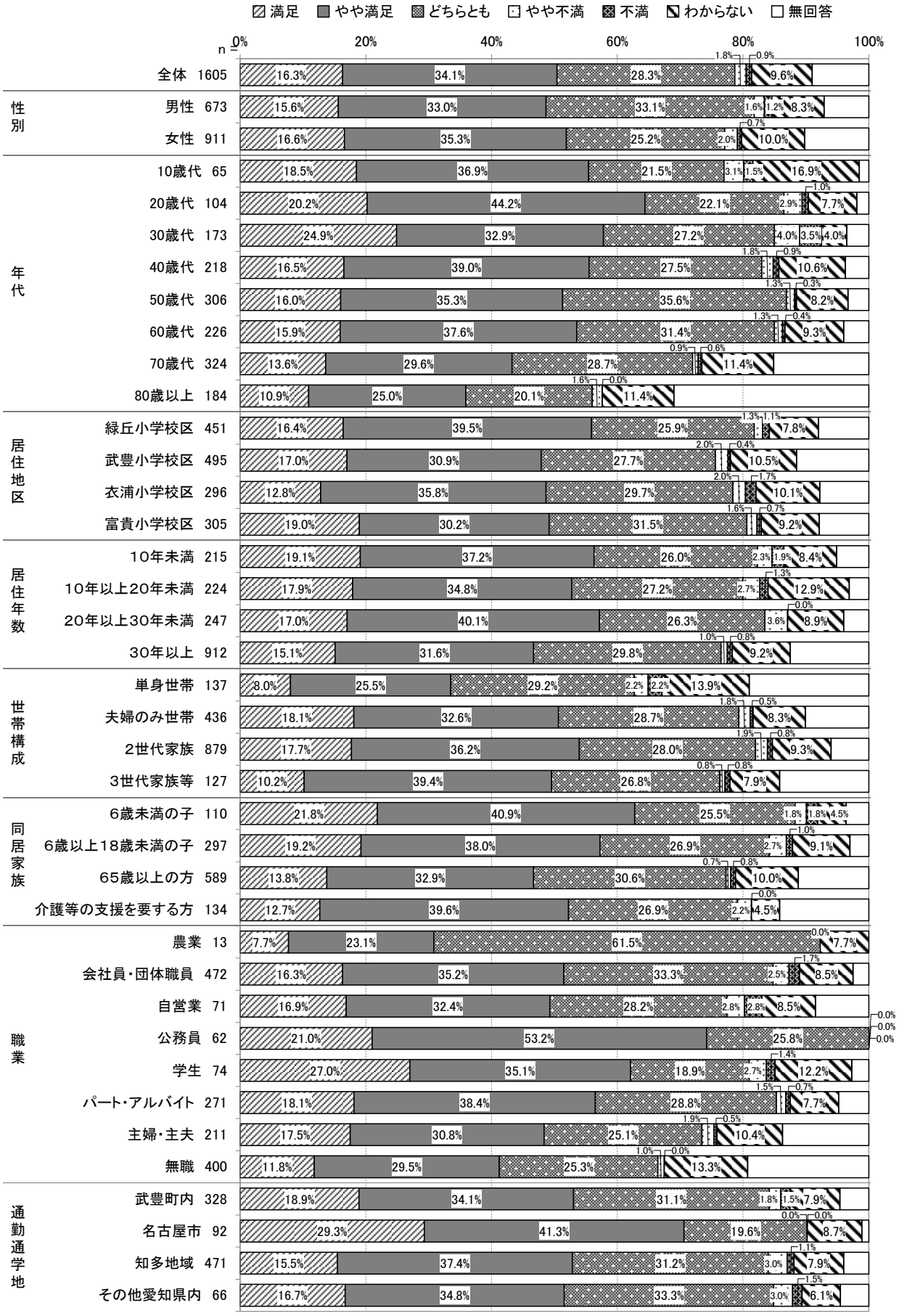
図表 1-5-68　属性別、重要度

分野７　環境　　25.きれいで衛生的な環境が保たれている



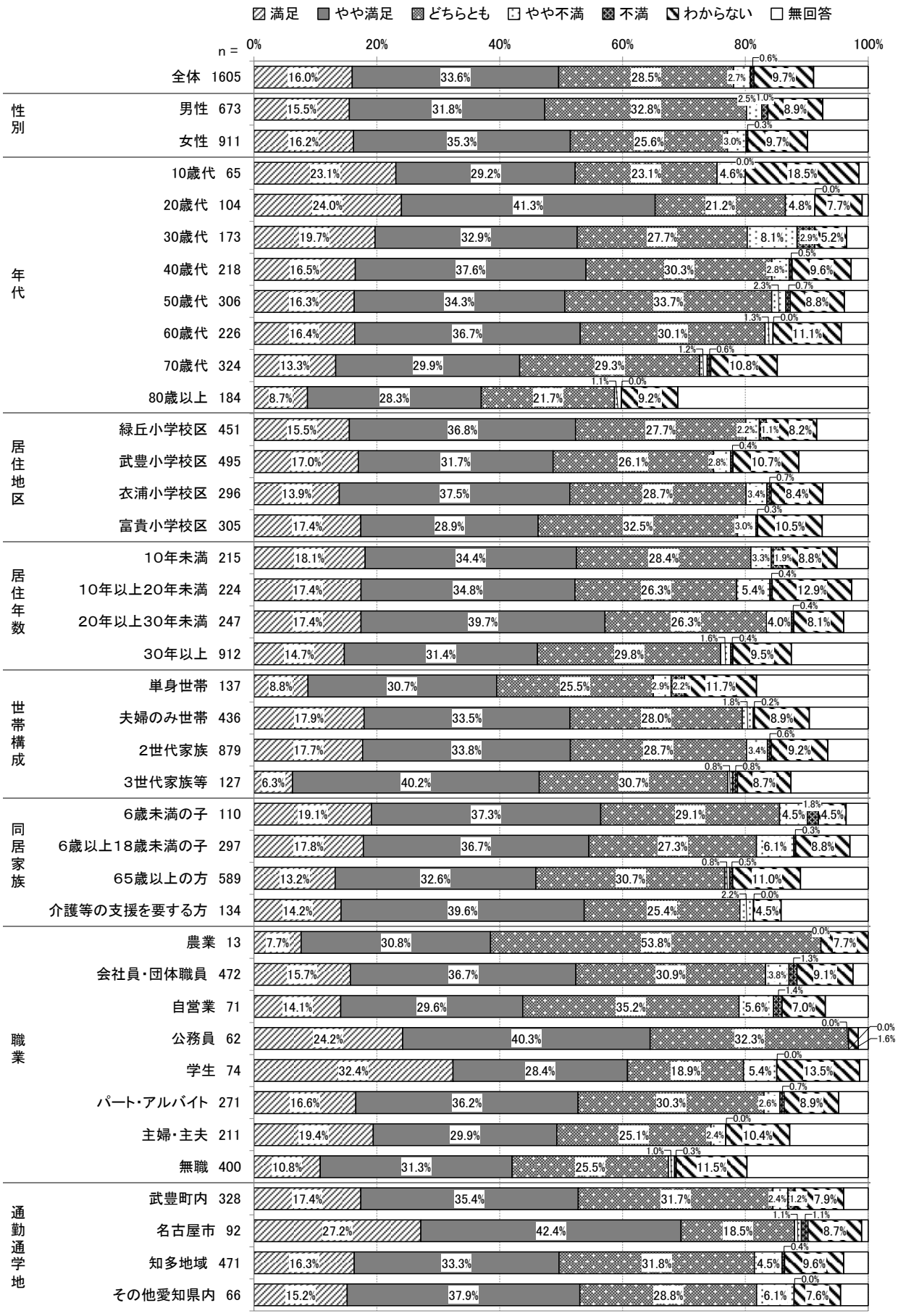
図表 1-5-69　属性別、重要度

分野８　まちづくり・地域経営　　26.町民がまちづくりに参画しやすい



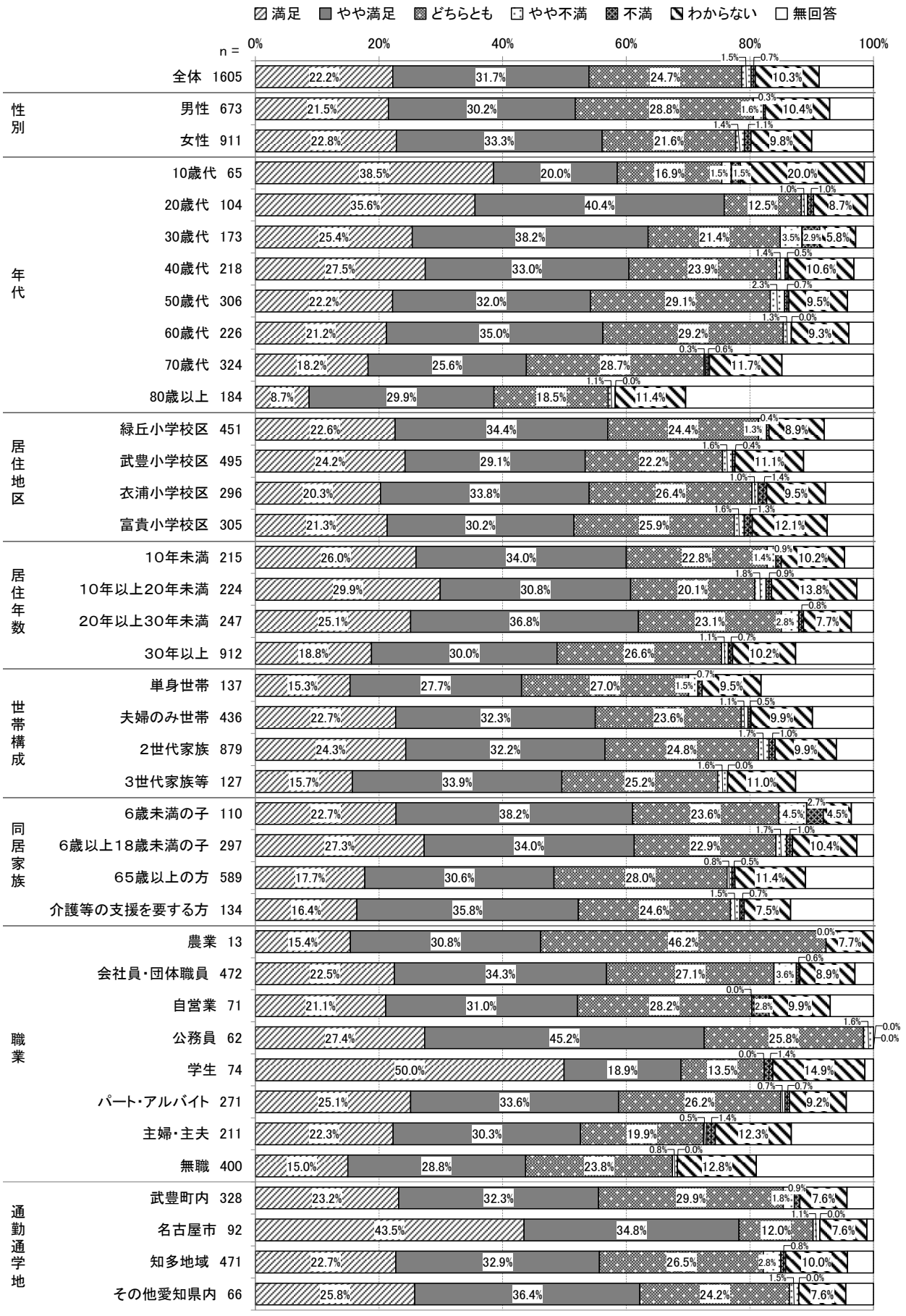
図表 1-5-70　属性別、重要度

分野８　まちづくり・地域経営　　27.地域活動が活発に行われている



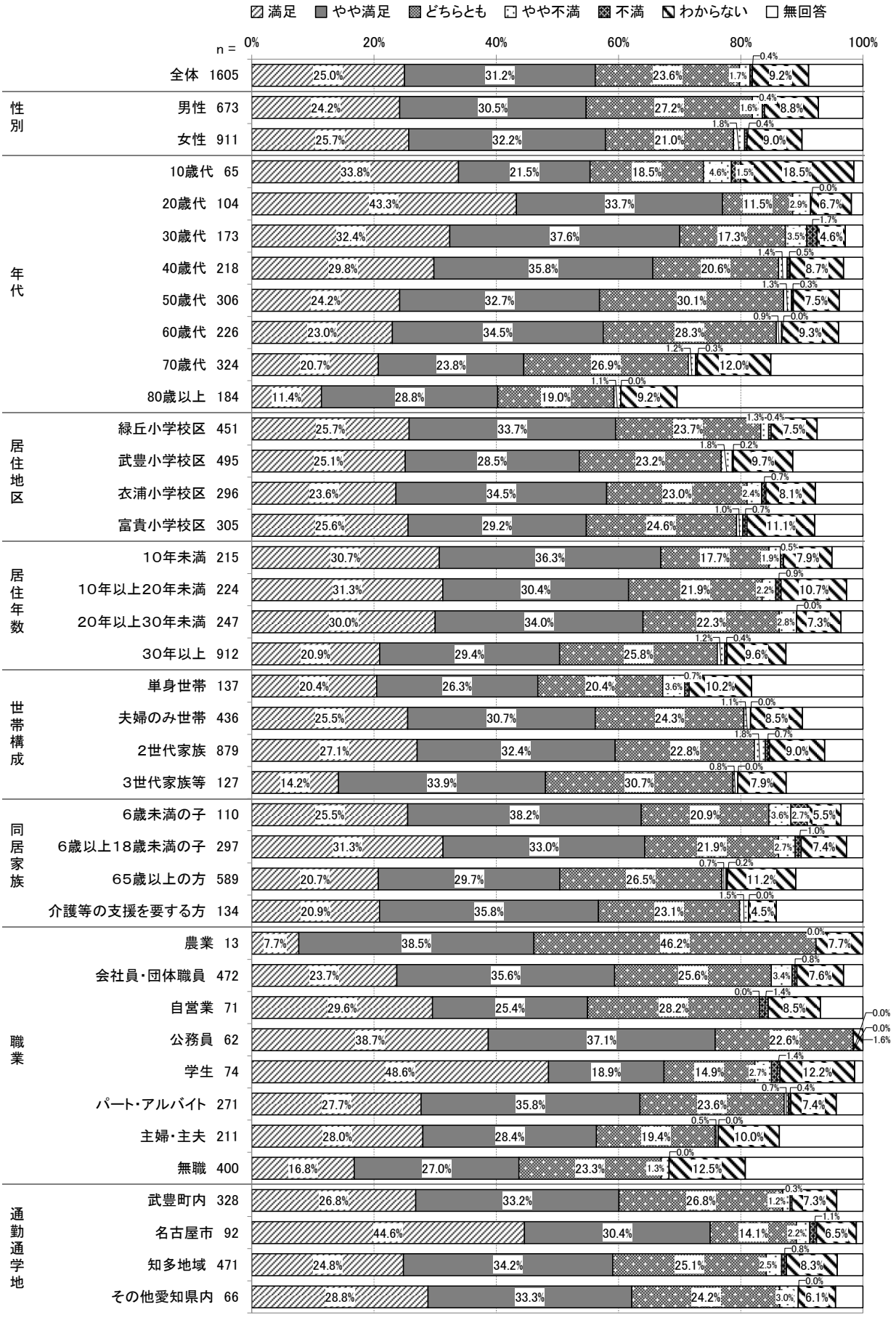
図表 1-5-71　属性別、重要度

分野８　まちづくり・地域経営　　28.男女が差別なく参画できる社会となっている



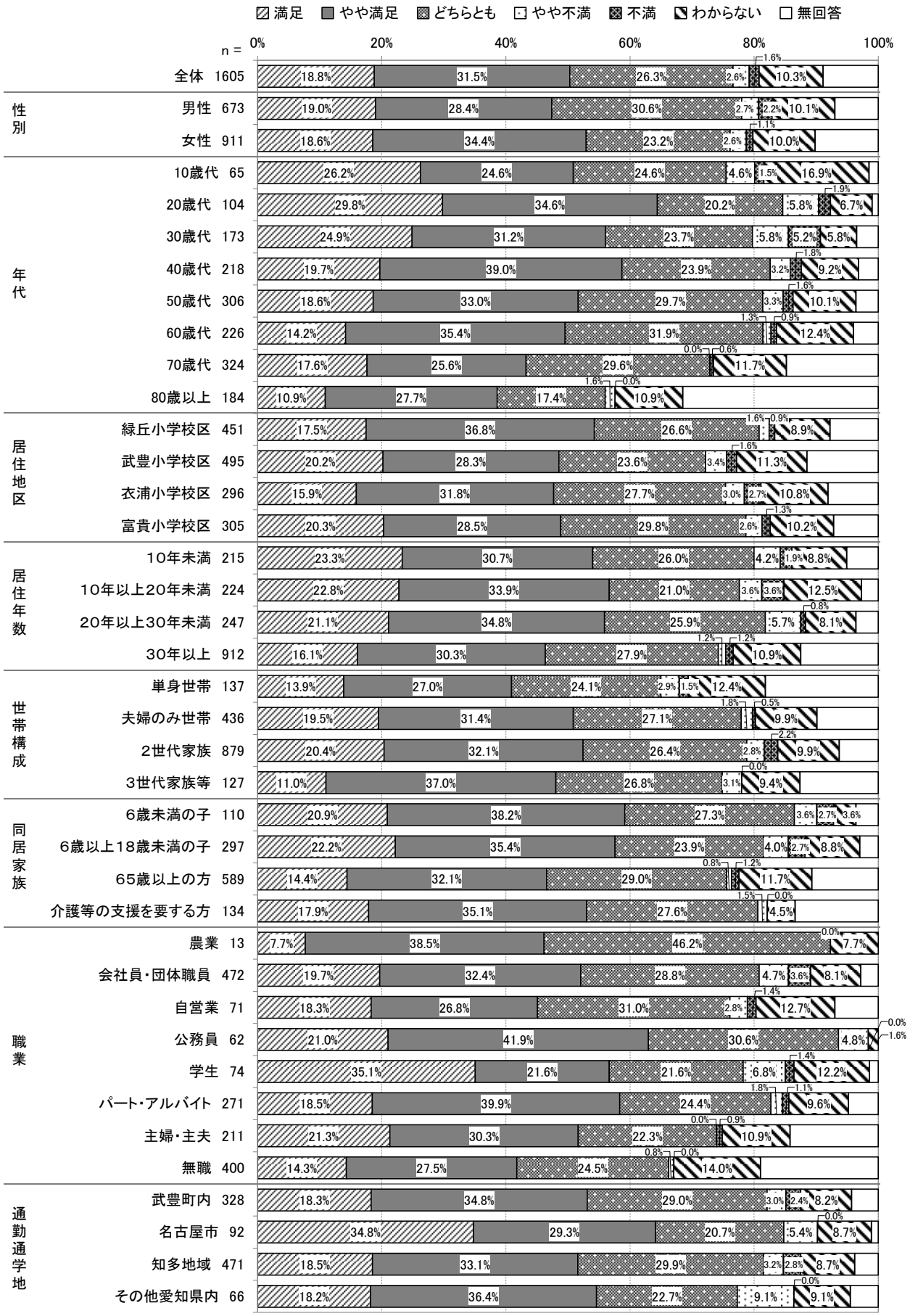
図表 1-5-72　属性別、重要度

分野８　まちづくり・地域経営　　29.互いを尊重しあい協力しあえる



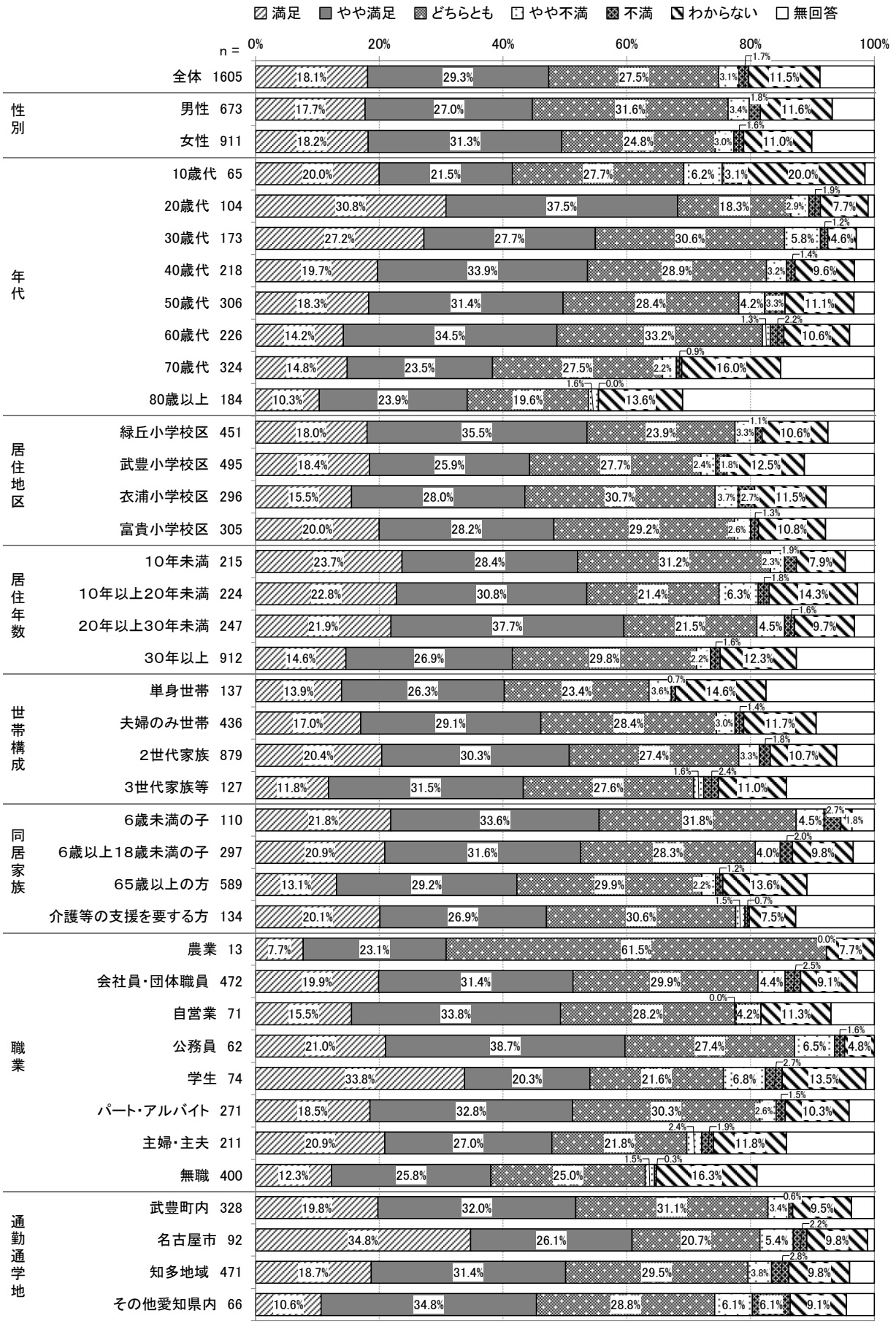
図表 1-5-73　属性別、重要度

分野８　まちづくり・地域経営　　30.住民が誇りを持って生活している



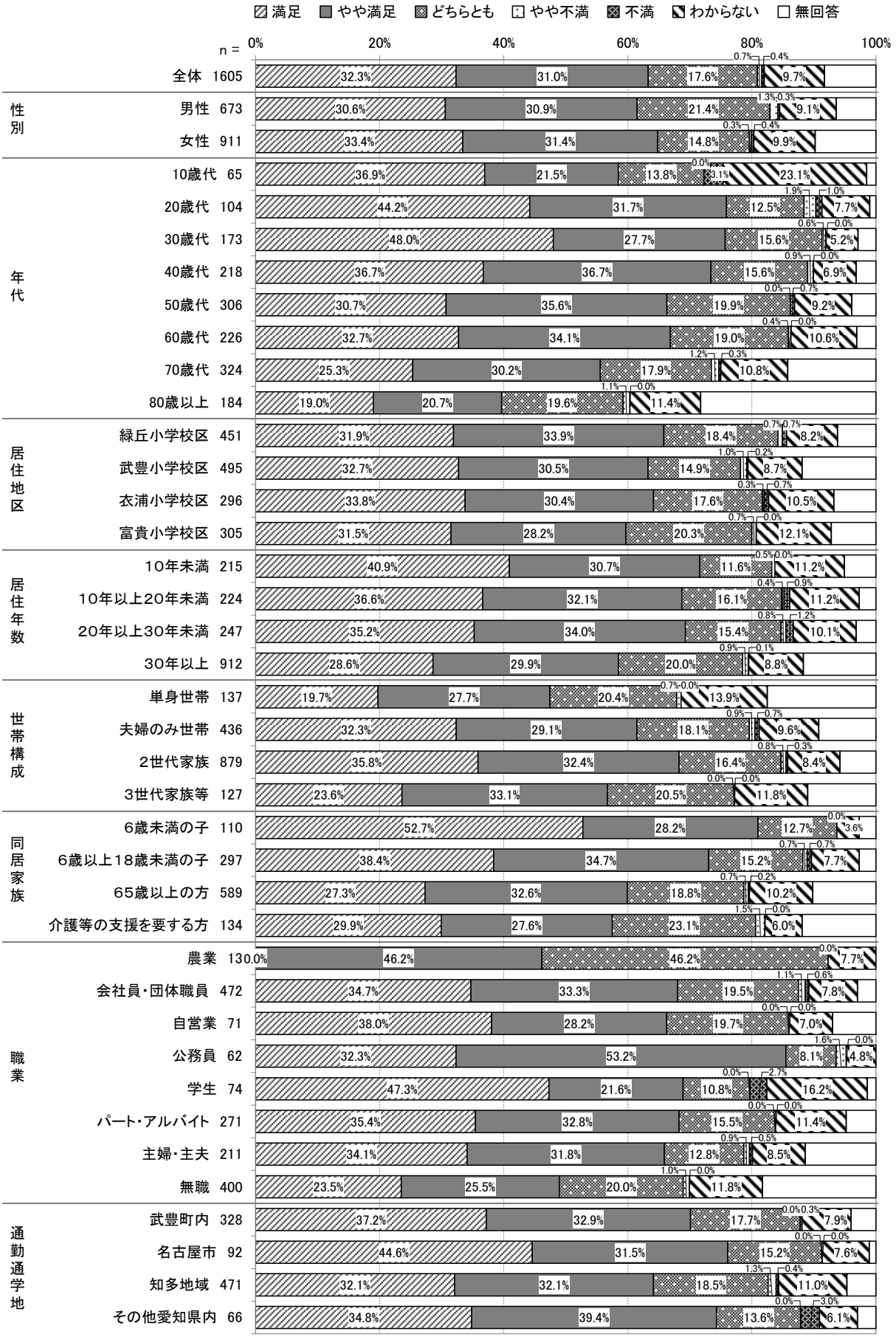
図表 1-5-74　属性別、重要度

分野８　まちづくり・地域経営　　31.町外に住む人たちから魅力的に思われている



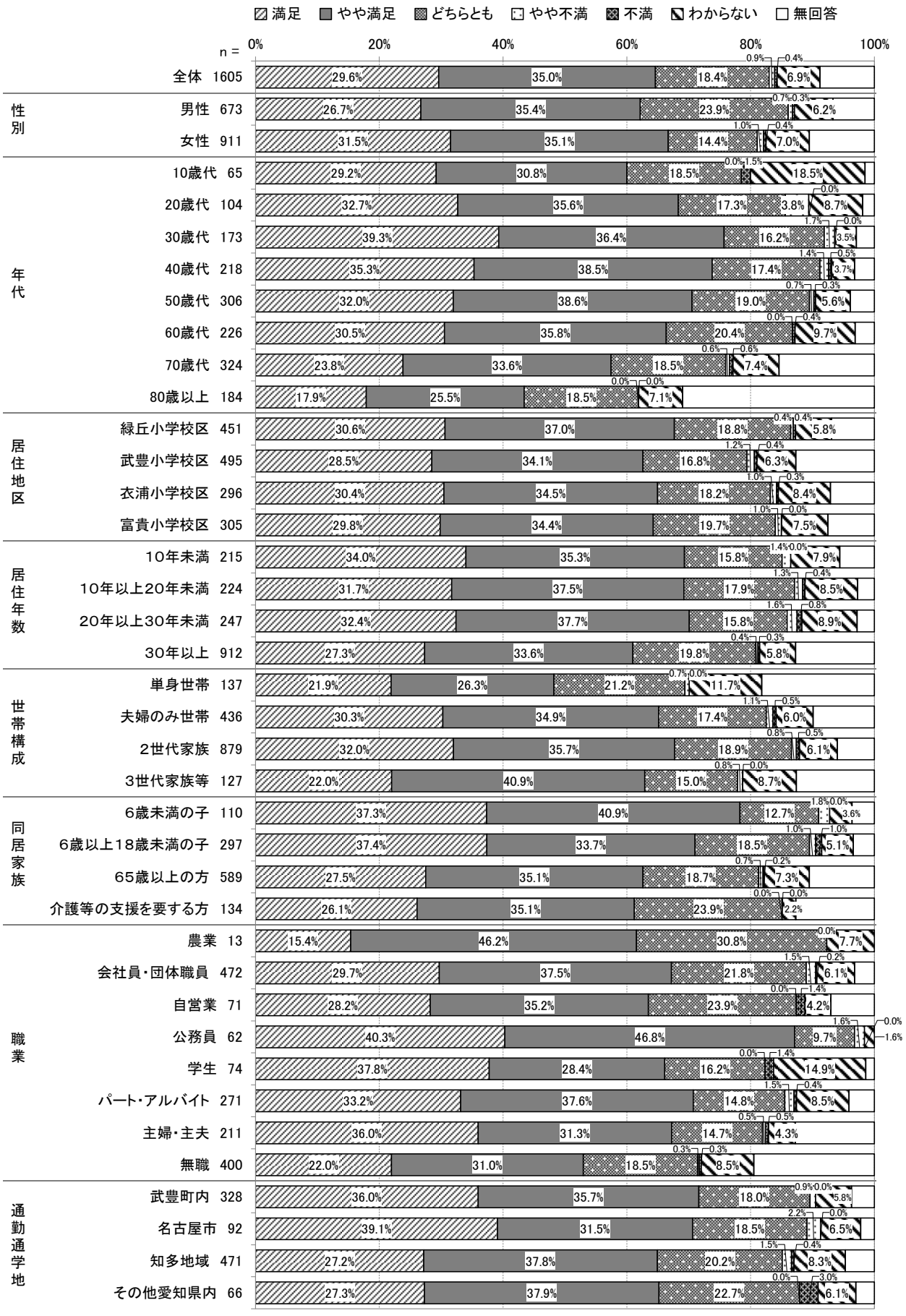
図表 1-5-75　属性別、重要度

分野９　行財政　　32.行政に町民の意向が反映されている



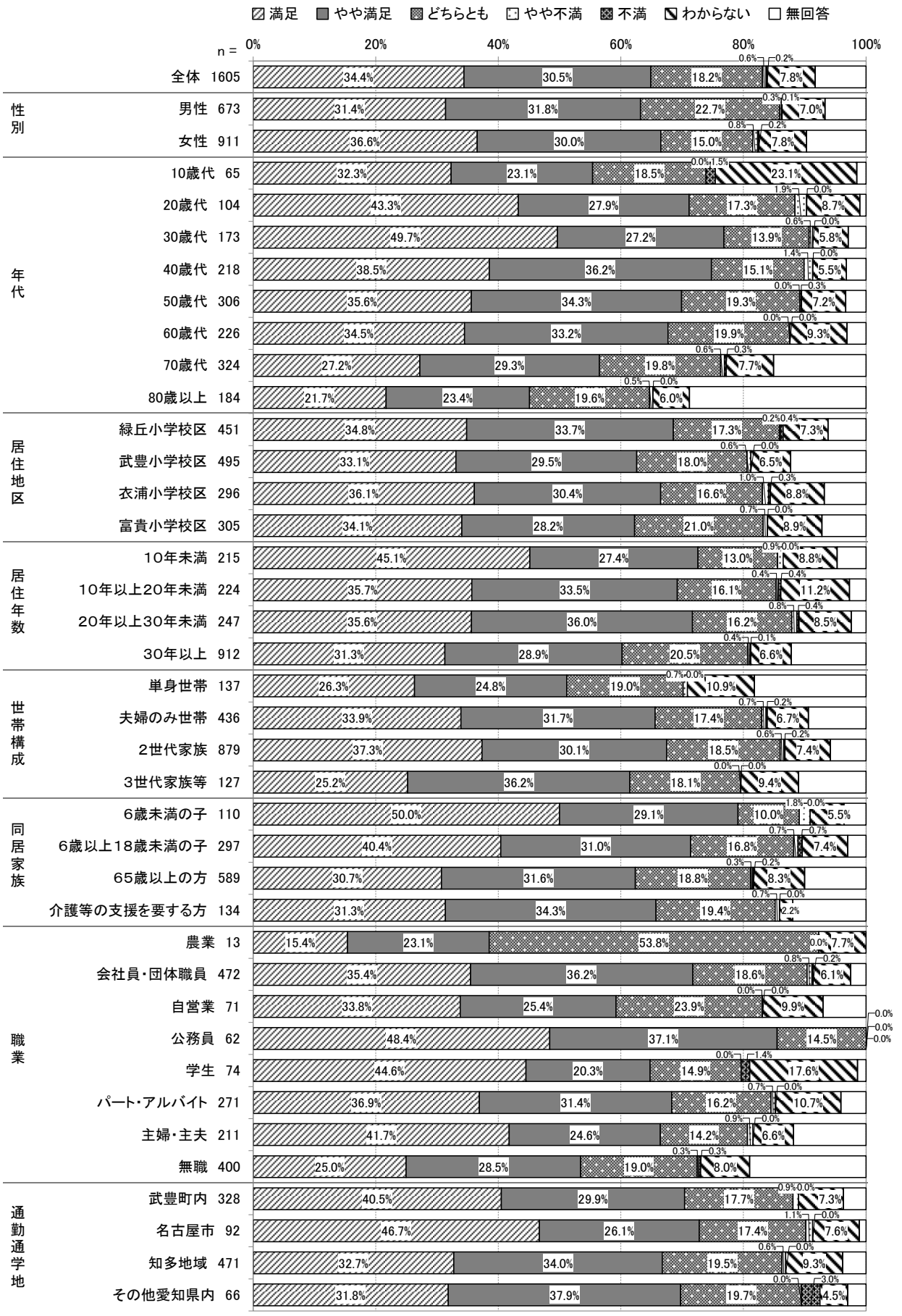
図表 1-5-76　属性別、重要度

分野９　行財政　　33.まちの情報が受け取れている



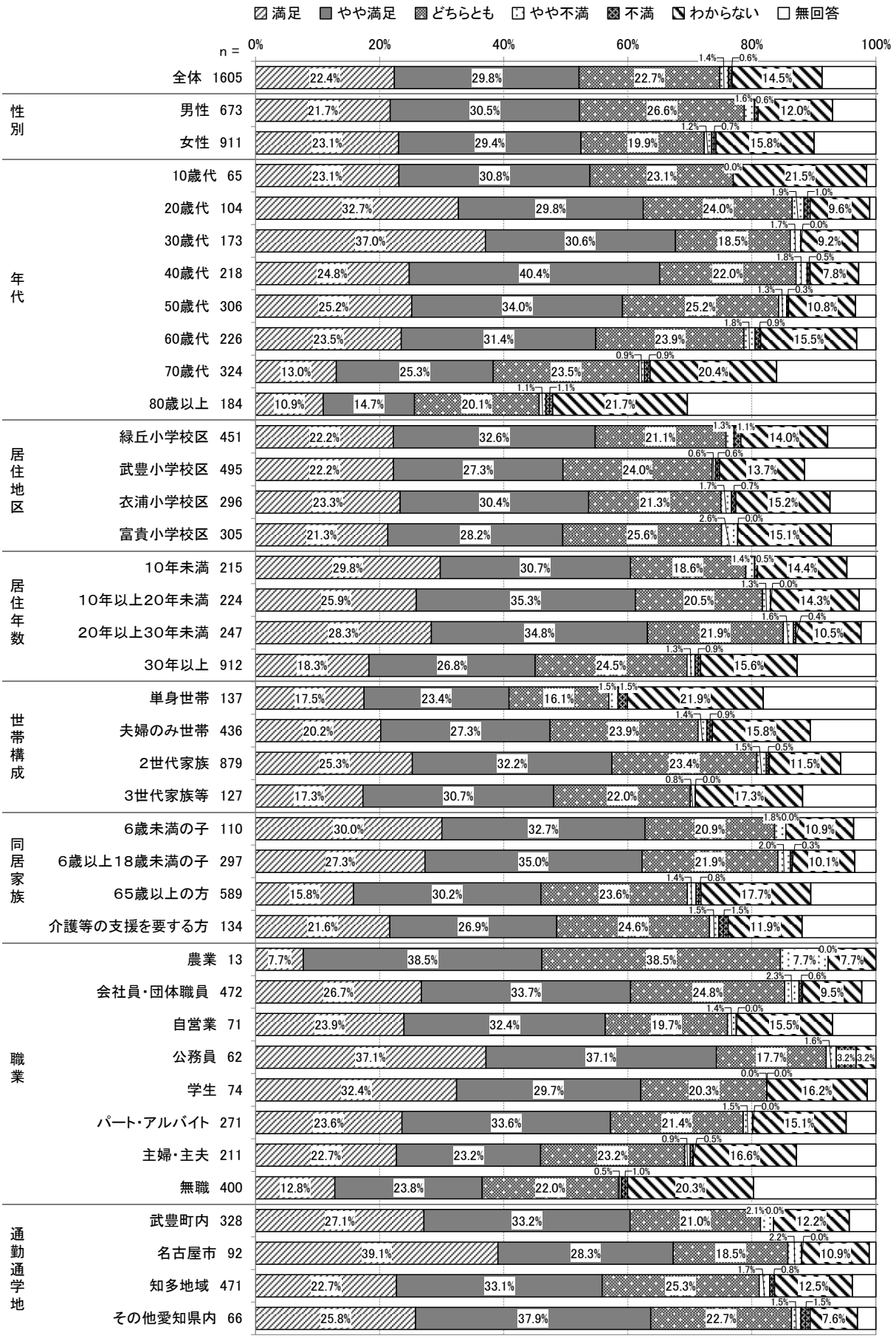
図表 1-5-77　属性別、重要度

分野９　行財政　　34.行政サービスが充実している



図表 1-5-78　属性別、重要度

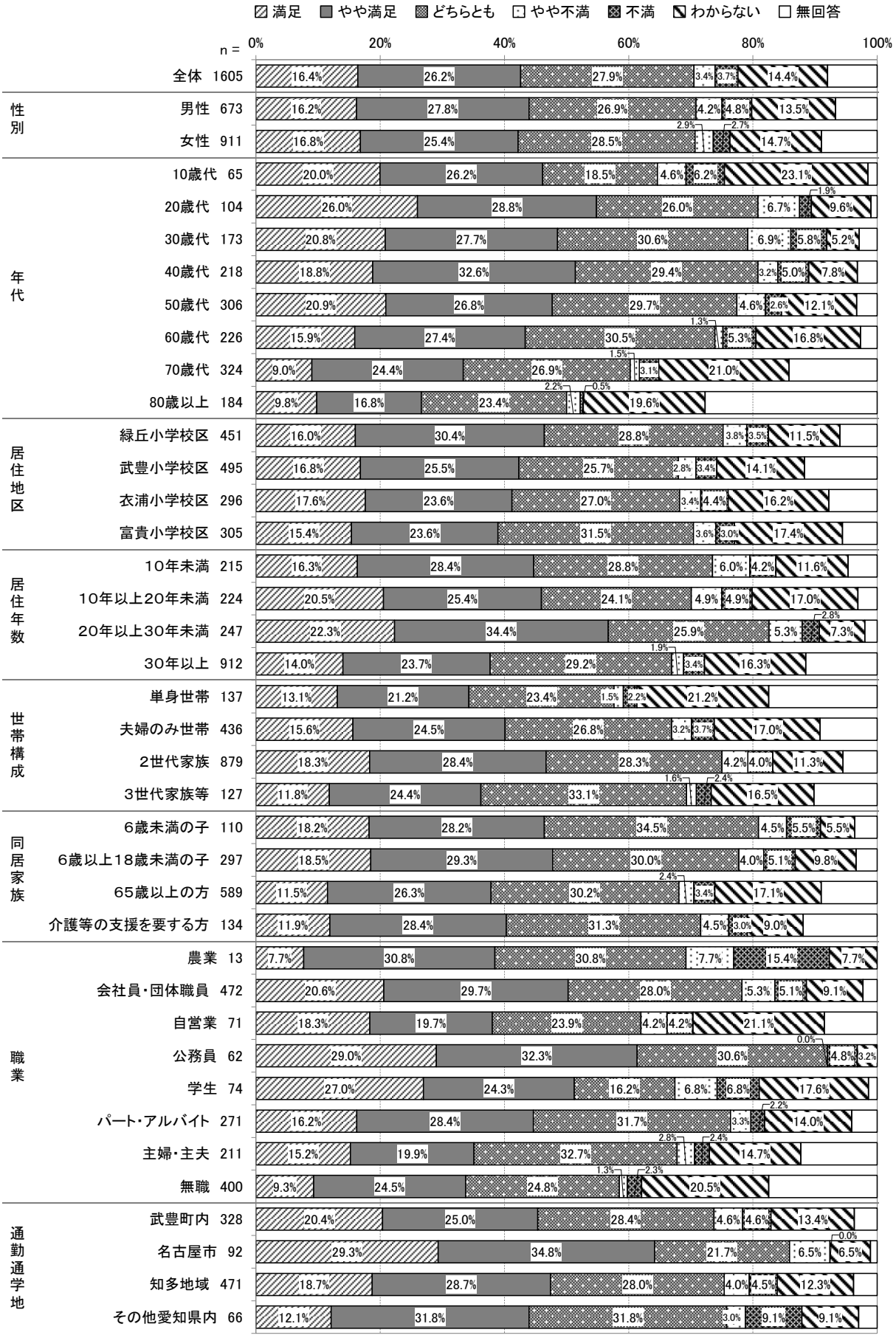
分野９　行財政　　35.デジタル機器やICT※2を活用した行政サービスが充実している



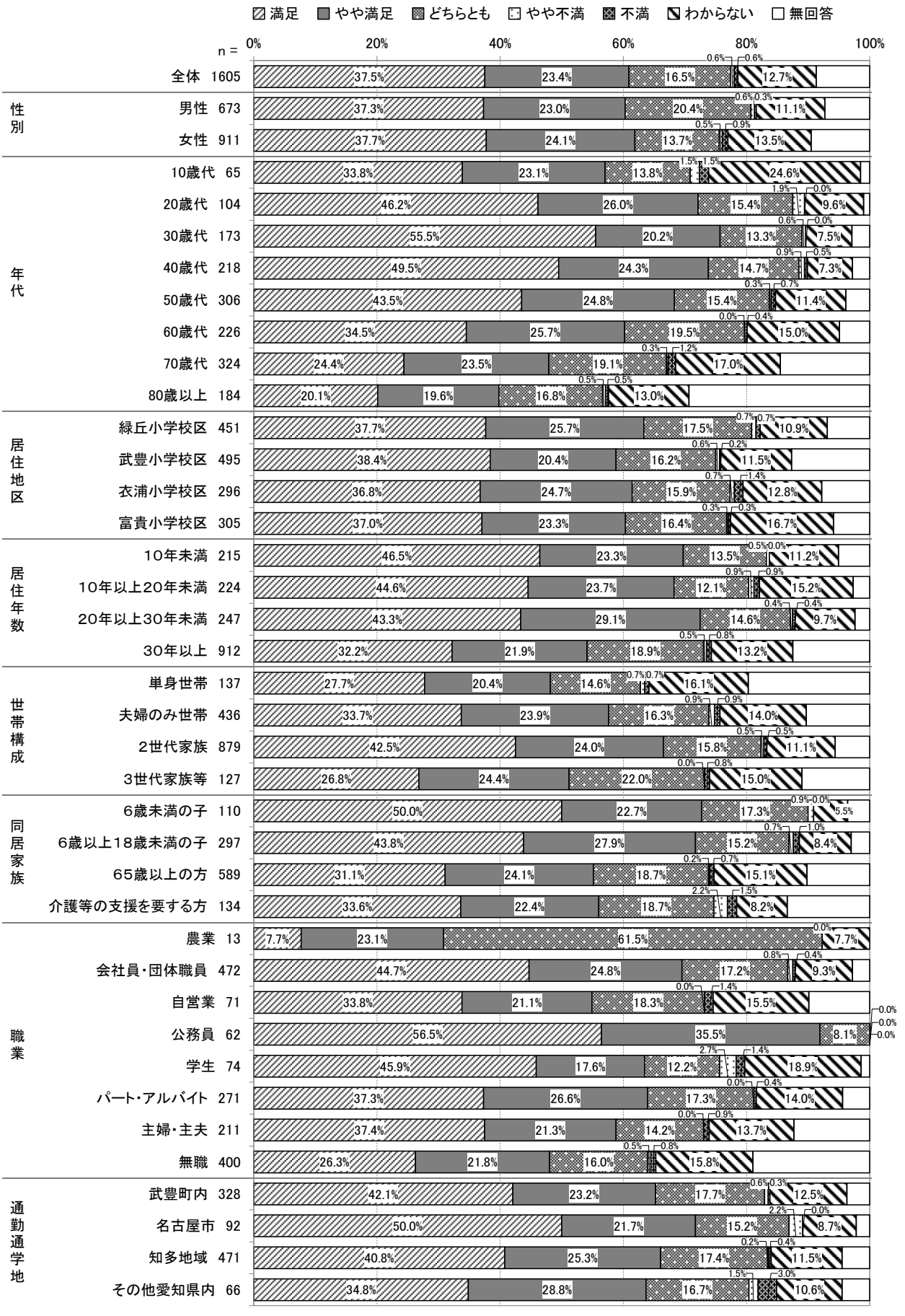
※2…Information and Communication Technology の略で、情報伝達技術、情報通信技術のこと

図表 1-5-79　属性別、重要度

分野９　行財政　　36.マイナンバーカードを活用した行政サービスが充実している



図表 1-5-80　属性別、重要度
分野９　行財政　　37.健全に行財政が運営されている



１－６　物価高騰による家計への影響

（１）家計に与える影響

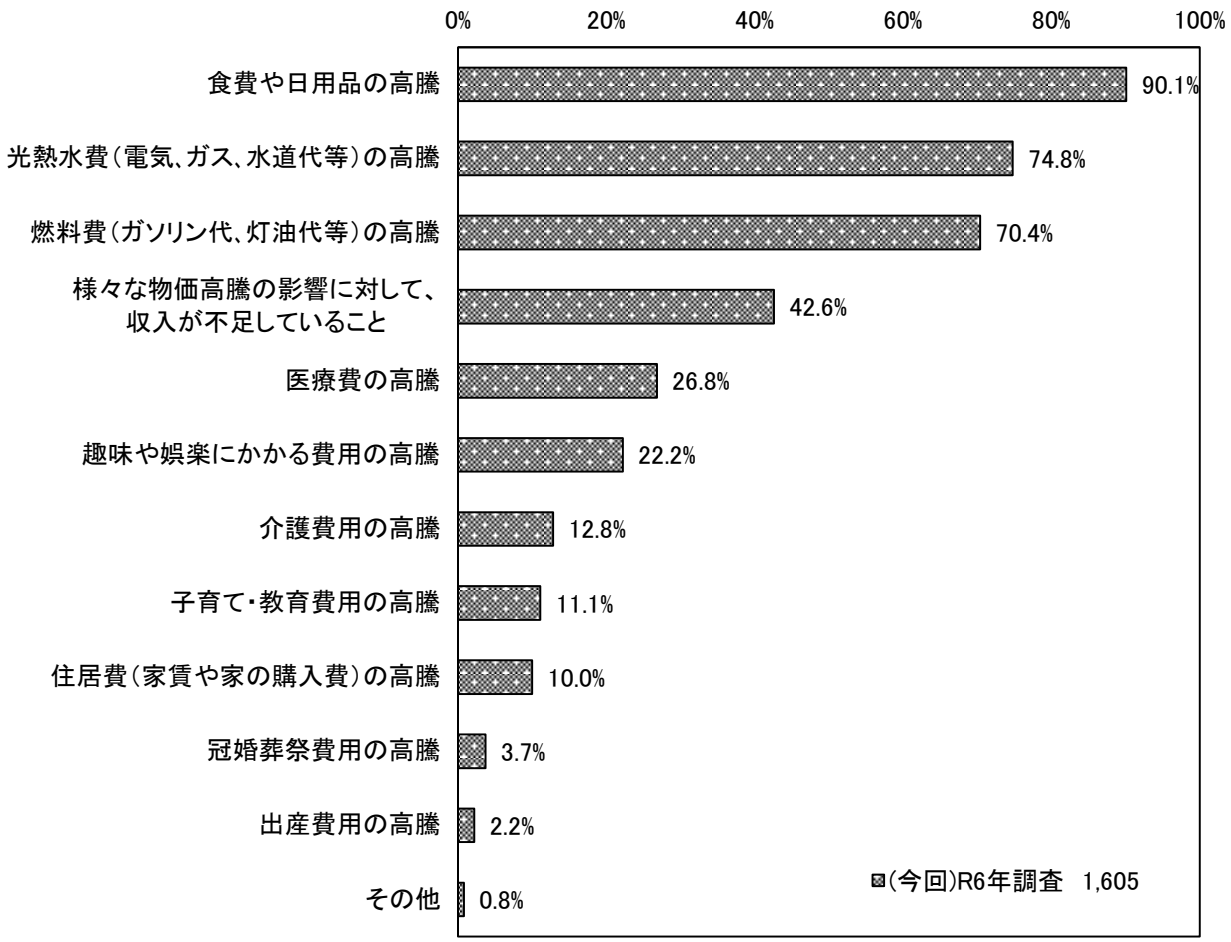
問９　　昨今、物価高騰が家計に大きな影響を及ぼしていますが、あなたが、特に影響を受けていると感じる項目は何ですか。（あてはまるものすべてに○印）

物価高騰から特に影響を受けていると感じることをたずねたところ、「食費や日用品の高騰」が 90.1%で最も高くなっています。次いで、「光熱水費（電気、ガス、水道代等）の高騰」が 74.8%、「燃料費（ガソリン代、灯油代等）の高騰」が 70.4%でした。

この３つの項目については、回答者の７割以上が回答しています。

図表 1-6-1　物価高騰から特に影響を受けていると感じること

-複数回答（該当するものすべて）-



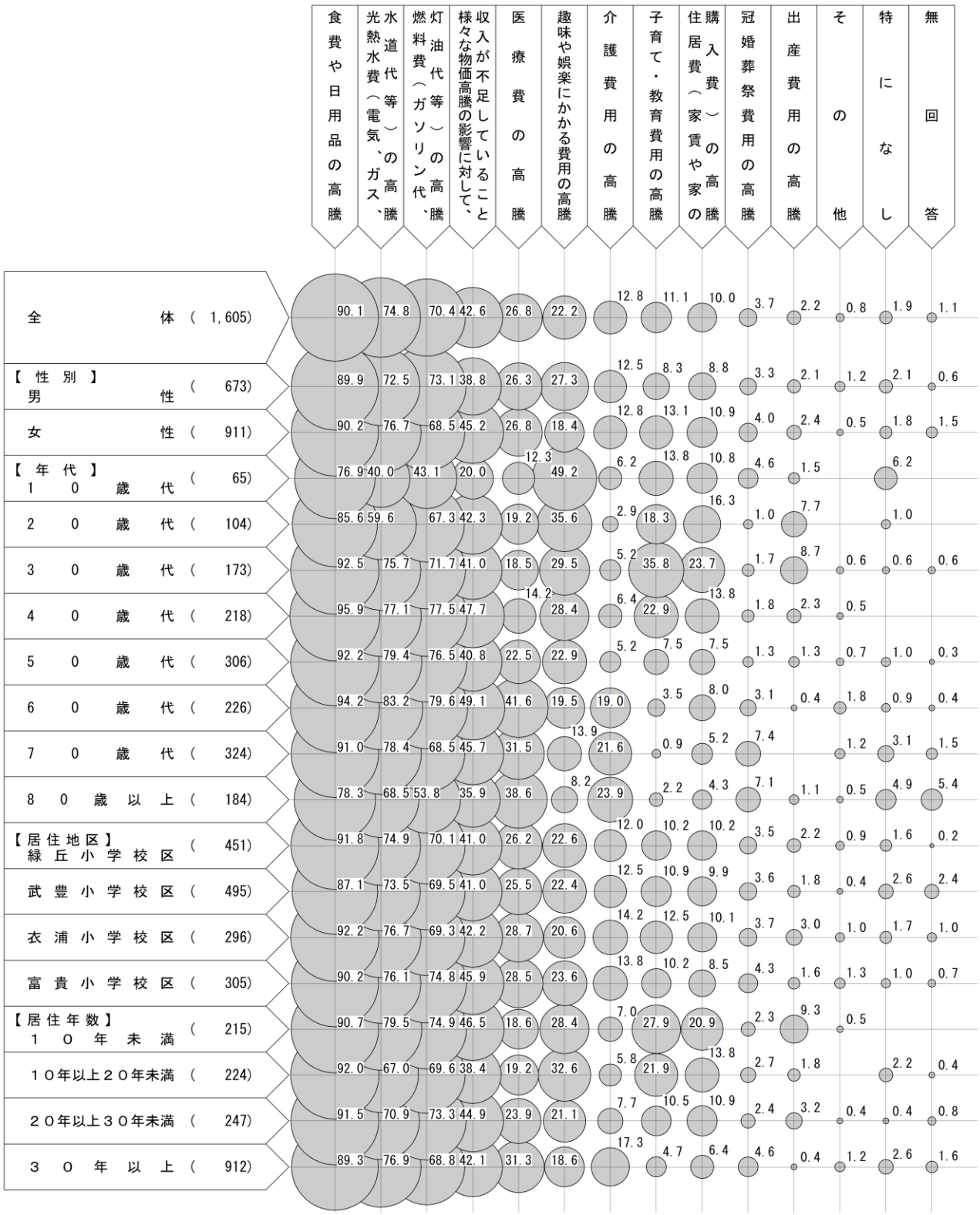
物価高騰から特に影響を受けていると感じることについて、回答者の属性別に傾向をみていきます。

性別	○「様々な物価高騰の影響に対して、収入が不足していること」は、女性は 45.2%であるのに対して、男性は 38.8%で、女性の方が 6.4 ポイント高くなっています。 ○「趣味や娯楽にかかる費用の高騰」は、男性が 27.3%、女性が 18.4%で、男性の方が 8.9 ポイント高くなっています。
年代	○10 歳代では、「食費や日用品の高騰」が 76.9%で最も高くなっていますが、次いで高いのは「趣味や娯楽にかかる費用の高騰」の 49.2%です。 ○20 歳代、30 歳代、40 歳代では、「食費や日用品の高騰」、「光熱水費（電気、ガス、水道代等）の高騰」、「燃料費（ガソリン代、灯油代等）の高騰」、「様々な物価高騰の影響に対して、収入が不足していること」が上位４つとなっていることは全体の傾向と同様ですが、「趣味や娯楽にかかる費用の高騰」、「子育て・教育費用の高騰」が他と比べて高くなっています。 ○50 歳代、60 歳代、70 歳代においても上位４つは全体の傾向と同様ですが、「医療費の高騰」、「介護費用の高騰」が他と比べて高くなっています。 ○80 歳以上になると、「医療費の高騰」が４番目に高くなっています。
居住年数	○居住年数 10 年未満では、上位４つは全体の傾向と同様ですが、「趣味や娯楽にかかる費用の高騰」、「子育て・教育費用の高騰」、「住居費（家賃や家の購入費）の高騰」、「出産費用の高騰」が高くなっています。 ○居住年数 10 年以上 20 年未満でも、「趣味や娯楽にかかる費用の高騰」、「子育て・教育費用の高騰」が高くなっています。
世帯構成	○単身世帯では、「食費や日用品の高騰」は 81.0%で、全体の 90.1%と比較すると 9.1 ポイント低くなっています。また、「燃料費（ガソリン代、灯油代等）の高騰」も 57.7%で、全体の 70.4%と 12.7 ポイント低くなっています。 ○３世代家族等では、「光熱水費（電気、ガス、水道代等）の高騰」は 80.3%で、全体の 74.8%と比べ、5.5 ポイント高くなっています。
同居家族	○６才未満の子どもがいる世帯では、上位３つは全体の傾向と同様ですが、「子育て・教育費用の高騰」が 48.2%と４番目に高くなっています。また、「趣味や娯楽にかかる費用の高騰」が 30.9%で高くなっています。 ○６歳以上 18 才未満の子どもがいる世帯では、「子育て・教育費用の高騰」が 33.3%で高くなっています。 ○65 歳以上の方がいる世帯では、「医療費の高騰」が 34.6%で高くなっています。 ○介護を要する方がいる世帯では、「医療費の高騰」が 41.8%、「介護費用の高騰」が 38.1%で高くなっています。

職業	○会社員・団体職員では、上位４つは全体の傾向と同様ですが、「趣味や娯楽にかかる費用の高騰」が 30.1%で高くなっています。 ○学生では、「食費や日用品の高騰」の 78.4%に次いで「趣味や娯楽にかかる費用の高騰」が 50.0%と２番目に高くなっています。 ○パート・アルバイトでは、上位３つは全体の傾向と同様ですが、「様々な物価高騰の影響に対して、収入が不足していること」が 52.8%で４番目に高くなっています。

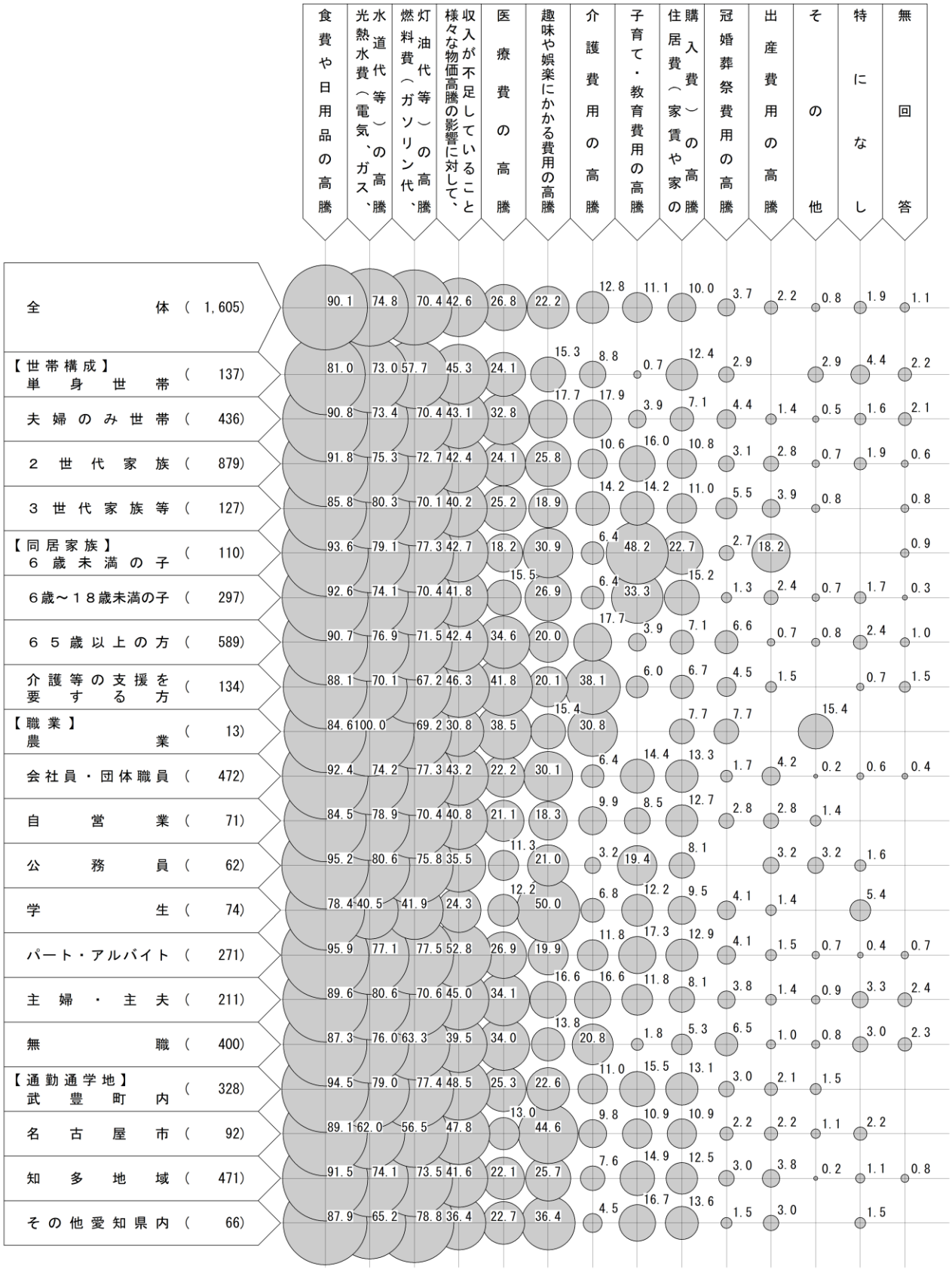
図表 1-6-2　属性別、物価高騰から特に影響を受けていると感じること　（1／2）

-複数回答（該当するものすべて）-



図表 1-6-2　属性別、物価高騰から特に影響を受けていると感じること　（2／2）

-複数回答（該当するものすべて）-



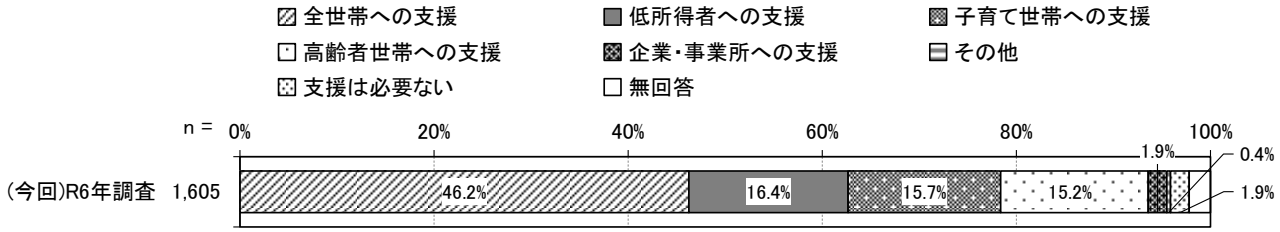
（２）支援先（支援対象）

問１０　物価高騰対策として、あなたが特に必要だと思う支援先（支援対象）はどこだと思いますか。（１つに○印）

物価高騰対策として、特に必要だと思う支援先（支援対象）としては、「全世帯への支援」が46.2%で最も高く、次いで「低所得者への支援」が 16.4%、「子育て世帯への支援」が 15.7%、「高齢者世帯への支援」が 15.2%でした。以上の４つを合計すると 93.5%となります。

「企業・事業所への支援」は 1.9%、「その他」は 0.4%、「支援は必要ない」は 1.9%で、いずれも少数でした。

図表 1-6-3　特に必要だと思う支援先

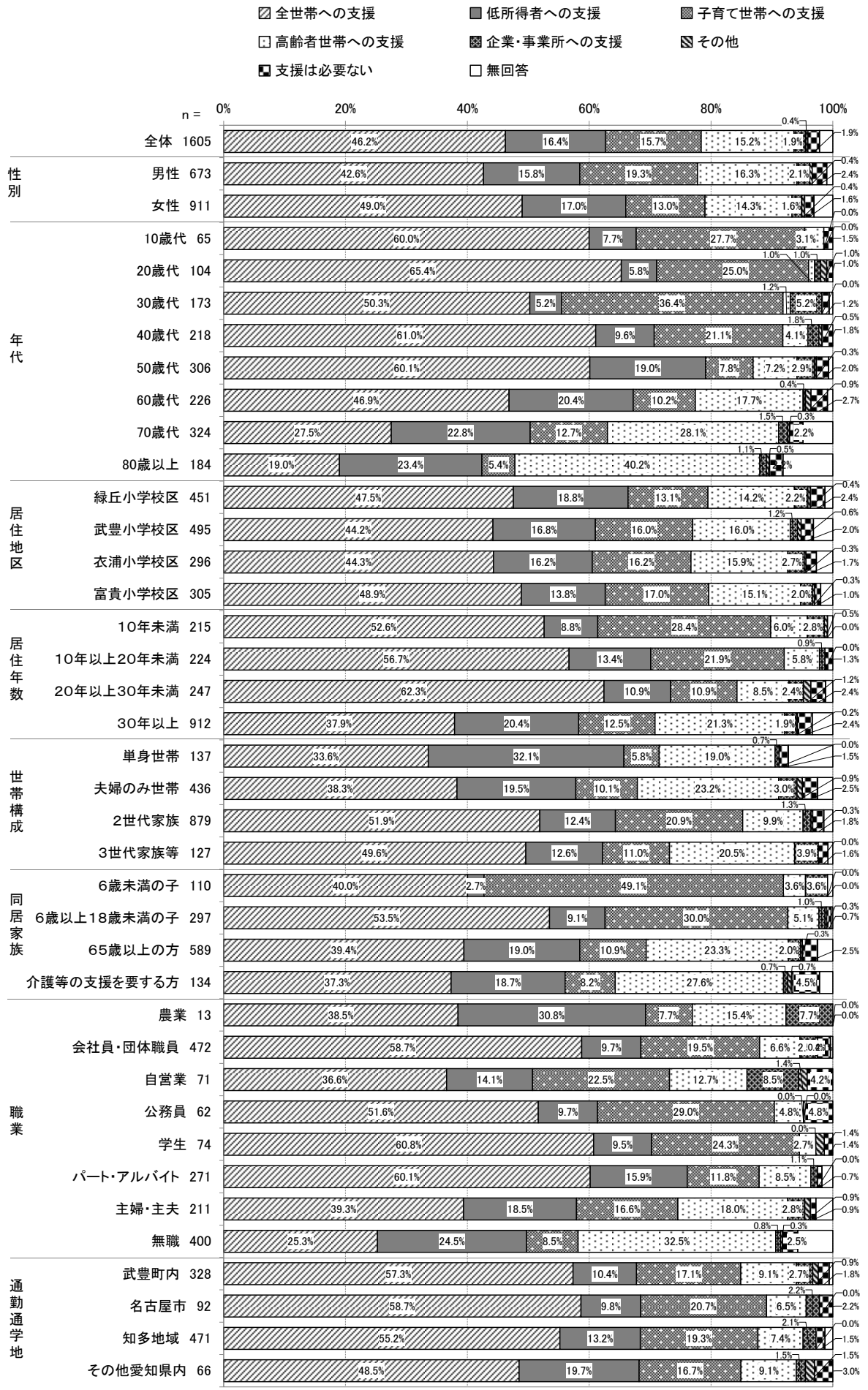


物価高騰対策として、特に必要だと思う支援先（支援対象）について、回答者の属性別に傾向をみていきます。

性別	○男性は「全世帯への支援」が 42.6%、女性は 49.0%で、いずれも最も高くなっていますが、女性の方が 6.4 ポイント高くなっています。 ○男性では、「全世帯への支援」に次いで「子育て世帯への支援」が高く 19.3%となっています。一方、女性では、「全世帯への支援」に次いで「低所得者への支援」が高く 17.0%となっています。
年代	○10 歳代～60 歳代については、「全世帯への支援」がいずれも最も高くなっています。30 歳代では 50.3%、60 歳代では 46.2%とやや低くなっていますが、10 歳代、20 歳代、40 歳代、50 歳代では 60%台の高い割合を占めています。 ○10 歳代から 40 歳代にかけては、「全世帯への支援」に次いで「子育て世帯への支援」が高くなっています。特に 30 歳代では「子育て世帯への支援」が 36.4%となっており、全体の 15.7%を 20.7 ポイントも高くなっています。 ○50 歳代、60 歳代になると、「全世帯への支援」に次いで「低所得者への支援」が高くなっており、50 歳代では 19.0%、60 歳代では 20.4%となっています。 ○70 歳代、80 歳代になると、「高齢者への支援」が最も高くなり、70 歳代では 28.1%、80 歳代では実に 40.2%と高い割合を示しています。
居住年数	○居住年数 10 年未満、10 年以上 20 年未満、20 年以上 30 年未満では、「全世帯への支援」が 52.6%、56.7%、62.3%でいずれも５割以上の高い割合を占めています。 ○30 年以上になると、「全世帯への支援」は 37.9%とやや低くなり、代わって「高齢者世帯への支援」が 21.3%と高くなっています。
世帯構成	○単身世帯では、「全世帯への支援」が 33.6%で最も高くなっています。次いで「低所得者への支援」が 32.1%となっており、高い割合を占めています。 ○夫婦のみ世帯では、「全世帯への支援」が 38.3%で最も高くなっています。次いで「高齢者世帯への支援」が 23.2%となっており、高い割合を占めています。 ○２世代家族、３世代家族等では、「全世帯への支援」がそれぞれ 51.9%、49.6%で最も高く半数前後を占めています。次いで高いのは、２世代家族では「子育て世帯への支援」の 20.9%、３世代家族等では「高齢者世帯への支援」の 20.5%となっています。
同居家族	○６才未満の子どもがいる世帯では、「子育て世帯への支援」が最も高く、49.1%と概ね半数を占めています。 ○６歳以上 18 歳未満の子どもがいる世帯では、「全世帯への支援」が最も高く 53.5%と半数以上を占めていますが、「子育て世帯への支援」も 30.0%で高くなっています。 ○65 歳以上の方がいる世帯、介護等の支援を要する方がいる世帯では、ともに「全世帯への支援」が最も多くそれぞれ 39.4%、37.3%となっており、次いで「高齢者世帯への支援」がそれぞれ 23.3%、27.6%が高くなっています。

職業	○学生、パート・アルバイトでは、「全世帯への支援」がそれぞれ 60.8%、60.1%と非常に高い割合を占めています、 ○これらに次いで、会社員・団体職員、公務員では「全世帯への支援」がそれぞれ 58.7%、51.6%となっており５割以上を占めています。 ○また公務員では、「子育て世帯への支援」が 29.0%と高くなっています。
通勤 通学地	○名古屋市に通勤通学地する者は、「全世帯への支援」が最も多く 58.7%となっています。また、知多地域に通勤・通学する者も、「全世帯への支援」が 55.2%と高い割合を示しています。

図表 1-6-4　属性別、特に必要だと思う支援先



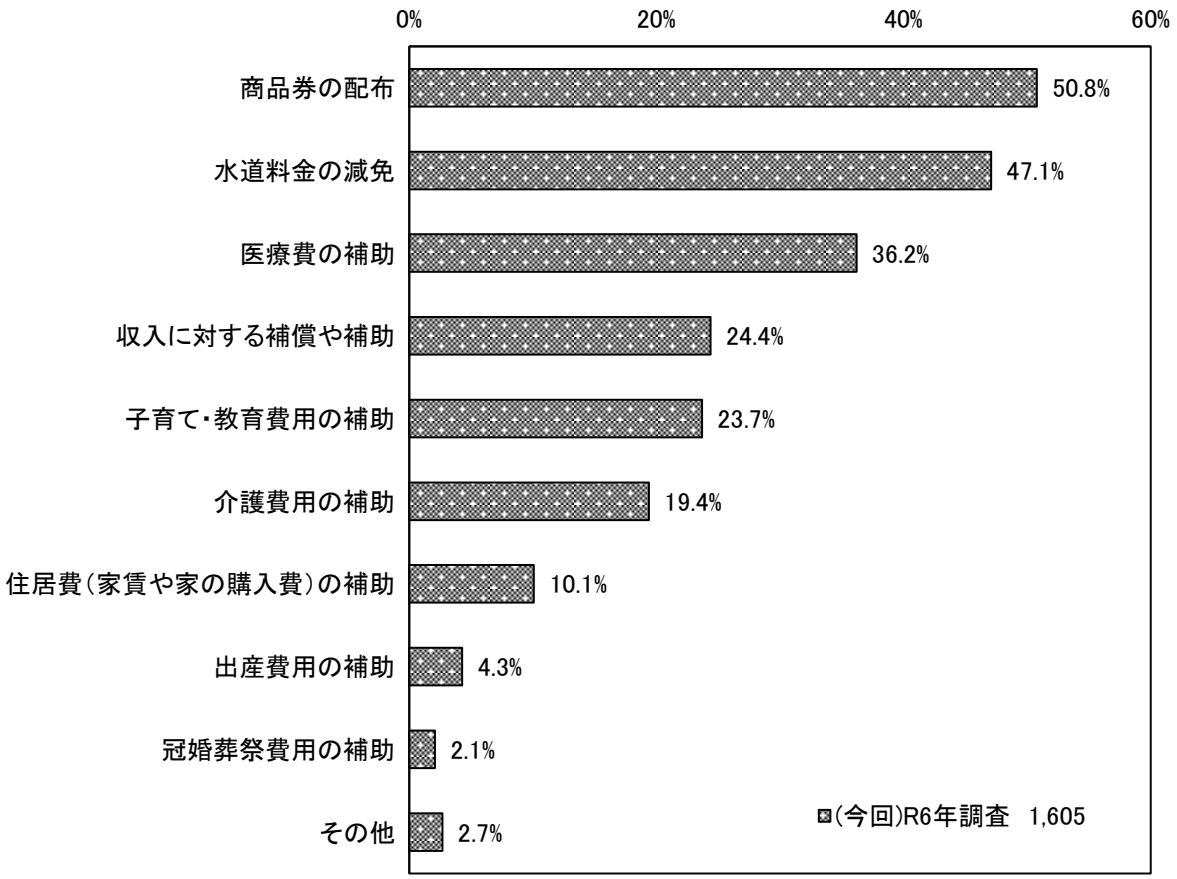
（3）行政に期待すること

問１１　物価高騰対策として、あなたが行政に期待することは何ですか。（３つまでに○印）

物価高騰対策として行政に期待することとしては、「商品券の配布」が最も高く 50.8%となっています。次いで、「水道料金の減免」の 47.1%、「医療費の補助」の 36.2%が高くなっています。

さらに、「収入に対する補償や補助」が 24.4%、「子育て・教育費用の補助」が 23.7%と続いています。

図表 1-6-5　物価高騰対策として行政に期待すること　-複数回答（３つまで）-

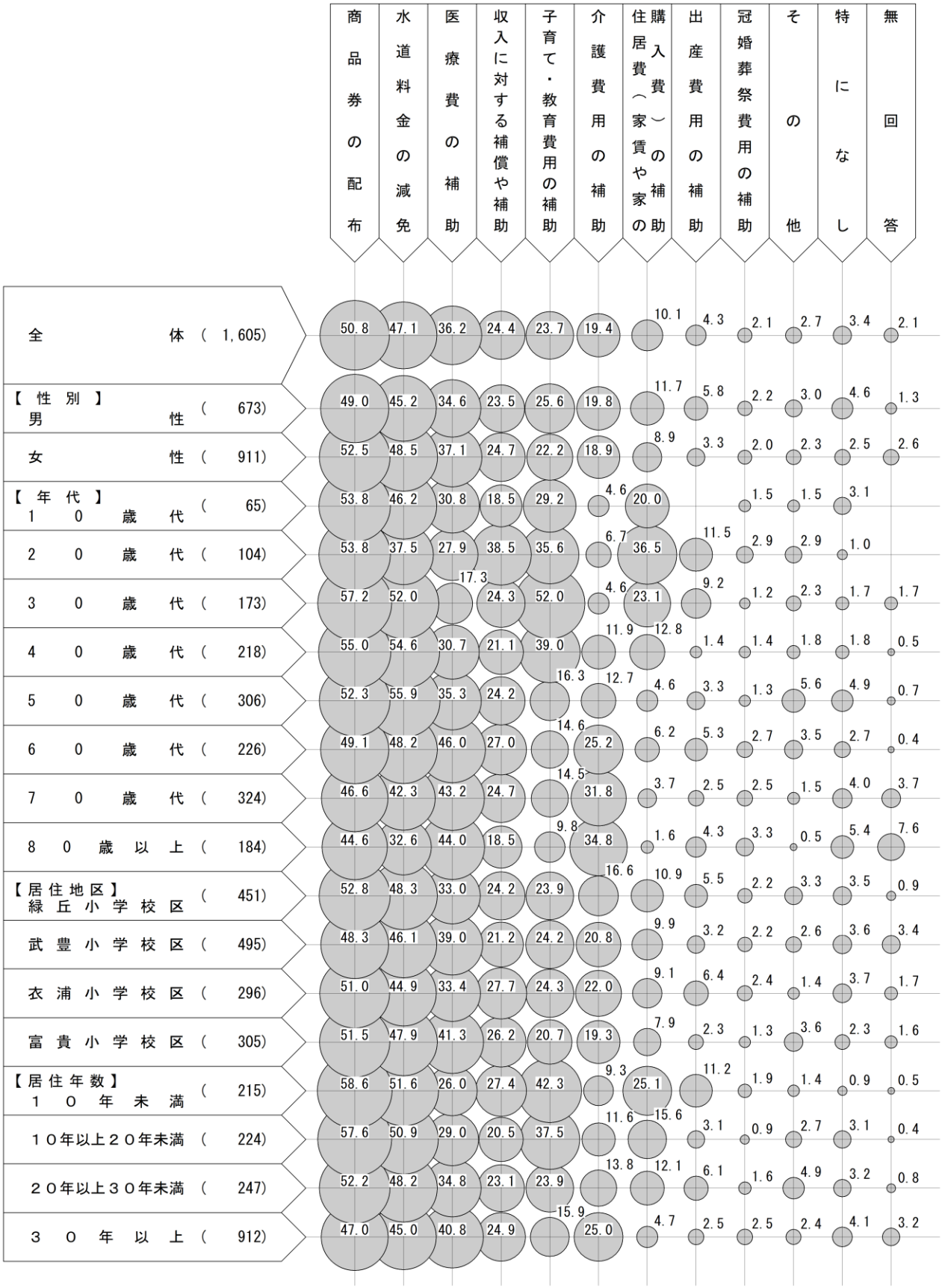


物価高騰対策として行政に期待することについて、回答者の属性別に傾向をみていきます。

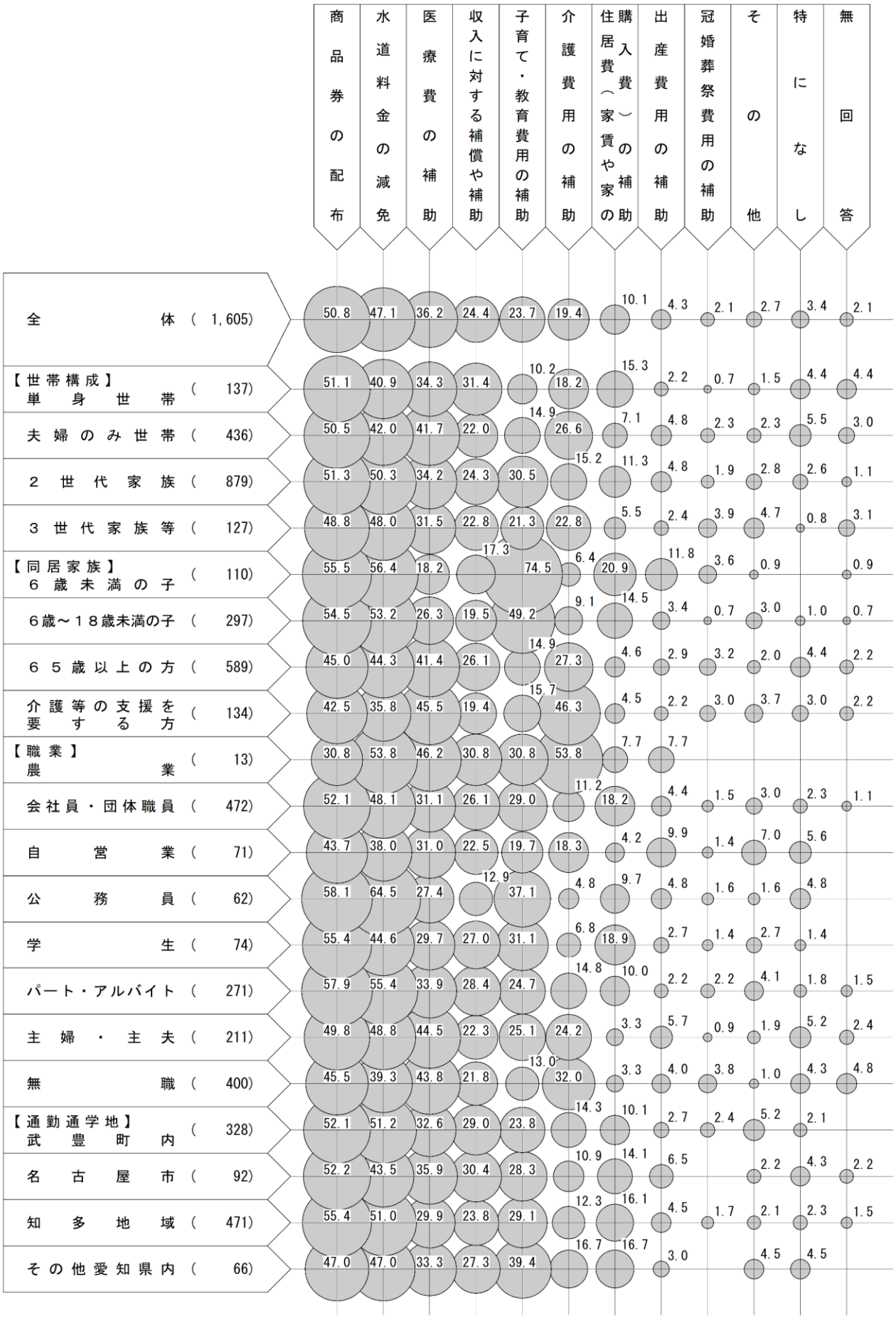
年代	○10 歳代、20 歳代、30 歳代、40 歳代では、「子育て・教育費用の補助」がそれぞれ 29.2%、35.6%、52.0%、39.0%で、いずれも全体の 23.7%を上回っています。また、「住居費（家賃や家の購入費）の補助」もそれぞれ 20.0%、36.5%、23.1%、12.8%で、いずれも全体の 10.1%を上回っています。 ○一方、10 歳代、20 歳代、30 歳代、40 歳代では、「医療費の補助」が低くなっています。 ○60 歳代、70 歳代、80 歳以上では、「医療費の補助」がそれぞれ 46.0%、43.2%、44.0%で、全体の 36.2%をいずれも上回っています。同様に「介護費用の補助」も 25.2%、31.8%、34.8%と全体の 19.4%をいずれも上回っています。
居住地区	○富貴小学校区では、「医療費の補助」が 41.3%で、全体の 36.2%を 5.1 ポイント上回っています。
居住年数	○居住年数 10 年未満では、「商品券の配布」の 58.6%、「水道料金の減免」の 51.6%に次いで「子育て・教育費用の補助」の 42.3%が高くなっています。 ○10 年以上 20 年未満も同様で、「商品券の配布」の 57.6%、「水道料金の減免」の 50.9%、「子育て・教育費用の補助」の 37.5%の順に高くなっています。 ○また、10 年未満や 10 年以上 20 年未満では、「住居費（家賃や家の購入費）の補助」がそれぞれ 25.1%、15.6%となっており、高くなっています。 ○30 年以上では、「介護費用の補助」が 25.0%で、全体の 19.4%を 5.6 ポイント上回っています。
世帯構成	○単身世帯では、「収入に対する補償や補助」が 31.4%で、全体の 24.4%を 7.0 ポイント上回っています。 ○夫婦のみ世帯では、「医療費の補助」が 41.7%で、全体の 36.2%を 5.5 ポイント上回っているほか、「介護費用の補助」も 26.6%と高く、全体の 19.4%を 7.2 ポイント上回っています。 ○２世代家族では、「子育て・教育費用の補助」が 30.5%となっており、全体の 23.7%を 6.8 ポイント上回っています。

同居家族	○６歳未満の子がいる世帯では、「子育て・教育費用の補助」が最も高く 74.5%となっています。全体の 23.7%を 50.8 ポイントも上回っています。また、「住居費（家賃や家の購入費）の補助」も 20.9%と高く、全体の 10.1%を 10.8 ポイント上回っています。 ○６歳未満の子どもがいる世帯では、「医療費の補助」は 18.2%、「収入に対する補償や補助」は 17.3%と低くなっています。 ○６歳以上 18 歳未満の子がいる世帯においても、「商品券の配布」の 54.5%、「水道料金の減免」の 53.2%に次いで「子育て・教育費用の補助」が高く、49.2%と全体の 23.7%を 25.5 ポイント上回っています。 ○65 歳以上の方がいる世帯では、「商品券の配布」が 45.0%、「水道料金の減免」が 44.3%、「医療費の補助」が 41.4%で、これら上位３つが 40%台で拮抗しています。 ○介護を要する方がいる世帯では、「介護費用の補助」が 46.3%で、最も高くなっています。
職業	○公務員では、「水道料金の減免」が 64.5%と非常に高く、全体の 47.1%と比べ 17.4 ポイントも高くなっています。また、「子育て・教育費用の補助」も 37.1%と高くなっています。 ○パート・アルバイトでは、「商品券の配布」が 57.9%、「水道料金の減免」が 55.4%でともに高く、全体と比べそれぞれ 7.1 ポイント、8.3 ポイント上回っています。 ○無職では、「商品券の配布」が 45.5%、「子育て・教育費用の補助」が 13.0%でともに低くなっており、反面、「医療費の補助」が 43.8%、「介護費用の補助」が 32.0%でともに高くなっています。
通勤 通学地	○名古屋市、知多地域、その他愛知県内に通勤通学する者（武豊町外に通勤通学する者）では、「子育て・教育費用の補助」がそれぞれ 28.3%、29.1%、39.4%となっており、高くなっています。 ○名古屋市内に通勤通学する者では、「収入に対する補償や補助」が 30.4%で、全体の 24.4%と比べ 6.0 ポイント上回っています。 ○知多地域に通勤通学する者では、「医療補の補助」が 29.9%で、全体の 36.2%を 6.3 ポイント下回っています。

図表 1-6-6　属性別、行政に期待すること　（1／2）　-複数回答（3つまで）-



図表 1-6-6　属性別、行政に期待すること　（2／2）　-複数回答（3つまで）-



１－７　町民参加・協働のまちづくり

（１）町政・町民参加

問１２　　町政（武豊町のまちづくり）や町民参加について、どのようにお考えですか。

① 武豊町の町政（町の仕事）、まちづくりに関心がある

② 地域活動（清掃、お祭り等）に参加したい（これからも参加したい）

③ ボランティア、ＮＰＯ活動に参加したい（これからも参加したい）

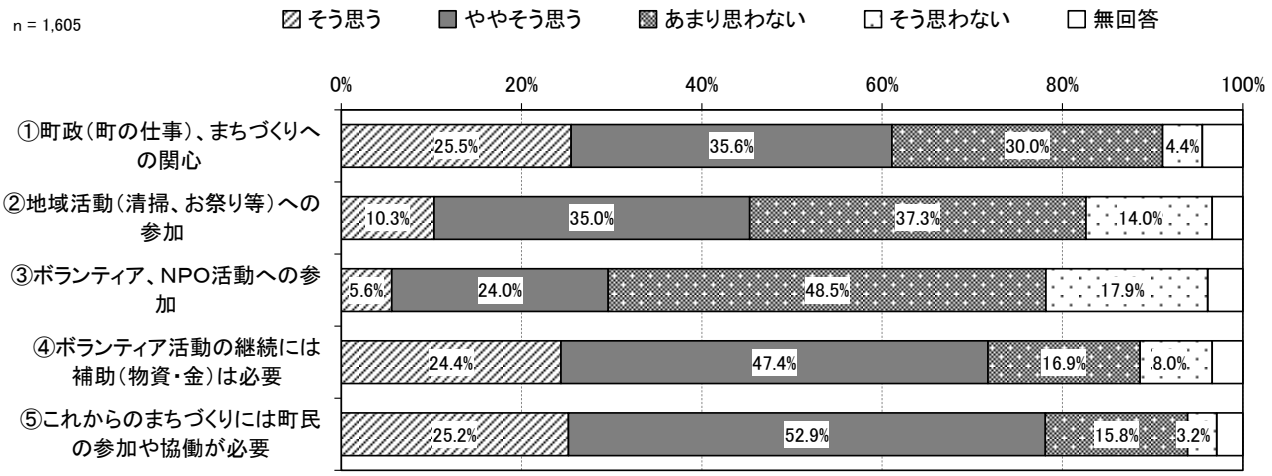
④ ボランティア活動といえども継続するためには何かしらの補助（物資・金）は必要だ

⑤ これからのまちづくりには町民の参加や協働が必要だ

町政（武豊町のまちづくり）や町民参加について、「そう思う」と「ややそう思う」をあわせた肯定的な回答をした割合をみていくと、「①武豊町の町政（町の仕事）、まちづくりに関心がある」は 61.1%、「②地域活動（清掃、お祭り等）に参加したい（これからも参加したい）」は 45.3%、「③ボランティア、ＮＰＯ活動に参加したい（これからも参加したい）」は 29.6%、「④ボランティア活動といえども継続するためには何かしらの補助（物資・金）は必要だ」が 71.8%、「⑤これからのまちづくりには町民の参加や協働が必要だ」が 78.1%となっています。

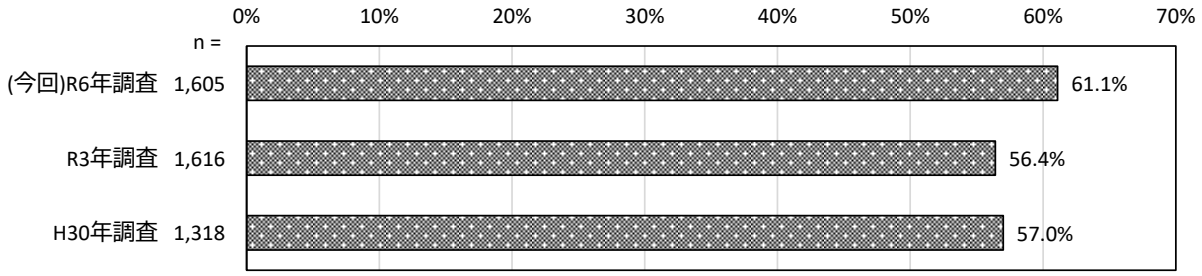
前回調査（令和３年調査）と比較したとき、「①武豊町の町政（町の仕事）、まちづくりに関心がある」は 4.7 ポイントの増加、「④ボランティア活動といえども継続するためには何かしらの補助（物資・金）は必要だ」は 4.3 ポイントの増加となっています。

図表 1-7-1　町政・町民参加

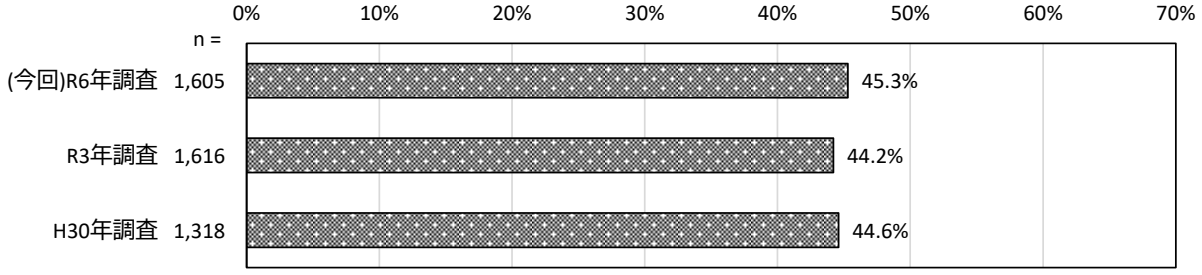


図表 1-7-2　町政・町民参加（過去調査との比較）

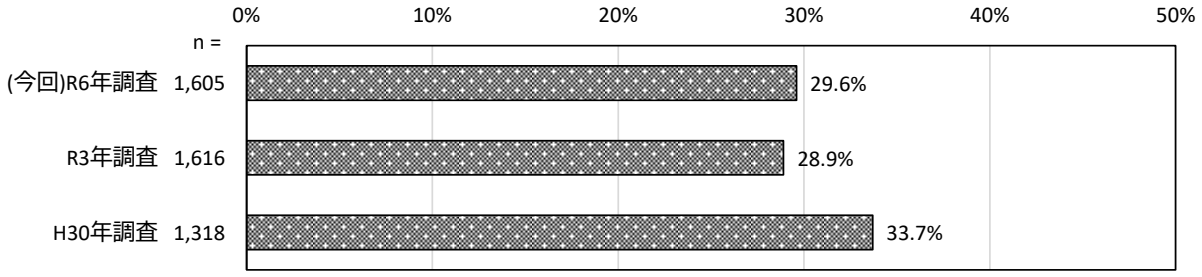
①武豊町の町政（町の仕事）、まちづくりに関心がある



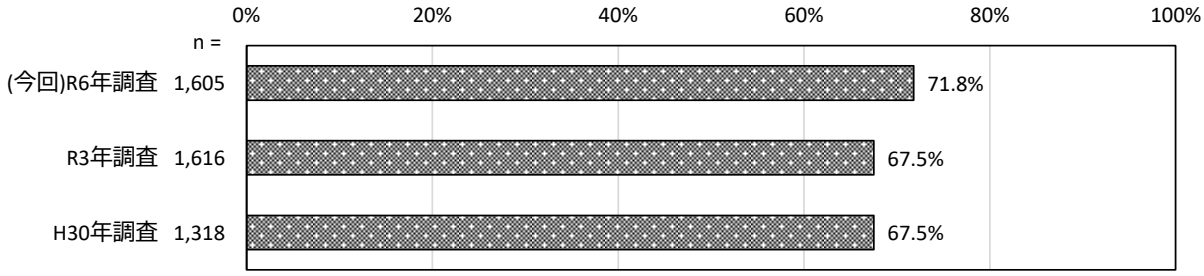
②地域活動（清掃、お祭り等）に参加したい（これからも参加したい）



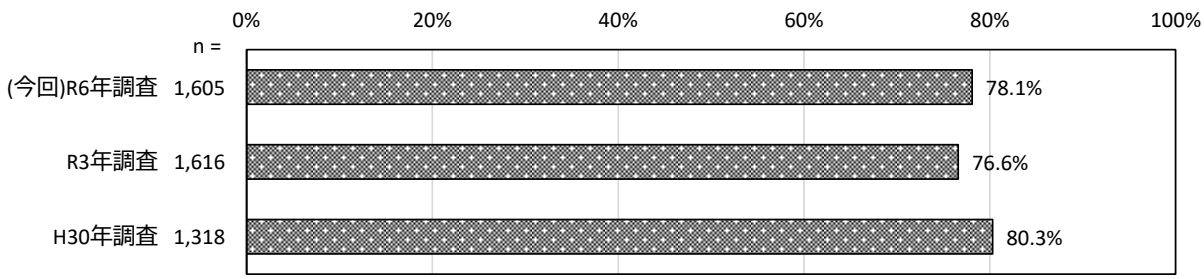
③ボランティア、NPO 活動に参加したい（これからも参加したい）



④ボランティア活動といえども継続するためには何かしらの補助（物資・金）は必要だ



⑤これからのまちづくりには町民の参加や協働が必要だ



※値は「そう思う」と「ややそう思う」の合計値。

１－８　名鉄知多武豊駅・ＪＲ武豊駅周辺のまちづくり

（１）駅周辺地域への来訪頻度

問１３　駅周辺地域（名鉄知多武豊駅・JR 武豊駅）への来訪頻度はどの程度ですか。
（１つに○印）

駅周辺地域（名鉄知多武豊駅・ＪＲ武豊駅）への来訪頻度については、「あまり利用しない（年数回）」が最も高く 42.4%を占めています。これに「利用したことない」の 10.5%を加えると 52.9%となり、町民の半数以上は駅周辺地域にほとんど足を運んでいないことがわかります。

「駅周辺に住んでいる」は 6.0%、「ほぼ毎日（週５日以上）」は 7.4%で、両者をあわせた割合は 13.4%となっています。これに「週に１～４日程度」の 13.9%を加えると 27.3%になり、週１日以上駅周辺地域に訪れる者は３割に満たない割合となっています。

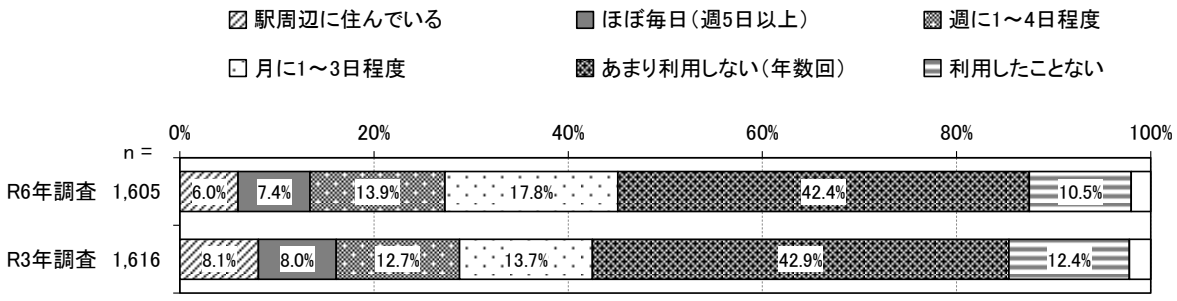
令和３年調査では、「あまり利用しない（年数回）」は 42.9%、「利用したことない」は 12.4%で、両者をあわせた割合は 55.3%でした。『駅周辺地域にほとんど足を運んでいない』の割合はわずかですが減少しています。

また、令和３年調査では、「駅周辺に住んでいる」は 8.1%、「ほぼ毎日（週５日以上）」は 8.0%で、両者をあわせた割合は 16.1%でした。こちらもわずかに減少しています。

一方、「週に１～４日程度」は令和３年調査では 12.7%でしたが 13.9%となりわずかに増加しています。また、「月に１～３日程度」も令和３年調査では 13.7%でしたが 17.8%となり増加しています。

「ほぼ毎日（週５日以上）」駅周辺地域に訪れている人はわずかに減少していますが、「週に１～４日程度」もしくは「月に１～３日程度」訪れている人は増加しています。

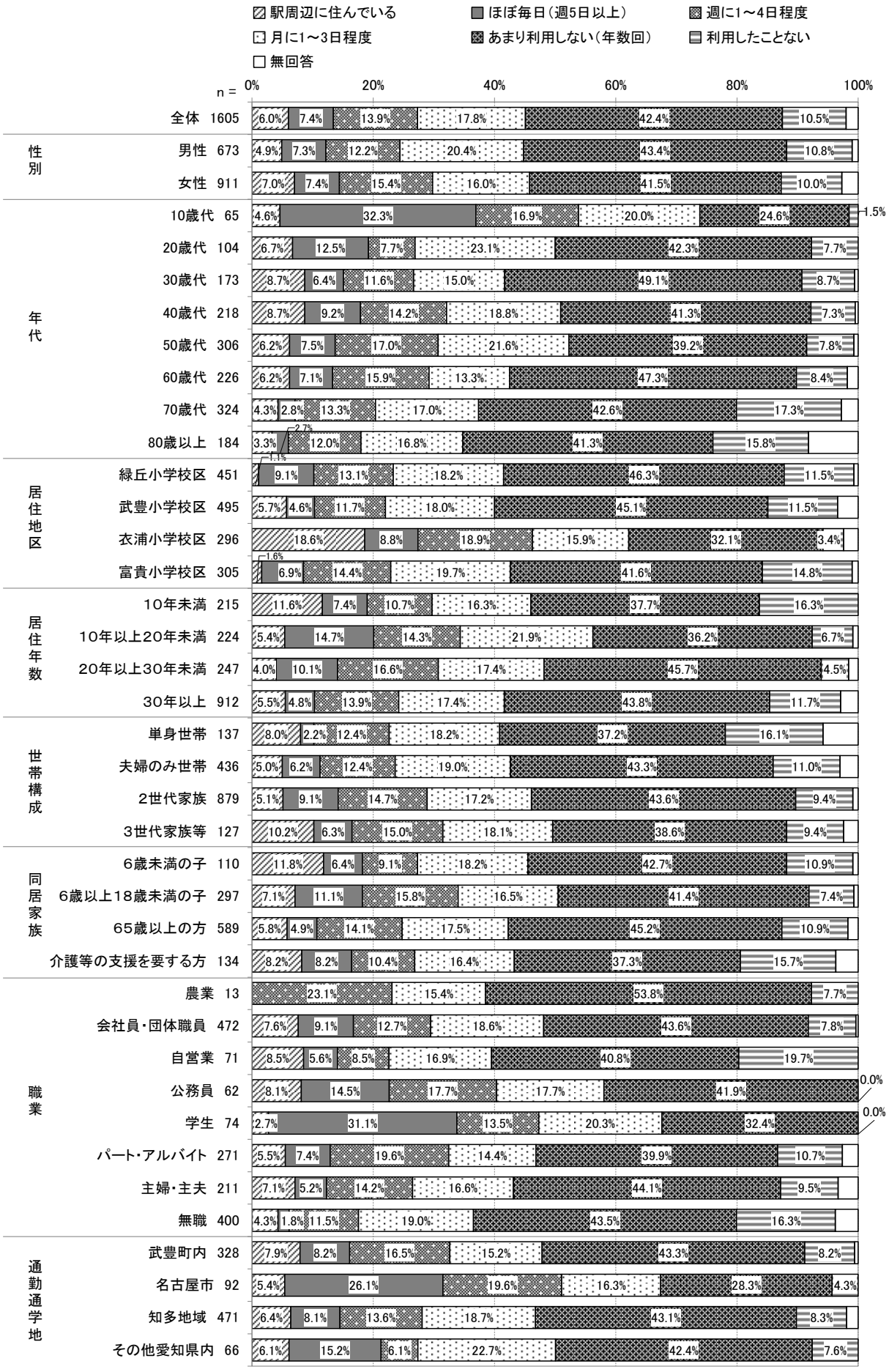
図表 1-8-1　駅周辺地域への来訪頻度



駅周辺地域（名鉄知多武豊駅・ＪＲ武豊駅）への来訪頻度について、回答者の属性別に傾向をみていきます。

性別	○女性では「週に１～４日程度」が 15.4%で、男性よりやや高くなっています。男性では「月に１～３日程度」が 20.4%であり、こちらは女性よりもやや高くなっています。週１日以上訪問する割合は、男性が 24.4%、女性が 29.8%で、女性の方が 5.4 ポイント高くなっています。
年代	○学生が多くを占める 10 歳代では、「ほぼ毎日（週５日以上）」が 32.3%と非常に高くなっています。10 歳代では週１日以上駅周辺地域に訪れる割合は 53.8%となり、年代別では最も高くなっています。 ○週１日以上駅周辺地域に訪れる割合をみると、80 歳以上が 18.0%、70 歳代が 20.4%で、70 歳以上の高齢者は２割程度にとどまっています。 ○週１日以上駅周辺地域に訪れる割合は、40 歳代、50 歳代、60 歳代ではそれぞれ 32.1%、30.7%、29.2%で、概ね３割程度となっています。
居住地区	○名鉄知多武豊駅を含む衣浦小学校区では、「駅周辺に住んでいる」が 18.6%と高く、週１日以上駅周辺地域に訪れる割合も 46.3%と最も高くなっています。 ○ＪＲ武豊駅を含む武豊小学校区では、「駅周辺に住んでいる」が 5.7%とやや高くなっていますが、週１日以上駅周辺地域に訪れる割合は 22.0%で全体の 27.3%よりも低くなっています。
居住年数	○10 年以上 20 年未満では、「ほぼ毎日（週５日以上）」が 14.7%と高く、その結果、週１日以上駅周辺地域に訪れる割合も 34.4%と高くなっています。 ○20 年以上 30 年未満、30 年以上と、居住年数が長くなると、駅周辺地域に訪れる頻度は 10 年以上 20 年未満と比べ低くなっています。
世帯構成	○世帯構成別に、週１日以上駅周辺地域に訪れる割合をみていくと、単身世帯は 22.6%、夫婦のみ世帯は 23.6%、２世代家族は 28.9%、３世代家族は 31.5%となっており、単身世帯から世代数が大きい家族になるにつれて駅周辺地域に訪れる割合が高くなる傾向があります。
同居家族	○６歳以上 18 歳未満の子がいる世帯では、「ほぼ毎日（週５日以上）」が 11.1%とやや高くなっています。また、「週に１～４日程度」も 15.8%とやや高くなっています。
職業	○学生では、「ほぼ毎日（週５日以上）」が 31.1%となっており、週１日以上駅周辺地域に訪れる割合は 47.3%と非常に高くなっています。 ○パート・アルバイトや公務員では、「週に１～４日程度」がそれぞれ、19.6%、17.7%となっており、他と比べて高くなっていることが特徴的です。
通勤 通学地	○武豊町内に通勤通学する者では、「あまり利用しない（年数回）」が 43.3%、「利用したことない」が 8.2%で、半数以上が駅周辺地区にはほとんど訪れていません。訪れている者でも「週に１～４回」の 16.5%が最も高くなっています。 ○名古屋市に通勤通学する者では、「ほぼ毎日（週５日以上）」が 26.1%と非常に高くなっています。

図表 1-8-2　属性別、駅周辺地域への来訪頻度



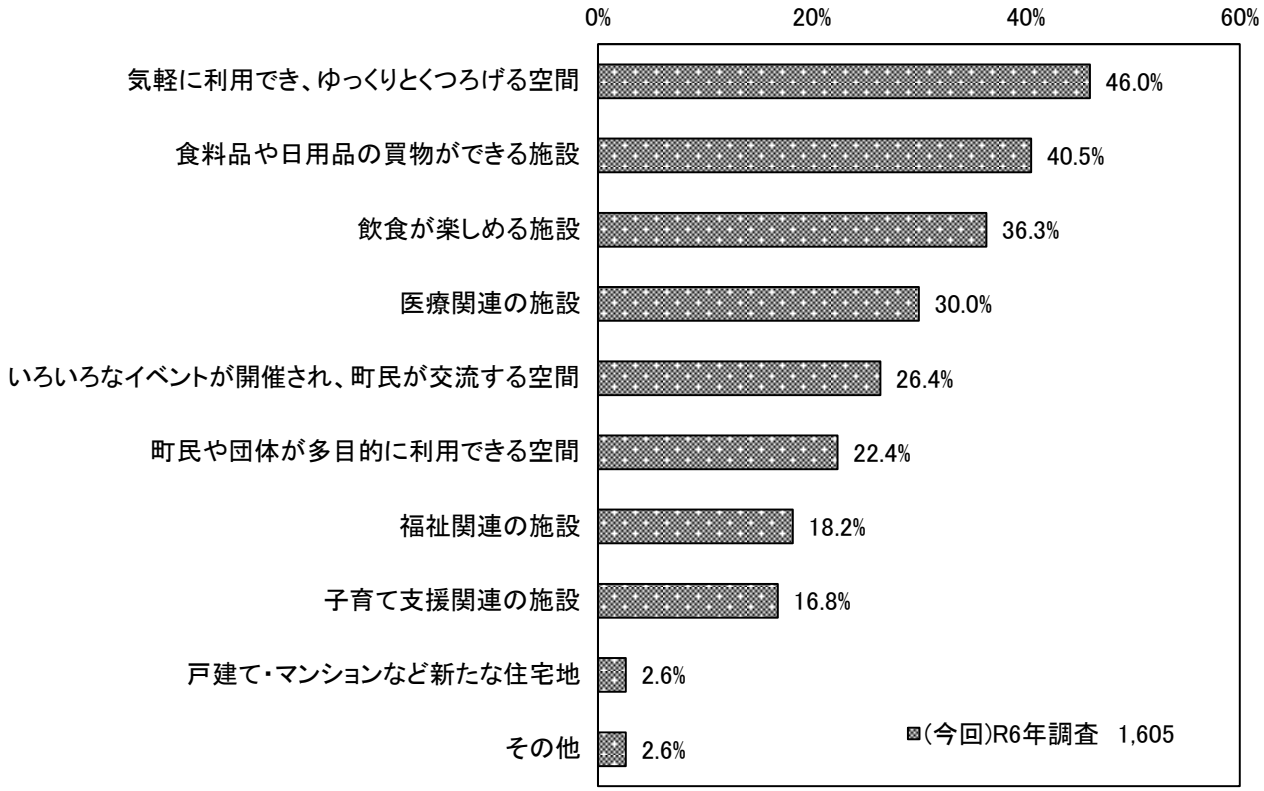
（２）公共機能集積エリアに備える機能

問１４　武豊中央公園南の公共機能集積エリアについて、役場庁舎を含む公共施設が集積し、様々な目的で町民が集い、豊かな交流が育まれるエリアとしての整備を検討しています。このエリアに備える機能としてあなたが望ましいと思われるものは何ですか。（３つまでに○印）

武豊中央公園南の公共機能集積エリアに備える機能をたずねたところ、「気軽に利用でき、ゆっくりとくつろげる空間」が最も高く 46.0%、次いで「食料品や日用品の買い物ができる施設」が 40.5%でした。

さらに、「飲食が楽しめる施設」の 36.3%、「医療関連の施設」の 30.0%が続いており、以上の４項目が３割以上となっています。

図表 1-8-3　公共機能集積エリアに備える機能　-複数回答（３つまで）-

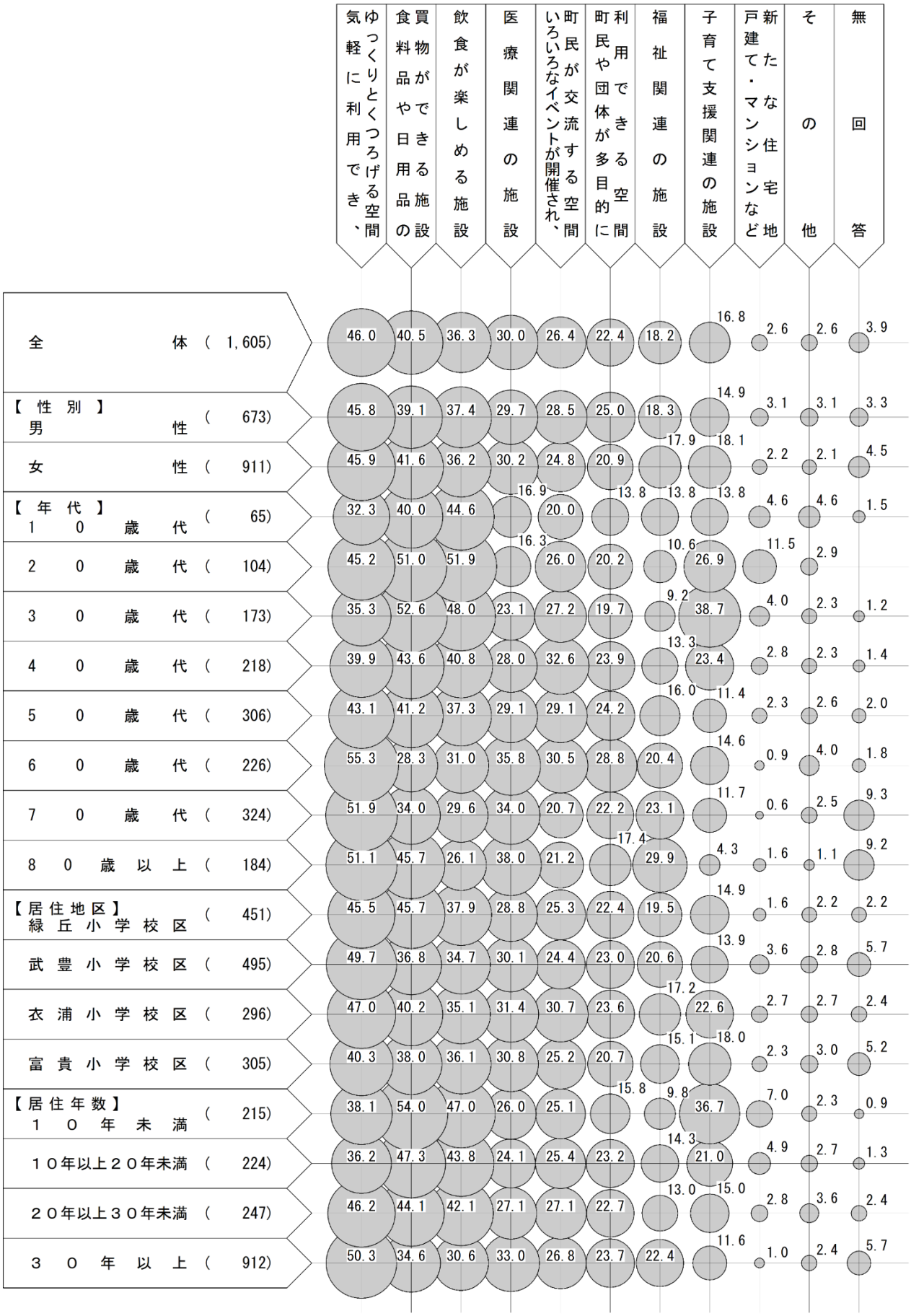


公共機能集積エリアに備える機能について、回答者の属性別に傾向をみていきます。

年代	○10 歳代では、「飲食が楽しめる施設」が最も高く 44.6%で、次いで「食料品や日用品の買い物ができる施設」が 40.0%となってます。20 歳代も同様で「飲食が楽しめる施設」が最も高く 51.9%で、２番目は「食料品や日用品の買い物ができる施設」の 51.0%となっています。 ○30 歳代では、「食料品や日用品の買い物ができる施設」が最も高く 52.6%で、次いで「飲食が楽しめる施設」48.0%となってます。40 歳代も同様で「食料品や日用品の買い物ができる施設」が最も高く 43.6%で、２番目が「飲食が楽しめる施設」の 40.8%となっています。 ○60 歳代、70 歳代、80 歳以上は、いずれも「気軽に利用でき、ゆっくりとくつろげる空間」が最も高く、順に 55.3%、51.9%、51.1%となっています。 ○10 歳代・20 歳代では「飲食が楽しめる施設」、30 歳代・40 歳代では「食料品や日用品の買い物ができる施設」、60 歳以上では「気軽に利用でき、ゆっくりとくつろげる空間」が最も高くなっており、年代間で傾向が顕著に異なっています。 ○20 歳代～40 歳代では、「子育て支援関連の施設」も比較的高くなっています。
居住地区	○緑丘小学校区では、「食料品や日用品の買い物ができる施設」が 45.7%で全体の 40.5%を 5.2 ポイント上回っています。また、衣浦小学校区では、「子育て支援関連の施設」が 22.6%で全体の 16.8%より 5.8 ポイント上回っています。
居住年数	○居住年数 10 年未満と 10 年以上 20 年未満では、「食料品や日用品の買い物ができる施設」が最も高く、それぞれ 54.0%、47.3%と全体の 40.5%を大きく上回っています。次いで「飲食が楽しめる施設」もそれぞれ 47.0%、43.8%となっており、全体の 36.3%を上回っています。 ○居住年数 30 年以上になると、「気軽に利用でき、ゆっくりとくつろげる空間」が最も高く 50.3%で、全体の 46.0%を 4.3 ポイント上回っています。
同居家族	○６歳未満の子がいる世帯では、「子育て支援関連の施設」が最も高く 57.3%となっています。また、６歳以上 18 歳未満の子がいる世帯では、「飲食が楽しめる施設」と「食料品や日用品の買い物ができる施設」が上位２つを占めており 45.5%、44.4%となっています。 ○65 歳以上の方がいる世帯では「気軽に利用でき、ゆっくりとくつろげる空間」が最も高く 53.0%となっています。また、介護を要する方がいる世帯では「医療関連の施設」が 40.3%、「福祉関連の施設」が 30.6%で、ともに高くなっています。
職業	○学生では「飲食が楽しめる施設」が 52.7%で全体の 36.3%を大きく上回っています。 ○公務員と自営業では「子育て支援関連の施設」がそれぞれ 33.9%、29.6%で、全体の 16.8%を大きく上回っています。

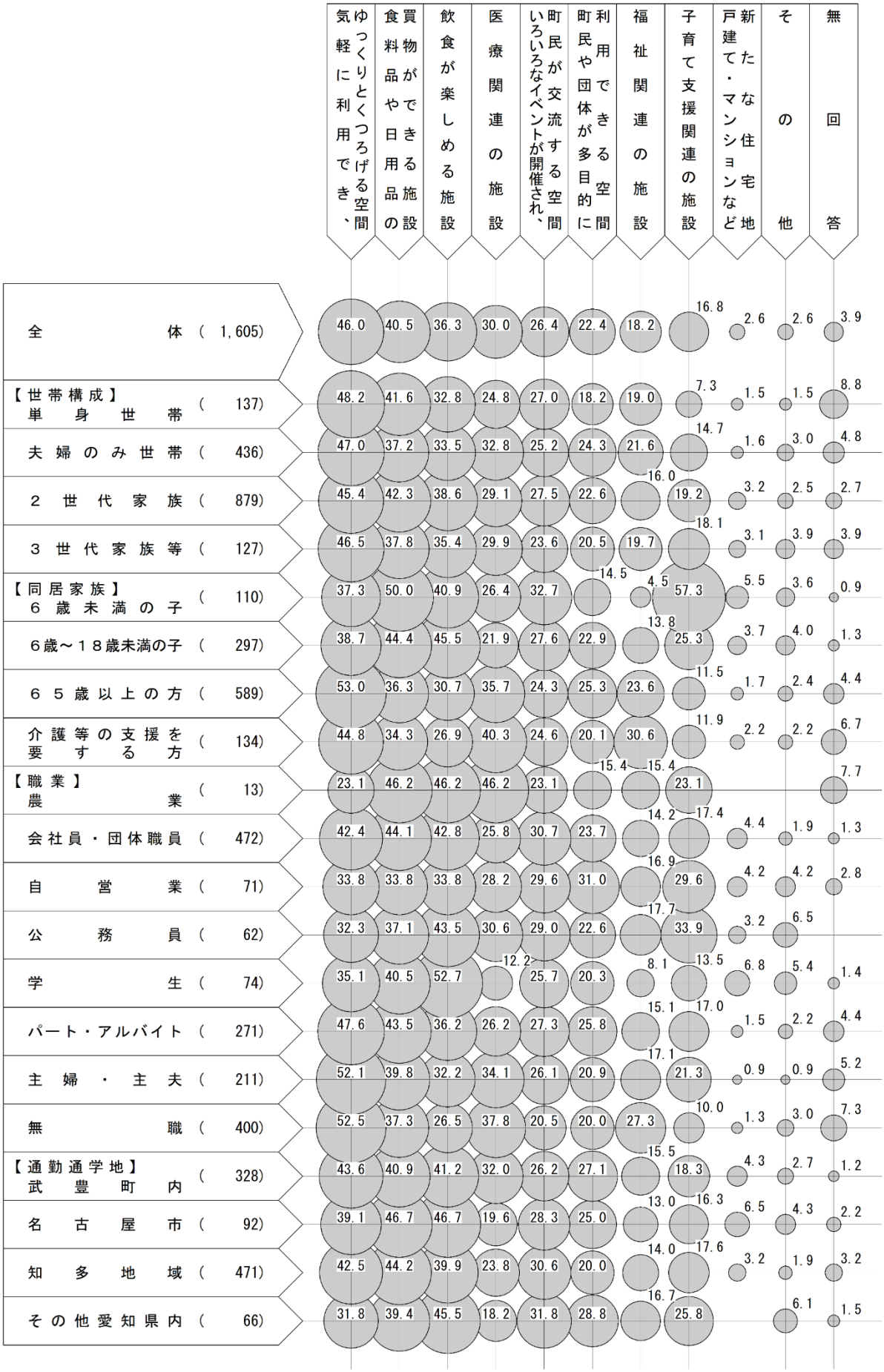
図表 1-8-4　属性別、公共機能集積エリアに備える機能　（1／2）

-複数回答（3つまで）-



図表 1-8-4　属性別、公共機能集積エリアに備える機能　（2／2）

-複数回答（3つまで）-



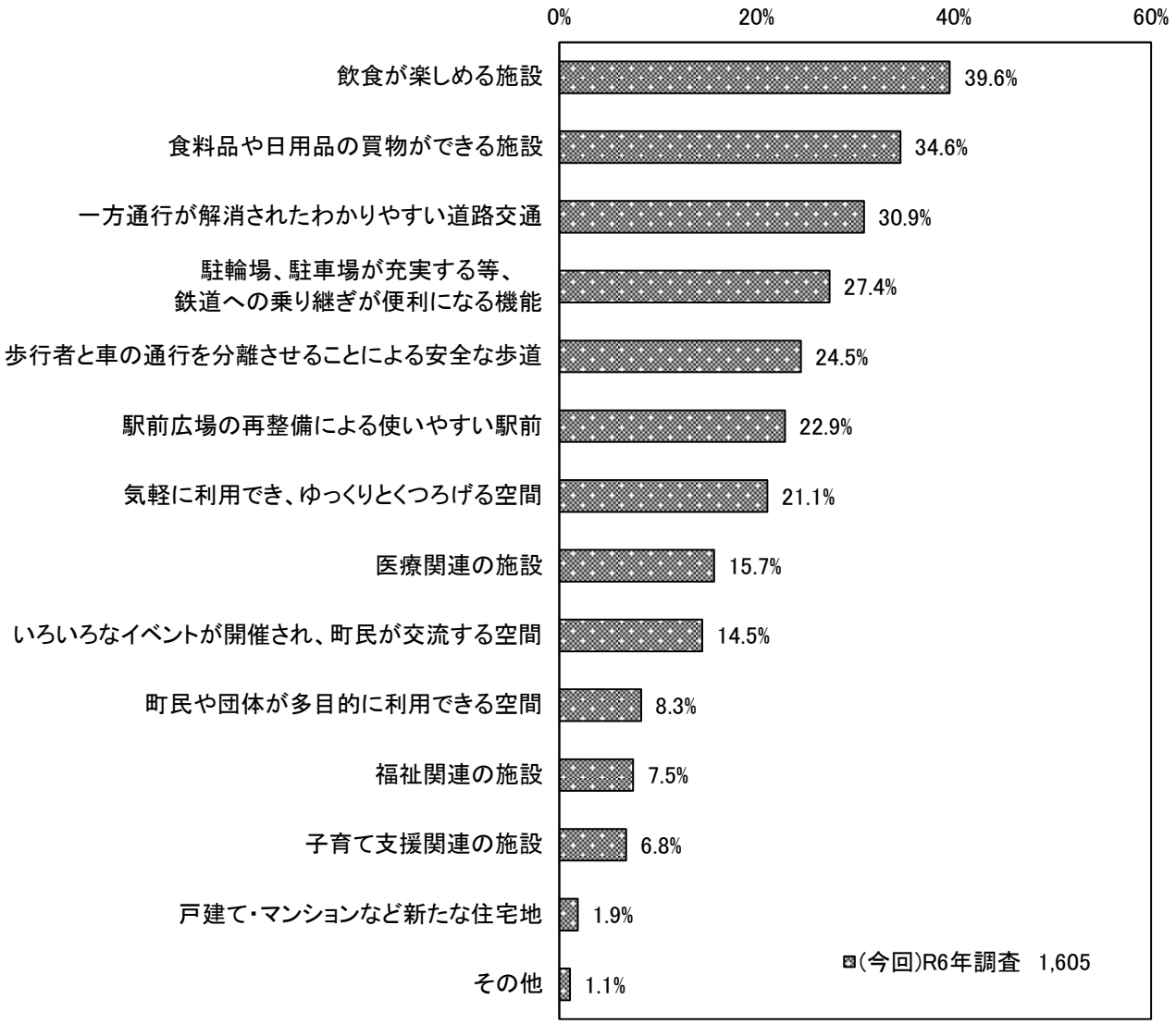
（３）にぎわい創出エリアに備える機能

問１５　現在の役場庁舎敷地を含む名鉄知多武豊駅西側を中心とした「にぎわい創出エリア」について、庁舎等の移転に合わせ、駅前という立地ポテンシャルを活かし、人が集まり、にぎわいを生み出すエリアとしてのまちづくりを検討しています。このエリアに備える機能としてあなたが望ましいと思われるものは何ですか。（３つまでに○印）

にぎわい創出エリアに備える機能をたずねたところ、「飲食が楽しめる施設」が最も高く 39.6%、次いで「食料品や日用品の買い物ができる施設」の 34.6%、「一方通行が解消されたわかりやすい道路交通」の 30.9%が高くなっています。

この上位３項目を除くと、「駐輪場、駐車場が充実する等、鉄道への乗り継ぎが便利になる機能」が 27.4%、「歩行者と車の通行を分離させることによる安全な歩道」が 24.5%、「駅前広場の再整備による使いやすい駅前」の 22.9%、「気軽に利用でき、ゆっくりとくつろげる空間」の 21.1%、以上の４項目が２割以上となっています。

図表 1-8-5　にぎわい創出エリアに備えたい機能　-複数回答（３つまで）-

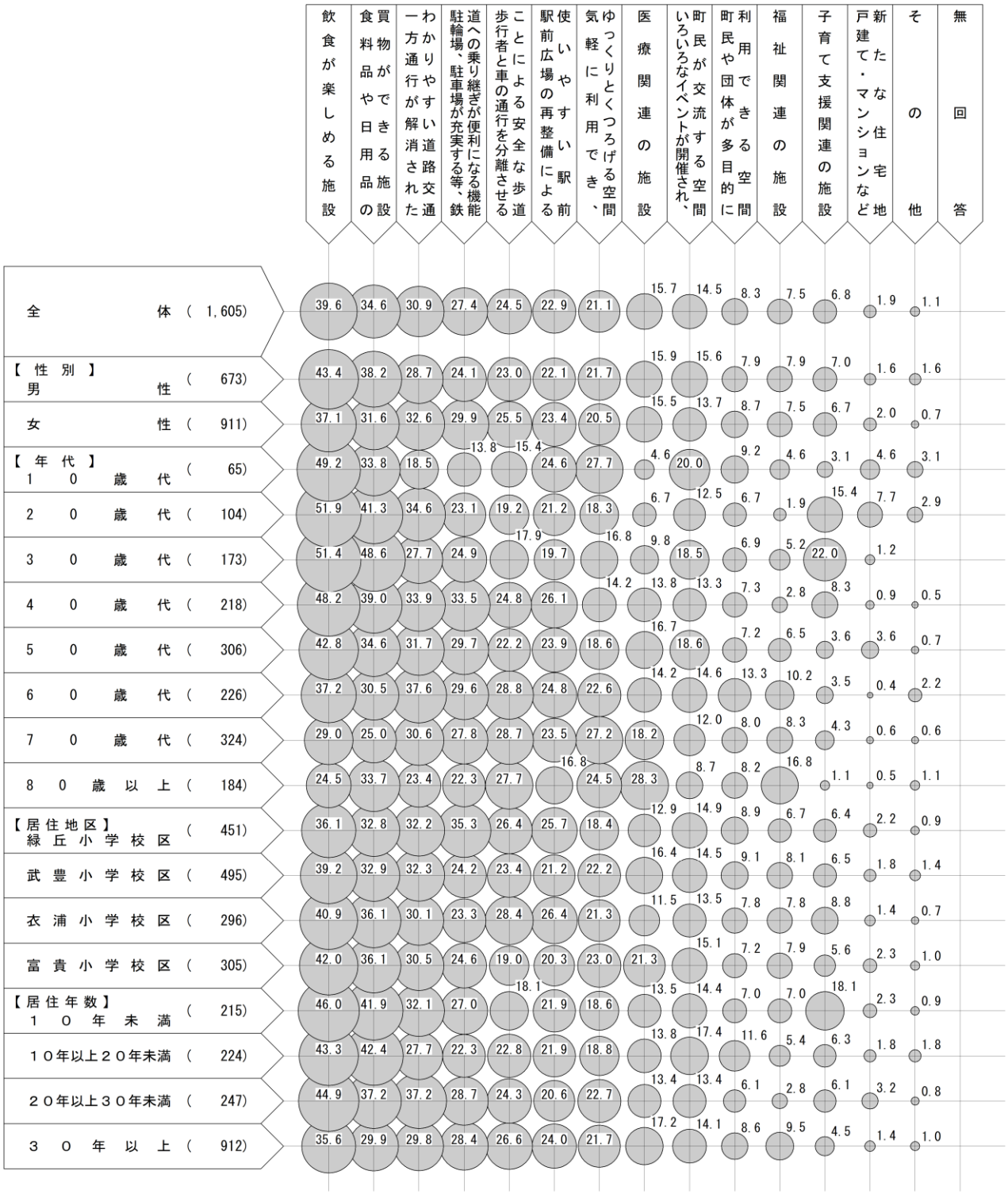


にぎわい創出エリアに備える機能について、回答者の属性別に傾向をみていきます。

性別	○男性では「飲食が楽しめる施設」が 43.4%、「食料品や日用品の買い物ができる施設」が 38.2%で、女性の 37.1%、31.6%をそれぞれ 6.3 ポイント、6.6 ポイント上回っています。このほかでは男女で顕著な違いはみられません。
年代	○30 歳代では、「飲食が楽しめる施設」の 51.4%、次いで「食料品や日用品の買い物ができる施設」の 48.6%が特に高く、ともに全体の 39.6%、34.6%を大きく上回っています。さらに、「子育て支援関連の施設」が 22.0%で、これも全体の 6.8%を大きく上回っています。 ○このほかでは、20 歳代で「飲食が楽しめる施設」が 51.9%、80 歳上で「医療関係の施設」が 28.3%となっており、ともに全体の値を 10 ポイント以上上回っています。
居住地区	○緑丘小学校区では、「駐輪場、駐車場が充実する等、鉄道への乗り継ぎが便利になる機能」が 35.3%で、全体の 27.4%を 7.9 ポイント上回っています。 ○富貴小学校では、「医療関連の施設」が 21.3%となっており、全体の 15.7%を 5.6 ポイント上回っています。
居住年数	○居住年数 10 年未満では、「子育て支援関連の施設」が 18.1%となっており、全体の 6.8%を 11.3 ポイント上回っている点が特徴的です。 ○居住年数 10 年未満や、10 年以上 20 年未満では、「飲食が楽しめる施設」ならびに「食料品や日用品の買い物ができる施設」がいずれも全体の 39.6%、34.6%を上回っています。
世帯構成	○単身世帯では、「飲食が楽しめる施設」は 29.2%で全体の 39.6%を 10 ポイント以上下回っており、「気軽に利用でき、ゆっくりとくつろげる空間」が 29.9%と高くなっている点が特徴的です。
同居家族	○６歳未満の子がいる世帯では、「飲食が楽しめる施設」が 43.6%で最も高いなっていますが、次いで「子育て支援関連の施設」が 36.4%となっており、これは全体の 6.8%を実に 29.6 ポイントも上回っています。 ○65 歳以上の方がいる世帯では、「飲食が楽しめる施設」は 31.9%で低くなっています。
職業	○公務員、学生、会社員・団体職員では、「飲食が楽しめる施設」がそれぞれ 62.9%、52.7%、51.9%と、全体の 39.6%を 10 ポイント以上上回る非常に高い割合となっています。 ○学生では、「いろいろなイベントが開催され、町民が交流する空間」が 24.3%となっており、全体の 14.5%を 9.8 ポイント上回っています。
通勤 通学地	○名古屋市に通勤通学する者では、「飲食が楽しめる施設」が 55.4%と非常に高い割合となっており、また、「駅前広場の再整備による使いやすい駅前」も 32.6%と高い割合を示しています。

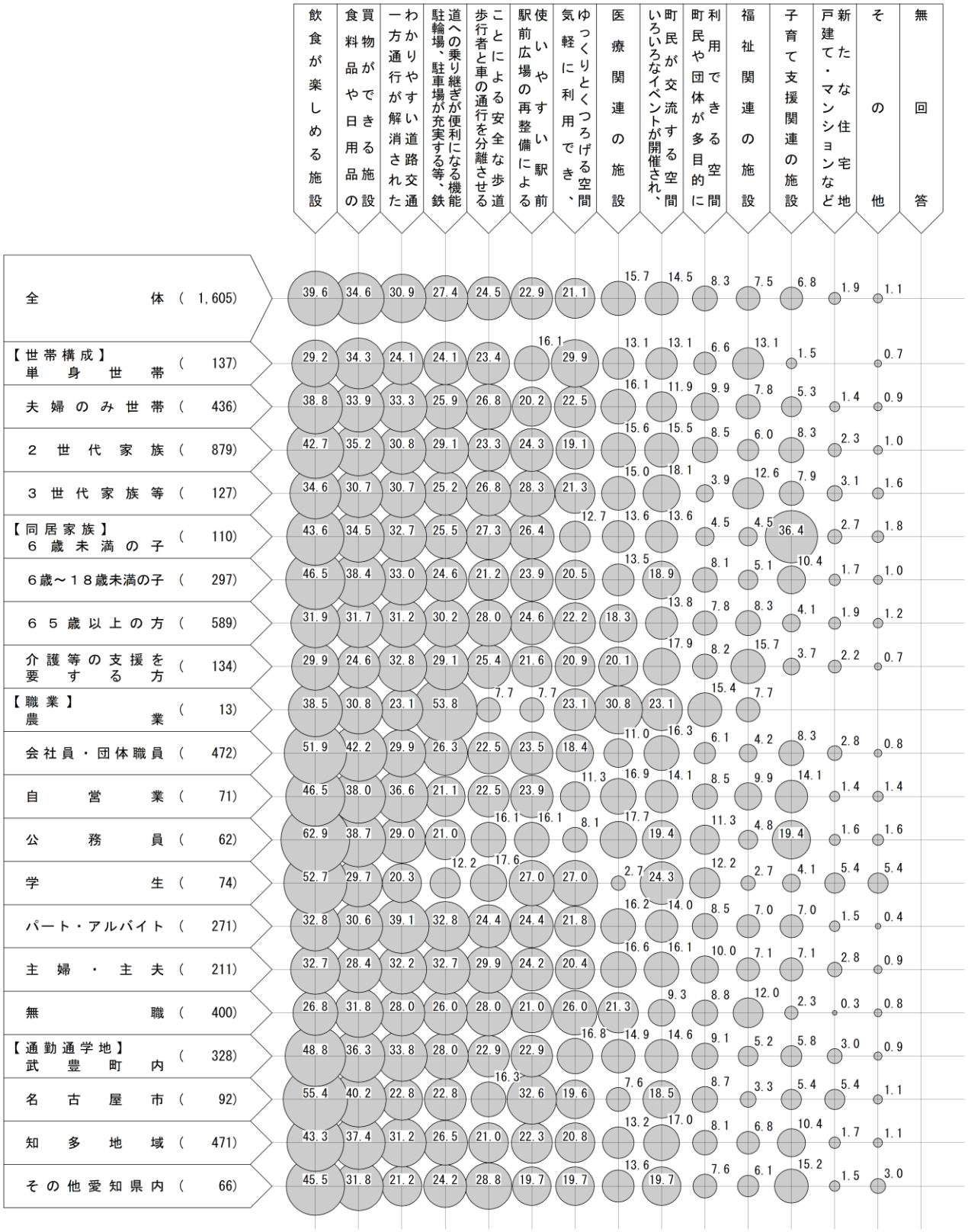
図表 1-8-6　属性別、「にぎわい創出エリア」に備えたい機能　（１／２）

-複数回答（３つまで）-



図表 1-8-6　属性別、「にぎわい創出エリア」に備えたい機能　（2／2）

-複数回答（3つまで）-



１－９　脱炭素社会の実現

（１）「武豊町ゼロカーボンシティ宣言」の認知度

問１６　2050 年までに二酸化炭素排出量の実質ゼロを目指して挑戦する「武豊町ゼロカーボンシティ宣言」についてどの程度ご存じですか。（１つに○印）

「武豊町ゼロカーボンシティ宣言」の認知度については、「よく知っている」は 3.8%で少数にとどまっています。「少し知っている」は 18.6%で、「よく知っている」と「少し知っている」をあわせると 22.4%となっています。

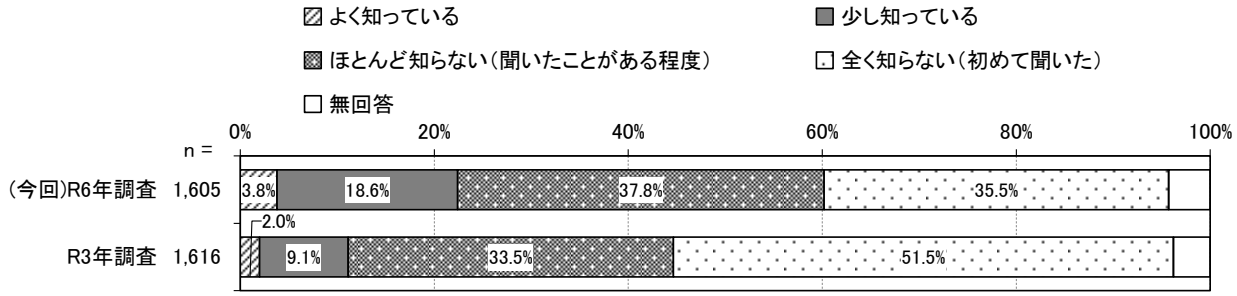
「ほとんど知らない（聞いたことがある程度）」は 37.8%、「全く知らない（初めて聞いた）」は 35.5%となっています。

前回調査（令和３年調査）では、「よく知っている（2.0%）」と「少し知っている（9.1%）」をあわせた『知ってる』は 11.1%でした。今回調査では 22.4%と 11.3 ポイントの増加となっています。

また、前回調査では、「ほとんど知らない（33.5%）」と「全く知らない（51.5%）」をあわせた『知らない』は 85.0%でした。今回調査では 73.3%と 11.7 ポイントの低下となっています。

前回調査から今回調査にかけて、「武豊町ゼロカーボンシティ宣言」の認知度（『知っている』）は 11.1%から 22.4%とほぼ倍増しましたが、まだ『知らない』が７割以上を占めています。

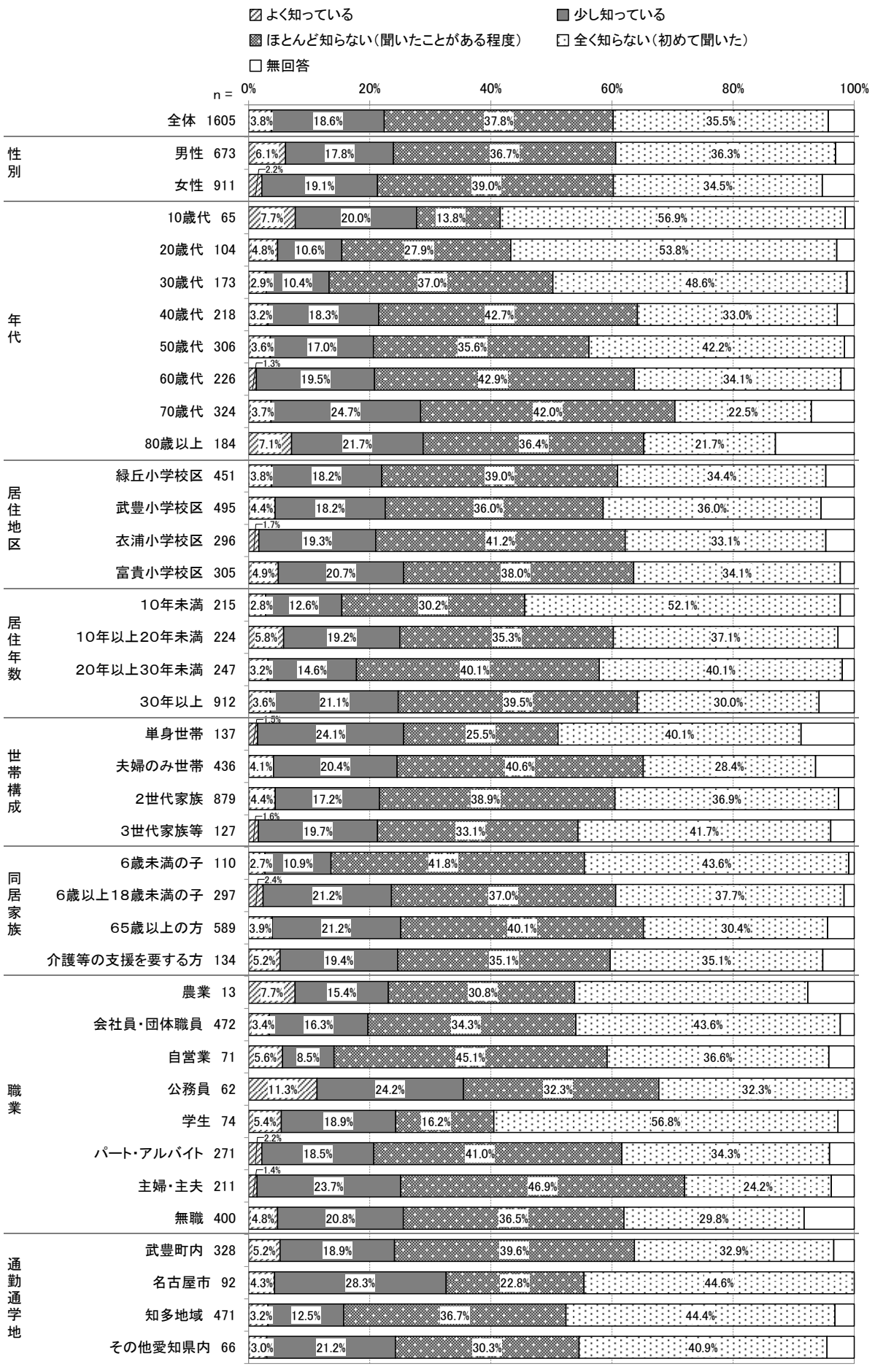
図表 1-9-1　「武豊町ゼロカーボンシティ宣言」の認知度



以下、回答者の属性別に、「よく知っている」と「少し知っている」をあわせた割合で傾向をみていきます。

性別	○男性は 23.9%、女性は 21.3%です。男性の方が 2.6 ポイント上回っています。
年代	○10 歳代は 27.7%で、20 歳代～60 歳代と比べるとかなり高くなっています。 ○20 歳代は 15.4%、30 歳代は 13.3%で、20 歳代・30 歳代は 10%台の低い水準にとどまっています。 ○40 歳代は 21.5%、50 歳代は 20.6%、60 歳代は 20.8%で、この３つの年代は 20%台で、ほぼ同じ水準にあります。 ○70 歳代は 28.4%、80 歳以上は 28.8%となっています。認知度は 80 歳以上が最も高くなっています。
居住地区	○富貴小学校区が 25.6%、衣浦小学校区が 21.0%で、両者には 4.6 ポイントの開きがあります。 ○武豊小学校区は 22.6%、緑丘小学校区は 22.0%で、全体の 22.4%とほぼ同じ水準となっています。
居住年数	○居住年数 10 年以上 20 年未満が 25.0%、30 年以上が 24.7%で、この両者が高くなっています。 ○10 年未満は 15.4%で最も低く、全体の 22.4%を 7.0 ポイント下回っています。
世帯構成	○単身世帯が 25.6%、夫婦のみ世帯が 24.5%で、この両者が高くなっています。
同居家族	○６歳未満の子がいる世帯では 13.6%と非常に低くなっています。全体の 22.4%を 8.8 ポイント下回っています。 ○65 歳以上の者がいる世帯は 25.1%、介護等の支援を必要とする者がいる世帯は 24.6%で、この両者が高くなっています。
職業	○公務員は 35.5%で非常に高くなっています。全体の 22.4%を 13.1 ポイント上回っています。 ○次いで、無職の 25.6%、主婦・主婦の 25.1%、学生の 24.3%が高くなっています。
通勤 通学地	○名古屋市に通勤通学する者は 32.6%と高くなっています。逆に、知多地域に通勤通学する者は 15.7%となっています。

図表 1-9-2　属性別、「武豊町ゼロカーボンシティ宣言」の認知度



（２）地球温暖化防止対策への取組

問１６－１　脱炭素社会を 2050 年までに実現するため、地球温暖化防止対策に取り組んでいることはありますか。（あてはまるものすべてに○印）

「武豊町ゼロカーボンシティ宣言」について「よく知っている」または「少し知っている」と回答した 359 人を対象に、地球温暖化防止対策に取り組んでいることについてたずねました。

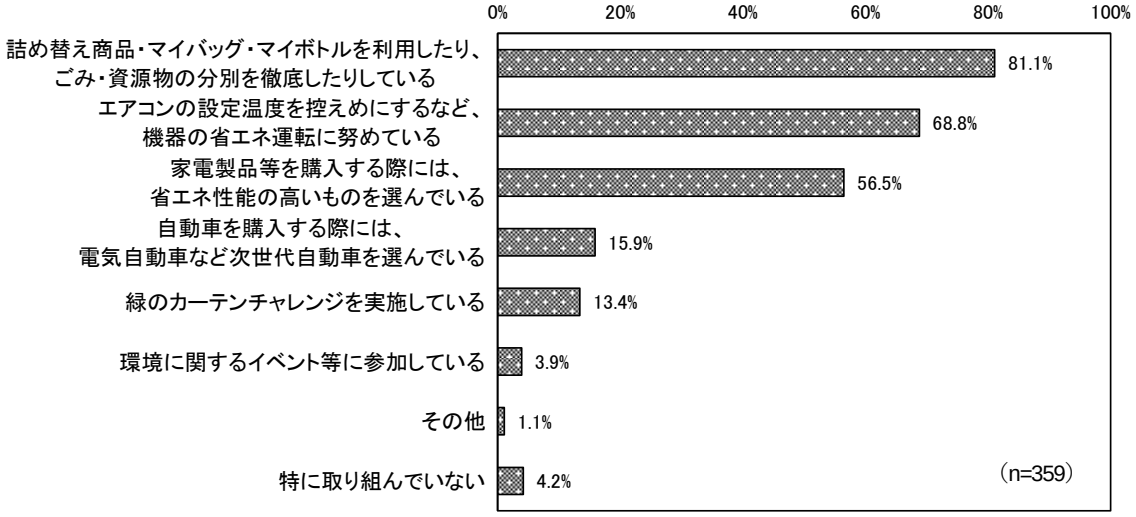
「詰め替え商品・マイバック・マイボトルを利用したり、ごみ・資源物の分別を徹底したりしている」が最も高く 81.1%となっています。

次いで、「エアコンの設定温度を控えめにするなど、機器の省エネ運転に努めている」が 68.8%、「家電製品等を購入する際には、省エネ性能の高いものを選んでいる」が 56.5%となっています。

このほかは、「自動車を購入する際には、電気自動車など次世代自動車を選んでいる」が 15.9%、「緑のカーテンチャレンジを実施している」が 13.4%、「環境に関するイベント等に参加している」が 3.9%で、いずれも少数にとどまっています。

また、「特に取り組んでいない」は 4.2%でした。

図表 1-9-3　地球温暖化防止対策に取り組んでいること



以下、回答者の属性別に傾向をみていきます。

なお、「詰め替え商品・マイバック・マイボトルを利用したり、ごみ・資源物の分別を徹底したりしている」は、「詰め替え商品・マイバック等の利用やごみ・資源物の分別を徹底」と表記、「エアコンの設定温度を控えめにするなど、機器の省エネ運転に努めている」は、「エアコンの温度を控えめにする等機器の省エネ運転に努めている」と表記します。

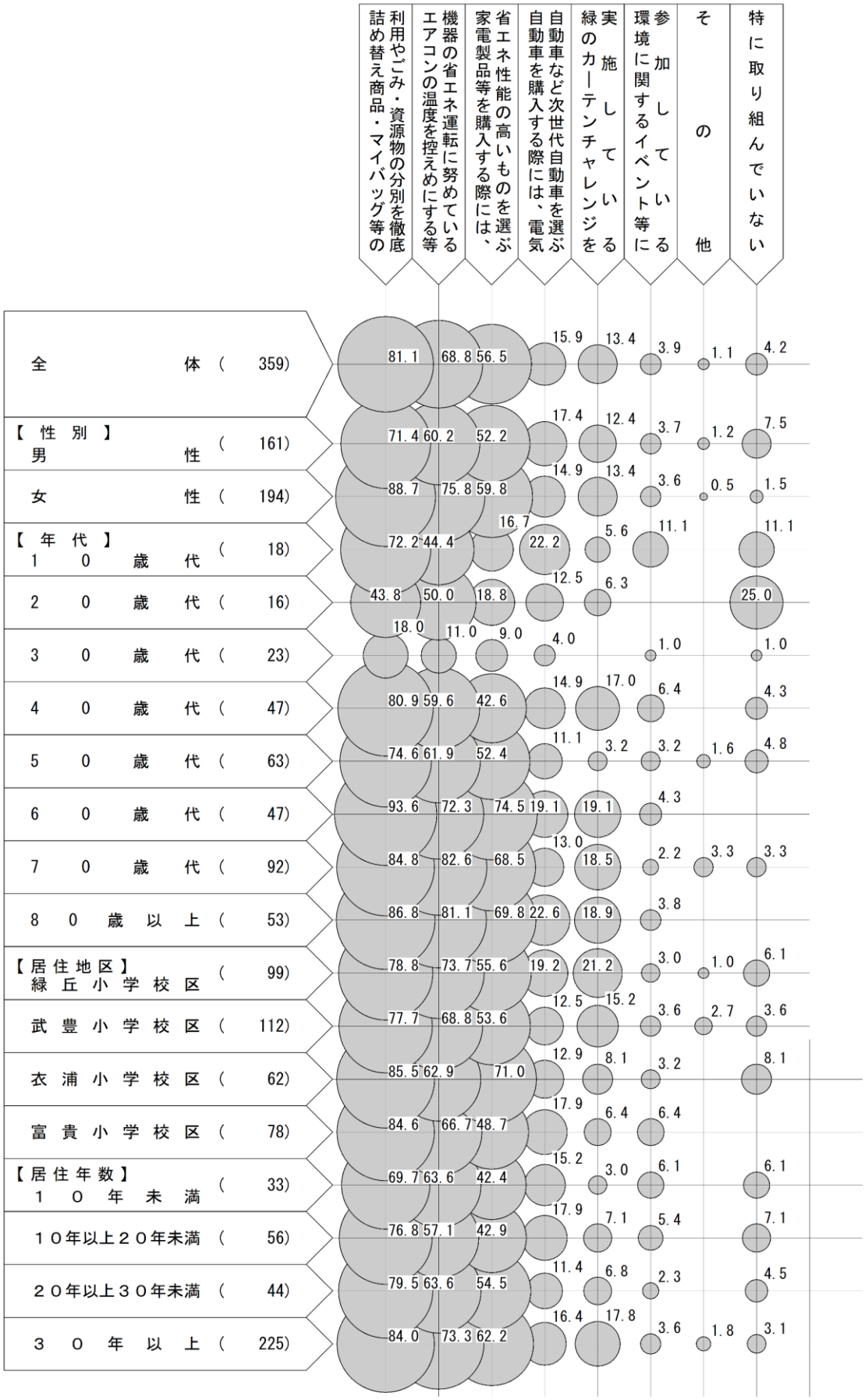
また、「家電製品等を購入する際には、省エネ性能の高いものを選んでいる」は、「家電製品等を購入する際には、省エネ性能の高いものを選ぶ」と表記、「自動車を購入する際には、電気自動車など次世代自動車を選んでいる」は、「自動車を購入する際には、電気自動車など次世代自動車を選ぶ」と表記します。

性別	○「詰め替え商品・マイバック等の利用やごみ・資源物の分別を徹底」は女性 88.7%、男性 71.4%で、女性の方が 17.3 ポイント上回っています。 ○同様に、「エアコンの温度を控えめにする等機器の省エネ運転に努めている」でも女性の方が 15.6 ポイント、「家電製品等を購入する際には、省エネ性能の高いものを選んでいる」でも女性の方が 7.6 ポイント上回っています。 ○「特に取り組んでいない」は男性 7.5%、女性 1.5%で、男性の方が 6.0 ポイント上回っています。
年代	○「詰め替え商品・マイバック等の利用やごみ・資源物の分別を徹底」、「エアコンの温度を控えめにする等機器の省エネ運転に努めている」、「家電製品等を購入する際には、省エネ性能の高いものを選んでいる」をみると、60 歳代、70 歳代、80 歳以上では、いずれも全体を上回っており、60 歳以上では高い割合でこれらの対策に取り組んでいます。 ○20 歳代では、「詰め替え商品・マイバック等の利用やごみ・資源物の分別を徹底」は 43.8%で、全体の 81.1%と比べ 37.3 ポイントも下回っています。また、「特に取り組んでいない」が 25.0%で高くなっています。
居住地区	○衣浦小学校区では、「エアコンの温度を控えめにする等機器の省エネ運転に努めている」は 62.9%で、全体の 68.8%と比べ 5.9 ポイント低くなっています。 ○また、衣浦小学校区では、「家電製品等を購入する際には、省エネ性能の高いものを選んでいる」は 71.0%で、全体の 56.5%と比べ 14.5 ポイント高くなっています。
居住年数	○居住年数 10 年未満では、「詰め替え商品・マイバック等の利用やごみ・資源物の分別を徹底」は 69.7%で、全体の 81.1%と比べ 11.4 ポイント下回っています。また、「家電製品等を購入する際には、省エネ性能の高いものを選んでいる」は 42.4%で、全体の 56.5%と比べ 14.1 ポイント低くなっています。 ○居住年数 10 年以上 20 年未満では、「エアコンの温度を控えめにする等機器の省エネ運転に努めている」は 57.1%で、全体の 68.8%と比べ 11.7 ポイント下回っています。また、「家電製品等を購入する際には、省エネ性能の高いものを選んでいる」は 42.9%で、全体の 56.5%と比べ 13.6 ポイント低くなっています。

居住年数	○居住年数 30 年以上では、「詰め替え商品・マイバック等の利用やごみ・資源物の分別を徹底」、「エアコンの温度を控えめにする等機器の省エネ運転に努めている」、「家電製品等を購入する際には、省エネ性能の高いものを選んでいる」はいずれも全体を上回っています。
世帯構成	○単身世帯では、「エアコンの温度を控えめにする等機器の省エネ運転に努めている」が 82.9%と最も高く、全体の 68.8%と比べ 14.1 ポイント高くなっています。 ○夫婦のみ世帯では、「詰め替え商品・マイバック等の利用やごみ・資源物の分別を徹底」の 82.2%、「エアコンの温度を控えめにする等機器の省エネ運転に努めている」の 74.8%が高くなっていますが、「家電製品等を購入する際には、省エネ性能の高いものを選んでいる」は 67.3%で、これは全体の 56.5%を 10.8 ポイント上回っており、高くなっています。同様に、「緑のカーテンチャレンジを実施している」が 23.4%で高くなっています。
同居家族	○６歳未満の子がいる世帯では、「エアコンの温度を控えめにする等機器の省エネ運転に努めている」が 46.7%、「家電製品等を購入する際には、省エネ性能の高いものを選んでいる」が 26.7%で、ともに全体を 20 ポイント以上下回っています。 ○６歳～18 歳の子がいる世帯では、「エアコンの温度を控えめにする等機器の省エネ運転に努めている」が 54.3%、「家電製品等を購入する際には、省エネ性能の高いものを選んでいる」が 45.7%で、ともに全体を 10 ポイント以上下回っています。 ○介護等の支援を要する世帯では、「家電製品等を購入する際には、省エネ性能の高いものを選んでいる」が 72.7%で、全体の 56.5%を 16.2 ポイント上回っています。
職業	○主婦・主夫では、「詰め替え商品・マイバック等の利用やごみ・資源物の分別を徹底」、が 96.2%、「エアコンの温度を控えめにする等機器の省エネ運転に努めている」が 90.6%、「家電製品等を購入する際には、省エネ性能の高いものを選んでいる」が 69.8%で、いずれも全体の値を 10 ポイント以上上回っています。 ○学生では、「家電製品等を購入する際には、省エネ性能の高いものを選んでいる」は 11.1%で、全体の 56.5%を 45.4 ポイントと大きく下回っています。
通勤 通学地	○その他の愛知県に通勤通学する者では、「家電製品等を購入する際には、省エネ性能の高いものを選んでいる」が 62.5%で、全体の 56.5%を 6.0 ポイント上回っています。また、「環境に関するイベント等に参加している」が 18.8%で、これも全体の 3.9%を 14.9 ポイント上回っています。。

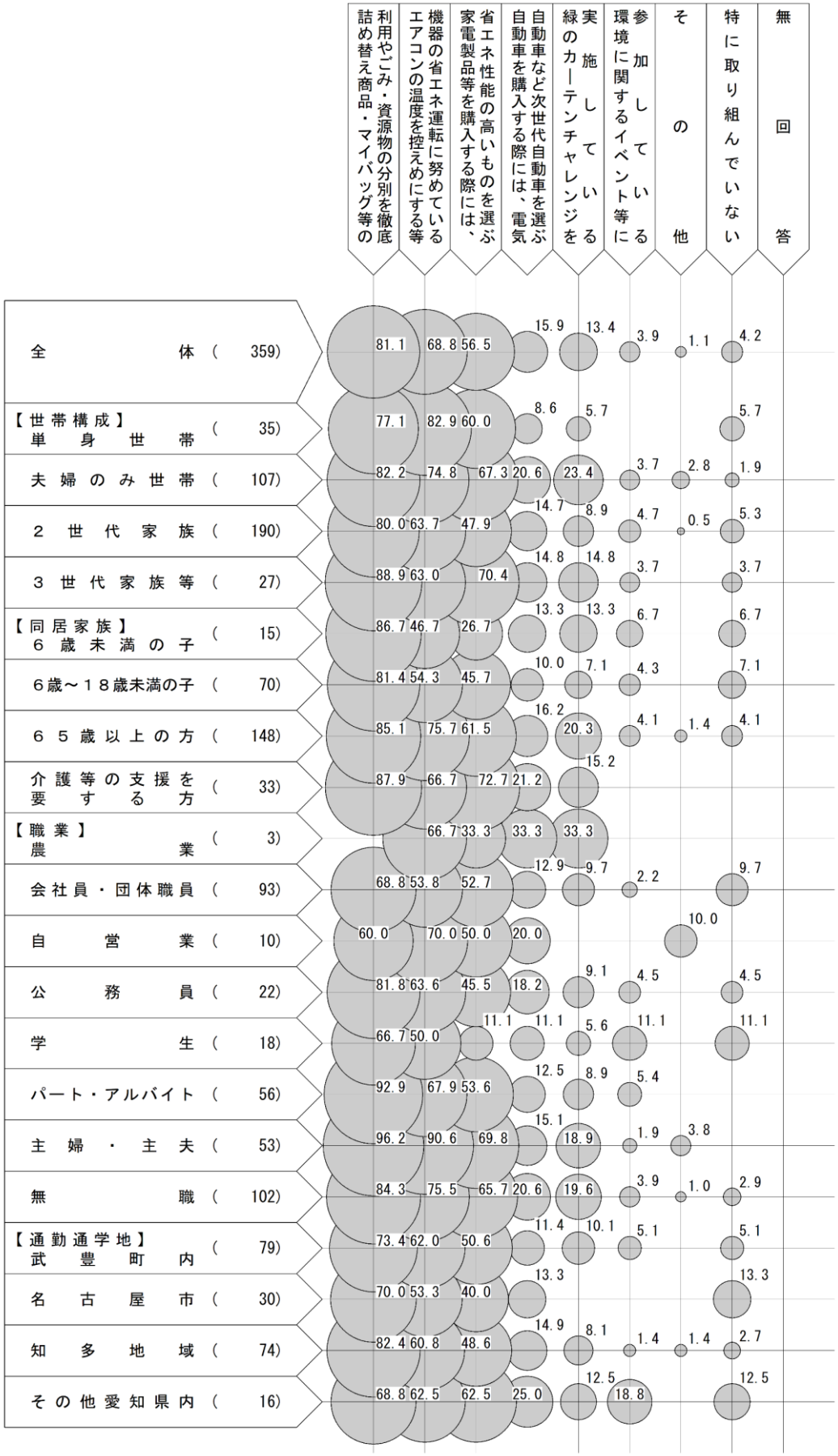
図表 1-9-4　属性別、地球温暖化防止対策に取り組んでいること　（1／2）

-複数回答（該当するものすべて）-



図表 1-9-4　属性別、地球温暖化防止対策に取り組んでいること　（2／2）

-複数回答（該当するものすべて）-



１－１０　ＳＤＧｓ

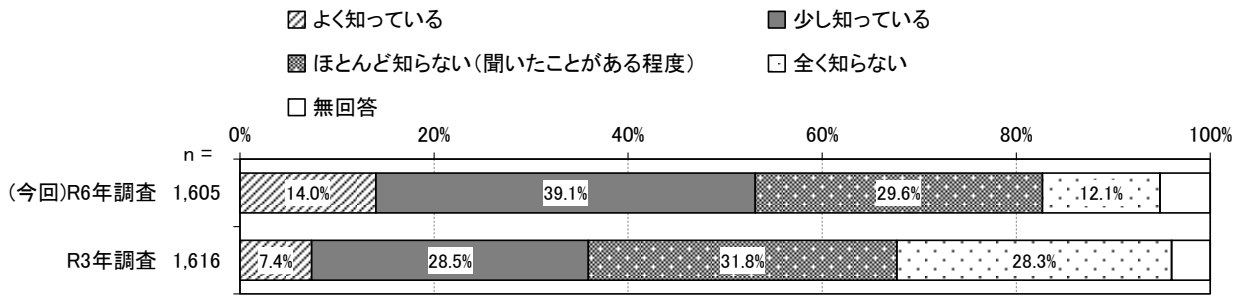
（１）ＳＤＧｓの認知度

問１７　ＳＤＧｓ（エスディージーズ）（持続可能な開発目標）についてどの程度ご存じですか。（１つに○印）

ＳＤＧｓ（エスディジーズ）（持続可能な開発目標）については、「よく知っている」は 14.0%、「少し知っている」は 39.1%で、「よく知っている」と「少し知っている」をあわせた認知度（『知っている』）は 53.1%となっています。「ほとんど知らない（聞いたことがある程度）」は 29.6%、「全く知らない」は 12.1%となっています。

前回調査（令和３年調査）では、「よく知っている」は 7.4%、「少し知っている」は 28.5%で、両者をあわせた認知度は 35.9%でした。認知度はこの３年で 17.2 ポイント上昇しています。

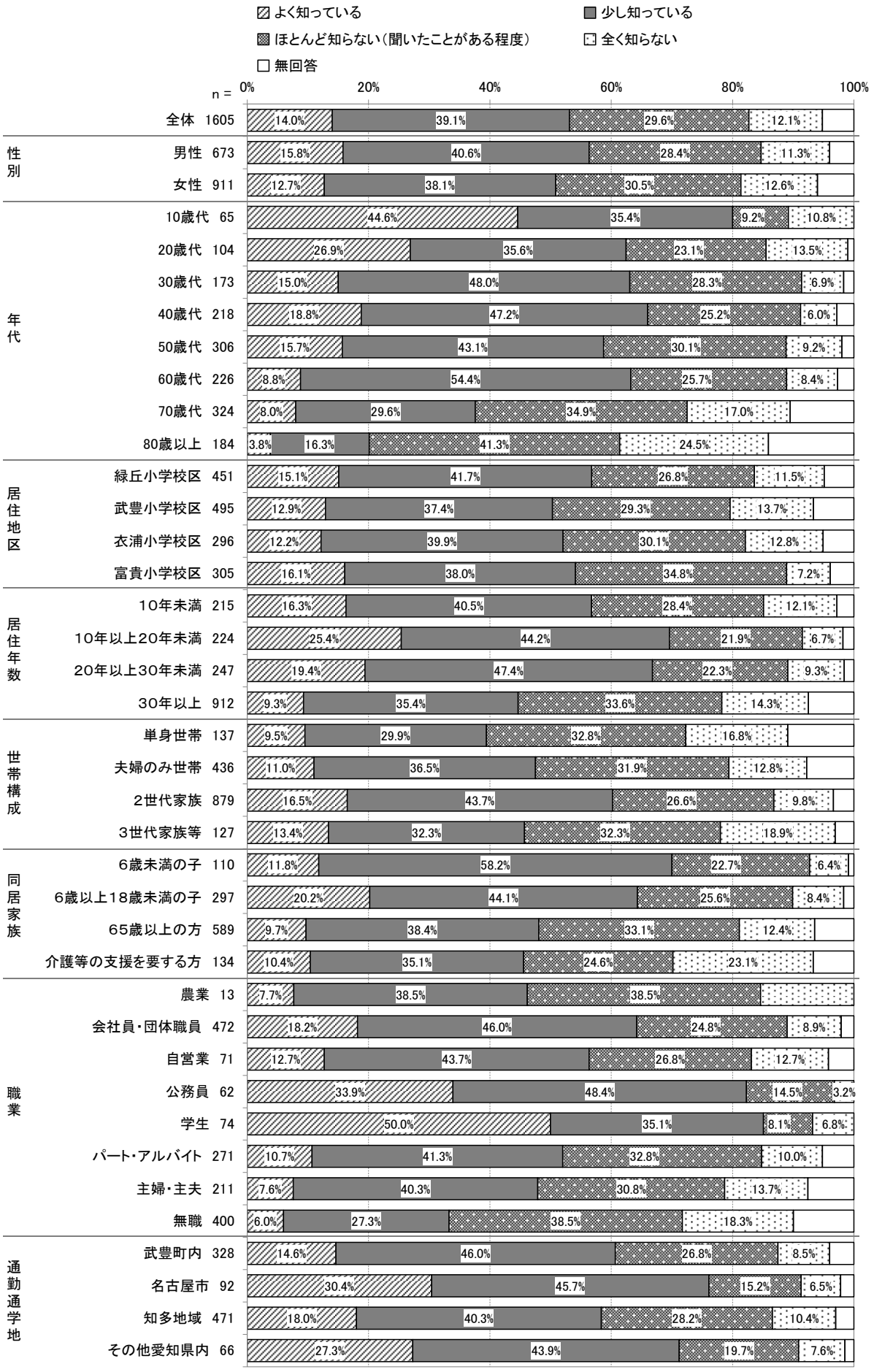
図表 1-10-1　SDGs 認知度



以下、回答者の属性別に「よく知っている」と「少し知っている」をあわせた認知度（『知っている』）で傾向をみていきます。

性別	○男性は 56.4%、女性は 50.8%です。男性の方が 5.6 ポイント上回っています。
年代	○10 歳代では、「よく知っている」は 44.6%で特に高い割合を示しています。「少し知っている」は 35.4%で、認知度（『知っている』）は 80.0%となっています。 ○認知度は、20 歳代で 62.5%、30 歳代で 63.0%、40 歳代で 66.0%、50 歳代で 58.8%、60 歳代で 63.2%です。概ね６割前後の認知度となっています。 ○70 歳代では 37.6%、80 歳以上では 20.1%にとどまっており、70 歳以上の高齢世代では認知度が低くなっています。
居住地区	○居住地区別に比較すると、緑丘小学校区の認知度は 56.8%で最も高くなっています。一方、最も低いのは武豊小学校区の 50.3%です。両者の間には 6.5 ポイントの開きがあります。
居住年数	○居住年数別に比較すると、居住年数 10 年以上 20 年未満の認知度は 69.6%で最も高くなっています。次いで 20 年以上 30 年未満の 66.8%となっています。 ○居住年数 30 年以上の認知度は 44.7%で、最も低くなっています。
世帯構成	○世帯構成別に比較すると、２世代家族の認知度は 60.2%で最も高く、全体の 53.1%を 7.1 ポイント上回っています。 ○夫婦のみ世帯は 47.5%、３世代家族等は 45.7%となっており、単身世帯が最も低く 39.4%となっています。
同居家族	○６歳未満の子がいる世帯の認知度は 70.0%、６歳以上 18 歳未満の子がいる世帯は 64.3%となっており、子どもがいる世帯の認知度は高くなっています。 ○65 歳以上の方がいる世帯は 48.1%、介護等の支援を要する方が居る世帯は 45.5%となっています。ともに全体の 53.1%を下回っています。
職業	○学生は 85.1%、公務員は 82.3%で、ともに８割以上の高い認知度となっています。 ○次いで、会社員・団体職員が 64.2%、自営業が 56.4%で、全体の 53.1%を上回る認知度となっています。 ○パート・アルバイトは 52.0%、主婦・主夫は 47.9%、無職は 33.3%となっており、いずれも全体の 53.1%を下回っています。
通勤通学地	○名古屋市に通勤通学する者は 76.1%、その他の愛知県内に通勤通学する者が 71.2%で高い認知度となっています。

図表 1-10-2　属性別、SDGs 認知度



（２）ＳＤＧｓに貢献する行動

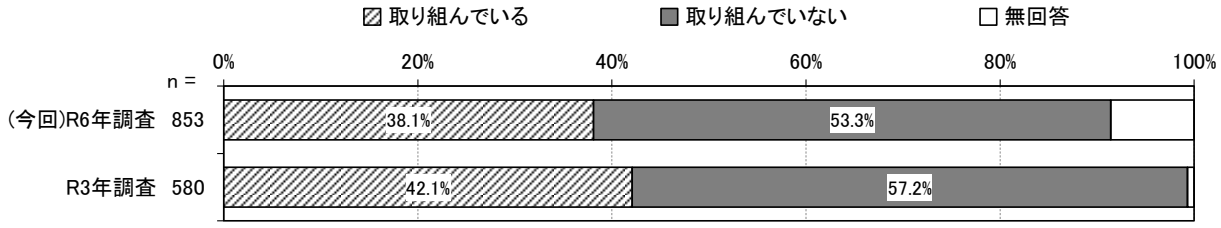
問１７－１　ＳＤＧｓ（エスディージーズ）に貢献する行動に取り組んでいますか。（１つに○印）

ＳＤＧｓ（エスディージーズ）について、「よく知っている」または「少し知っている」と回答した 853 人を対象に、ＳＤＧｓに貢献する行動に取り組んでいるかをたずねたところ、「取り組んでいる」は 38.1%、「取り組んでいない」は 53.3%でした。

前回調査（令和３年調査）では、「取り組んでいる」は 42.1%、「取り組んでいない」は 57.2%でした。「取り組んでいる」は 4.0 ポイント低下しています。なお、今回調査では「無回答」が 8.6%を占めています。

ＳＤＧｓのことを知っていても、ＳＤＧｓに貢献する行動に取り組んでいる者は４割程度にとどまっています。

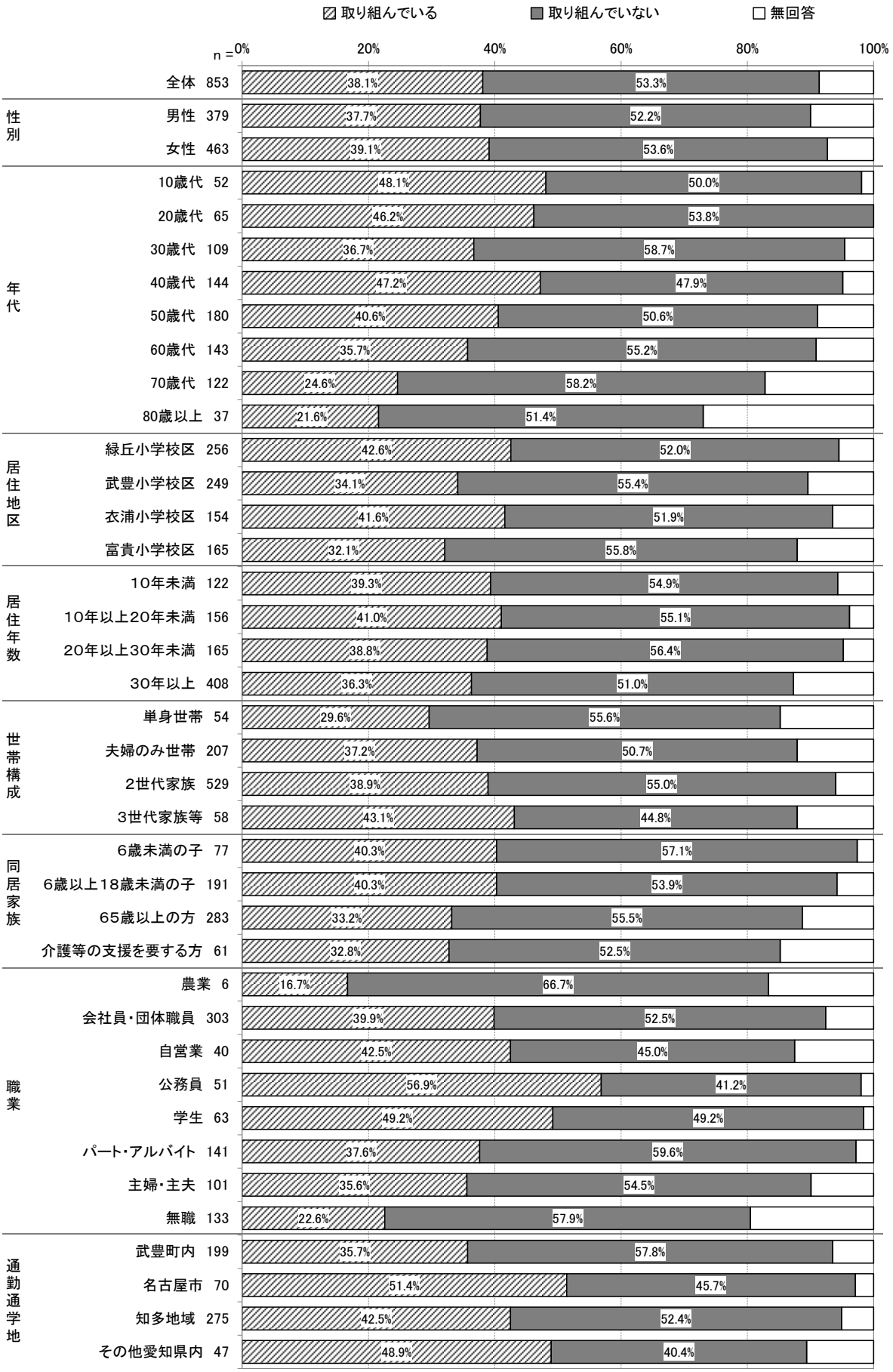
図表 1-10-３　ＳＤＧｓに貢献する行動



以下、回答者の属性別に傾向をみていきます。

性別	○「取り組んでいる」は男性 37.7%、女性 39.1%で、男女間で大きな差異はみられません。
年代	○「取り組んでいる」が高いのは、10 歳代の 48.1%、40 歳代の 47.2%、20 歳代の 46.2%、50 歳代の 40.6%となっています。 ○「取り組んでいる」が低いのは、70 歳代の 24.6%、80 歳以上の 21.6%となっています。70 歳以上の高齢世代では、「無回答」がそれぞれ 17.2%、27.0%と高くなっています。
居住地区	○「取り組んでいる」が高い順にみていくと、緑丘小学校区が 42.6%で最も高く、次いで、衣浦小学校区が 41.6%となっています。 ○武豊小学校区は 34.1%、富貴小学校区は 32.1%で、ともに全体の 38.1%を下回っています。
居住年数	○「取り組んでいる」は居住年数 10 年以上 20 年未満で 41.0%、10 年未満で 39.3%、20 年以上 30 年未満で 38.8%となっています。 ○居住年数 30 年以上は 36.3%でやや低くなっています。
世帯構成	○「取り組んでいる」は単身世帯で 29.6%、夫婦のみ世帯で 37.2%、２世代家族で 38.9%、３世代家族等で 43.1%となっています。単身世帯から順に３世代家族等になるにつれて「取り組んでいる」の割合が高くなっています。
同居家族	○「取り組んでいる」は、６歳未満の子どもがいる世帯と６歳以上 18 歳未満の子どもがいる世帯がともに 40.3%で高くなっています。 ○65 歳以上の方がいる世帯は 33.2%、介護を要する方がいる世帯は 32.8%で、ともに全体の 38.1%を下回っています。
職業	○「取り組んでいる」は、公務員が 56.9%で最も高くなっています。次いで、学生の 49.2%、自営業の 42.5%となっています。
通勤 通学地	○「取り組んでいる」は、名古屋市に通勤通学する者が 51.4%、その他愛知県内に通勤通学する者が 48.9%で、両者が高くなっています。

図表 1-10-4　属性別、ＳＤＧｓに貢献する行動



（3）１７のゴールとの関係性

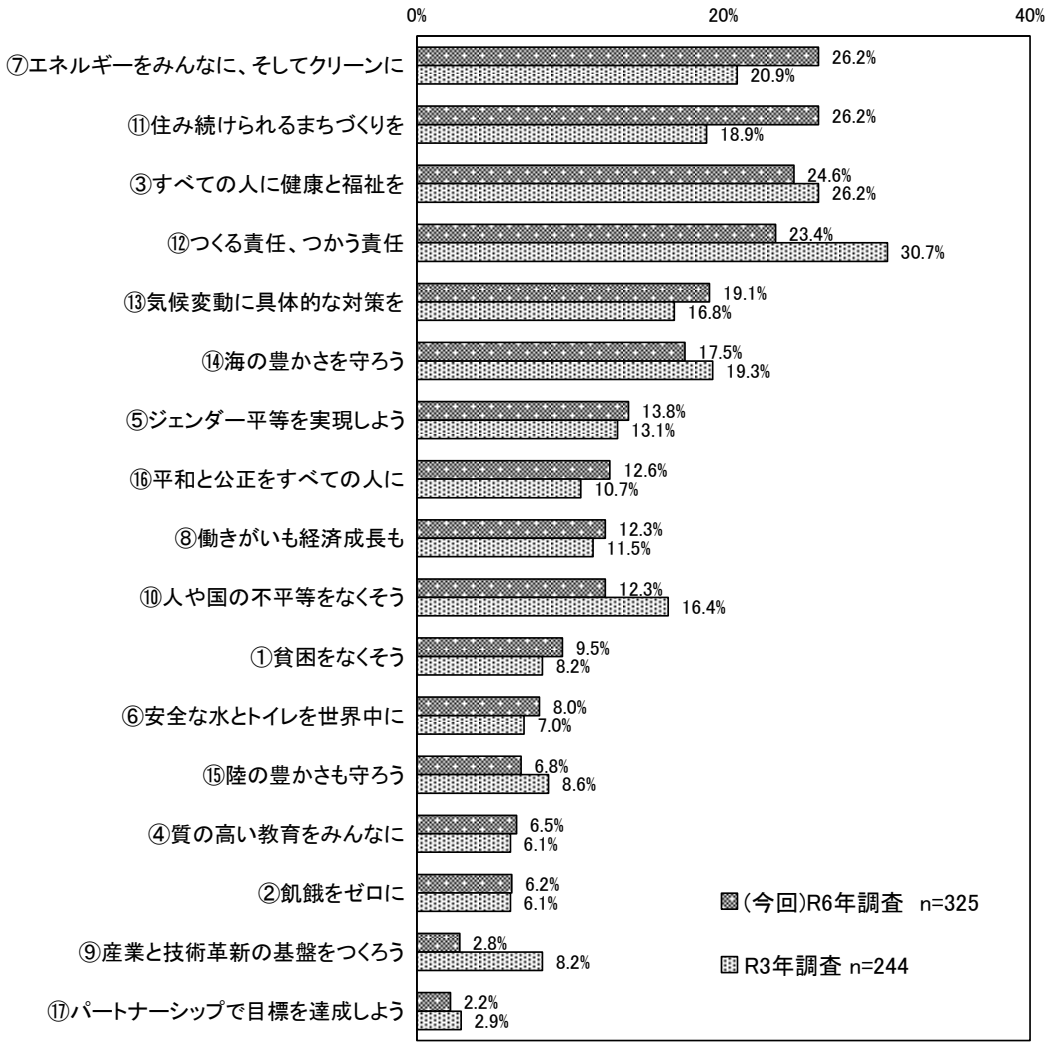
問１７－２　その取組は、17 のゴールのいずれに関係が深いですか。
（主な取組３つまでに○印）

ＳＤＧｓ（エスディジーズ）に貢献する行動に取り組んでいると回答した 325 人を対象に、取組が 17 のゴールのいずれに関係が深いかをたずねました。これによると、「⑦エネルギーをみんなに、そしてクリーンに」と「⑪住み続けられるまちづくりを」がともに 26.2%で最も高くなっています。

次いで、「③すべての人に健康と福祉を」の 24.6%、「⑫つくる責任、つかう責任」が 23.4%で、この２つが２割を超えています。

前回調査（令和３年調査）では、「⑫つくる責任、つかう責任」が最も高く 30.7%、次いで「③すべての人に健康と福祉を」の 26.2%、「⑦エネルギーをみんなに、そしてクリーンに」の 20.9%の順となっていましたが、今回調査で最も高くなった「⑦エネルギーをみんなに、そしてクリーンに」は前回調査と比べて 5.3 ポイントの増加、「⑪住み続けられるまちづくりを」は 7.3 ポイントの増加となっています。ともに大きく上昇しました。

図表 1-10-5　１７のゴールとの関係性　-複数回答（３つまで）-

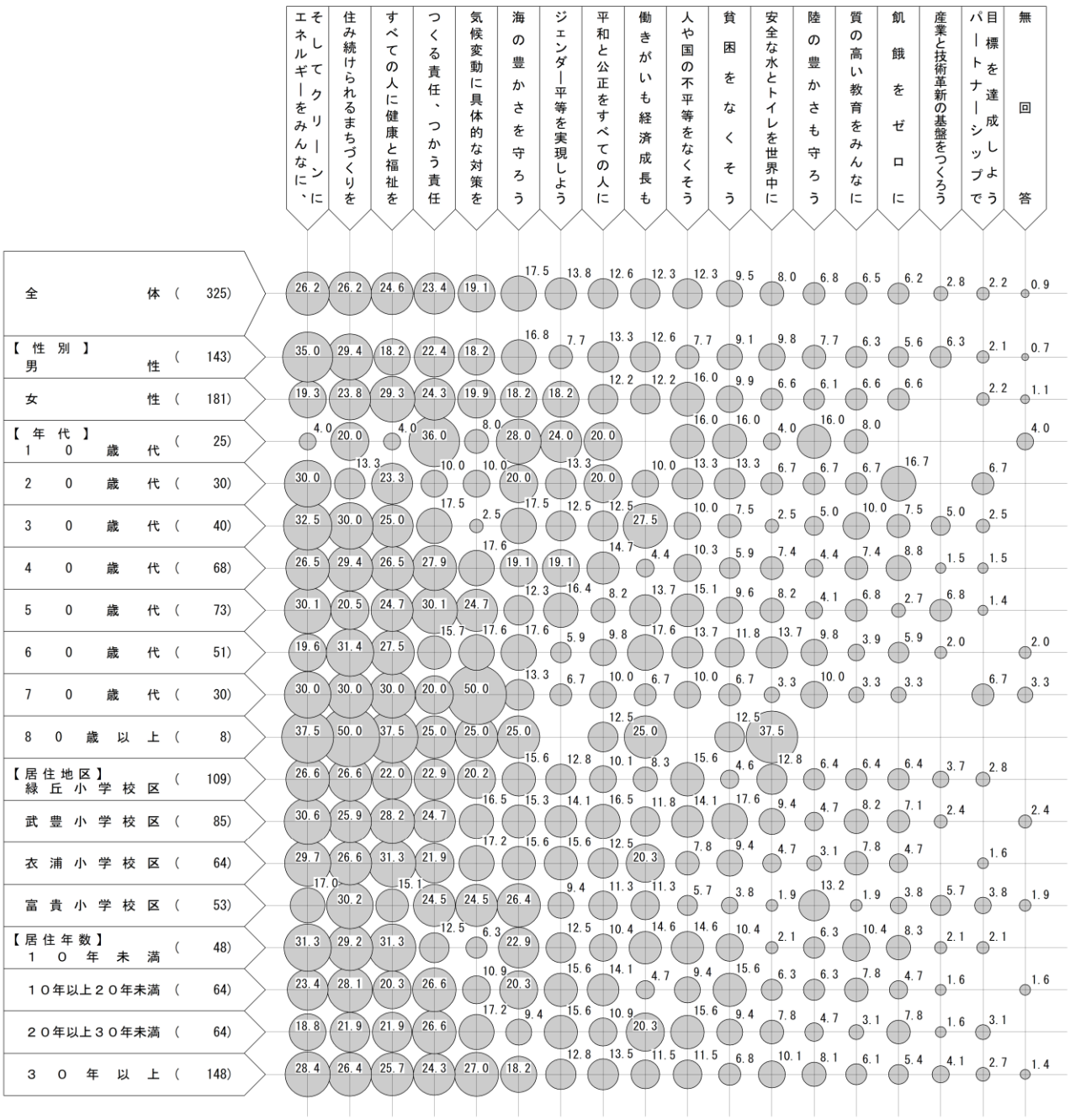


以下、回答者の属性別に傾向をみていきます。

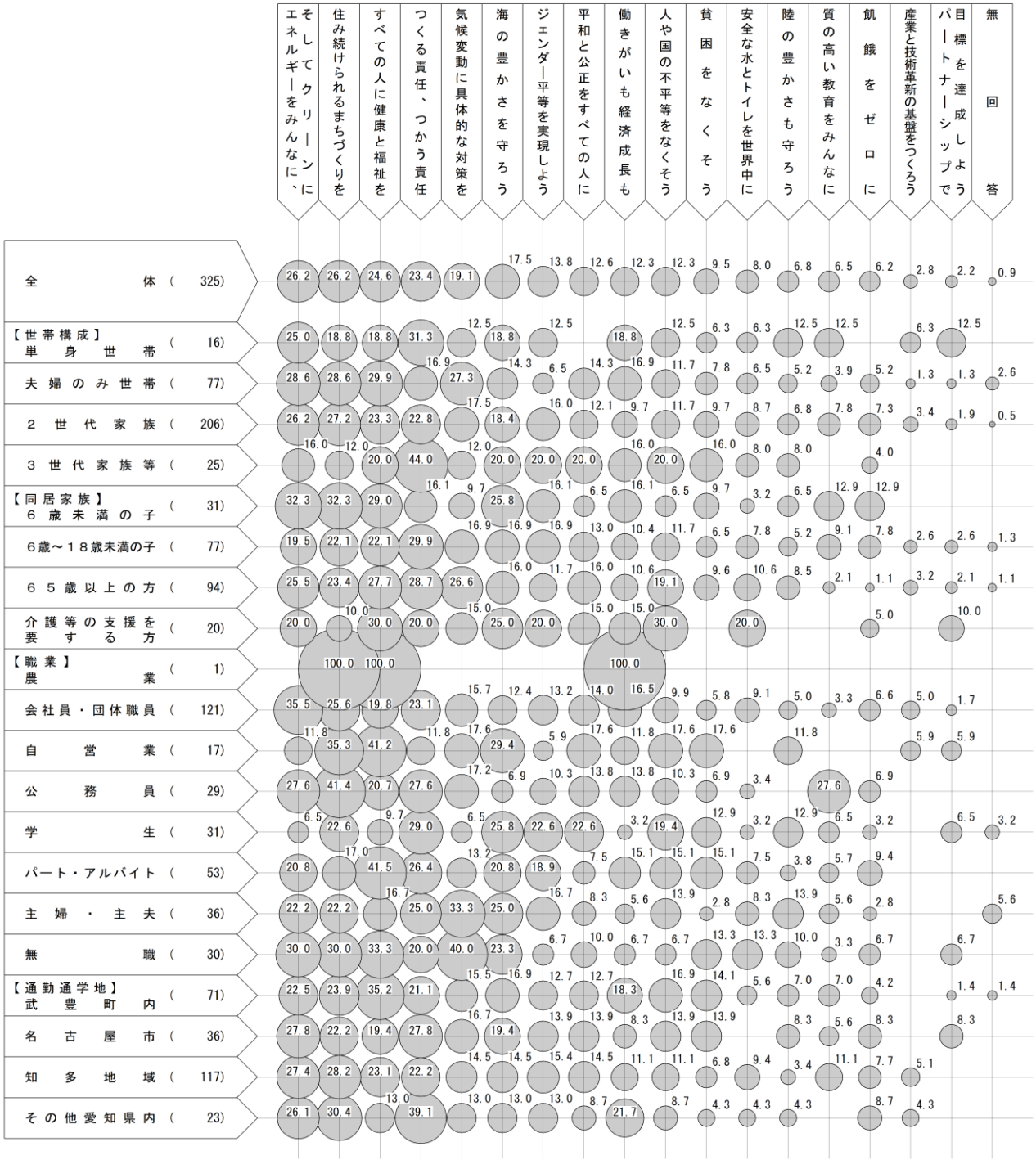
性別	○男性では「⑦エネルギーをみんなに、そしてクリーンに」が最も高く 35.0%となっています。女性の 19.3%を 15.7 ポイント上回っています。 ○女性では、「③すべての人に健康と福祉を」が 29.3%で最も高くなっています。男性の 18.2%を 11.1 ポイント上回っています。 ○また、女性では、「⑤ジェンダー平等を実現しよう」が 18.2%と高くなっています。男性は 7.7%で、女性が 10.5 ポイント上回っています。
年代	○10 歳代では、「⑫つくる責任・つかう責任」が 36.0%、「⑭海の豊かさを守ろう」が 28.0%、「⑤ジェンダー平等を実現しよう」が 24.0%で、これらが上位３つとなっています。 ○20 歳代では、「⑦エネルギーをみんなに、そしてクリーンに」が 30.0%で全体の 26.2%と比べてやや高くなっています。また、「②飢餓をゼロに」が 16.7%となっており、他の年代と比べ高くなっています。 ○30 歳代では、「⑦エネルギーをみんなに、そしてクリーンに」の 32.5%、「⑪住み続けられるまちづくりを」の 30.0%に次いで「⑧働きがいも経済成長も」が 27.5%と高くなっていることが特徴です。 ○40 歳代では、「⑪住み続けられるまちづくりを」の 29.4%、「⑫つくる責任・つかう責任」の 27.9%が上位２つになっています。 ○50 歳代では「⑦エネルギーをみんなに、そしてクリーンに」と「⑫つくる責任・つかう責任」が最も高く、ともに 30.1%となっています。 ○60 歳代では、「⑪住み続けられるまちづくりを」の 31.4%が最も高くなっています。 ○70 歳代では、「⑬気候変動に具体的な対策を」が 50.0%で最も高くなっています。 ○年代によって、回答は様々に分かれています。
居住地区	○緑丘小学校区、武豊小学校区、衣浦小学校区では、全体と同様に上位は、「⑦エネルギーをみんなに、そしてクリーンに」、「⑪住み続けられるまちづくりを」、「③すべての人に健康と福祉を」、「⑫つくる責任、つかう責任」の４項目となっています。 ○富貴小学校区では、「⑪住み続けられるまちづくりを」の 30.2%に次いで、「⑮海の豊かさを守ろう」が 26.4%で、２番目に高くなっています。
居住年数	○居住年数 10 年未満では、「⑮海の豊かさを守ろう」が 22.9%で、全体の 17.5%と比べ 5.4 ポイント高くなっています。 ○20 年以上 30 年未満では、「⑧働きがいも経済成長も」が 20.3%で、全体の 12.3%を 8.0 ポイント上回っています。 ○30 年以上では、「⑬気候変動に具体的な対策を」が 27.0%で、全体の 19.1%を 7.9 ポイント上回っています。
世帯構成	○単身世帯、３世代家族等では、「⑫つくる責任、つかう責任」がそれぞれ 31.3%、44.0%で高くなっています。
同居家族	○介護を要する方がいる世帯では、「③すべての人に健康と福祉を」と「⑩人や国の不平等をなくそう」がともに 30.0%でやや高くなっています。

職業	○パート・アルバイトでは、「③すべての人に健康と福祉を」が 41.5%で、公務員では、「⑪住み続けられるまちづくりを」が 41.4%で、いずれも 40%台を示しており高くなっています。 ○このほか、自営業で「③すべての人に健康と福祉を」が 41.2%、無職で「⑬気候変動に具体的な対策を」が 40.0%となっており高くなっています。
通勤 通学地	○その他愛知県内に通勤通学する者は「⑫つくる責任・つかう責任」が 39.1%で高くなっています。

図表 1-10-6　属性別、１７のゴールとの関係性（１／２）　-複数回答（３つまで）-



図表 1-10-6　属性別、１７のゴールとの関係性（２／２）　-複数回答（３つまで）-



１－１１　町の魅力・イメージ

（１）町の魅力、自慢できること

問１８　あなたは、武豊町の魅力、自慢できると思うことは何ですか。（３つまでに○印）

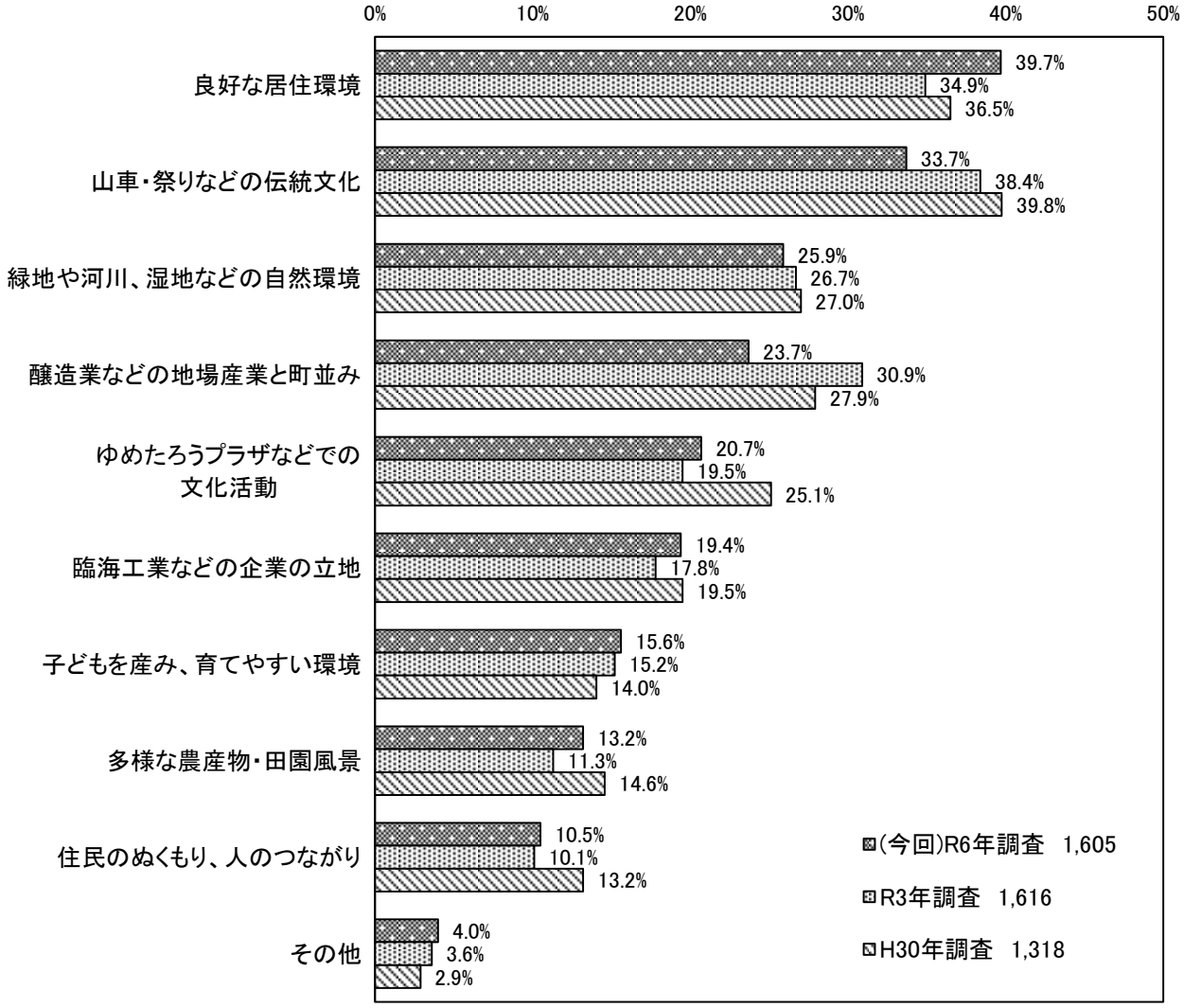
武豊町の魅力、自慢できると思うことについては、「良好な居住環境」が 39.7%で最も高くなっています。これに「山車・祭りなどの伝統文化」の 33.7%が続いています。

さらに、「緑地や河川、湿地などの自然環境」の 25.9%、「醸造業などの地場産業と町並み」の 23.7%、「ゆめたろうプラザなどでの文化活動」の 20.7%が続いており、この３項目は２割以上の回答を得ています。

前回調査（令和３年調査）と比較すると、「良好な居住環境」は 4.8 ポイント上昇しています。一方、「山車・祭りなどの伝統文化」は 4.7 ポイントの低下となっています。

「緑地や河川、湿地などの自然環境」と「醸造業などの地場産業と町並み」は、ともに前回調査から低下していますが、「醸造業などの地場産業と町並み」については 7.2 ポイントの大幅な低下になっています。

図表 1-11-1　町の魅力、自慢できること（過去調査との比較）　-複数回答（３つまで）-

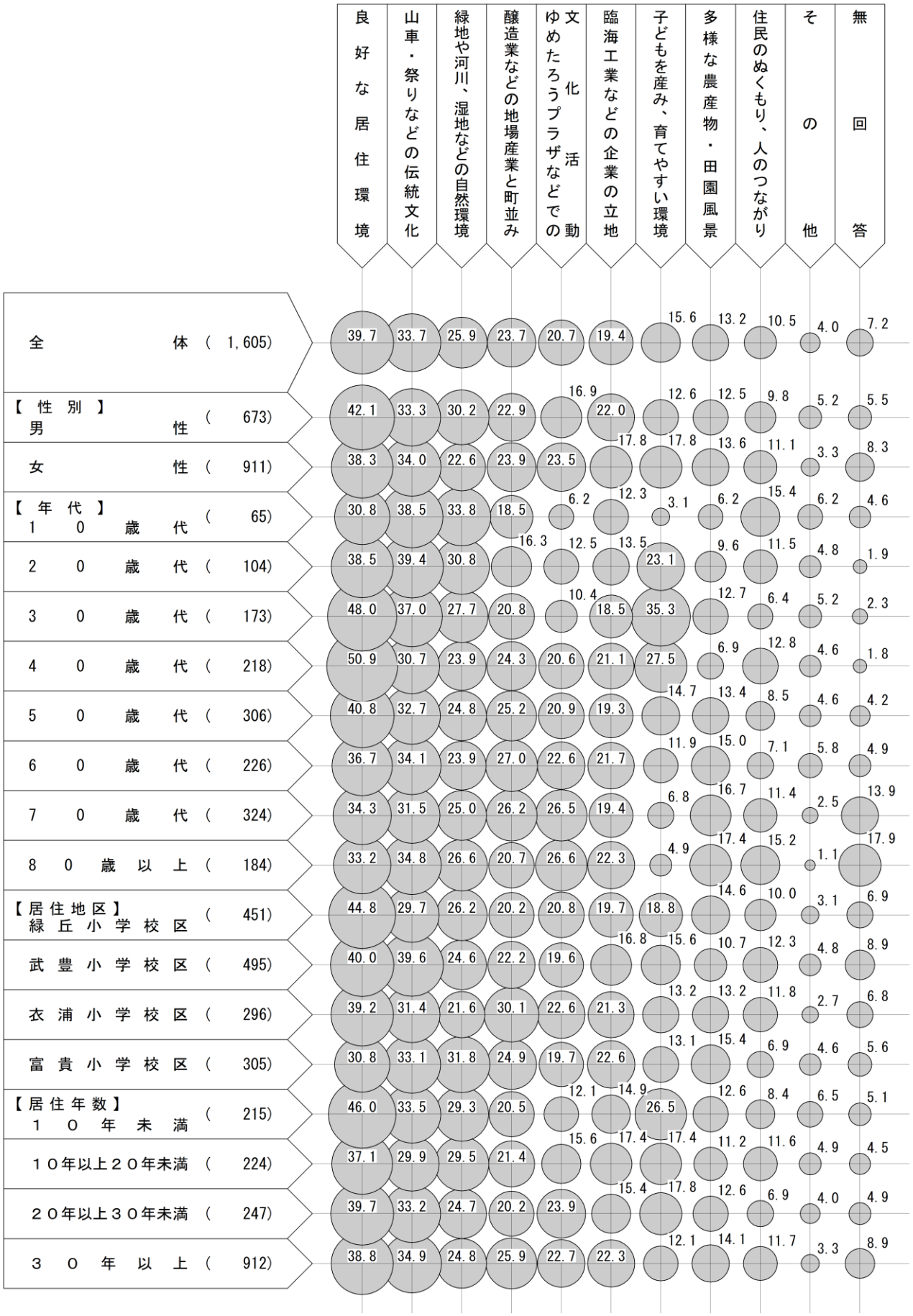


以下、回答者の属性別に傾向をみていきます。

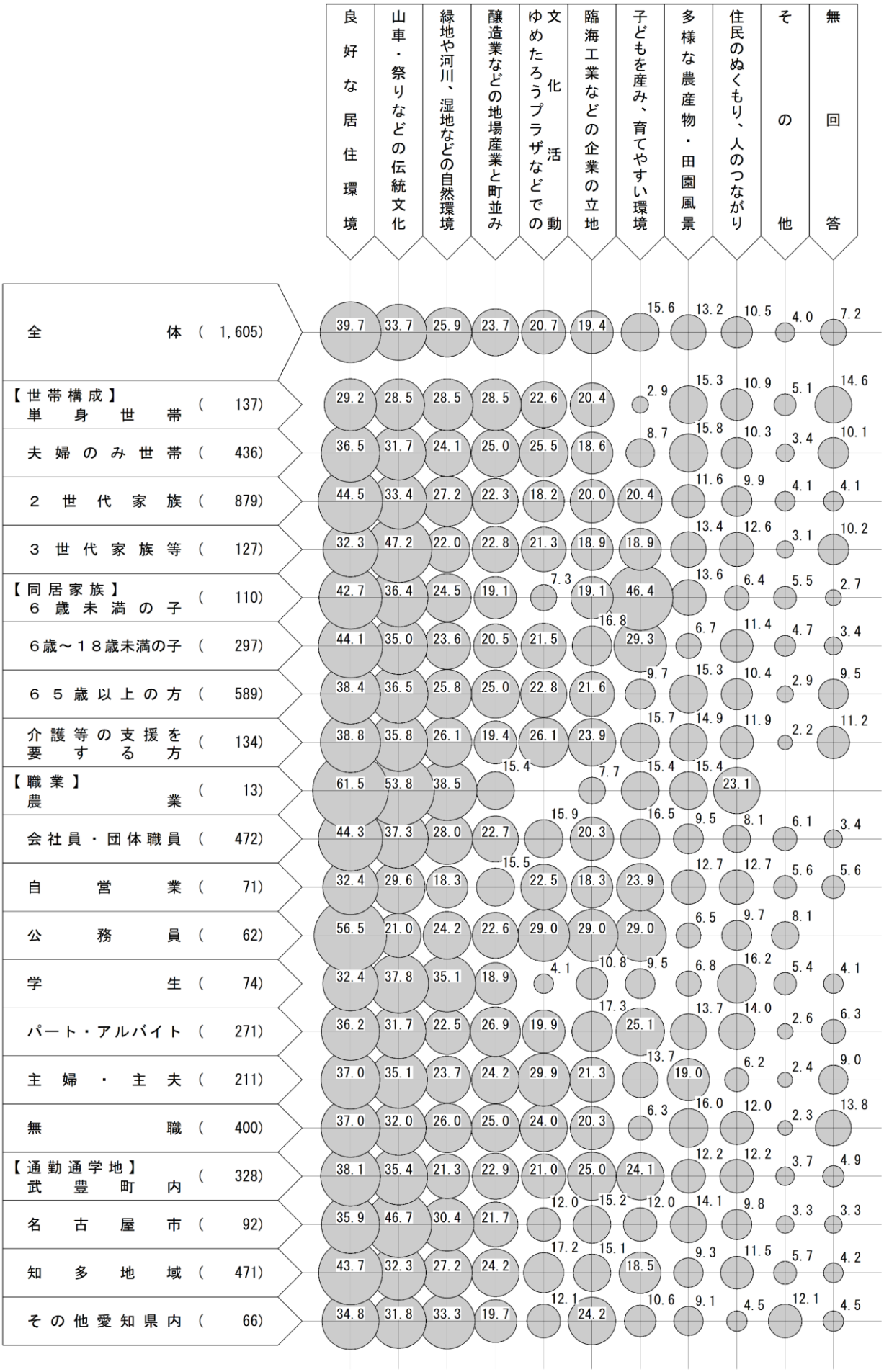
性別	○「良好な居住環境」は、男性では 42.1%、女性では 38.3%で、男性が 3.8 ポイント上回っています。また、「緑地や河川、湿地などの自然環境」についても、男性では 30.2%、女性では 22.6%で、男性が 7.6 ポイント上回っています。 ○一方、「ゆめたろうプラザなどでの文化活動」については、女性の 23.5%に対して男性は 16.9%で、女性が 6.6 ポイント上回っています。
年代	○10 歳代、20 歳代では、「山車・祭りなどの伝統文化」がそれぞれ 38.5%、39.4%で、最も高くなっています。 ○30 歳代～70 歳代にかけては、「良好な居住環境」が最も高くなっています。 ○20 歳代、30 歳代、40 歳代では、「子どもを産み、育てやすい環境」がそれぞれ 23.1%、35.3%、27.5%となっており高くなっている点が特徴です。 ○70 歳代、80 歳以上では、「ゆめたろうプラザなどでの文化活動」が 26.5%、26.6%となっており、他の年代と比較すると高くなっています。
居住地区	○緑丘小学校区では、「良好な居住環境」が 44.8%で、他地区と比べ最も高くなっています。 ○武豊小学校区では、「良好な居住環境」の 40.0%に次いで「山車・祭りなどの伝統文化」が 39.6%となっており、全体と比べ 5.9 ポイント高くなっています。 ○衣浦小学校区では、「良好な居住環境」の 39.2%、「山車・祭りなどの伝統文化」の 31.4%に次いで、「醸造業などの地場産業と町並み」が 30.1%と高くなっています。全体と比べ 6.4 ポイント高くなっています。 ○富貴小学校区では、「山車・祭りなどの伝統文化」が 33.1%で最も高くなっており、次いで、「緑地や河川、湿地などの自然環境」が 31.8%で続いています。 ○小学校区により、町の魅力、自慢できることの評価に違いがみられます。
居住年数	○居住年数 10 年未満及び 10 年以上 20 年未満では、１番目が「良好な居住環境」、２番目が「山車・祭りなどの伝統文化」となっています。これに続く３番目には「緑地や河川、湿地などの自然環境」が続いています。 ○１０年未満では、「子どもを産み、育てやすい環境」が 26.5%と高くなっている点が特徴です。
世帯構成	○単身世帯では、「良好な居住環境」が 29.2%で最も高くなっていますが、全体の 39.7%と比較すると 10.5 ポイントも低くなっています。20%台の回答が６項目に及んでおり、意見が分散した結果となっています。 ○夫婦のみ世帯では、「良好な居住環境」が 36.5%で最も高くなっていますが、ここでも全体の 39.7%までは届いておらず、単身世帯と同様、意見が分散した結果となっています。 ○２世代家族では、「良好な居住環境」が 44.5%となっており、他の世帯構成と比較して高くなっています。 ○２世代家族や３世代家族等では、「子どもを産み、育てやすい環境」がそれぞれ 20.4%、18.9%と高くなっています。

同居家族	○６歳未満の子がいる世帯では、「子どもを産み、育てやすい環境」が 46.4%で最も高くなっており、全体の 15.6%を 30.8 ポイント上回っています。 ○同様に、６歳以上 18 歳未満の子がいる世帯でも、「子どもを産み、育てやすい環境」は 29.3%となっており、13.7 ポイント上回っています。子どもがいる世帯は、「子どもを産み、育てやすい環境」を町の魅力、自慢と考えている者が一定の割合でいることがわかります。
職業	○会社員・団体職員では、「良好な居住環境」が 44.3%で最も高くなっています。 ○自営業では、「良好な居住環境」の 32.4%、「山車・祭りなどの伝統文化」の 29.6%に次いで、「子どもを産み、育てやすい環境」が３番目に高くなっており 23.9%となっています。 ○公務員では、「良好な居住環境」が 56.5%で全体の 39.7%を大きく（16.8 ポイント）上回っています。これに次いで、「ゆめたろうプラザなどでの文化活動」、「臨海工業などの企業の立地」、「子どもを産み、育てやすい環境」がいずれも 29.0%と２番目に高くなっている点が特徴です。 ○学生では、「住民のぬくもり、人のつながり」が 16.2%でやや高くなっています。 ○パート・アルバイトでは、「子どもを産み、育てやすい環境」が 25.1%で高くなっています。
通勤 通学地	○名古屋市に通勤通学する者は「山車・祭りなどの伝統文化」が 46.7%となっており、全体と比べ 13.0 ポイント高くなっています。

図表 1-11-2　属性別、町の魅力、自慢できること　（１／２）　-複数回答（３つまで）-



図表 1-11-2　属性別、町の魅力、自慢できること　（2／2）　-複数回答（3つまで）-



（２）将来の町のイメージ

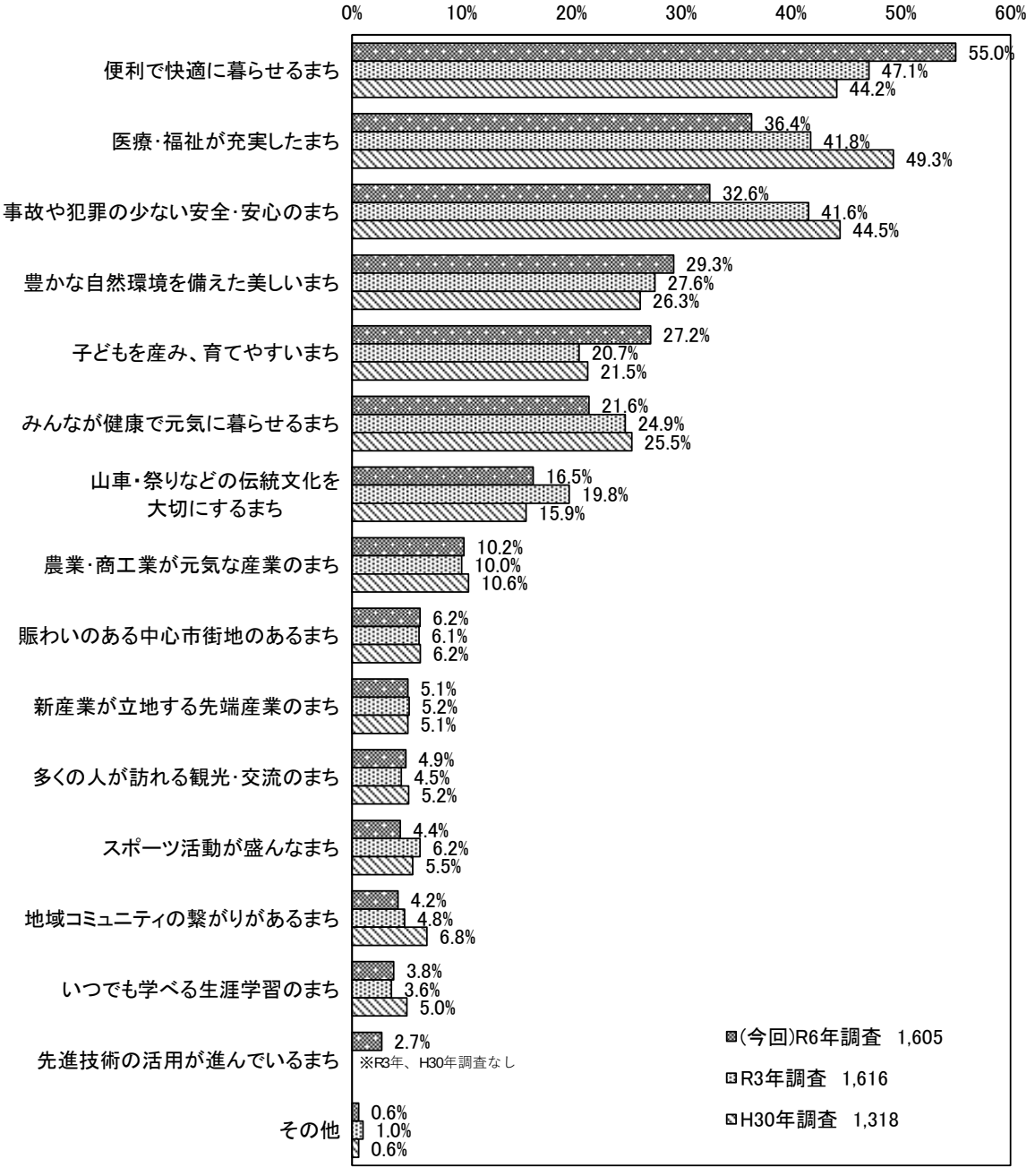
問１９　あなたは、将来の武豊町のイメージとして、どのようなまちをめざすべきだと思いますか。（３つまでに○印）

将来の町のイメージについては、「便利で快適に暮らせるまち」が 55.0%で最も高くなっています。次いで、「医療・福祉が充実したまち」の 36.4%、「事故や犯罪の少ない安全・安心のまち」の 32.6%が続いています。この２項目が３割を超える高い割合を示しています。

前回調査（令和３年調査）と比較すると、「便利で快適に暮らせるまち」は 7.9 ポイント上昇していますが、「医療・福祉が充実したまち」は 5.4 ポイント、「事故や犯罪の少ない安全・安心のまち」は 9.0 ポイントの低下となっています。

なお、「子どもを産み、育てやすいまち」は 20.7%から 27.2%と 6.5 ポイントの上昇となっています。

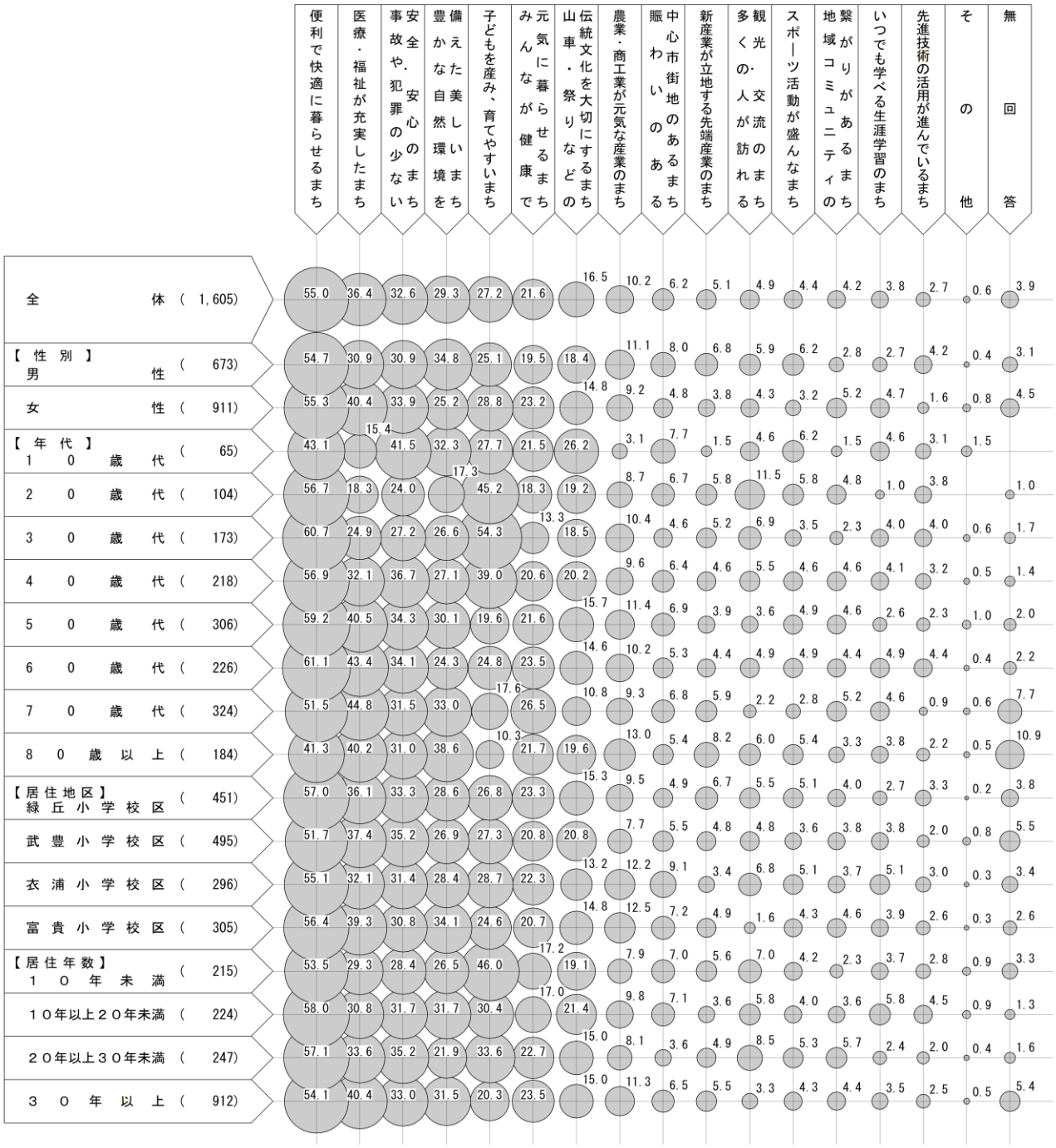
図表 1-11-3　将来の町のイメージ（過去調査との比較）　-複数回答（３つまで）-



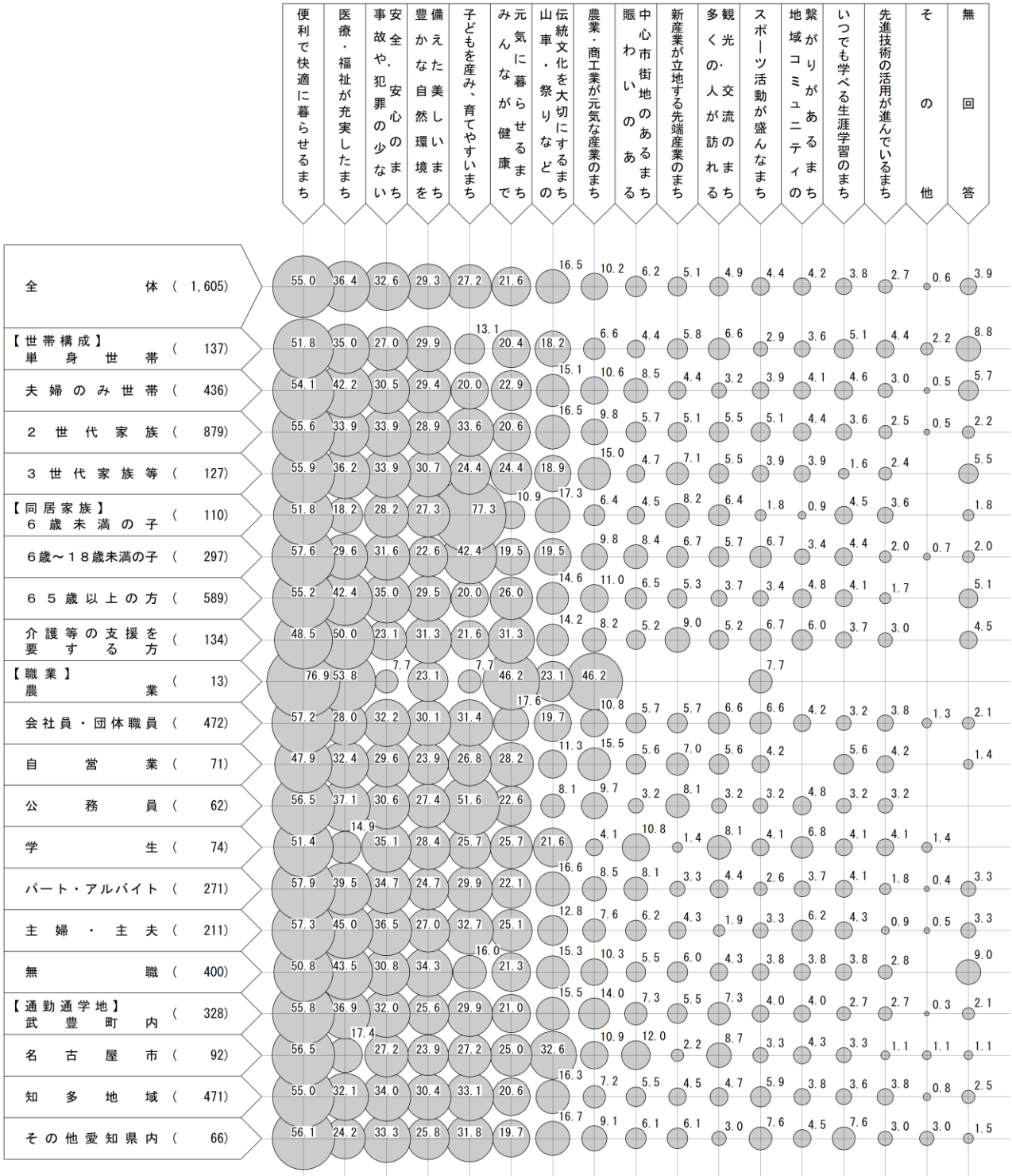
以下、回答者の属性別に傾向をみていきます。

性別	○「医療･福祉が充実したまち」は女性が 40.4%、男性が 30.9%で、女性の方が 9.5 ポイント上回っています。
年代	○10 歳代では、「便利で快適に暮らせるまち」の 43.1%、「事故や犯罪の少ない安全･安心のまち」の 41.5%が高く上位２つを占めています。また、「山車・祭りなどの伝統文化を大切にするまち」が 26.2%と高いことも 10 歳代の特徴となっています。 ○20 歳代、30 歳代、40 歳代では、「便利で快適に暮らせるまち」が最も高くなっていますが、次いで「子どもを産み、育てやすいまち」がそれぞれ 45.2%、54.3%、39.0%となっており、それぞれの年代で２番目に高くなっています。 ○50 歳代、60 歳代、70 歳代、80 歳以上になると、「医療･福祉が充実したまち」が２番目に高くなり、順に 40.5%、43.4%、44.8%、40.2%となっています。
居住年数	○居住年数 10 年未満では、「便利で快適に暮らせるまち」の 53.5%に次いで「子どもを産み、育てやすいまち」が 46.0%と高くなっています。全体の 27.2%を 18.8 ポイント上回っています。 ○20 年以上 30 年未満では、「便利で快適に暮らせるまち」、「事故や犯罪の少ない安全･安心のまち」が上位２位を占めています。
世帯構成	○２世代家族では、「子どもを産み、育てやすいまち」が 33.6%で、全体の 27.2%を 6.4 ポイント上回っています。一方、単身世帯では、「子どもを産み、育てやすいまち」は 13.1%で、全体を 14.1 ポイント下回っています。 ○夫婦のみ世帯では、「医療･福祉が充実したまち」が 42.2%となっており、全体の 36.4%よりも 5.8 ポイント高くなっています。
同居家族	○６歳未満の子がいる世帯では、「子どもを産み、育てやすいまち」が 77.3%と特に高い割合を示しています。全体の 27.2%を 50.1 ポイントも上回っています。 ○65 歳以上の方がいる世帯では、「便利で快適に暮らせるまち」の 55.2%に次いで「医療･福祉が充実したまち」が 42.4%と２番目に高くなっています。 ○介護を要する方がいる世帯では、「医療･福祉が充実したまち」が 50.0%で最も高くなっています。
職業	○全ての職業で、「便利で快適に暮らせるまち」が最も高くなっています。 ○会社員・団体職員および学生では、「事故や犯罪の少ない安全･安心のまち」がそれぞれ 32.2%、35.1%で、２番目に高くなっています。 ○公務員では、「子どもを産み、育てやすいまち」が 51.6%で高い割合となっています。 ○自営業、パート・アルバイト、主婦・主夫、無職では、「医療･福祉が充実したまち」が２番目に高くなっています。
通勤 通学地	○いずれの通勤通学地であっても、「便利で快適に暮らせるまち」が最も高くなっています。 ○名古屋市に通勤通学する者は、「便利で快適に暮らせるまち」の 56.5%に次いで、「山車・祭りなどの伝統文化を大切にするまち」が 32.6%となっており特徴的です。

図表 1-11-4　属性別、将来の町のイメージ　（１／２）　-複数回答（３つまで）-



図表 1-11-4　属性別、将来の町のイメージ　（２／２）　-複数回答（３つまで）-



１－１２　今後のまちづくり

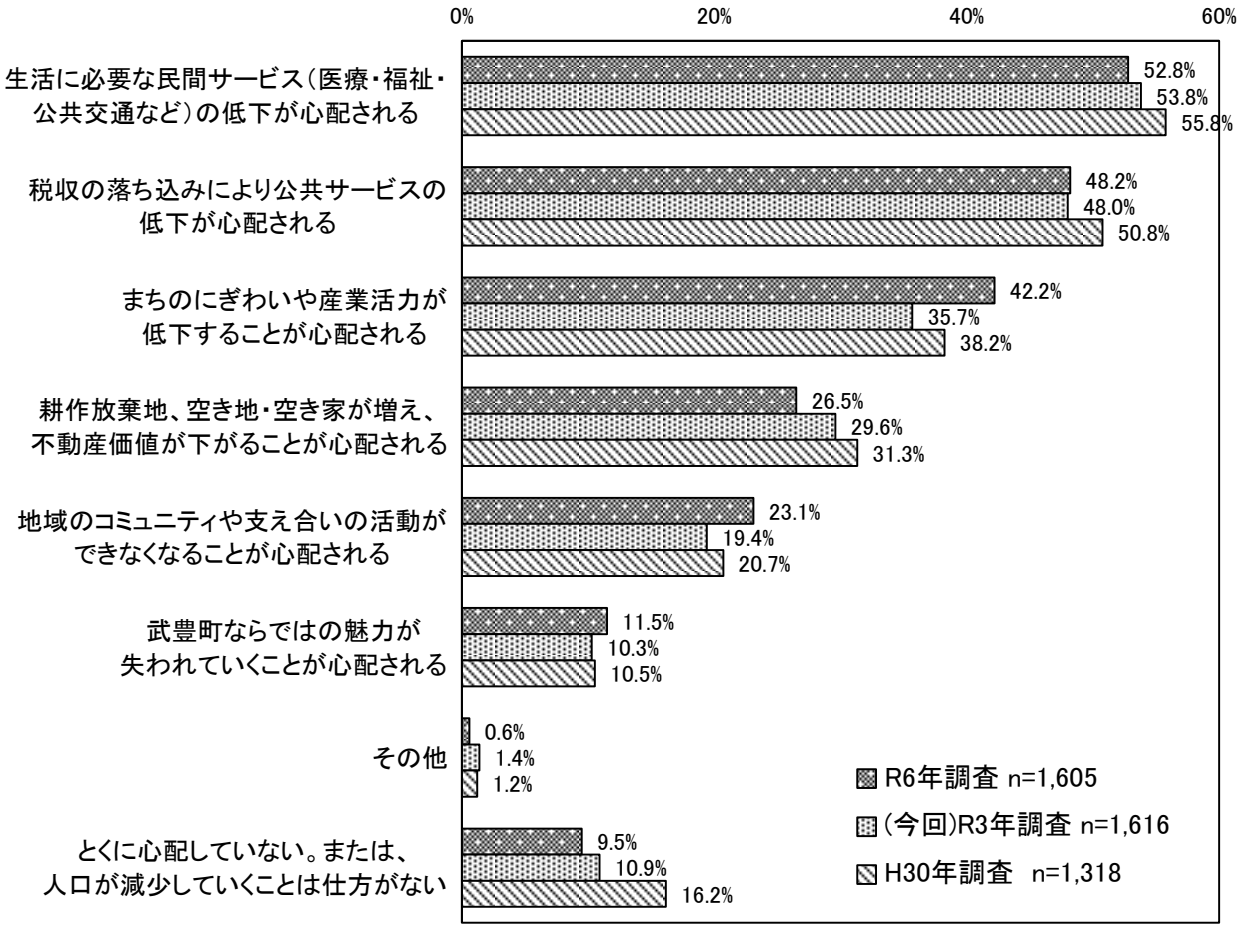
（１）人口減少で心配されること

問２０　全国的に少子高齢化が進む中にあって、武豊町でも 2019 年をピークに、その後人口は減少しています。 あなたは町の人口が減少することに対してどのようなことをお考えですか。（３つまでに○印）

人口減少で心配されることとしては、「生活に必要な民間サービス（医療・福祉・公共交通など）の低下が心配される」が 52.8%で最も高くなっています。これに「税収の落ち込みにより公共サービスの低下が心配される」の 48.2%、「まちのにぎわいや産業活力が低下することが心配される」の 42.2%、「耕作放棄地、空き地・空き家が増え、不動産価値が下がることが心配される」の 26.5%、「地域のコミュニティや支え合いの活動ができなくなることが心配される」の 23.1%が続いています。

前回調査（令和３年調査）と比較すると、各項目の順位に変化はありませんが、「まちのにぎわいや産業活力が低下することが心配される」は 6.5 ポイント、「地域のコミュニティや支え合いの活動ができなくなることが心配される」は 3.7 ポイント高くなっています。

図表 1-12-1　人口減少で心配されること（過去調査との比較）　-複数回答（３つまで）-

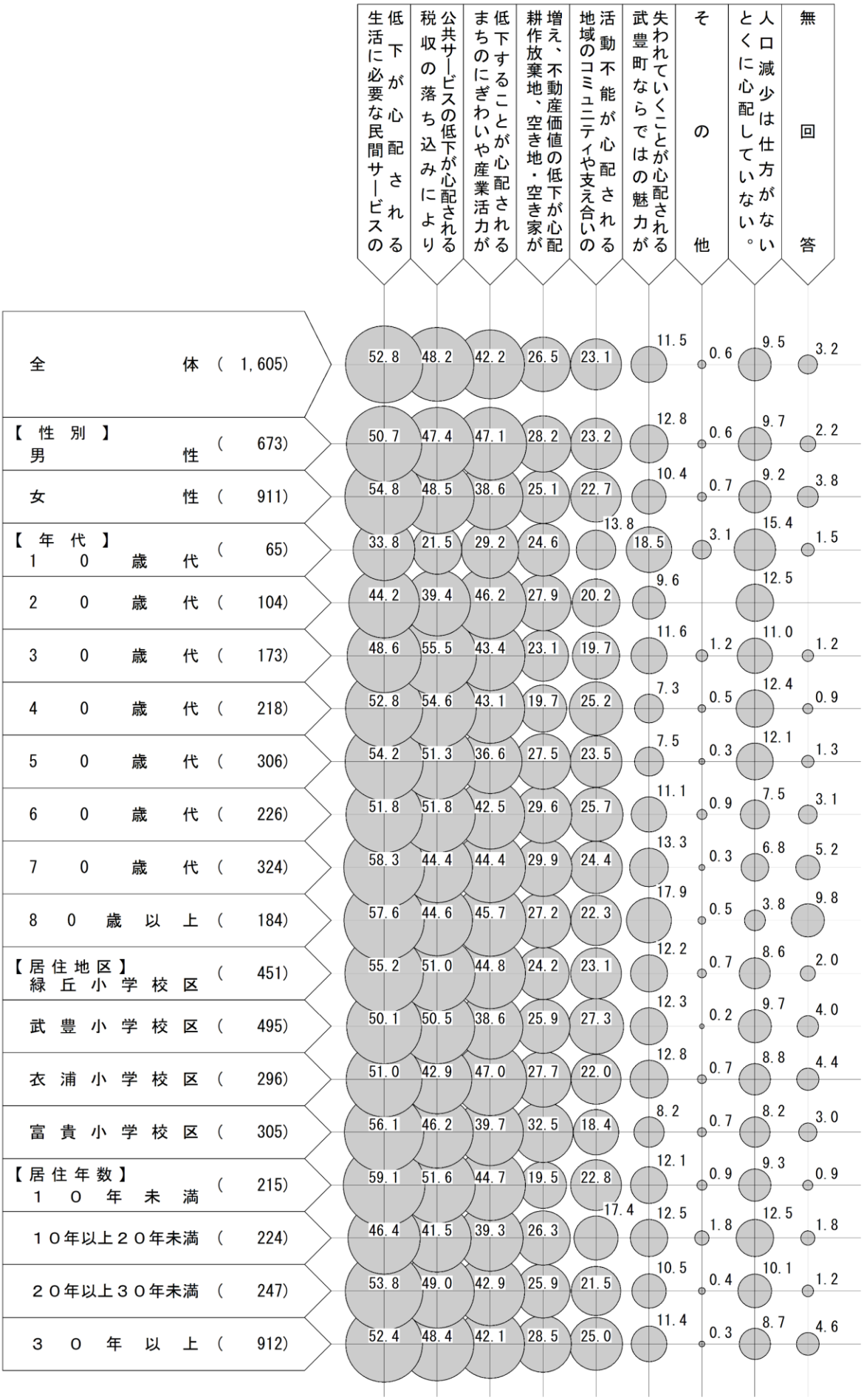


以下、回答者の属性別に傾向をみていきます。

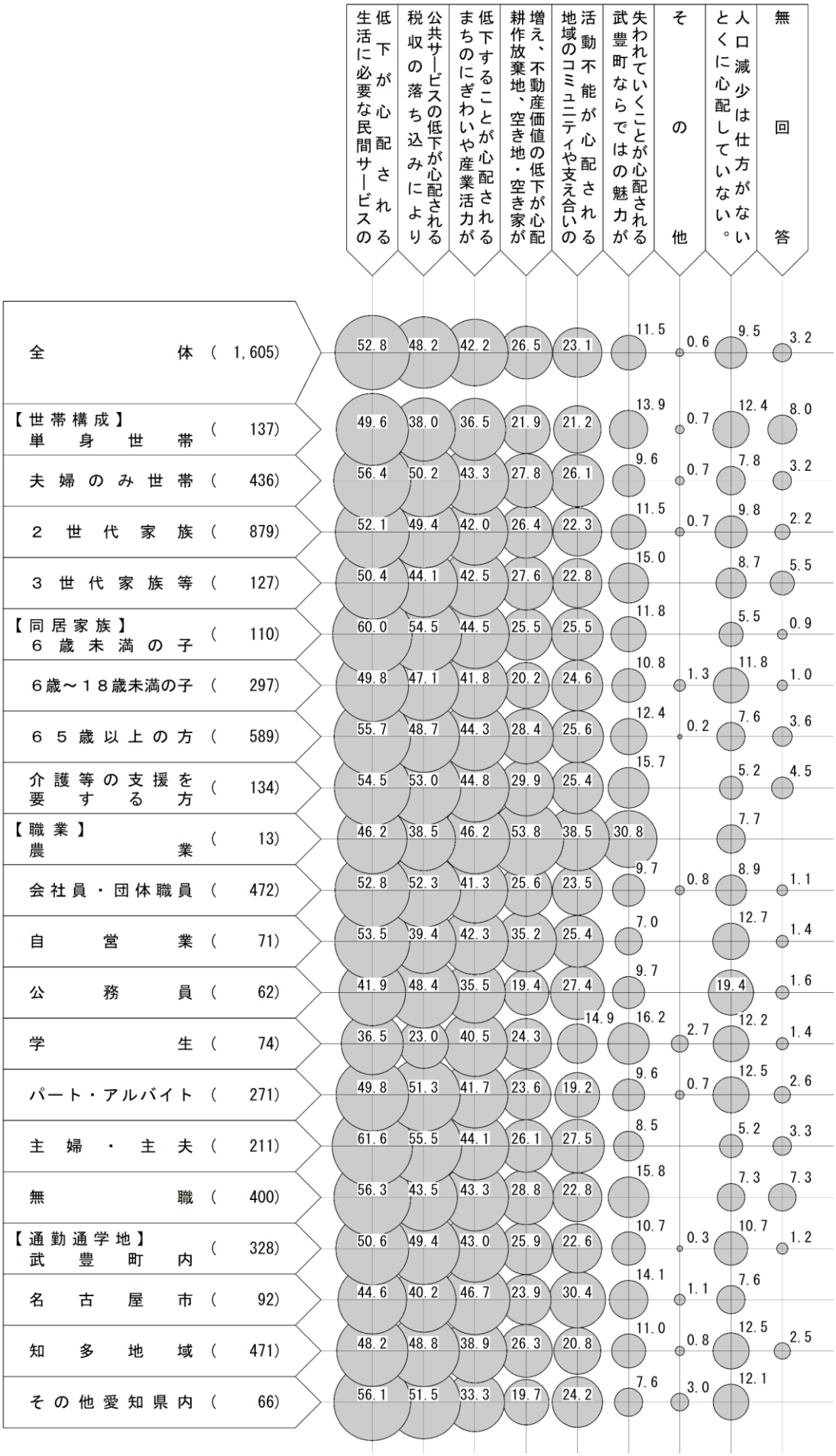
性別	○「まちのにぎわいや産業活力が低下することが心配される」では、男性が 47.1%に対し女性は 38.6%で、男性の方が 8.5 ポイント高くなっています。
年代	○10 歳代では、「生活に必要な民間サービス（医療・福祉・公共交通など）の低下が心配される」、「税収の落ち込みにより公共サービスの低下が心配される」、「まちのにぎわいや産業活力が低下することが心配される」はいずれも全体と比べて低くなっています。 ○10 歳代では、「武豊町ならではの魅力が失われていくことが心配される」が 18.5%、「とくに心配していない。または、人口が減少していくことは仕方がない」が 15.4%となっており、他の年代と比べて高くなってる点が特徴となっています。 ○20 歳代では、「まちのにぎわいや産業活力が低下することが心配される」が 46.2%で最も高くなっています。 ○30 歳代、40 歳代では、「税収の落ち込みにより公共サービスの低下が心配される」がそれぞれ 55.5%、54.6%で最も高くなっています。 ○この他の年代では、「生活に必要な民間サービス（医療・福祉・公共交通など）の低下が心配される」が最も高くなっています。
居住地区	○緑丘小学校区、武豊小学校区、富貴小学校区では、「生活に必要な民間サービス（医療・福祉・公共交通など）の低下が心配される」、「税収の落ち込みにより公共サービスの低下が心配される」が上位２位を占めています。 ○衣浦小学校区では、「生活に必要な民間サービス（医療・福祉・公共交通など）の低下が心配される」に次いで、「まちのにぎわいや産業活力が低下することが心配される」が 47.0%で２番目に高くなっています。 ○富貴小学校区では、「耕作放棄地、空き地・空き家が増え、不動産価値が下がることが心配される」が 32.5%で他と比べて高くなっています。
世帯構成	○単身世帯では、「生活に必要な民間サービス（医療・福祉・公共交通など）の低下が心配される」、「税収の落ち込みにより公共サービスの低下が心配される」、「まちのにぎわいや産業活力が低下することが心配される」はいずれも全体と比べて低くなっています。 ○単身世帯では、「とくに心配していない。または、人口が減少していくことは仕方がない」が 12.4%で、他の年代と比べるとやや高くなっています。
同居家族	○６歳未満の子がいる世帯では、「生活に必要な民間サービス（医療・福祉・公共交通など）の低下が心配される」が 60.0%で、全体の 52.8%と比べ 7.2 ポイント高くなっています。また、「税収の落ち込みにより公共サービスの低下が心配される」も 54.5%で全体と比べ 6.3 ポイント高くなっています。

職業	○自営業では、「税収の落ち込みにより公共サービスの低下」が 39.4%で全体と比べ 8.8 ポイント低く、「耕作放棄地、空き地・空き家が増え、不動産価値が下がることが心配される」は 35.2%で、全体と比べ 8.7 ポイント高くなっています。 ○公務員では、「税収の落ち込みにより公共サービスの低下が心配される」が 48.4%で最も高くなっています。ただし、全体の 48.2%と大きな差異はみられません。 ○公務員では、「地域のコミュニティや支え合いの活動ができなくなることが心配される」が 27.4%と高くなっており、「とくに心配していない。または、人口が減少していくことは仕方がない」も 19.4%と高くなっています。 ○学生では、「まちのにぎわいや産業活力が低下することが心配される」が最も高くなっています。また、「武豊町ならではの魅力が失われていくことが心配される」が 16.2%で他と比べて高くなっています。
通勤 通学地	○名古屋市に通勤通学する者では、「生活に必要な民間サービス（医療・福祉・公共交通など）の低下が心配される」は 44.6%、「税収の落ち込みにより公共サービスの低下が心配される」は 40.2%となっています。いずれも全体と比べ８ポイント以上下回っています。 ○名古屋市に通勤通学する者では、「地域のコミュニティや支え合いの活動ができなくなることが心配される」が 30.4%と高くなっています。

図表 1-12-2　属性別、人口減少で心配されること　（１／２）　-複数回答（３つまで）-



図表 1-12-2　属性別、人口減少で心配されること　（2／2）　-複数回答（3つまで）-



（２）人口減少に対応するための取組

問２１　武豊町において、「人口減少社会」に対応していくために、どのような取組が重要になると思いますか。（３つまでに○印）

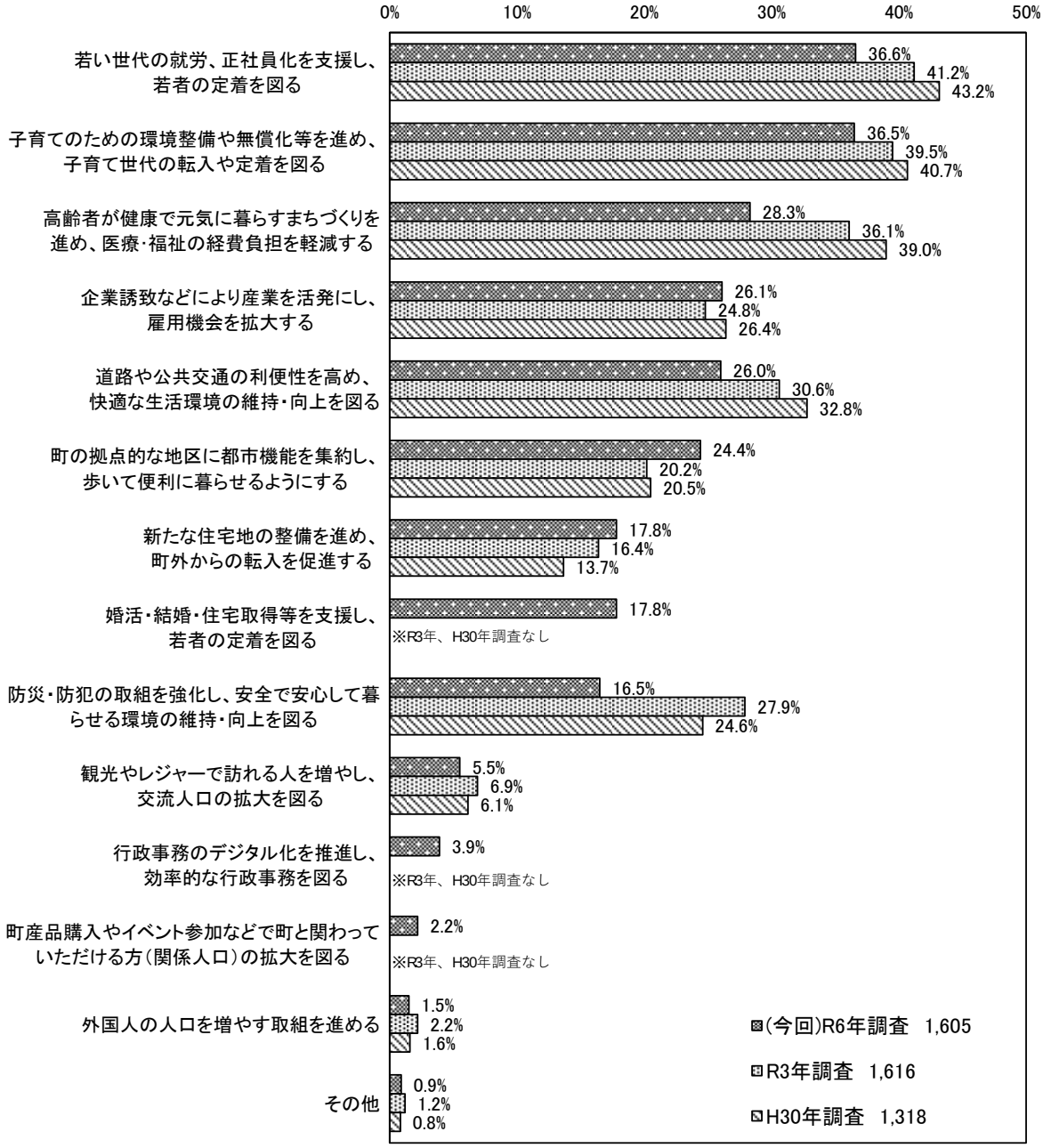
人口減少社会に対応していくために重要となる取組としては、「若い世代の就労、正社員化を支援し、若者の定着を図る」が 36.6%で最も高くなっています。次いで、「子育てのための環境整備や無償化等を進め、子育て世代の転入や定着を図る」が 36.5%となっており、この２項目は３割以上の回答を得ています。

さらに、「高齢者が健康で元気に暮らすまちづくりを進め、医療･福祉の経費負担を軽減する」が 28.3%、「企業誘致などにより産業を活発にし、雇用機会を拡大する」が 26.1%、「道路や公共交通の利便性を高め、快適な生活環境の維持・向上を図る」が 26.0%、「町の拠点的な地区に都市機能を集約し、歩いて便利に暮らせるようにする」が 24.4%となっており、この４項目は２割以上の回答を得ています。

前回調査（令和３年調査）と比較すると、多くの項目で回答割合は低下していますが、「町の拠点的な地区に都市機能を集約し、歩いて便利に暮らせるようにする」は 20.2%から 24.4%と 4.2 ポイント上昇しています。また、「新たな住宅地の整備を進め、町外からの転入を促進する」も 16.4%から 17.8%と 1.4 ポイント上昇しています。

なお、今回調査において新規に選択肢とした「婚活・結婚・住宅取得等を支援し、若者の定着を図る」は 17.8%を占めています。

図表 1-12-3　人口減少に対応するための取組（過去調査との比較）　-複数回答（３つまで）-

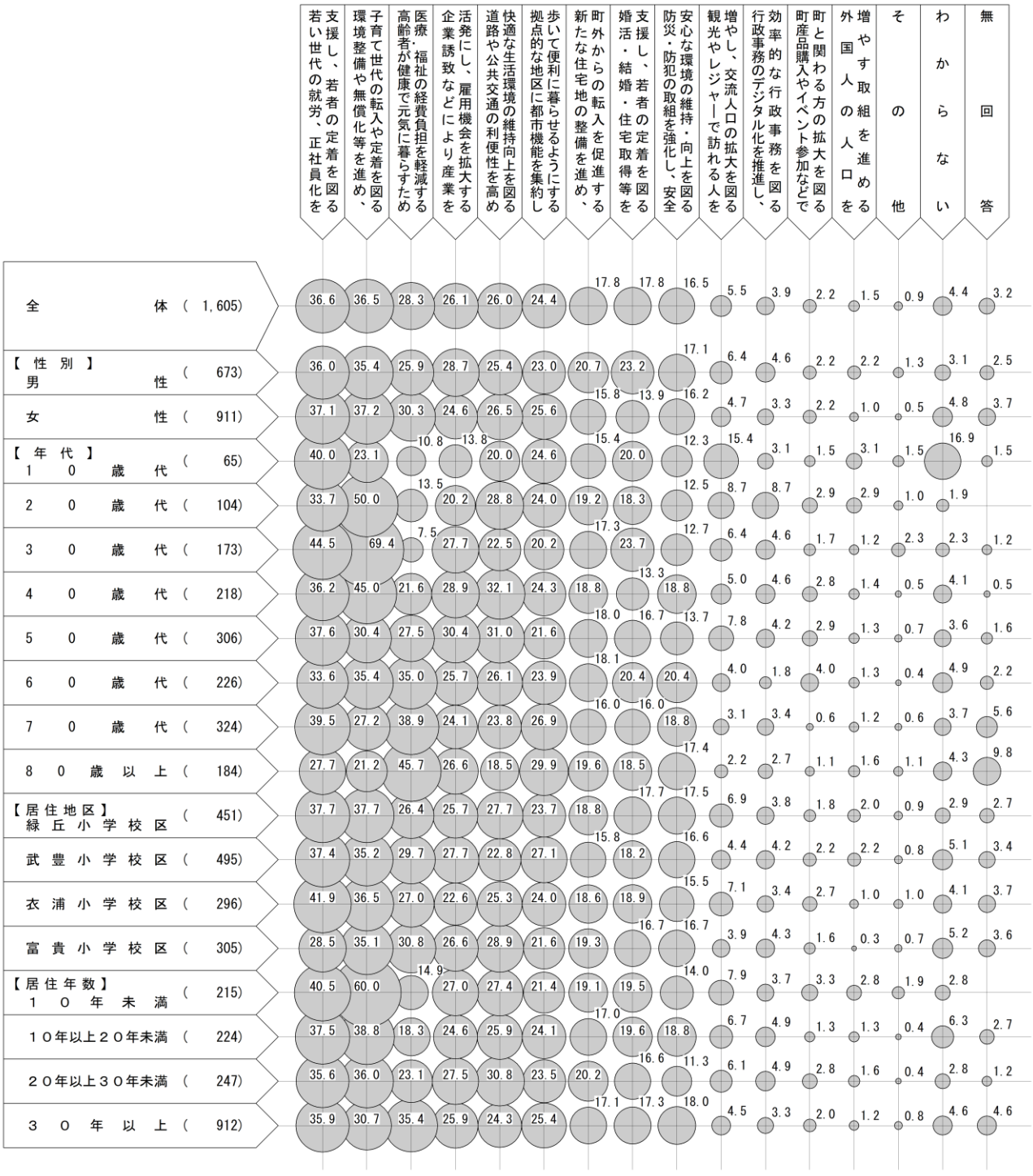


以下、回答者の属性別に傾向をみていきます。

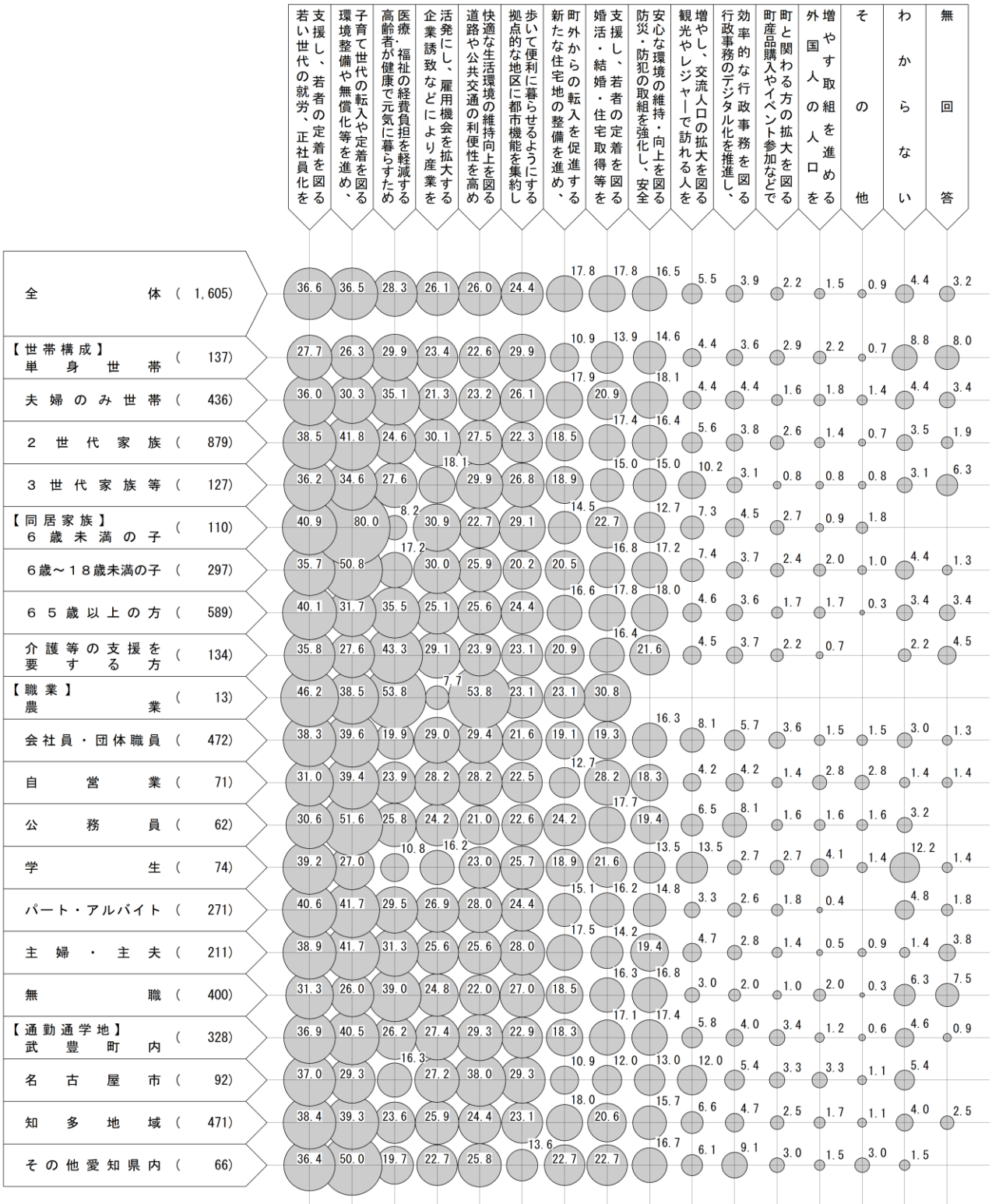
性別	○「婚活・結婚・住宅取得等を支援し、若者の定着を図る」は、男性の 23.2%に対し女性は 13.9%で、男性の方が 9.3 ポイント高くなっています。
年代	○10 歳代では、「わからない」が 16.9%とやや高くなっています。 ○20 歳代、30 歳代、40 歳代では、いずれも「子育てのための環境整備や無償化等を進め、子育て世代の転入や定着を図る」が最も多く、それぞれ 50.0%、69.4%、45.0%で全体の値を大きく上回っています。 ○70 歳代、80 歳以上では、「高齢者が健康で元気に暮らすまちづくりを進め、医療・福祉の経費負担を軽減する」が最も多くなり、順に 38.9%、45.7%となっています。
居住年数	○居住年数 10 年未満では、「子育てのための環境整備や無償化等を進め、子育て世代の転入や定着を図る」が 60.0%で特に高く、全体の 36.5%と比べ 23.5 ポイント高くなっています。逆に、「高齢者が健康で元気に暮らすまちづくりを進め、医療・福祉の経費負担を軽減する」は 14.9%と特に低くなっています。 ○居住年数 30 年以上では、「高齢者が健康で元気に暮らすまちづくりを進め、医療・福祉の経費負担を軽減する」が 35.4%で、全体の 28.3%と比べ 7.1 ポイント上回っています。
世帯構成	○単身世帯では、「町の拠点的な地区に都市機能を集約し、歩いて便利に暮らせるようにする」が 29.9%で、他と比べやや高いことが特徴的です。 ○夫婦のみ世帯では、「高齢者が健康で元気に暮らすまちづくりを進め、医療・福祉の経費負担を軽減する」が 35.1%で、全体と比べ 6.8 ポイント高くなっています。 ○２世代家族では、「子育てのための環境整備や無償化等を進め、子育て世代の転入や定着を図る」が 41.8%で全体と比べ 5.3 ポイント高くなっています。
同居家族	○６歳未満の子どもがいる世帯では、「子育てのための環境整備や無償化等を進め、子育て世代の転入や定着を図る」が 80.0%で全体の 36.5%を 43.5 ポイントと大きく上回っています。 ○６歳以上 18 歳未満の子どもがいる世帯でも、「子育てのための環境整備や無償化等を進め、子育て世代の転入や定着を図る」は 50.8%と高く、全体の 36.5%を 14.3 ポイント上回っています。 ○65 歳以上の方がいる世帯、介護を要する方がいる世帯では、「高齢者が健康で元気に暮らすまちづくりを進め、医療・福祉の経費負担を軽減する」がそれぞれ 35.5%、43.3%で高くなっています。

職業	○会社員・団体職員、自営業、公務員では、「子育てのための環境整備や無償化等を進め、子育て世代の転入や定着を図る」が最も高くなっています。なかでも公務員は51.6%と特に高く、全体の 36.5%を 15.1 ポイント上回っています。 ○自営業では、「婚活・結婚・住宅取得等を支援し、若者の定着を図る」が 28.2%で、他と比べて高くなっています。 ○学生では、「若い世代の就労、正社員化を支援し、若者の定着を図る」が 39.2%で最も高くなっています。 ○パート・アルバイト、主婦・主夫では、「子育てのための環境整備や無償化等を進め、子育て世代の転入や定着を図る」がともに 41.7%で最も高くなっています。 ○無職では、「高齢者が健康で元気に暮らすまちづくりを進め、医療・福祉の経費負担を軽減する」が 39.0%で最も高くなっています。
通勤 通学地	○名古屋市に通勤通学する者は、「道路や公共交通の利便性を高め、快適な生活環境の維持・向上を図る」が 38.0%で最も高くなっています。 ○その他愛知県内に通勤通学する者では、「子育てのための環境整備や無償化等を進め、子育て世代の転入や定着を図る」が 50.0%で、全体の 36.5%と比べ 13.5 ポイント高くなっています。

図表 1-12-4　属性別、人口減少に対応するための取組　（１／２）　-複数回答（３つまで）-



図表 1-12-4　属性別、人口減少に対応するための取組　（２／２）　-複数回答（３つまで）-



１－１３　自由意見

（1）今後のまちづくりに向けた意見・提案

問 22　武豊町の住みやすい魅力あるまちづくりに向けたご意見・ご提案などについて、自由に記述してください。

今後のまちづくりに向けた意見・提案を自由に回答いただきました。

第６次武豊町総合計画の体系（まちづくりの目標・分野）に沿って、意見を整理すると回答数は以下の通りとなりました。具体的な意見は別添の参考資料に記します。

図表 1-13-1　今後のまちづくりに向けた意見・提案

分野１　都市環境	件数
１－１　市街地・住環境	86
１－２　交通基盤	79
１－３　上下水道	3
計	168
分野２　子ども	件数
２－１　出産・子育て	38
計	38
分野３　学び	件数
３－１　学校教育	13
３－２　生涯学習	1
３－３　スポーツ	12
３－４　文化芸術	9
（その他）	1
計	36
分野４　健康・福祉	件数
４－１　健康・医療	8
４－２　地域福祉	0
４－３　高齢者福祉	10
４－４　障がい者福祉	2
（その他）	11
計	31
分野５　安全・安心	件数
５－１　防災	10
５－２　防犯・交通安全	37
（その他）	1
計	48
分野６　産業・交流	件数
６－１　産業	10
６－２　観光・交流	11
計	21

分野７　環境	件数
７－１　自然環境	12
７－２　生活環境	20
計	32
分野８　まちづくり・地域経営	件数
８－１　住民活動・地域活動（住民協働）	7
８－２　相互理解（男女共同参画・多文化共生）	4
８－３　タウンプロモーション	21
計	32
分野９　行財政	件数
９－１　行政運営	38
９－２　財政運営	19
計	57

アンケートについて	件数
計	25
その他	件数
計	14

合計	502